新潟県埋蔵文化財調査報告書　第240集

一般国道17号

浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

町　上　遺　跡

２０１３

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道17号

浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

町上（まちがみ）遺跡

２０１３

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 17 号は、東京から本州を横断して新潟市に至る主要な幹線道路です。そしてこの地域の産業や経済の振興に大きな役割を果たしています。

この国道 17 号浦佐バイパスは、南魚沼市野江甲から魚沼市虫野間の延長 6.6km のバイパス事業です。市街地の交通混雑や冬期の除雪障害を無くすために浦佐バイパスが計画されました。

本書は、浦佐バイパスの建設に先立ち、2011（平成 22）年に発掘調査した魚沼市町上遺跡の発掘調査報告書です。遺跡は、魚野川支流の水無川によって造られた扇状地にあります。調査により縄文時代の集落跡であることが分かり、多量の土器と石器のほか、焼けたサケの歯・骨が多く出土しました。秋に遡上するサケを待ち構えていた当時の人々の生活が蘇ります。

遺跡周辺は、魚沼コシヒカリを育む美田が広がり、特産の八色スイカの産地でもあります。農耕に適さないとされていた石の多い土地が、現在の姿に生まれ変わったのは 40 年代から始まった国営開拓事業によります。工事に伴う削平や地形の改変もありましたが、その過程で本遺跡が発見されました。

この調査報告書が、魚沼市域の歴史を明らかにする為の一助になると共に、これを契機に埋蔵文化財に対する理解が一層広まれば幸いです。

最後に、この調査に対して多大な御協力と御理解をいただいた、魚沼市教育委員会並びに大浦・大浦新田をはじめとした、地元住民の方々に、また発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御配慮をいただいた国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

新潟県教育委員会

教育長　高　井　盛　雄

例　　言

1　本報告書は、新潟県魚沼市大字大浦字八色原に所在する町上遺跡の発掘調査記録である。

2　発掘調査は一般国道 17 号浦佐バイパスの建設に伴い、国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。

3　発掘調査は、県教委が調査主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。

4　埋文事業団は、掘削作業等を株式会社古田組に委託して発掘調査を 2011（平成 23）年度に実施した。

5　出土遺物及び調査に係る各種資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。遺物の注記は「11 マチガ」とし、出土地点や層位などを続けて記した。

6　調査成果の一部は現地説明会資料、埋文にいがた 78 号、平成 23 年度新潟県埋蔵文化財調査事業団年報等に記載しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。

7　本書に掲載した遺物番号はすべて通し番号とし、本文及び挿図･遺物観察表･図面図版･写真図版の番号は一致する。

8　引用・参考文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第Ⅵ章は章末に示した。

9　作成した図版のうち、既成の地図を使用した場合は、それぞれにその出典を記した。

10　本書で示す方位は、すべて真北である。

11　遺構断面図のトレース及び各種図版作成・編集は、有限会社天田安平商店に委託し、完成データ（ＰＤＦ）を印刷業者へ入稿して印刷した。遺物写真は、デジタル一眼レフカメラで撮影し、デジタル化した遺構写真と合わせて編集を行った。

12　本書の執筆は、田海義正（新潟県埋蔵文化財調査事業団　課長代理）・三ツ井朋子（同　保存処理担当班長）、相羽重徳・藤田　登（株式会社古田組　遺跡調査研究室主任調査員）・建部真也（同　調査員）、山﨑　健（奈良文化財研究所　研究員）があたり、編集は相羽が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅱ章、第Ⅴ章、第Ⅶ章１・２：相羽　　第Ⅰ章、第Ⅲ章、第Ⅴ章２、第Ⅶ章３・４：田海

第Ⅳ章：相羽・建部　　第Ⅴ章３：藤田　　第Ⅵ章１：三ツ井　　第Ⅵ章２：山﨑

13　発掘調査から本書に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を得た。厚く御礼申し上げる。

（敬称略、五十音順）

安立　聡、阿部泰之、石坂圭介、石井　寛、伊藤啓雄、桑原　健、佐藤雅一、鈴木俊成、高木公輔、　高橋　保、高橋保雄、寺﨑裕助、宮尾　亨、魚沼漁業共同組合、魚沼市教育委員会、大和郷土地改良区

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理作業の経過 …… 1

A　試掘確認調査 …… 1
B　本発掘調査 …… 2
1）調査の体制 …… 2　　2）調査の経過 …… 3
C　整理作業 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 5

1　地理的環境 …… 5

2　歴史的環境 …… 6

A　八色原周辺の縄文遺跡 …… 6
B　弥生時代以降の周辺遺跡 …… 10
1）弥生時代 …… 10　　2）古墳時代 …… 10
3）古　　代 …… 10　　4）中　　世 …… 11
C　魚野川水系の水産資源 …… 11

第Ⅲ章　遺跡の調査 …… 13

1　グリッドの設定 …… 13

2　層　　序 …… 13

第Ⅳ章　遺　　構 …… 15

1　概　　要 …… 15

2　記載の方法 …… 16

3　各　　説 …… 16

A　竪穴建物 …… 16
B　掘立柱建物・柱穴列 …… 18
C　土　　坑 …… 20
1）袋状土坑 …… 20　　2）埋設土器土坑 …… 21
3）そ　の　他 …… 22
D　ピ　ッ　ト …… 24
1）柱　　穴 …… 24　　2）そ　の　他 …… 25
E　沢 …… 26

第Ⅴ章　遺　　物 …… 27

1　縄文土器・土製品 …… 27

A　概　　要 …… 27
B　分　　類 …… 27

C　各　　説 ……30
1）遺構内出土 ……30　2）埋没沢上層出土 ……38
3）遺構外出土 ……38
2　骨　角　器 ……43
3　石器・石製品 ……43
A　はじめに ……43
B　器種分類 ……43
C　各　　説 ……48
1）概　　要 ……48　2）石　　器 ……48
3）石　製　品 ……51　4）小　　結 ……51
第Ⅵ章　自然科学分析 ……53
1　赤色塗彩土器の赤色顔料 ……53
A　試料と分析の目的 ……53
B　観察及び分析の方法 ……53
C　結果と考察 ……53
2　動物遺存体 ……56
A　はじめに ……56
B　分析資料 ……56
C　同定・記載の方法 ……56
D　分類群の記載 ……57
1）貝　　類 ……57　2）魚　　類 ……57
3）両　生　類 ……57　4）鳥　　類 ……57
5）哺　乳　類 ……57　6）骨　角　器 ……58
E　遺構ごとの検討 ……59
1）SK 97 ……59　2）P 108 ……59
3）SK 20 ……60
第Ⅶ章　ま　と　め ……61
1　遺構の変遷 ……61
2　縄文土器 ……62
3　石　　器 ……63
4　総　　括 ……63
《要　　約》 ……65
《引用・参考文献》 ……66
《観　察　表》 ……69

挿 図 目 次

第１図　試掘トレンチの位置 …… 2
第２図　トレンチ設定図と調査範囲 …… 4
第３図　周辺の遺跡分布図 …… 8
第４図　鮭類漁獲量(海面・内水面合算) …… 12
第５図　基本層序写真 …… 13
第６図　グリッド設定図 …… 14
第７図　土層堆積状況写真 …… 15
第８図　土坑・ピット法量分布図 …… 16
第９図　出土土器類(客土)の重量分布 …… 27
第10図　土器円盤の法量分布 …… 29
第11図　石器器種分類表(１) …… 46
第12図　石器器種分類表(２) …… 47
第13図　試料№１二次電子線像(上)と
　　Ｘ線チャート(下) …… 54
第14図　試料№３二次電子線像(上)と
　　Ｘ線チャート(下) …… 54
第15図　試料№18二次電子線像(上)と
　　Ｘ線チャート(下) …… 55
第16図　試料№19二次電子線像(上)と
　　Ｘ線チャート(下) …… 55
第17図　試料№20二次電子線像(上)と
　　Ｘ線チャート(下) …… 55
第18図　試料№21二次電子線像(上)と
　　Ｘ線チャート(下) …… 55
第19図　試料№22二次電子線像(左)と
　　Ｘ線チャート(右) …… 55
第20図　新潟県域におけるイノシシの出土遺跡
　　(縄文時代中期～後期) …… 58
第21図　穿孔された骨角器 …… 58
第22図　動物遺存体 …… 60
第23図　集落の変遷 …… 61

表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 9
第２表　河川別サケ類採捕数(2010年) …… 12
第３表　土器分類の時期対応表 …… 27
第４表　石器類の器種別数量 …… 44
第５表　不定形石器分類表 …… 47
第６表　町上遺跡出土赤色塗彩土器の
　　赤色顔料分析結果 …… 54
第７表　動物遺存体の同定結果 …… 59
第８表　主要遺構出土土器の系統別一覧 …… 62

図 版 目 次

［図面図版］
図版１　調査区と周辺の地形
図版２　遺構全体図
図版３　遺構分割図(１)
図版４　遺構個別図(１)
図版５　遺構分割図(２)
図版６　遺構個別図(２)
図版７　遺構個別図(３)
図版８　遺構分割図(３)
図版９　遺構個別図(４)
図版10　遺構個別図(５)
図版11　遺構個別図(６)
図版12　遺構個別図(７)
図版13　遺構個別図(８)
図版14　遺構個別図(９)
図版15　遺構分割図(４)
図版16　遺構個別図(10)
図版17　遺構個別図(11)
図版18　遺構個別図(12)
図版19　遺構個別図(13)
図版20　遺構個別図(14)
図版21　遺構出土の縄文土器(１)
図版22　遺構出土の縄文土器(２)
図版23　遺構出土の縄文土器(３)
図版24　遺構出土の縄文土器(４)
図版25　遺構出土の縄文土器(５)
図版26　遺構出土の縄文土器(６)
図版27　遺構出土の縄文土器(７)
図版28　遺構出土の縄文土器(８)
図版29　遺構出土の縄文土器(９)
図版30　遺構出土の縄文土器(10)
図版31　遺構出土の縄文土器(11)
図版32　沢上層・遺構外出土の縄文土器(１)
図版33　遺構外出土の縄文土器(２)
図版34　遺構外出土の縄文土器(３)
図版35　遺構外出土の縄文土器(４)

図版36　遺構外出土の縄文土器（５）
図版37　遺構外出土の縄文土器（６）
図版38　遺構外出土の縄文土器（７）
図版39　遺構外出土の縄文土器（８）
図版40　遺構外出土の縄文土器（９）
図版41　遺構外出土の縄文土器(10)
図版42　遺構外出土の縄文土器(11)・土製品・骨角器
図版43　石器（１）
図版44　石器（２）
図版45　石器（３）
図版46　石器（４）
図版47　石器（５）
図版48　石器（６）
図版49　石器（７）
図版50　石器（８）
図版51　石器（９）
図版52　石器(10)

［写真図版］

図版53　空撮・遺跡遠景
図版54　遺跡遠景・調査区全景
図版55　遺跡遠景・着手前・堆積状況・遺構検出状況・完掘
図版56　遺物出土状況・遺構検出状況・出土遺物
図版57　竪穴建物（１）
図版58　竪穴建物（２）
図版59　竪穴建物（３）
図版60　竪穴建物（４）
図版61　竪穴建物（５）・掘立柱建物（１）
図版62　掘立柱建物（２）
図版63　掘立柱建物（３）
図版64　掘立柱建物（４）・土坑（１）・ピット（１）
図版65　土坑（２）・ピット（２）
図版66　土坑（３）
図版67　土坑（４）
図版68　土坑（５）・ピット（３）
図版69　土坑（６）
図版70　土坑（７）・ピット（４）
図版71　ピット（５）
図版72　ピット（６）
図版73　遺構内出土縄文土器（１）
図版74　遺構内出土縄文土器（２）
図版75　遺構内出土縄文土器（３）
図版76　遺構内出土縄文土器（４）
図版77　遺構内出土縄文土器（５）
図版78　遺構内出土縄文土器（６）
図版79　遺構内出土縄文土器（７）・沢上層出土縄文土器
図版80　遺構外出土縄文土器（１）
図版81　遺構外出土縄文土器（２）
図版82　遺構外出土縄文土器（３）
図版83　遺構外出土縄文土器（４）
図版84　遺構外出土縄文土器（５）
図版85　遺構外出土縄文土器（６）
図版86　遺構外出土縄文土器（７）・土製品・骨角器
図版87　石器（１）
図版88　石器（２）
図版89　石器（３）
図版90　石器（４）
図版91　石器（５）
図版92　石器（６）
図版93　石器（７）
図版94　石器（８）
図版95　石器（９）

第Ⅰ章　序　説

1　調査に至る経緯

一般国道７号は、東京都中央区と新潟県新潟市を結ぶ本州を横断する主要幹線道路である。南魚沼市（旧大和町）や魚沼市（旧小出町）の周辺では、上越新幹線や関越自動車道の利用が伸びるにつれ、国道を利用する車も増加している。魚沼地域は日本でも有数の豪雪地帯であるが、JR 浦佐駅から北の旧小出町側は JR 上越線と魚野川に挟まれる形で国道が通るため、冬期の降雪を外側に飛ばすことができず、ダンプトラック等に積み込んで搬出している。浦佐バイパスはこのような冬期の除雪障害と交通混雑を無くするために計画された。国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所（以下、国交省）の計画によると浦佐バイパスは、起点の南魚沼市野江甲から魚沼市虫野に至る延長 6.6km の道路である。バイパスは JR 浦佐駅近くから魚野川を東の右岸に渡る。水無川扇状地の八色原を横切り大浦新田を通過し三用（みよう）川を渡り、終点の魚沼市虫野で国道 17 号に合流する。

この浦佐バイパスの埋蔵文化財調査は、魚野川を臨む右岸の河岸段丘で 1999（平成 11）年古墳時代後期の古墳群大久保遺跡の発掘調査から始まった。その後も県教委は法線内の試掘調査を断続的に実施したが、扇状地形で堆積物が厚い事や水場の少なさからか、遺跡はほとんど確認できなかった。その中でも町上遺跡から南に約 600m の地点で確認した八色原遺跡は、地表下約 1.4m で検出した黒色土中から縄文時代中期から後期の土器が出土した。本発掘調査には至らなかったが、新規登録したこの遺跡は、水無川扇状地における希少例であった。

水無川扇状地一帯は、現在は美しい水田であるが、それは 1965（昭和 40）年から始まった国営魚野川東部開拓建設事業に負うところが大きい。その事業は旧小出町・大和町・六日町の 2,799ha が対象となった。その内訳は未墾地 729ha、畑 467ha、水田 1,544ha、道路敷 59ha である。その国営開拓事業の圃場整備工事の過程で、町上遺跡周辺で地元の住民により縄文土器などが発見採集され、地元では遺跡の存在が明らかになったが、周知化されずに終わった。町上遺跡が県教委の埋蔵文化財包蔵地として登録されたのは 1978 年になる。その後、2004 年の試掘確認調査を経て、工事にかかる本発掘調査必要範囲を確定した。

町上遺跡の本発掘調査は、国交省から 2011 年３月に県教委に埋蔵文化財発掘調査の依頼があり、県教委の依頼（平成 23 年３月 22 日付け 教文第 1488 号の 2）を受けた埋文事業団が、2011 年５月９日から 11 月２日までの予定で発掘調査に入った。

2　調査と整理作業の経過

A　試掘確認調査

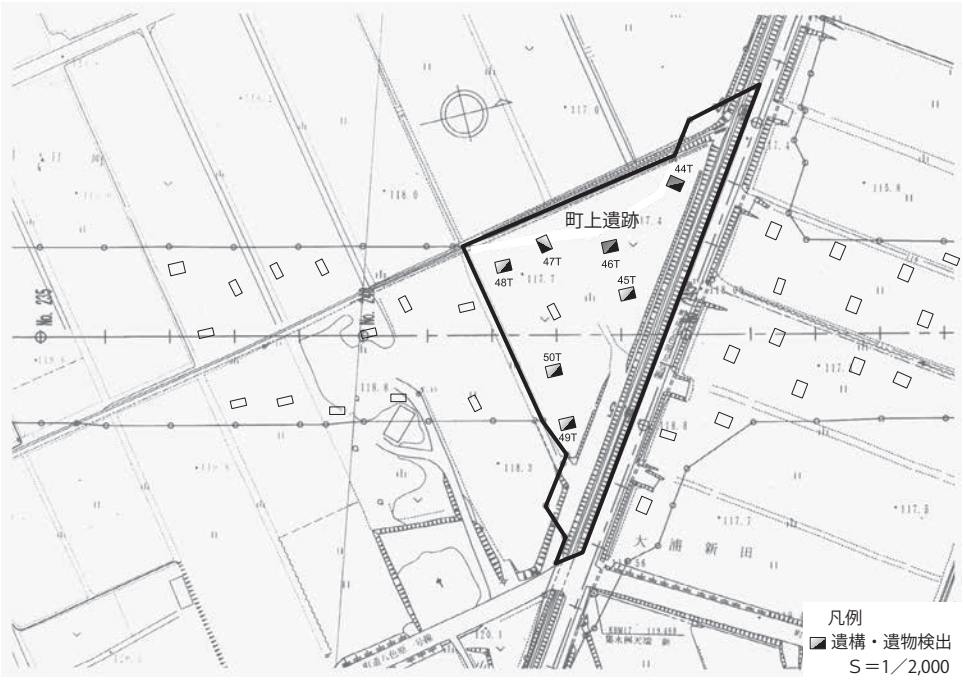
町上遺跡を含む浦佐バイパスの試掘確認調査は、県教委を調査主体に埋文事業団が 2004（平成 16）年６月 28 日から８月４日に実施した。その対象地は水無川右岸の法線距離にして約 530m と未買収地を挟んで、周知の遺跡である町上遺跡周辺の延長約 300m を合わせた 67,230㎡である。調査は任意の地

点に 112 か所の試掘坑を設定し、重機で掘削したのち、土層断面と遺構の有無を精査した。その結果、町上遺跡付近の 2 か所の試掘坑から川原石で囲った配石遺構や溝状遺構を検出した。5 か所の試掘坑からは縄文時代中期と後期の遺物が出土した。遺物包含層は 2 層あり、上層は粘性の弱い黒褐色土、下層は粘性の強い黒褐色であるとした。この確認調査で遺跡範囲が不明瞭だった当遺跡は、浦佐バイパスの法線内については、南北方向の限界が確認できた。

バイパス工事にかかる本発掘調査が必要に面積は、上層が 5,760㎡（後に範囲を見直し上層 4,300㎡に修正）、下層が 3,000㎡と報告した。

試掘確認調査の体制

調 査 主 体　新潟県教育委員会（教育長　板屋越 麟一）
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
　総　　括　黒井 幸一　（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）
　管　　理　長谷川二三夫　（　〃　総務課長）
　庶　　務　高野 正司　（　〃　班長）
　調査総括　藤巻 正信　（　〃　調査課長）
　調査担当　山本　肇　（　〃　試掘調査担当課長代理）
　調査職員　田中 一穂　（　〃　嘱託員）



第 1 図　試掘トレンチの位置

B　本 発 掘 調 査

1）調 査 の 体 制

調 査 期 間　2011（平成 23）年 5 月 11 日 ~8 月 5 日
調 査 主 体　新潟県教育委員会（教育長　武藤 克己）
調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　木村正昭（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）

管　　理　　今井　亘（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　総務課長）
庶　　務　　伊藤　忍（　　〃　　班長）
調査総括　　北村　亮（　　〃　　調査課長）
調査担当　　田海義正（　　〃　　本発掘調査担当課長代理）
調査職員　　相羽重徳（株式会社古田組遺跡調査研究室　主任調査員）
　　藤田　登（　　〃　　主任調査員）
　　建部真也（　　〃　　調査員）
支　　援　　株式会社古田組　現場代理人　陶山 詔行

2）調 査 の 経 過

町上遺跡の発掘調査は、2004（平成 16）年度の確認調査の結果を踏まえ、上下層合わせて 7,300㎡（上層 4,300㎡、下層 3,000㎡）を対象とし、現地調査を 5 月 10 日から 11 月 2 日までの期間で調査計画を立てた。

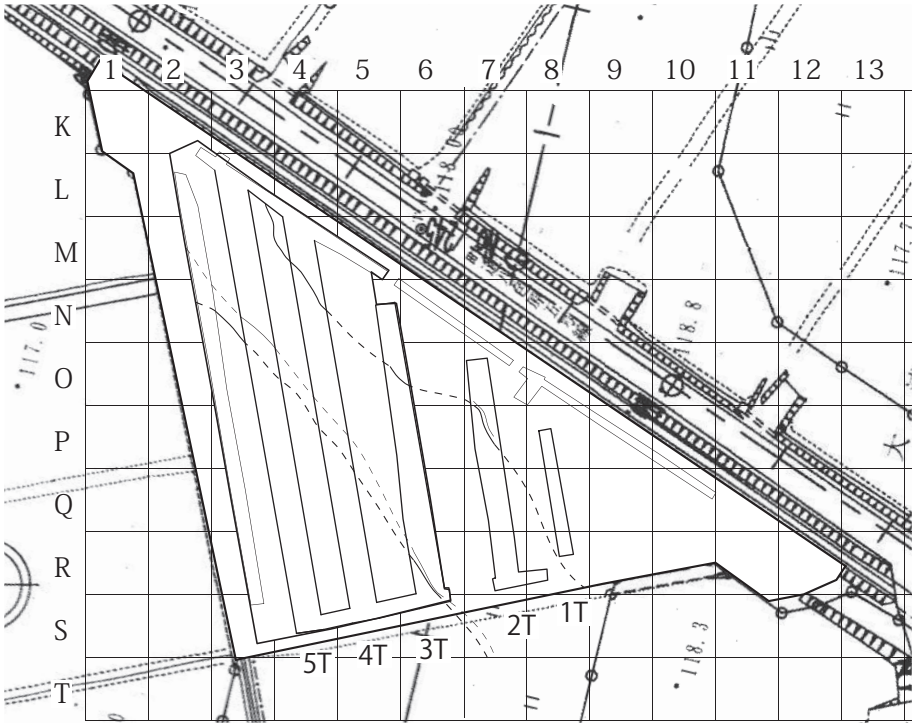
雪が消えた連休明けの 5 月 11 日から発掘調査を開始した。最初に概ね三角形の調査区の壁際に、土層観察と排水を兼ねたトレンチを掘削して、土層堆積と遺物出土状況を確認した。この作業により国営開拓事業によって、広範囲が撹乱（湮滅）されていることを確認した（第 5 図）。特に扇状地形の扇央部に近い側、つまり標高の高い方の調査区の東（8~10 列）と南側（Q~S 列）は、地山面まで掘削が及んでいることが分かった（図版 3-5）。予想以上に工事の影響があることが分かり、削平範囲のより詳細な把握が必要になった。調査区をほぼ南北方向に重機で 5 本のトレンチを入れ、遺跡の残り具合を確認する作業を開始した（第 2 図）。この遺存状況確認のトレンチ掘削作業は 5 月末までかかった。その結果、次の 4 点が明らかになった。①東側から順に 5 本のトレンチを設定し、順に番号を付け掘削した。3 トレンチまではほとんど遺構や遺物を検出できなかった。② 1 トレンチから 4 トレンチにかけて、縄文時代に埋没が完了した沢を検出した。沢の上部に縄文土器を包含する未撹乱層を確認した。③調査区の北西及び西側には多量の遺物が包含されていたが、工事による客土からの出土が多い事が分かった。そのような中でも部分的（3O・3P 区）には遺物包含層が残っていた。④確認調査で 2 層と捉えた遺物包含層は、工事の客土を誤認していた可能性が高いと判断した。

その結果を基に 6 月 1 日に文化行政課と現地で打合せを行った。その中で、当初予定の上層 4,300㎡については、国営開拓事業で削平が進み、3 トレンチから東側は、動かされた土に含まれる遺物はごく少数であることに加え、地山面でも遺構の検出がないことから、発掘対象から除外することが決まった。

6 月以降は発掘調査対象地を 3T から西側とした。新たな調査方針は国営開拓事業により撹乱された土は、重機によって除去し、遺物をグリッド単位で取り上げつつ、遺構確認面の黄褐色シルト・砂層の上面まで検出する。未削除の遺構を中心に精査することとした。これによって当初、上層 4,300㎡、下層 3,000㎡とした発掘調査対象地は、遺物包含層は単層で 2,578㎡に縮小した。

6 月下旬から本格的に遺構を掘り始めた。壊されている部分はあったが、竪穴住居や柱穴、炉跡や縄文土器の大破片が入ったフラスコ状土坑等など充実した遺構が検出された。地元魚沼市教育委員会にも依頼して、発掘調査に慣れた地元の方を紹介してもらい、作業員を増員して、発掘調査を続け、7 月末には終了の目途が立った。発掘調査の結果は、南東から北西方向に沢が入り、その右岸には縄文時代後期の掘立柱建物が集中する。左岸には竪穴住居やフラスコ状土坑などが分布し、中期末から後期初頭の遺構が分布した。8 月 4 日に完掘後の空中写真を撮影し、補足の測量などを行い 8 月 6 日に現地作業を終了した。

これに先立つ７月 30 日（土）に現地説明会を計画したが、新潟・福島豪雨により道路が寸断され、当日は調査員が現地に入れず、やむなく中止とした。発掘調査終了後の８月 28 日に大浦新田地区の八海神社祭礼に合わせ、大浦新田集落開発センターにおいて、「町上遺跡発掘調査説明会」を開催し、60 余名の参加を得た。



第２図　トレンチ設定図と調査範囲

C　整　理　作　業

整理作業は、上越市柿崎区に所在する株式会社古田組遺跡調査研究室で行った。

調 査 期 間　　2012（平成 24）年４月１日 ~2013 年３月 31 日

調 査 主 体　　新潟県教育委員会（教育長　高井 盛雄）

調　　査　　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

　総　　括　　木村 正昭（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　事務局長）

　管　　理　　熊倉宏二（　　〃　　総務課長）

　庶　　務　　伊藤　忍（　　〃　　班長）

　調査総括　　北村　亮（　　〃　　調査課長）

　指　　導　　田海義正（　　〃　　本発掘調査担当課長代理）

　整理組織　　株式会社　古田組

　整理担当　　相羽重徳（株式会社古田組遺跡調査研究室　主任調査員）

　　藤田　登（　　〃　　主任調査員・2012 年３月まで）

　　建部真也（　　〃　　調査員・　　〃　　）

　作 業 員　　安達鉄雄・風間　梢・小池美奈子・藤田明美・丸山道子

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地 理 的 環 境

以下は、主に［戸田ほか 1989、渡辺 1986、細矢 1994］を参考とした。

八色原の地勢　町上遺跡は長野県・群馬県・福島県と接する新潟県南部の魚沼地域のほぼ中央に位置し、越後三山と呼ばれる駒ヶ岳（標高 2,002.7m）・中ノ岳（2,085.2m）・八海山（1,778m）から発する急峻な水無川下流域に形成された扇状地（通称「八色原」）に立地する。八色原は、魚沼地域を北流し、長岡市川口地区で信濃川に合流する一級河川魚野川の右岸とその支流である水無川の下流域一帯を指す。八色原の標高は約 110~180m で、総面積は 3,716ha である。八色原の東部は越後三山から延びる尾根に囲まれ、奥には越後三山只見国定公園が広がる。八色原の西限には魚野川が北流し、両岸には河岸段丘が発達している。魚野川の左岸には魚沼丘陵が拡がり山麓に形成された複合扇状地が展開する。北限の丘陵裾には三用川が流れる。

八色原は地質的には本来洪積層であるが、水無川の度重なる氾濫により運ばれた砂礫層が厚く堆積している。そのため、水無川の上流域では水量豊富であるが、下流域の砂礫地帯に入ると漏減し、平時では乏水地となる。

八色原の開発　八色原の中心部は砂礫地帯のため開発は遅い。近世には東部丘陵裾部を中心に耕地拡張と新村の形成が行われた。しかしながら、享和 3（1803）年 ~ 文化 6（1809）年にかけて編纂された『新編会津風土記』には「魚沼川（魚野川）の東にあり、東西一里南北二里、瘠薄の地にて沙石多く、田圃を開墾し難く曠平の芝原なり、二十余区の村落に分ち属す、水無川原中を西に流る」［（　）内筆者註］とあり、急速に開発が行われた様子は見られない。明治には桑畑や畑がわずかに開かれたのみであったという。八色原が現在のような農地へと転換したのは、第二次世界大戦以後で、昭和 20（1945）年には戦後の食料増産のため 1,170ha の山林・原野・荒蕪地の開拓が計画された。その後、扇状地内で小規模な開田が散発的に行われたものの系統的な開発ではなかったため、耕地が分散する結果となり、用水路・農道・農地の整備が遅れた。そこで、それらの問題を解決すべく、1965（昭和 40）年に国営魚野川東部開拓建設事業が開始された。用水を魚野川からポンプ揚水により賄い、用排水を広域に整備（704ha）することで、扇状地内の農地造成（開田・開畑 462ha）を可能とした。また、区画整理（298ha）も実施され、大圃場となることで大型農業機械の導入が可能となるなど労力の集約化が行われた。国営事業は 1977 年 10 月に完工した。現在は、魚沼米を中心とする稲作と大崎菜・八色スイカなどの畑作が盛んで、ワインの原料となるブドウも栽培されている。近年では、工業団地や高等学校・大学校が進出し、農業以外の開発も行われている。

2 歴 史 的 環 境

A 八色原周辺の縄文遺跡

魚野川下流域を含む魚沼地域では河岸段丘が発達しており、中位段丘に多くの遺跡が立地している。時代ごとでは、旧石器～縄文時代早期の遺跡は丘陵や高位段丘上に立地し、縄文時代前期以降になると中位段丘上に立地する傾向が強くなる。特に、遺跡数が最も増加する縄文時代中期・後期にはその傾向が強まるが、縄文時代晩期～弥生時代になると低位段丘へと進出する傾向がやや強くなる［桜井 1996］。こうした動向の中で、扇状地内に立地する町上遺跡は特異な例である。

旧石器～草創期　魚沼地域は旧石器の遺跡が多いことで知られ、上ノ原 B 遺跡（19）・瓜ヶ沢遺跡（8）・いのくぼ遺跡（123）でナイフ形石器、月岡遺跡（52）で細石刃、権現平遺跡（6）で大形尖頭器、布場平 D 遺跡（46）で削器・掻器が出土・採取されている［八木・佐藤 1988、梅川・高木 2006］。

旧石器終末期から縄文草創期にかけては、清水上遺跡（1）［鈴木ほか 1996］、上ノ原 A 遺跡（16）・田川稲荷平遺跡（21）付近［佐藤ほか 1995］・長者林遺跡（29）［中村 1978］で丸（円）鑿形局部磨製石斧、権現平遺跡（6）で尖頭器などの石器群［佐藤 1985］、古長沢遺跡（53）で有舌尖頭器［佐藤ほか 1995］が出土・採集されている。

早　期　清水上遺跡（1）からは押型文・内外面条痕文・沈線文土器が少量出土し、埋没谷からは後半の土器がまとまって出土した［鈴木ほか 1996］。古長沢遺跡（53）からは後半の絡条体条痕文土器が出土している［田海ほか 1990b］。上ノ原 A 遺跡（16）では条痕文・沈線文土器が出土している［佐藤ほか 1995］。七日市遺跡（97）でも土器が採集されている［桜井 1996］。

前　期　上ノ原遺跡（15~19）からは初頭から後半（花積下層～諸磯 c 式）の土器が出土している［池田 1979］。清水上遺跡（1）では、中葉（関山Ⅱ式～有尾式）の集落を検出した。集落は、竪穴建物 1 軒と方形柱列（掘立柱建物）3 棟からなる。また、後葉（諸磯 b 式）の遺物も少量出土している［鈴木ほか 1996］。大久保遺跡（179）からは末期（諸磯 b 式）の遺物が少量出土した［尾崎・坂上 2001］。また、小出地区の月岡遺跡（52）［桜井 1996］、大和地区の上八色（172、前期～中期）［穴沢編 1977］で土器・石器が採集されている。堀之内地区の庄司平遺跡（56）からは玦状耳飾りや小型磨製石斧などが採取され、古長沢遺跡では前半から後半の土器が出土した［佐藤ほか 1995］。

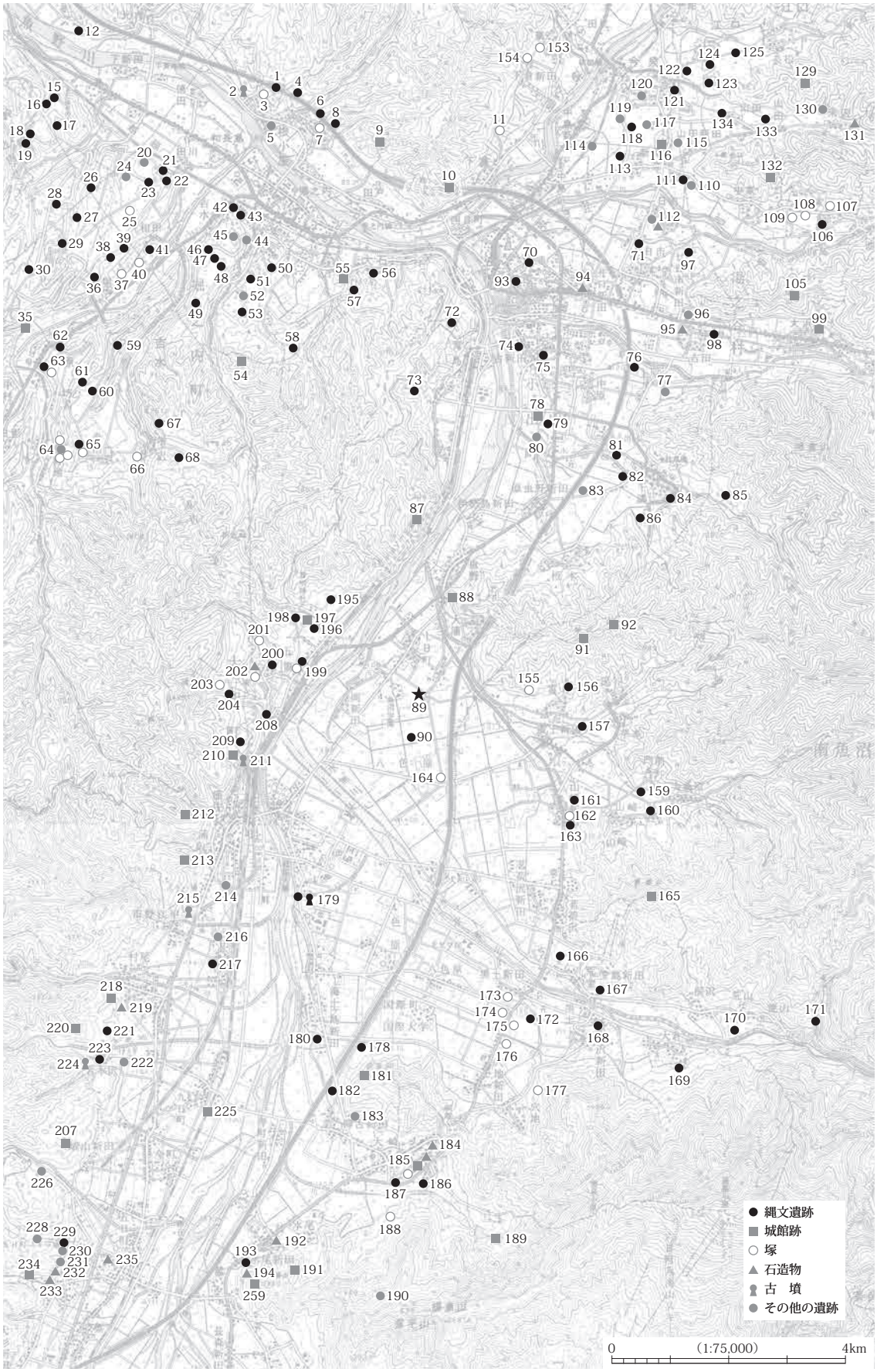
中　期　最も遺跡数が増加する時期である。また、魚沼地域の中期の遺跡は、「後期前葉にかけて継続する場合が一般的」との見解［桜井 1996］がある。清水上遺跡（1）では初頭（剣野 E 式平行）～中葉（大木 8a 式に平行）に狭い範囲で地点を変えながら営まれた集落が検出された。なかでも前葉から中葉の集落は、円形または楕円形の竪穴建物と、長方形の大型竪穴建物、貯蔵穴からなる環状ないしは馬蹄形を呈する［田海ほか 1990a、鈴木ほか 1996］。その他、後葉（大木 9 式・沖ノ原式）の土器も少量出土している［鈴木ほか 1996］。月岡遺跡（52）では前葉の石囲炉を伴う竪穴住居が検出されている［中村 1968］。瓜ヶ沢遺跡（8）では土坑に伴い、前葉（剣野 E 式平行）の土器が出土している［藤巻ほか 1985］。江口上原遺跡（124）では前葉（阿玉台式平行）の遺物が出土した［高木 2010］。布場平 D 遺跡（46）では前葉の竪穴建物 2 軒と方形柱穴列 1 棟のほか、狩猟用陥穴と考えられる V 字形溝状土坑が検出されている［佐藤ほか 1985］。古長沢遺跡（53）では中葉（大木 8a~b 式期）を中心に中期前葉から後期中葉までの土器が出土し、石組み炉や地床炉を持つ竪穴建物 7 軒などが検出されている［田海ほか 1990b］。原・居平遺跡（62）では中

葉～後葉（大木 8b~9 式に平行）を中心とする環状集落を検出した。竪穴住居 36 軒を検出し、炉の形態は石囲炉と複式炉があり、炉の中心軸は概ね広場の中心を向いている。そのほか、中葉（大木 8a 式平行）と後期初頭（三十稲場式平行）の遺物が少量出土している。原居平遺跡が立地する河岸段丘上には 300m 離れて倉下遺跡が存在するが、後期前半（堀之内式平行）を中心とすることから、原居平遺跡の集落が移行した可能性が指摘されている［梅川 1998、池田ほか 1981］。布場上ノ原遺跡（125）からは中葉～後葉を中心とし、後期初頭（三十稲場式平行）までの遺物が出土している［高木 2007］。正安寺遺跡（42）からは中葉（大木 8b 式平行）～後葉（大木 9 式平行）を中心とする集落を検出した。検出した建物は石囲炉や複式炉を有する竪穴建物 31 軒で、フラスコ状土坑 16 基が建物の周りに配置されることから環状集落になると考えられている。建物内からは火焔型土器が 1 個体潰れた状態で検出した例や、焼失した建物の壁際から石棒が検出した例があるなど良好な遺存状況である［梅川 1996・1997］。長者林遺跡（79）では火焔型土器を含む大木 8b~9 式期の土器が昭和 30 年代の耕地整理の際に出土している［桜井 1996］。水上遺跡（223）では、末葉（大木 10 式平行）～後期初頭（三十稲場式平行）を中心とする集落を検出した。集落は、竪穴建物 12 軒、土坑 49 基、屋外埋甕 3 基などからなる。縄文土器は、中期末葉と後期初頭の他、前期末葉（諸磯 b 式）・中期前葉（新崎式）が少量あり、中期中葉末～後葉（大木 8b・9 式平行）と後期前葉（称名寺・堀之内式）が定量あり、中期中葉の大部分が欠落する。石器組成では、打製石斧・石錘が出土せず、磨製石斧が微量で、凹・磨石が多いという特徴があり、清水上遺跡と類似する。堆積土から三十稲場式段階において洪水により集落を廃棄したものと考えられている［池田・荒木 1988、池田・細矢 1990］。

そのほか、小出地区の立ノ内遺跡（70）・向山遺跡（72）・浦ノ山遺跡（73）・上原遺跡（76）・十楽遺跡（85）・桜田遺跡（84）・水頭遺跡（86）・荒屋敷遺跡（82）［桜井 1996］、広神地区のいのくぼ遺跡（123）・上原遺跡（76）［関 1980］、堀之内地区の七久保遺跡（182）柳平（22、加曽利 E2 平行）［池田 1979］・上ノ原 A 遺跡（16、剣野 E1 式）［佐藤ほか 1995］、大和地区の船ヶ沢長者屋敷遺跡（168）、［細矢 1994］、出水田（209、中～後期）・宮田（196、中～後期）・鳥居木（200、中～晩期）・所平（204、中～後期）・まぎのこう（208、中～後期）・堰場（157、中～後期）・京平（156、中～後期）、館ノ腰（187、中～晩期、中世館）［穴沢編 1977］からも土器・石器が出土・採取されている。八色原に位置する堂島長者屋敷遺跡（167、中期～晩期）、上八色遺跡（172）、平間（195、中～後期）、八色原遺跡（90、中～後期）でも戦後の開拓・耕地整理などの際に中期の土器・石器が出土・採取されている。そのうち、まぎのこう・鍛冶屋原・鳥居木・八色遺跡からは硬玉大珠が出土している［穴沢編 1977］。

後　期　上ノ原遺跡（15~19）からは前葉（南三十稲場式）の土器が少量出土している［池田 1979］。正安寺遺跡（42）からは前葉（三十稲場式平行）～中葉（加曽利 B 式平行）を中心とする遺物が出土し、堀之内 I 式期の竪穴建物を 1 軒検出した。［梅川 1996・1997］。柳古新田遺跡（180）では前葉～中葉（称名寺式・堀之内式併行）を主体とする環状集落を検出した。集落は竪穴建物 25 軒、長方形柱穴列 4 棟、配石土坑 27 基、配石遺構 20 ヶ所、土坑 39 基、埋甕 4 基からなり、集落中央と周縁に墓群が伴う。粘板岩製線刻岩板が出土しており［池田・荒木 1987］、注目される。布場平 D 遺跡（46）の土坑からは土器とともに炭化した栗が多量に出土している［佐藤ほか 1985a］。瓜ヶ沢遺跡（8）からは後期～晩期にかけての亀甲状 6 本柱穴列を持つ建物跡が 4 軒、土坑、V 字状溝状遺構（陥穴）が検出されている［佐藤ほか 1985b］。

そのほか、小出地区の古新田遺跡（74）・荒屋敷遺跡（82）で土器が採集されている［桜井 1996］。大



第 3 図　周辺の遺跡分布図

（国土地理院発行　平成6年「小千谷」「八海山」平成9年「須原」平成10年「十日町」1:50,000原図）

No.	名　称	時　代
1	清水上	縄
2	古林１～６号墳	古墳
3	行人塚	不明
4	水林	縄
5	股倉神社古銭出土地	室
6	権現平	縄
7	滝沢の塚	不明
8	瓜ヶ沢	縄
9	根小屋城跡	室
10	下倉山城跡	室
11	下の原塚	不明
12	平	縄
15	上ノ原Ｅ	縄
16	上ノ原Ａ	旧・縄
17	上ノ原Ｄ	縄
18	上ノ原Ｃ	縄
19	上ノ原Ｂ	縄
20	むじな平	不明
21	田川稲荷平	縄
22	柳平	縄
23	飯盛山Ａ	縄
24	飯盛山Ｂ	中世
25	稚児塚	不明
26	下島大平	縄
27	下島	縄
28	牛ヶ首	縄
29	香ヶ平	縄
30	沢田	縄
35	原城跡	戦
36	下林	縄
37	長屋居平塚群	不明
38	金塚	縄
39	和田中段	縄
40	和田原の塚	不明
41	和田	縄
42	正安寺	縄
43	春日平	縄
44	瑠璃光寺	中世
46	布場平Ｄ	縄
47	布場平Ｂ	縄
48	布場平Ｃ	縄
49	雨池平	縄
50	堀之内高校南	縄
51	月岡公園	縄
52	月岡	旧・縄
53	古長沢	縄
54	堀之内城跡	室
55	大石館跡	中世
56	庄司平	縄
57	苅野立	縄

No.	名　称	時　代
58	前見平	縄
59	原開墾地	縄
60	谷地Ｂ	縄
61	大平	縄
62	原・居平	縄、塚（不明）
63	倉下	縄、塚（不明）
64	頭無	不明、塚（不明）
65	谷内	縄、塚（不明）
66	増沢の塚	不明
67	ソッワ沢平	縄
68	増沢中平	縄
70	立ノ内	縄
71	如来堂	縄
72	向山	縄
73	浦ノ山	縄
74	古新田	縄
75	居平	縄
76	上原	縄
77	宮下	不明
78	佐梨長者原館跡	戦～
79	長者林	縄
80	和伍	平
81	針山	縄
82	荒屋敷	縄
83	三本木	鎌・室
84	桜田	縄
85	十楽	縄
86	水頭	縄
87	鍬形城跡	室
88	桑原城跡	室
89	町上	縄
90	八色原	縄
91	板木城跡（雷土城跡）	室～戦
92	湯ヶ谷城跡	室～戦
93	原	縄
94	井口新田の五輪塔	江
95	吉田の五輪塔	江
96	吉田Ｂ	不明
97	七日市	縄
98	吉田Ａ	縄
99	大沢館跡	不明
105	鉢巻山城跡	室？
106	中家	縄
107	大塚	鎌～室
108	経塚１・２号（西塚・東塚）	不明、室
109	三つ塚	室
110	吉田川原	平
111	東小学校脇	縄
112	一日市・一日市五輪塔	平・中世
113	新保家の浦	縄・古代

No.	名　称	時　代
114	覚屋	古代
115	板屋敷	中世
116	館の内館跡	室～安
117	田代	平
118	石曽根	縄・平
119	馬作り	平
120	佐藤田	平
121	日付原	縄
122	南谷地	縄
123	いのくぼ	縄
124	江口上原	縄
125	布場上ノ原	縄
129	琴平山城跡	室～安？
130	川久保	不明
131	米沢五輪塔	鎌～室？
132	中家城跡	室～安
133	才の神	縄
134	大原	縄
153	東中塚群	不明
154	柄沢１・２号塚	不明
155	京平塚	不明
156	京平	縄
157	堰場	縄
159	石倉田	縄
160	布場	縄
161	坊地田	縄
162	大塚	不明
163	内山	縄
164	浄源塚	江
165	桐沢城跡	室
166	畑田	縄
167	堂島長者屋敷	縄
168	船ヶ沢長者屋敷	縄
169	安妙寺跡	室
170	桐沢幅下	縄
171	樺平	縄
172	上八色	縄
173	神明ノ木１・２号行塚	南
174	三ッ塚（穴地１～３号塚）	南
175	上八色塚	南
176	宮ノ浦１・２号塚	南
177	向ノ上１～８号塚	中世
178	坊谷山下（仮称）	縄
179	大久保	縄・古墳
180	柳古新田	縄
181	大崎城跡	南
182	七久保	縄・平
183	寺見堂	平
184	大崎院板碑	南
185	権現塚･滝谷寺板碑群・大崎館跡	南

No.	名　称	時　代
186	十二原	縄
187	館ノ腰	縄
188	百人塚１～４号塚	南
189	御館城跡	南
190	堂平	中世
191	苗場山城跡	室～戦
192	道光寺石仏	中世
193	若宮	縄
194	水尾摩崖仏	不明
195	平間	縄
196	宮田	縄
197	境川城跡	中世
198	大和原	縄
199	カジヤ原	縄、塚（江）
200	鳥居木	縄
201	岩ノ下塚	江
202	岩ノ下宝篋印塔・経塚	中世
203	所平塚	江
204	所平	縄
207	櫛山城跡	室
208	まぎのこう	縄
209	出水田	縄
210	下山城跡	中世
211	下山１～３号墳	古墳
212	浦佐城跡	室
213	上山城跡	室
214	一水口	弥
215	上山古墳	古墳
216	根島	平
217	川尻	縄
218	一村尾館跡	中世
219	庚の板碑	中世
220	ゴッツオシの砦跡	中世
221	ジョウピラ	縄
222	前原	古代
223	水上	縄
224	名木沢古墳	古墳
225	御館	南～室
226	西蓮寺跡	南
228	天池	平
229	横山	縄
230	六日町北原	平
231	林京	平
232	阿弥陀堂板碑	室
233	寺尾観音堂板碑群	南、不明
234	黒沢台屋敷跡	南
235	宝蔵寺板碑群	南、不明
259	六万騎城跡	南

旧：旧石器　縄：縄　文　弥：弥　生
平：平　安　鎌：鎌　倉　南：南北朝
室：室　町　戦：戦　国　江：江　戸

第１表　周辺の遺跡一覧表

和地区ではまぎのこう遺跡（208）で三十稲場式土器が、鳥居木遺跡（200）で三仏生式土器が出土している［穴沢編 1977］。広神地区からは清本上屋敷遺跡で前葉（三十稲場式平行）の土器と石器が採集されている。広神地区でも後期の遺跡のほとんどは「中期と複合」し、後葉の土器は「ほとんどみられない」という［関 1980］。

晩　期　大久保遺跡（179）・清水上遺跡（1）・荒屋敷遺跡（82）からは中葉の絡条体網目撚糸文土器・入組文土器（大洞 BC 式）・赤彩壺（大洞 C 式）が少量出土した［尾崎・坂上 2001、鈴木ほか 1996、高木 2007］。居平遺跡（75）からは中葉～末葉の墓坑が検出され、大量の土器と共に接着剤（アスファルトか）の付着した石器やヒスイ製垂玉が出土している［池田ほか 2002、池田 2002］。堂島長者屋敷遺跡（107）からは後期末葉～晩期末葉までの土器が出土した［池田 1992b］。古長沢遺跡（53）からは後葉の赤彩された沈線網状文土器が出土している［佐藤ほか 1995］。

また、小出地区の古新田遺跡（74）［桜井 1996］と、広神地区の南谷地遺跡（122）からは土器・石器が採取されている。特に、南谷地遺跡からは柄頭に工字文が彫刻されている石剣が、昭和 30 年代の耕地

整理の際に発見されている［関 1980］。

B　弥生時代以降の周辺遺跡

1）弥　生　時　代

遺跡数は少ない。春日平遺跡（43）からは遺構が検出されていないものの、正位の状態で出土した後期の完形壺が出土しており、再葬墓の可能性が指摘されている［梅川 1996］。布場平 D 遺跡（46）からは中期（宇津ノ台Ⅱ式群）の土器が出土し、南東北からの影響が指摘されている［佐藤ほか 1985a］。一水口遺跡（214）は、昭和 27 年に東京大学により発掘調査され、古墳時代前期にかけての遺物が多く出土し、イネ・ウリ・ヒョウタン・クルミなどと共に出土した弥生土器は樽式の流れを組む櫛描文を有する［桜井 1996］。古林古墳群（2）周辺からは末葉の土器が出土している。

2）古　墳　時　代

魚沼地域には中期末～後期の群集墳が展開する。この時期に大和朝廷の支配が及び、該地が大和朝廷の越後進出の足掛かりとなっていたと考えられている［桜井 1996］。

町上遺跡の立地する魚野川右岸では、大久保古墳群（179）と古林古墳群（2）の 2 例のみが知られる。大久保遺跡では墳丘が 19 基確認されていたが、浦佐バイパス法線内の後期円墳群（5 基）を発掘調査し、供献土器と管玉などが出土した［尾崎・坂上 2001］。後期前半の古林古墳群では墳丘が 6 基確認されているが内 2 基は既に湮滅している。横穴式石室を伴うものも含む。明治 14 年の開墾の際に直刀・鉄鏃・馬具・小型仿製鏡・刀装具・人骨が出土した［梅川 1992］。

対岸の魚野川左岸には、下山古墳群（211）・名木沢古墳群（224）・蟻子山古墳群・飯綱山古墳群（南魚沼市）が展開する。明治年間に発掘された下山古墳群は水無川が魚野川に合流する地点の標高 200m の尾根上に 6 基が直列に並んで築かれ、直刀・勾玉・内行花文倣製鏡・管玉などが出土した［細矢 1994］。名木沢古墳群は明治 9~14 年の開墾で鏡・勾玉・石鏃・須恵器甕などが出土した。上山古墳群では方墳が 7 基確認され、人骨・土師器・須恵器が出土した。段野古墳は「旦那塚」と呼ばれており、昭和 27 年に土中から須恵器が発見されている［穴沢編 1977］。

集落遺跡はあまり知られていない。清水上遺跡（1）からは竪穴住居 1 軒、溝 1 条が検出されている［鈴木ほか 1996］。

3）古　　代

清水上遺跡（1）［鈴木ほか 1996］・上ノ原 A 遺跡（16）［池田 1979］・和伍遺跡（80）［高木 2010］・馬作り遺跡（119）［高木ほか 2012］・春日平遺跡（43）［梅川 1996］・瑠璃光寺遺跡（44）［佐藤ほか 1995］・七久保遺跡（182）［佐藤 1985b］・覚屋遺跡（114）［池田・高木 2001］などで平安期の集落乃至は遺物が検出・出土しているものの、遺跡分布は散漫である。その内、馬作り遺跡では 9 世紀中葉~10 世紀前葉の集落を確認し、竪穴建物 1 軒・掘立柱建物 3 棟を検出した。須恵器は佐渡小泊産が大半を占め、東頸城丘陵産・渋海川流域産が少量ある。土師器甕には北陸型・北信型・武蔵型がある。また、覚屋遺跡では 8 世紀末 ~9 世紀中葉の集落を確認し、掘立柱建物 3 棟、竪穴建物 2 軒を検出した。小泊・在地産須恵器と土師器無台椀（底部糸切り）、武蔵型土師器甕などが出土し、底部に「北」と書かれた墨書土器も見られる。

4）中　　世

集落遺跡はあまり知られていないが、魚野川沿いの低地段丘及び扇状地を見下ろす高台には城館が数多く築かれる。また、板碑などの石像物や塚、寺院などの信仰遺跡が堀之内地区、広神地区、浦佐地区、五日町地区、八色原南東部に集中する。

下倉山城（10）は県指定史跡である。捨曲輪の一部を発掘調査した他、中世後期～近世の土坑墓と、中世後期～近世初頭の塚及び土塁状遺構を検出した［藤巻ほか 1985a］。苗場山城（191）でも発掘調査が行われ、空濠が検出されている［佐藤ほか 1985b］。御館遺跡（225）は、水路や掘立柱建物群、井戸などからなる中世居館である。青磁・青花のほか 14 世紀代の珠洲焼や漆器が出土した［池田 1992a］。

一日市遺跡（112）［高木 2009］・水上遺跡（223）［池田・細矢 1990］は中近世の墓地である。水上遺跡では、掘立柱建物と火葬土坑を検出した。それらの遺構の一部は近世まで下る可能性を含むものの、14 世紀代の珠洲焼や北宋銭が出土していることから大部分は中世の所産と考えられる。八色原扇頂部の穴地付近には、かつて伊板寺（いはんじ）もしくは阿南寺があったとの伝承があり、集落内から板碑 6 基が出土した。そのうち 1 基は「貞和六（1350）年」銘、ほか 1 基は「応安二（1369）年」銘をもつ。該地は南北朝時代の古戦場の一部と伝えられ、塚が多く分布し、塚上に「永和元（1375）年」銘板碑をもつ塚もある。［細矢 1994］。

清水上遺跡（1）［鈴木ほか 1996］・居平 1 号塚（62）［池田ほか 1981］・七ッ塚［佐藤ほか 1995］・滝沢の塚（7）［佐藤ほか 1985b］・京平塚（155）［細矢ほか 1985］などの塚では発掘調査されているが、遺物が出土せず内部施設を持たないことから、詳細は不明であり、該地に分布する塚の中には近世以降に下るものも多く含む可能性がある。

C　魚野川水系の水産資源

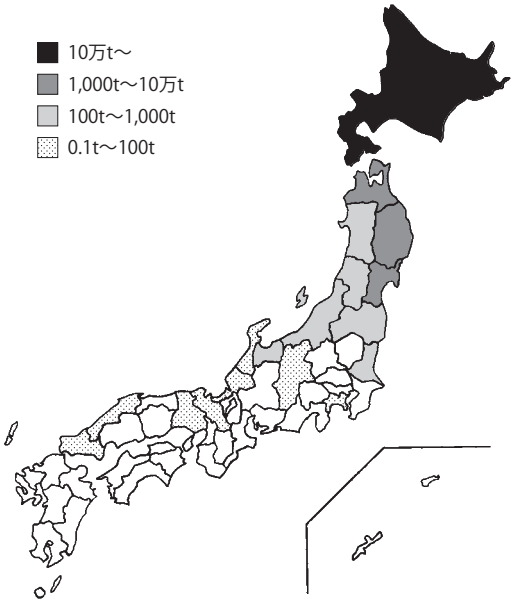
魚野川は、群馬県との境である谷川連峰西面を水源帯とし、本流 68km 余の一級河川である。水源の山岳地帯を一気に下り、魚沼南部の肥沃な盆地を潤しながら北流し、右岸側に展開する越後三山から集めた水無川や佐梨川などの大小河川や守門岳を源流とする破間川などを併呑しながら魚沼北部を貫流し、長岡市川口地区で信濃川に入る。信濃川は長野県を源流（千曲川）とし、新潟県に入ると十日町盆地から越後平野を流れ、日本海へと達する一級河川である。延長は 367km と国内最長で、流域面積は 11,900km^2 と国内第 3 位である。

魚野川では、その名の通り多くの川魚が棲む。信濃川と魚野川との合流地点は日本海から約 80km 離れているが、秋には現在でも鮭が遡上する（第 4 図・第 2 表）。また、夏には鮎釣りが盛んである。そのほか、鱒・鯉・鮒・八ツ目鰻・ウグイ・カジカ・スナホリ（カワギス）・ヤマメ・イワナ・ハヤ・ドジョウなど多種に亘る（魚沼漁業協同組合のご教示による）。

特に鮭は古来より主要な魚として多くの漁法・方言・食習・民俗が発達した。

天保 8~12（1837~41）年に刊行された魚沼地域の生活を紹介した書籍『北越雪譜』には、信濃・魚野川を遡上する鮭の様子やその生態・食し方・商圏・漁法について細部にわたり記載されており［岡田校訂 1978］、近世においても該地に鮭文化が根付いていたことを物語る。

また、初鮭は縁起物として貴ばれ、近世では主に長岡藩主へ毎年献上され、その多くは将軍家へ送られ



第４図　鮭類漁獲量（海面・内水面合算）
〔2010 年度統計〕

水　系	捕獲場	捕獲数
山北大川	山北大川	11,201
勝木川	勝　木	1,768
三面川	三　面	44,616
荒　川	荒　川	11,312
胎内川	胎　内	850
加治川	加　治	4,317
阿賀野川	阿賀野	17,784
阿賀野川	小阿賀野	1,893
信濃川	信　濃	3,388
信濃川	能　代	7,667
信濃川	加　茂	6,962
信濃川	五十嵐	5,937
信濃川	大河津分水	574
信濃川	魚　野	4,285
信濃川	清　津	6
谷根川	谷　根	3,180
桑取川	桑　取	6,372
名立川	名　立	14,448
能生川	能　生	12,773
木浦川	木　浦	139
早　川	早　川	974
海　川	海　川	1,002
姫　川	姫　川	1,604
田海川	青海川	729
合　計		163,781

（単位：尾）

第２表　河川別サケ類採捕数（2010 年）
〔独立行政法人水産総合研究センター「平成 22 年度
河川別の捕獲採卵数と放流数」より作成〕

た。魚野川沿いの村では「鮭役」を納入することで漁場を確保している。

水無川と魚野川の合流地点である岡部田では、合流部付近約 200m の内を「お種川」と称し、親鮭は捕っても良いが、産卵した卵の捕獲は禁止する取り決めがあった。

考古学的には、縄文時代以降の特に東日本や日本海に注ぐ水系地域での食料分野におけるサケ・マス類の重要性が指摘されている［山内 1964・1969、網野 1985］。新潟県でも近年、阿賀町小瀬ヶ沢洞窟遺跡（縄文早・前期）、魚沼市黒姫洞窟遺跡（縄文早期前葉）、新潟市豊原遺跡（縄文前期後半～中期初頭）、胎内市江添遺跡（縄文後期）、村上市元屋敷遺跡（縄文後・晩期）、村上市道端遺跡（縄文後・晩期）、新発田市青田遺跡（縄文晩期）、新潟市西郷遺跡（弥生時代前～後期）、新潟市御井戸遺跡（古墳前期）、胎内市反貫目遺跡（古墳時代）、胎内市西川内南遺跡（古墳～古代）、新潟市的場遺跡（8 世紀前半、「鮭」字木簡）、新潟市牛道遺跡（平安時代）などでサケ・マス類の骨を土壌中から検出している［植月 2006・2009、納屋内・松井 2009］ものの、県内遺跡全体数から見れば未だ検出事例は少なく、食料全体におけるサケ・マス類の利用頻度を論じるまでには至っていない。町上遺跡の所在する信濃川水系上流部（魚沼地域）では、破間川の支流による川食洞窟である黒姫洞窟（前述）での出土例があるほか、河口から約 180㎞離れた長野県千曲市屋代遺跡の縄文中期後葉の層（遺構覆土）からサケ・マス類の椎骨・歯が大量に出土［松井ほか 2011］している。

なお、魚野川では採卵のため遡上する鮭類を現在でも採補している。2010 年度の採補数は 4,285 尾（第 2 表）で、2011 年度は 4,382 尾、2009 年度は 3,337 尾、2008 年度は 3,733 尾であった（魚沼漁業協同組合のご教示による）。

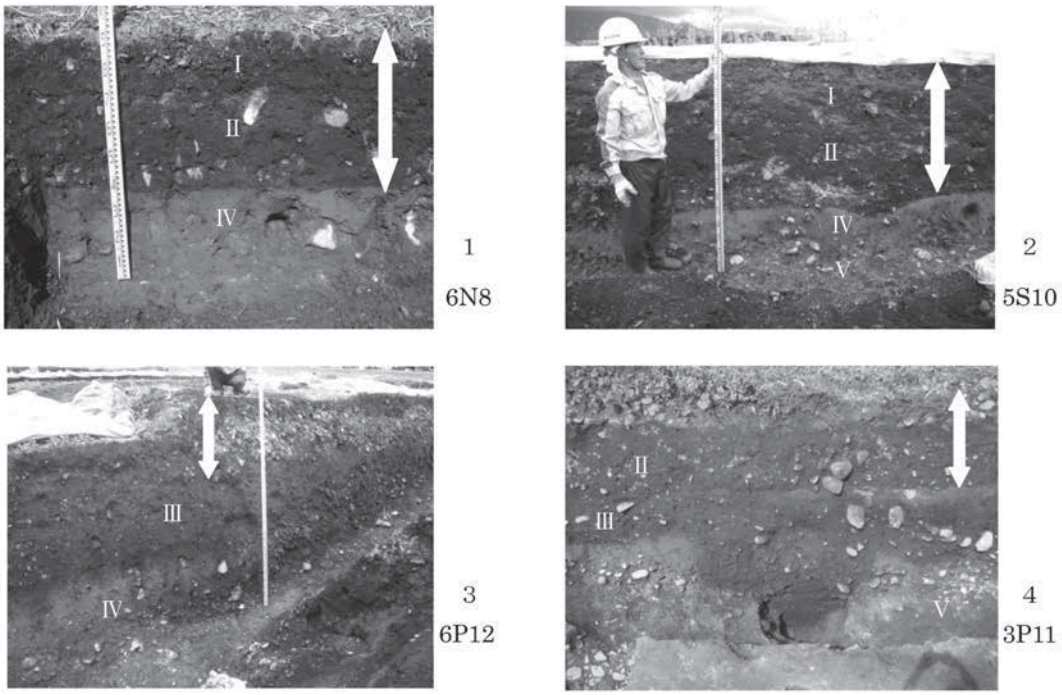
第Ⅲ章　遺 跡 の 調 査

1　グリッドの設定

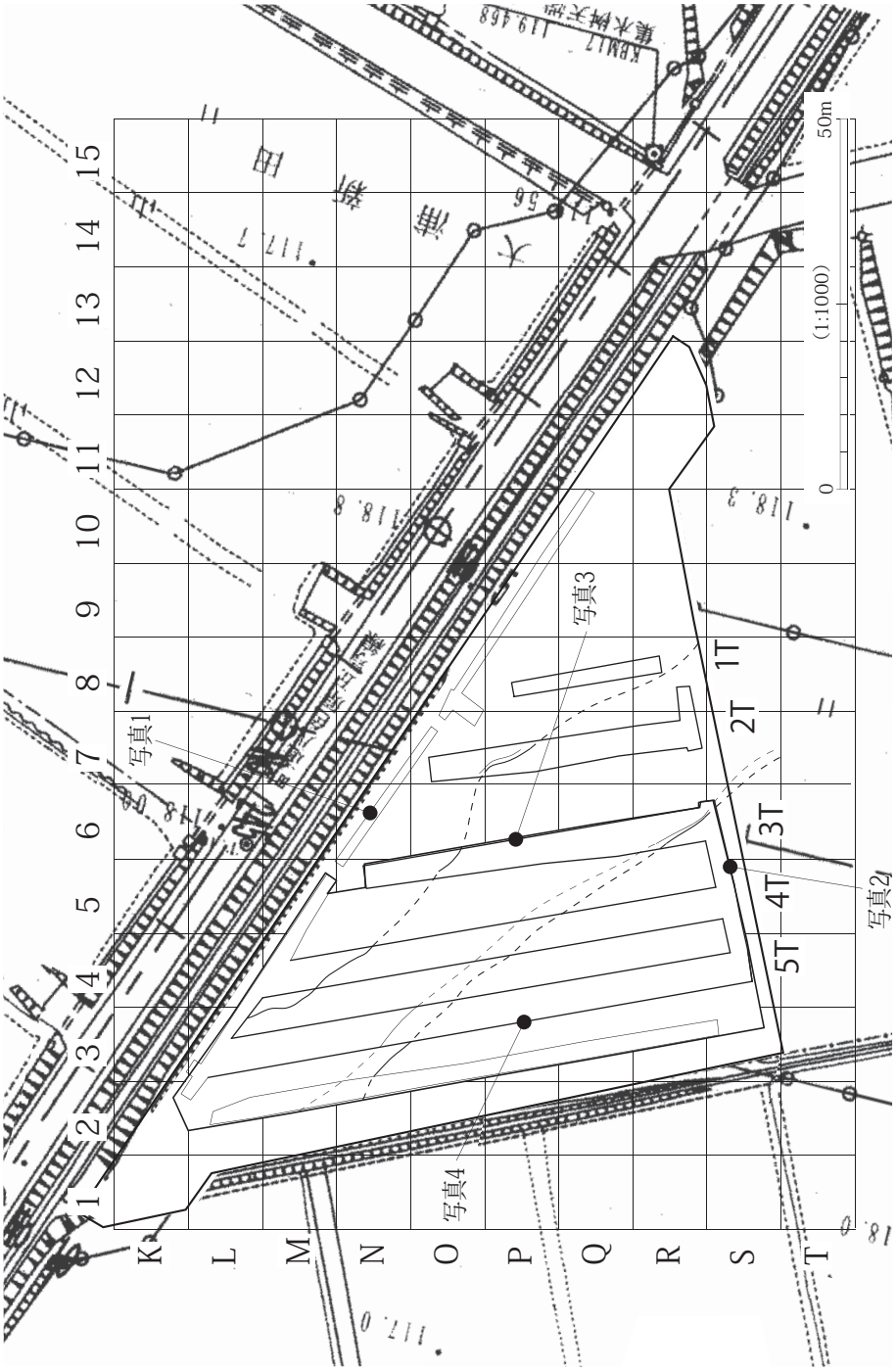
町上遺跡のグリッドは、遺跡範囲の下り側（西側）の北西端を始点として、10m 単位の大グリッドを設定した。大グリッドは南北にアルファベットを用い、北から南へ順に付した。南北軸は真北に一致する。調査区は K から始まり、L、M…S までの 9 字を使用した。東西区分は算用数字で西端の 1 から東へ順に数字を付し、12 までが調査区を覆う。大グリッド名の基点は北西隅として、1K 等と称した。大グリッド内を 2m 単位の小グリッドで分割し、北西隅を 1 として東へ順に送り北東隅を 5、南西隅を 20、南東隅を 25 とした。大グリッドと小グリッドの組み合わせで、1K13 等と呼んだ。大グリッド 2 点の座標は 1K（X=131,300、Y=400,000）、10K（X=131,300、Y=400,090）である。

2　層　　序

土層は 5 層に分層した。開拓事業により上位の 2 層は撹乱・移動している。Ⅰ層は水田耕作土で褐色土。Ⅱ層は暗褐から黒褐色クロボク土で 0.2m から 1.2m の厚さがある。礫・砂、縄文土器を多く含む部分もある。遺物取り上げ時は、客土と注記した。Ⅲ層は砂を多く含む黒色土（クロボク）で遺物包含層である。本層は調査区を南東から北西方向に斜めに流れる沢地と北西側中央部分（30・3P 区）に残り、他の大部分は開拓時の圃場整備工事で削られていた。Ⅳ層は遺構検出面で黄褐色シルトや粘質土である。Ⅴ層は扇状地の礫層で黄褐色シルトが充填する。（下写真 4 点の水田面標高 117.7m　矢印は客土・撹乱層）



第 5 図　基本層序写真

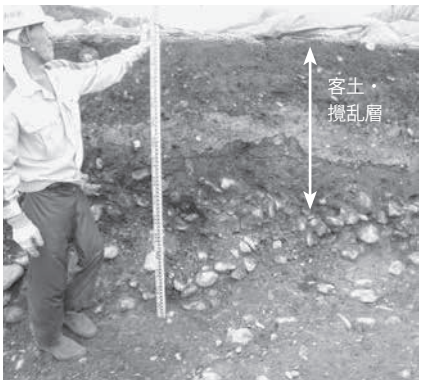

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
1T
2T
3T
4T
5T
写真1
写真2
写真3
写真4
0
(1:1000)
50m

第６図　グリッド設定図

第Ⅳ章　遺　　構

1　概　　要

時期判定　　町上遺跡は、主に縄文時代中期中葉～後期前葉までの遺物が出土する。しかしながら、遺跡の大半は過去の国営圃場整備により地山面に到達するまで破壊されており（図版２、第Ⅲ章参照）、遺構・包含層の層位的な前後関係は把握できなかった。そのため、遺構の検出はやむなく地山面で一元的に行ったが、切り合い関係にあり確実に時期が異なると考えられる遺構同士の覆土であっても色調・特徴が近似しており、検出時における時期別のグルーピングはできなかった。したがって、各遺構の帰属年代は出土遺物に頼るほかなかった。ただし出土遺物は、別時期の遺構同士の切り合いによる後世の混入や、遺構が既に検出面直上あるいは遺構上部まで破壊されている状況を勘案すると多少の混入は想定せざるを得ず、時期決定にあたっては主体となる出土遺物の年代観を当てている。



第７図　土層堆積状況写真

立地と遺構の分布　　町上遺跡は八色原扇状地の北部に位置し、扇端からやや内側に入った地点に立地する。八色原は圃場整備事業により旧地形が大幅に改変され、現在は美田が広範囲に展開する。現況では遺跡は、扇央方向に位置する南東が高く、扇先方向の北西 - 西に向かって緩やかに傾斜している。調査範囲の東側（グリッド７列以東）や南側、市道を挟んだ北側のバイパス法線上は、本調査に先行して実施した試掘調査の結果、遺物散布が散漫で遺構が検出されなかったことから、遺跡が延伸しないか、すでに破壊されているものと考えられる（第２図）。また、遺構の分布が調査区西側に集中していること（図版２）から遺跡は主に西側に延伸するものと考えられる。

検出遺構　　調査区の中央やや北寄りには、幅 15~20m、深さ約 1.5m の沢が埋没している。トレンチ調査したところ、沢内からは中層を中心として少量であるが主に縄文時代中期の遺物が出土し、検出面付近（上層）では縄文時代後期前葉を下限とする遺物が定量出土している。このことから、この沢は縄文時代中期の段階で半埋没状態にあり、後期前葉の段階でほぼ完全に埋没したと考えられる。

沢の西側からは縄文時代中期後葉～後期前葉の竪穴建物４軒、土坑 29 基、ピット 71 基を検出した。グリッドＯ・Ｐ列では遺構の切り合いが著しい。また、沢左岸に当たるＯ・Ｎ列では縄文時代中期末～後期初頭の完形に近い深鉢が逆位で埋設されているなど墓域としての土地利用の在り方も想定できる。

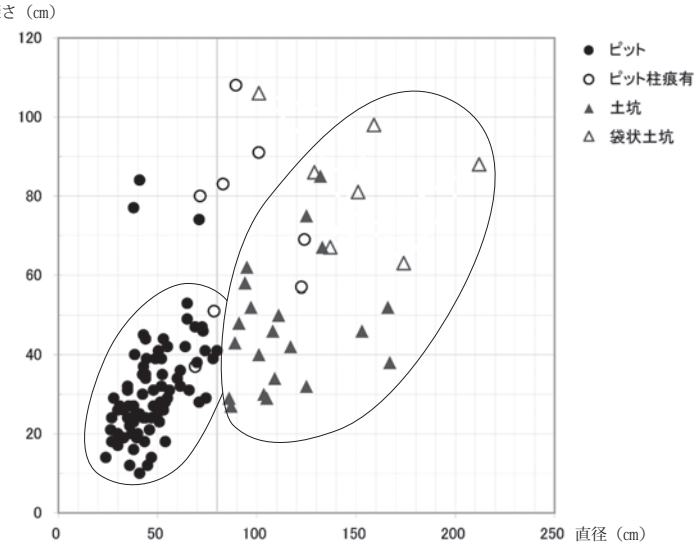
沢の東側からは縄文時代後期初頭～前葉の掘立柱建物５棟、柱穴列１列、ピット 19 基を検出した。沢の西側に縄文時代中期後半の遺構が定量見られるのに対し、沢の東側からは明瞭な中期の遺構は検出されていないことから、該地の開発は縄文時代後期に入ってからの可能性が高い。

2 記 載 の 方 法

遺構の種別は略号を用い、竪穴建物:SI、掘立柱建物:SB、柱穴列:SA、土坑:SK、ピット:Pとした。土坑とピットの区別は、法量分布（第８図）から平均直径 80㎝以上を土坑とした。ただし、建物柱穴と考えられる遺構や断面観察の結果、柱痕の認められる遺構については大きさに係わらずピットとした。

遺構番号は、遺構の種類に関係なく通し番号を付し、遺構略号を頭に付けた。ただし、複数遺構の集合体である竪穴建物・掘立柱建物・柱穴列の番号についてはその限りではない。また、調査及び整理の過程で欠番とした遺構番号もある。

個々の説明は本文（各説）、遺構観察表、図面・写真図版を用いる。ただし、本文、図版は特徴的な遺構のみ選別して掲載した。遺構観察表には掘り込みを有するすべての遺構を掲載した。



第８図　土坑・ピット法量分布図
（建物を構成するものを除く）

3 各　　説

A 竪 穴 建 物

竪穴建物は沢の西側で４棟検出した。SI91 と SI92 は調査区西端で検出したが、大部分が調査区外へ延伸し、切り合い関係も著しいことから全容を把握しがたい。SI27 と SI46 は上部を破壊されているため竪穴状掘り込みの有無若しくは範囲が明瞭でない。

SI27（図版 15・17・18・55・57）　グリッド 4R・Q に位置する。竪穴の掘り込み及び床面、炉跡は検出できなかったが、柱穴がほぼ等間隔に円形状に巡ることから竪穴建物と認定した。柱穴は P47・48・19・18・17・16・15・14・13・12・11・6・35 の 13 基で、P47 と P35 間の北西部については攪乱が著しく本来的に存在しないのか破壊されたのかは不明である。13 基の柱穴の底面標高は 116.5~116.9m とややばらつくが、南東部が浅い傾向がある。柱穴の平面規模は、攪乱の著しい P47・48・35・6 を除くと平均径 40~65㎝程度と小型であるが、まとまりがある。柱穴の平面形はいずれも円形からやや楕円形を呈し、楕円の長軸は柱穴列の円弧に即する傾向がある。柱穴で囲まれた円形プランは直径 6.5~7.0m を測り、床面積は 35.8㎡程度と推定される。円形プラン内からは、５基のピットと３基の土坑を検出した。これらは、いずれも竪穴建物との切り合いがないため新旧及び同時性は確認できないが、プラン内に存在していることから建物が存在していた時期に同時に機能していた可能性を考慮し、本項で報告する。P9 と P21 は柱穴と考えられる P11 と P19 を結ぶ直線上に対象に位置する。P11・9・21・19 を結ぶ軸は SI27 の平面プランをおおむね二分することから P9 と P21 は上屋を支える支柱穴である可能性がある。P9 と P21 は底面標高が 116.7m・116.6m、平面直径が平均 48㎝・45㎝を測り、近似し

ている。平面プラン中央付近には断面袋状を呈する土坑 SK20 が配される。SK20 は上面で直径約 1.3m、下面で 1.6m を測り、下底面はやや湾曲する。覆土はレンズ状堆積で、床面から 30㎝程高い最下層（4 層）の上面付近で縄文時代後期初頭の土器底部（図版 21・73-11）が出土した。この土坑の覆土を水洗・分析した結果、サケ科を含む 43 点の焼骨が含まれていた（第Ⅵ章参照）。SK3 と SK4 はどちらも平面形が楕円でほぼ同じ軸方向を指す。また、長軸及び短軸の規模・底面標高も近似するなど共通性が高く、用途面での関連性も高いものと考えられる。出土遺物は少ないが、柱穴などから縄文時代中期中葉の大木 8b 式土器や後期前葉（初頭含む）の浅鉢が出土している。SK20 からは後期初頭頃の蓋や中期末葉～後期初頭の大木 10 式深鉢、後期初頭頃の深鉢底部などが出土している。このことから、SK20 が本建物に伴うとすると中期末葉～後期初頭に帰属すると考えられ、伴わない場合は中期後半に遡る可能性があろう。

SI46（図版 15・19・55~58）　グリッド 3R・Q、4R・Q に位置する。規則的に配された柱穴群、南側の壁及び周溝、中央やや西寄りに石組炉を検出したことから竪穴建物と認定した。竪穴の掘り込み範囲及び床面は検出できなかった。柱穴は北側に西からほぼ等間隔に P31・30・29 と並び、やや離れて P5 が配される。南側にはそれらに対してそれぞれ P70・60・61・7 が配され、この位置関係は SK5 と SK7 の中間と石組炉（SK67）を結んだ軸線とほぼ線対称となる。P31 以西の柱穴については不明瞭である。8 基の柱穴の底面標高は南側の 4 基が 116.0~116.3m とやや深いのに対し、北側の 4 基は 116.2~116.4m と浅くなる傾向がある。柱穴の平面形は隅丸方形基調の楕円形を呈するものが多く、楕円の長軸は隣接する柱穴同士を結んだ線に即する傾向がある。柱穴の規模は長軸が 84~108㎝、短軸が 70~100㎝とやや大型で、まとまりがある。南側柱穴列の 40~50㎝南には柱穴列に沿って竪穴の壁面（最大深さ 15㎝）を検出し、壁面際には幅 16㎝、深さ 16㎝程の周溝が巡る。周溝の底面からは 10~30㎝程の間隔で深さ 10㎝程の小ピットを複数検出した。建物の東側と北半は上部の攪乱が著しく、周溝の延長を検出することはできなかった。仮に本建物の柱穴と認定した 8 基の柱穴の外側を柱穴列と平行に周溝が巡るとすると、本建物の平面形は長軸約 9.0m、短軸約 8.5m の長楕円（小判型）を呈することとなり、周溝に囲まれた床面積は 53.0㎡程と推定される。建物プランの中央やや西よりには石組炉（SK67）を持つ。炉体部は中央がやや括れた「だるま形」の平面プランを呈し、長軸約 1.9m、短軸約 1.2m、深さ約 0.4m を測り、壁面全体に石組がなされていた可能性が高いが、検出された石組みは南西部の一部分のみである。覆土中からは石組の構成石と考えられる礫が多数混入していることから、大部分は廃絶時若しくは後世に破壊されたものと考えられる。炉の東側からは中期後半の大木 9a 式浅鉢（19）がほぼ完形で出土した。石組炉（SK67）は西側の一部を土坑 SK68 に切られており、その部分の石組みは壊されている。建物プラン内及び周辺からは 15 基のピットを検出した。そのうち、P112 は本遺構の周溝を切っており、本遺構より新しい。また、P112 の南には埋設土器が 1 基検出されている。埋設土器（図版 22・73-19）は深鉢を正位に据えたものと考えられるが底部付近のみの出土で、遺存部も劣化が著しいため、復元率は低い。本遺構の年代は、覆土及び石組炉内などの出土品から沖ノ原式期・大木 9a 式期を中心とする中期後葉と考えられる。このことは、本遺構を切って構築される P112 から後出の加曽利 E Ⅳ式土器が出土していることと整合している。

SI91（図版 8・14・60）　調査区西隅のグリッド 3O に位置する。半弧状の周溝を検出したことから竪穴建物と認定した。本建物の大部分は西側へと延伸するものと考えられる。周溝は幅 25㎝程で、深さは 10㎝程を測り、弧の直径は約 5.6m を測る。周溝に接して小規模なピットを複数検出した。周溝から内側へは 4~6m の幅で平坦面が設けられており、中央部は 20㎝程深く掘り込まれている。このことから本遺構は、ベッド状遺構を伴う竪穴建物である可能性が高い。調査区西側の断面からは明瞭な貼床若しくは硬

化面は確認できなかった。建物の検出箇所周辺は遺構の重複が著しく、本建物に伴う柱穴の特定は困難である。柱痕を持つ P213 及び土坑 SK106（中期末～後期初頭）・216（後期初頭）は本遺構を切っており新しい。また、土坑 SK233 は本遺構に切られており、SK233 は P235 を切っている。P235 は P234 に切られるが、P234 は本建物を切っていないことから、SK233・P235・P234 は本遺構より古い。SI91-P1 は本遺構と同時若しくは新しい時期の遺構で、規模から建物の主柱穴となる可能性がある。本建物の中央やや南よりのベッド状遺構に接する SI91-P1 の検出面上位からは焼土が検出されている。焼土は P1 より新しいことから、本建物の炉ではないと考えられる。本建物の時期は、覆土中及びプラン内のピットなどからは、栃倉式期の遺物が定量出土していることから、中期中葉に帰属する可能性が高い。埋土中や SI91-P3 からは後期前葉の沈線文系土器が少量出土している。P3 と本建物との切り合い関係については不明であるが、土坑 SK106 や SK216 のように後期の遺構と考えられる。また、本建物中に含まれる後期の遺物（図版 23・74-57 など）については、本遺構を切って構築されている遺構の分布や圃場整備による遺構上部の攪乱などを勘案すると、SI91 の構築以後に混入ないしは攪乱された可能性が高い。

SI92（図版 8・14・61）　調査区西隅のグリッド 3P に位置する。弧状の竪穴壁面を検出したことから竪穴建物と認定した。竪穴の検出範囲は建物東側の極一部のみの検出にとどまり、最大直径約 4.2m、深さ約 30㎝を測る。調査区西側の断面からは、壁に沿って周溝の可能性がある幅 20㎝程の層位の乱れを検出したが、平面プラン上での確認は出来なかった。また、掘方直上の 3 層は貼床と考えられるものの、本層の平面堆積範囲は特定出来なかった。なお、硬化面についても断面及び平面で確認出来ない。壁の周辺からは小規模なピットが、やや内側には土坑 SK145・146 が検出されている。ただし、周辺の遺構は重複が著しく、本建物に伴うものかは判然としない。そのうち、SK116（後期）は本建物を切っており新しい。SK145 は貼床と考えられる 3 層を切っている可能性があり、本建物と同時期の可能性がある。SK145 は土層堆積状況から柱穴である可能性がある。本建物は出土遺物から中期後半頃と考えられる。

B　掘立柱建物・柱穴列

掘立柱建物は、沢の東側で 5 棟を検出した。棟持柱を持つ構造（SB1・3・4）と、棟持柱を持たない若しくは不明瞭な構造（SB2・5）がある。いずれも後期前葉に属すると考えられる。また、掘立柱建物群に近接して柵の可能性がある柱穴列を 1 列（SA1）検出した。

SB1（図版 3・4・61・62）　グリッド 2L・3L に位置する。主屋は桁行 1 間（2.6m）、梁間 2 間（4.7m）を測り、床面積は約 12.2㎡である。建物の南側には中心軸上に主柱穴より小型の棟持柱を支えると考えられる柱穴（P212）が 1 基検出されている。この柱穴と対になると想定される北側の柱穴位置は、調査区北壁より外に当たるため有無を確認することができなかった。6 基からなる主柱穴は平面形が円形からやや楕円形を呈し、規模は直径 70~110㎝、底面標高 115.1~115.4m であるのに対し、棟持柱の柱穴と想定される P212 は直径 52㎝と小さく、掘り込みも底面標高 115.5m とやや浅い。主柱穴の P197 と P187 の断面からは直径 30㎝前後の柱を用いていることが観察できる。本遺構は、出土遺物から縄文時代後期前葉（三十稲場式段階）と考えられる。

SB2（図版 3・4・55・61・62）　グリッド 3M・4M に位置する。主屋は歪な平面プランであるものの桁行 1 間（3.0~3.5m）、梁間 3 間（2.5~3.0m）を測り、床面積は約 9.1㎡である。主柱穴は 8 基からなるが、梁間方向の柱穴間は近接している。主屋から南には P183 が位置し、本建物の棟持柱を支える柱穴になる可能性もあるため、対となる北側に同様な柱穴が存在していないか慎重に検出に努めたが、発見に至ら

なかったことから、本報告では可能性の提示に留めておく。主柱穴はいずれも平面円形からやや楕円形を呈し、規模は南側のP184・231が平均直径43㎝、61㎝とやや小さいものの、他の6基の平均直径は73~87㎝とおおむね揃う。また底面標高は、8基ともに115.8~116.0mであり共通性が高い。棟持柱柱穴の可能性があるP183は平均直径74㎝で、主柱穴の北側6基と近い数値を示し、底面標高も115.7mとやや深いものの近似値を示す。

SB3（図版5･6･61~63）　グリッド4Nに位置する。主屋は桁行1間（2.7m）、梁間2間（5.2m）を測り、床面積は約14.0㎡である。建物の中心軸上の南北には、棟持柱を支えると考えられる小型の柱穴（P162・229）を2基検出し、同軸上にはP148とP230が存在する。6基からなる主柱穴は平面形が円形を呈し、規模は直径90~120㎝、底面標高115.3~115.7mを測る。一方、棟持柱の柱穴と考えられるP162とP229は直径78㎝、62㎝と小さいものの、底面標高は115.5m、115.8mと近似値を示す。また、P162とP229の中間に位置し、主柱穴を構成するP181とP164を結ぶラインとの交点に位置するP148も直径73㎝、底面標高115.5mと近似値を示すことから、P148は建物の南北に位置するP162とP229と一体となり機能していた可能性が高い。一方、P230は西側に抜き取り痕の可能性のある浅い掘り込みに切られる様子が見られるものの、柱穴本体は直径38㎝程度で底面標高116.3mと小型で浅いことから、P162-P148-P229と同一の機能を有していたとは考えがたい。しかしながら、同一軸上で、かつ主柱穴P180・P163との中間地点に位置していることから、梁材などの上屋構造を支える細柱といった機能を有していた可能性は否定できない。主柱にはP163・164・180・181の断面から、直径30~40㎝の柱が用いていたことが分かる。棟持柱も、P162の断面から同様に直径30~40㎝程度の柱を用い、P230の断面から推測されるように部分的に直径15㎝程度の細柱を補助材に用いていた可能性がある。出土遺物から後期前葉（南三十稲場式・堀之内Ⅱ式期）と考えられる。このことは、建物西側の主柱穴であるP181とP182の断面から縄文時代中期の堆積である沢中層と後期初頭~前葉の堆積である沢上層を切って構築されていることと齟齬はない。

SB4（図版5・7・61・63）　グリッド5Nに位置する。主屋は歪な平面プランであるものの桁行1間（1.9~2.3m）、梁間3間（4.8m）を測り、床面積は約10.1㎡である。建物の中心軸上の南北には、棟持柱を支えると考えられる柱穴（P172・193）を2基検出した。8基からなる主柱穴はいずれも平面形が円形からやや楕円形を呈するが、すべてに小型で不整形な浅い掘り込みが付随する。この浅い掘り込みは、断面観察から主柱穴を側面から斜めに掘り込んでいる様子が見て取れることから、主柱の抜き取り痕の可能性が高い。抜き取り痕の付随する方向は一定しておらず、抜き取りに際しての規則性は見られない。主柱穴の底面標高は116.2~116.5mと浅いため、上部の多くを圃場整備時に破壊された可能性が高い。残存している主柱穴の規模は直径40~50㎝と他の掘立柱建物と比して極めて小型である。しかしながら、P173やP191の断面からは直径15㎝程度の柱痕が観察できることから、本遺構で用いられた柱は細く、必然的に小型の掘り込みで事足りたものと考えられる。なお、棟持柱の柱穴と考えられるP172とP193では、規模が直径38㎝・54㎝、底面標高116.2m・116.5mと主柱穴と同規模である。本遺構の年代は、少量ではあるものの出土遺物から判断して後期前葉（三十稲場式段階）と考えられる。

SB5（図版4・5・61・64）　グリッド5O・Nに位置する。主屋は桁行1間（2.3m）、梁間1間（2.3m）を測り、床面積は約5.3㎡である。主屋がSB1~4と同様に北西-南東軸に延伸する可能性を考慮し、東側主柱穴列のP194とP204から等間隔の位置にトレンチを設定し、柱穴の有無を検討したが、発見には至っていない。また、同様に東西方向に延伸する可能性を考慮し、P238とP204の延長上にトレンチを設定

したが柱穴は検出できなかった。西側への延伸については沢中に設けたトレンチにより検証不可能であるが、埋没沢の中央部に向かうことからその可能性は低いと考えられる。棟持柱の柱穴についても、周辺で慎重に検出に努めたが、発見には至らなかった。したがって、本遺構は主柱穴 4 本からなる 1 間× 1 間の構造物である可能性が極めて高い。4 基からなる主柱穴は平面形が円形から楕円形を呈し、規模が平均直径 60~105㎝と一定しない。東側列の P194 と P204 では平均直径 72㎝・62㎝と小型であり、底面標高はいずれも 115.8m である。対して西側列の P237 と P238 は平均直径 79㎝・103㎝とやや大きく、底面標高は 115.6m とやや高い傾向にある。このことは、東側列が沢岸の比較的安定した地盤に築かれているのに対し、西側列が沢中のやや不安定な地盤に位置していることと関係している可能性がある。柱の大きさについては、P194 及び P204 の断面から、主柱に直径 20~25㎝の柱を用いていたことが観察できる。なお、東側列の P194 と P204 の中間には底面標高 116.2m と浅い掘り込みを持つ P224 が位置している。P224 と本遺構との関係性については不明であるが、補助柱などの柱穴である可能性も否定できない。本遺構は、出土遺物から後期前葉（南三十稲場式・堀之内Ⅱ式期）と考えられる。このことは、同じく建物の一部が沢中に位置する SB3 の年代観と一致する。

SA1（図版 3・5・61）　グリッド 4M・N に位置する。P156・159・166・167・208 の 5 基からなる柱穴列である。5 基の底面標高は、116.1~116.2m 程とまとまり、北側が深くなる。柱穴間は P166-167 間が 1.84m と狭いものの、他は 2.7~3.5m と比較的均等に直線的に配されている。対となる柱穴列が付近に存在しないことから、柵の可能性を含む柱穴列として報告する。いずれの柱穴からも遺物が出土しなかったが、沢の右岸に位置することから他の掘立柱建物群と同様に後期前葉に位置付けられる可能性が高い。

C　土　　坑

上面形が平均直径 80㎝より大きい掘り込みを有する遺構を土坑とした。土坑には①袋状土坑、②埋設土器土坑、③その他があり、本調査区からは①を 7 基、②を 1 基、③を 25 基検出した。検出した土坑は沢の西側にのみ展開する。

1）袋　状　土　坑

断面が袋状ないしはフラスコ状を呈する土坑を一括した。SK20・SK43・SK44・SK45・SK78・SK97・SK106 が該当する。いずれも直径 1m、深さ 60㎝を超える大型の土坑である。そのうち、SK20 は 3A で説明したので、割愛する。

SK43（図版 15・16・69）　グリッド 3R15・20、4R11・16 に位置する。上面形はやや楕円を呈し、長軸 182㎝、短軸 162㎝を測る。底面最大径は 176㎝、深さは 63㎝を測る。覆土は下位に崩落土を含む層がブロック状に堆積し、上位には黒褐色土～灰黄褐色土を中心とする層が比較的水平に近い状態で堆積する。底面は礫層に達し、比較的平坦であるが、中央に一段下がった窪みを持つ。東側で隣接する SK44 に切られている。細片であるが出土遺物から中期中葉の大木 8b 式から栃倉式期に位置付けられる。

SK44（図版 15・16・69）　グリッド 4R11・12・16・17 に位置する。上面形はほぼ円形を呈し、長軸 224㎝、短軸 200㎝を測る。底面最大径は 224㎝、深さは 88㎝を測る。覆土は最下層（9 層）にロームブロックを含む層が約 10㎝の厚さで堆積し、中～上位はロームブロックを少量～多量に含む層がブロック状に堆積し、人為的に埋め戻しているものと考えられる。最下面には拳大～人頭大程度の礫が散在する。底面は

礫層に達し、比較的平坦であるが、中央に一段下がった窪みを持つ。西側で隣接する SK43 を切っている。出土遺物から中期中葉の大木 8b 式期頃に位置付けられる。

SK45（図版 15・17・56・70）　グリッド 3R24･25、3S4･5 に位置する。上面形は楕円形を呈し、長軸 148㎝、短軸 126㎝を測る。底面最大径は 168㎝、深さは 67㎝を測る。底面中央には長軸 60㎝、短軸 50㎝、深さ 8㎝程の窪みを持つ。最下層はロームブロックを多量に含み、ほぼ水平に堆積する。中～上位は直径 5㎝～人頭大程の礫を多量に含み、やや遺存率の高い土器を包含している。本土坑の南西隅底面からは、縄文時代中期後葉の大木 9 式期の深鉢や、沖ノ原式期～後期初頭に位置づけられる加飾隆帯を伴う深鉢が出土し、中期後葉に位置付けられる。

SK78（図版 8・11・67）　グリッド 3P15･20 に位置する。上面形は楕円形を呈し、長軸 172㎝、短軸 146㎝を測る。底面最大径は 160㎝、深さは 98㎝を測る。覆土は基本的に 3 層で、レンズ状の堆積を呈し、東寄りに円礫がやや多く入り込む。西側で隣接する P58 を切り、北側で隣接する SK139 に切られる。出土遺物から後期初頭頃に位置付けられる。なお、P58 は中期末～後期初頭、SK139 は後期前葉と考えられ、齟齬はない。

SK97（図版 8・11・56・66）　グリッド 3P8 に位置する。上面形は楕円を呈し、長軸 112㎝、短軸 90㎝を測る。底面最大径は 124㎝、深さは 106㎝を測る。覆土は 10 層に分層したが、断面観察の結果、1~5 層は後世に掘り込まれたピット（柱穴）であることを確認した。本土坑本来の堆積は 6~10 層であり、ほぼ水平に堆積している。8 層以下は焼土を大量に含む層で、土壌中に含まれる微細骨片を分析した結果、1 万 2 千点を超えるサケの骨を含む、合計 11 万点余の焼骨片が含まれていることを確認した（第Ⅵ章参照）。土坑の壁面など周囲に焼固した痕跡が認められないことから、これらの焼骨片はその場で焼かれたのではなく、本土坑に投棄された焼土中に含まれていたものと考えられる。また、本土坑覆土中～下位には人頭大の礫を投棄した痕跡も確認出来た。本土坑を切るピット（柱穴）は断面観察から直径 33㎝程の柱が据えられていたものと考えられ、直径 20㎝程の礫で根固めを行っている。本土坑からは大木 8b 新段階、大木 9 式、沖ノ原式、及び沈線文系土器が出土した。出土土器における時期別のまとまりから、袋状土坑が中期中葉末～後期初頭頃、ピット（柱穴）は後期前葉である可能性が高い。その他の遺構との切り合いは、本土坑が P144・143 を切っている。P143 は後期初頭と考えられ、齟齬はない。

SK106（図版 8・9・66）　グリッド 3N21、3O1 に位置する。上面形は隅丸方形を呈し、長軸 162㎝、短軸 140㎝を測る。底面最大径は 166㎝、深さは 81㎝を測る。覆土は 5 層がほぼ水平に堆積するが、中位には直径 5㎝程の礫を多量に含む層がある。本土坑は SI91 と一部プランが重複しており、SI91 を切って構築されている。本土坑からは、中期後葉の沖ノ原式・加曾利 E Ⅳ式・加飾隆帯文土器、及び後期初頭の称名寺式が出土したことから、中期末～後期初頭に位置付けられる。なお、本土坑に切られる SI91 は中期中葉と考えられ、齟齬はない。

2）埋設土器土坑

沢の左岸であるグリッド 3O で、土坑に深鉢を逆位に据えた SK95 が検出されている。検出された明瞭な埋設土器土坑は SK95 の 1 基のみであるが、周辺では客土中から比較的復元率の高い深鉢が複数出土しており、埋設土器土坑群が展開していた可能性がある。また、SI46 に近接して深鉢底部が小規模土坑内に正位で据えられた状態で出土している（図版 20・60）。

SK95（図版 8・9・56・77）　グリッド 3O2･3 に位置する。客土掘削中に逆位の状態で深鉢が出土し

たことで本遺構を認識した。しかし、周辺の攪乱が著しいことから、遺構の掘り込みは検出できなかった。その為、深鉢を残したまま周辺を掘り下げていき、深鉢の埋設状況などを記録した後、深鉢を取り除き、地山面で遺構プランの検出を行った。検出出来た遺構の平面形は楕円で、長軸 122㎝、短軸 85㎝、深さ 30㎝を測る。埋設土器は中期末～後期初頭の大木 10 式若しくは称名寺式の最古段階に位置づけられる深鉢（図版 28・77-218）で、底部は欠損している。土器の内部からは拳大程の自然礫が数点出土したのみである。

3）そ　の　他

SK1（図版 8・11・67）　グリッド 4P17 に位置する。南半分は現代の削平を受けている。深さは 29㎝を測る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。

SK10（図版 15・17・69）　グリッド 4R12･13･17･18 に位置する。平面形は隅丸長方形で、長軸 234㎝、短軸 100㎝、深さ 38㎝を測る。中央部は擂鉢状に緩やかに凹み、中心付近の床が赤く焼固している。凹みの南西隅からは立石が出土した。また、本遺構の北側では配石を、南西隅では小ピット状の凹みを検出した。断面形は浅い台形状を呈する。覆土はブロック状に堆積し、地山ローム粒など混入物が著しい。規模から土坑に分類したが、竪穴建物の炉の下底部である可能性も考えられる。出土遺物は少ないものの、大木 8b 式が出土していることから中期中葉に位置付けられる。

SK34（図版 15・16・68）　グリッド 3Q3 に位置する。平面形は楕円で、深さ 27㎝を測る。P33 に切られる。本土坑は出土遺物から中期後葉に位置付けられる。P33 は後期前葉と考えられ、齟齬はない。

SK49（図版 15）　グリッド 3R14･19 に位置する。遺構の大部分が開渠により調査不可能となり、全容を把握しがたい。遺存部で長軸 114㎝、深さ 18㎝を測る。覆土は単層で、断面がやや袋状を呈する。出土遺物から中期後葉に位置付けられる。

SK73（図版 8･10･65）　グリッド 3P18･22･23 に位置する。平面形は楕円で、長軸 172㎝、短軸 134㎝、深さ 46㎝を測る。覆土は 4 層からなり、ほぼ水平に堆積する。下位では小礫や微細な炭化粒を多く含む。P72・141 に切られる。出土遺物から中期中葉に位置付けられる。なお、P72 は後期前葉と考えられ、齟齬はない。

SK79（図版 8・11・68）　グリッド 4P13･18 に位置する。平面形は円形で、長軸 114㎝、短軸 108㎝、深さ 50㎝を測る。覆土は 6 層からなり、ブロック状に堆積する。底面中央付近に人頭大の円礫が投棄され、覆土全体に直径 5~6㎝程の礫やロームブロックなどの混入が著しい。遺構底面は礫層まで達している。本土坑からは縄文土器が出土したものの、時期を特定出来なかった。

SK80（図版 8・11・68）　グリッド 4P14 に位置する。平面形は円形で、長軸 108㎝、短軸 108㎝、深さ 46㎝を測る。覆土は 3 層からなり、レンズ状に堆積する。覆土中には人頭大の円礫が投棄され、SK79 の堆積状況に近似する。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。本土坑の西側には同規模で類似した堆積状況を示す 2 つの土坑（SK79・SK1）がほぼ等間隔に位置している。柱痕が認められないため建物とは認定しなかったものの、これら 3 つの土坑が一連の機能を分担していた可能性はあろう。

SK94（図版 8・9・66）　グリッド 3N21･22 に位置する。平面形は円形で、長軸 172㎝、短軸 160㎝、深さ 52㎝を測る。覆土は 4 層からなり南西から北東にかけて投げ込まれたような傾斜した堆積を示す。北側を SK147 に切られる。出土遺物から中期末～後期初頭に位置付けられる。

SK98（図版 8・10・65）　グリッド 3P7･8 に位置する。平面形は楕円形で、長軸 112㎝、短軸 90㎝、

深さ 40㎝を測る。土坑に分類したが、ピット（柱穴）である可能性もある。その場合、1 層が柱痕、礫を多く含む 2･3 層が柱の根固めに相当する。P99･190 を切る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。

SK104（図版 8・9・66）　グリッド 3O8 に位置する。平面形は楕円で、深さ 52㎝を測る。覆土は 3 層からなるが、1 層が 2・3 層を大きく抉り込むように堆積していることから、1 層と 2・3 層は時期差がある可能性がある。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。

SK116（図版 8･9･14･61）　グリッド 3P1･2 に位置する。平面形は楕円で、長軸 154㎝、短軸 110㎝、深さ 85㎝を測る。覆土中～下位の北側には礫を多く含む層がブロック状に堆積していることから、本遺構は根固め石を伴う柱穴の可能性もある。SI92・SK146・P199・P215 を切っている。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。なお、SI92 と SK146 は中期後葉と考えられ、齟齬はない。

SK139（図版 8・11・67）　グリッド 3P20 に位置する。平面形は楕円を呈すると考えられ、深さは 43㎝を測る。覆土中には直径 5~10㎝程の川原石を多く含み、上位では微細な炭化物も多く含む。SK78 を切る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。

SK140（図版 8・10・64）　グリッド 3P3･4 に位置する。SK114・115・142 に切られ、平面形は不明である。覆土は 2 層からなり、直径 10㎝程の礫を多く含む。出土遺物から中期後葉～後期初頭に位置付けられる。

SK142（図版 8・10・65）　グリッド 3P3･4 に位置する。平面形は長楕円で、長軸 136㎝、短軸 80㎝、深さ 62㎝を測る。覆土は 5 層からなり、上位では直径 10㎝程の礫と、微細な炭化物を多く含む。SK140 を切る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。なお、SK140 は中期後葉～後期初頭と考えられ、齟齬はない。

SK146（図版 8・9・61）　グリッド 3O21･22、3P1･2 に位置する。平面形は円形又は楕円で、深さ 34㎝を測る。覆土は 3 層からなるが、いずれも直径 10~30㎝の礫を含み、特に下位に多い。SI91 との切り合い関係は不明瞭であるが、P199 を切り、SK116 に切られる。出土遺物から中期後葉に位置付けられる。なお、SK116 は後期前葉と考えられ、齟齬はない。

SK147（図版 8･9）　グリッド 3N16･17･21 に位置する。平面形は楕円で、深さ 48㎝を測る。覆土は、小礫と炭化物を多量に含む。南側で SK94 を切る。遺物は出土しなかった。

SK190（図版 8・10・65）　グリッド 3P3･7･8 に位置する。P99・189・SK98 に切られているため、全容は不明である。深さは 29㎝を測る。覆土は 3 層からなり、ブロック状に堆積する。遺物は出土しなかった。

SK216（図版 8・14・60）　グリッド 3O6 に位置する。西側は開渠によって切られており、全容は不明であるが、調査区西壁の断面に現れなかったため、開渠中に収まるものと考えられる。長軸 144㎝、短軸 106㎝、深さ 32㎝を測る。覆土は 3 層からなり、上位では微細な炭化物や焼土粒を多く含む。SK233 と SI91 を切っている。出土遺物から後期初頭に位置付けられる。なお、SI91 は中期中葉の竪穴建物であるが、本土坑中からも大木 8b 式が出土しており、本土坑が SI91 を切って構築していることを示唆している。

SK217（図版 15・16・68）　グリッド 3Q13 に位置する。平面形は円形で、長軸 138㎝、短軸 128㎝、深さ 67㎝を測る。覆土は 5 層からなり、中～下位はほぼ水平に堆積するが、上位はブロック状に堆積する。P71 に切られる。遺物は出土しなかった。

SK219（図版 8･9･66）　グリッド 3O20、4O16 に位置する。平面形は楕円で、長軸 136㎝、短軸 114㎝、

深さ 75㎝を測る。覆土は 3 層からなるが、中 ~ 下位に直径 5㎝程の礫を多量に含む。出土遺物から中期後葉 ~ 後期初頭に位置付けられる。

SK233（図版 8・14・61）　グリッド 3O1・6 に位置する。西側開渠に切られ、全容は不明である。平面形は隅丸長方形を呈すると考えられ、長軸 186㎝、短軸 140㎝、深さ 64㎝を測る。P235 を切り、P228、SK216、SI91 に切られる。遺物は出土しなかった。

D　ピ ッ ト

平面形の平均直径 80㎝以下の掘り込みを有する遺構をピットとした。ただし、80㎝以上であっても断面観察の結果、柱痕が認められる遺構については本類に分類した。ピットには①柱穴と②その他があり、①は断面観察で柱痕が認められるピットである。②は柱痕が認められないか、不明瞭なピットである。ただし、②であっても「柱穴」として機能を否定するものではない。

1）柱　　穴

P33（図版 15･16･70）　グリッド 3Q2･3･7･8 に位置する。平面形は楕円で、長軸 108㎝、短軸 84㎝、深さ 69㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 32㎝程と考えられる。根固め石は 3・4 層を中心に小礫を用いている。SK34 と P39 を切る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。なお、SK34・P39 は中期後葉と考えられ、齟齬はない。

P38（図版 15・17）　グリッド 3S15 に位置する。平面形は円形で、長軸 48㎝、短軸 40㎝、深さ 44㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 18㎝程と考えられ、根固め石は用いられていない。遺物は出土しなかった。

P39（図版 15・16・68）　グリッド 3Q3･8 に位置する。平面形は円形で、長軸 74㎝、短軸 72㎝、深さ 46㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 18㎝程と考えられ、根固め石には拳大程の礫を用いている。SK33 に切られる。出土遺物から中期後葉に位置付けられる。なお、SK33 は後期前葉と考えられ、齟齬はない。

P54（図版 8・13・72）　グリッド 4P13 に位置する。平面形は円形で、長軸 28㎝、短軸 25㎝、深さ 21㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 15㎝程と考えられ、根固め石は用いられていない。出土遺物から中期末 ~ 後期初頭に位置付けられる。

P56（図版 8・13）　グリッド 4P14 に位置する。平面形は楕円で、長軸 48㎝、短軸 34㎝、深さ 25㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 14㎝程と考えられ、根固め石は用いられていない。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。

P57（図版 8・13）　グリッド 3P14 に位置する。平面形は円形で、長軸 46㎝、短軸 42㎝、深さ 34㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 14㎝程と考えられ、根固め石には小礫を用いている。出土遺物から中期中葉に位置付けられる。

P72（図版 8・10）　グリッド 3P17･18 に位置し、西側の一部は開渠により調査できなかった。残存部から推測して平面形は楕円で、長軸 79㎝、短軸 70㎝、深さ 47cm を測る。断面観察から、柱の直径は 20㎝程と考えられる。裏込め土の状態は良く観察されるものの、根固め石は用いられていない。SK73 を切る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。

P74（図版 8・13）　グリッド 3P18 に位置する。平面形は楕円で、長軸 48㎝、短軸 40㎝、深さ 24㎝

を測る。断面観察から、柱の直径は 14㎝程と考えられ、根固め石には直径 3~5㎝程の小礫を用いている。遺物は出土しなかった。

P75（図版 8・13・72）　グリッド 3P19･24 に位置する。平面形は円形で、長軸 74㎝、短軸 68㎝、深さ 74㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 20㎝程と考えられる。根固め石には小礫を用い、下位に多く、中～上位は少ない。本遺構からは縄文土器が出土したが、詳細な時期は特定出来なかった。

P83（図版 8・13・70）　グリッド 3P12 に位置する。西側は開渠により調査できなかったが、遺存部は長軸 82㎝、短軸 56㎝、深さ 51㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 22㎝程と考えられ、根固めに円礫を用いている。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。

P89（図版 8・12・71）　グリッド 3P2･3 に位置する。平面形は円形で、長軸 94㎝、短軸 85㎝、深さ 108㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 20㎝程と考えられる。根固め石には主に拳大程の川原石を用いている。P90 を切る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。なお､P90 が中期中葉～後葉と考えられ、齟齬はない。

P93（図版 8・13）　グリッド 3P19 に位置する。平面形は楕円で、長軸 58㎝、短軸 48㎝、深さ 44㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 14㎝程と考えられ、根固め石には小礫を用いている。出土遺物から中期後葉～後期初頭に位置付けられる。

P109（図版 8・13）　グリッド 3O18 に位置する。平面形は楕円で、長軸 68㎝、短軸 55㎝、深さ 36㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 18㎝程と考えられる。裏込め土の状態は良く観察されるものの、根固め石は用いられていない。本遺構からは縄文土器が出土したものの､詳細な時期は特定出来なかった。

P114（図版 8・10・64）　グリッド 3P3･8 に位置する。平面形は楕円形で、長軸 88㎝、短軸 78㎝、深さ 83㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 24㎝程と考えられ、根固め石には直径 10㎝程の川原石を用いている。SK140・P189 を切る。出土遺物から後期前葉に位置付けられる。なお、SK140 は中期後葉～後期初頭、P189 は中期後葉と考えられ、齟齬はない。

P115（図版 8・10・65）　グリッド 3O23･24、3P3･4 に位置する。平面形は楕円形で、長軸 127㎝、短軸 118㎝、深さ 57㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 24㎝程と考えられ、根固め石には直径 10~15㎝程の川原石を用いている。出土遺物から中期後葉～後期初頭に位置付けられる。同時期の SK140 を切って構築している。

P117（図版 8・12・72）　グリッド 3O22 に位置する。平面形は円形で、長軸 42㎝、短軸 40㎝、深さ 84㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 18㎝程と考えられ、根固め石を用いている。本遺構からは縄文土器が出土したものの、詳細な時期は特定出来なかった。

P122（図版 8・11）　グリッド 3O13 に位置する。平面形は円形で、長軸 47㎝、短軸 42㎝、深さ 39㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 18㎝程と考えられる。裏込め土の状態は良く観察されるものの、根固め石は用いられていない。遺物は出土しなかった。

P143（図版 8･12･71）　グリッド 3P8･12･13 に位置する。平面形は楕円形で､長軸 106㎝､短軸 96㎝、深さ 91㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 50㎝程と考えられる。6・7 層は根固めと考えられ、根固め石には直径 10㎝程の礫を用いている。P144 に切られる。出土遺物から後期初頭に位置付けられる。

P213（図版 8・9・72）　グリッド 3O1 に位置する。平面形は楕円で、長軸 76㎝、短軸 67㎝、深さ 80㎝を測る。断面観察から、柱の直径は 18㎝程と考えられる。裏込め土の状態は良く観察されるものの、根固め石は用いられていない。本遺構の中位には崩落土が著しく観察され、隣接する SK106 との境が明

瞭ではない。また、下位の 5・6 層は柱痕より下位に水平に堆積していることから、SI91 の覆土及び周溝内覆土の可能性もある。本遺構からは遺物は出土しなかった。

2）そ　の　他

柱痕が認められない、又は明瞭でないピットを 81 基検出した。①に分類した柱痕のあるピットと比較すると不整形で、平面形・深さともに小規模になる傾向が強い。また、出土遺物は少ないか、出土しないことが多く、詳細な所属時期を決めがたい。ピットの分布は他の遺構の分布と共通し、時期も中期中葉～後期前葉に収まる。時期毎の量比は、中期中葉＜中期後葉～後期初頭＜後期前葉であり、各時期の遺構数の変動と対応している。なお、沢の東側で建物が築かれるのは後期前葉になってからであるが、ピットも確実に中期に遡るものは確認していない。

P108 はグリッド 3P に位置する中期中葉～後葉のピット（図版 8・12・71）であるが、覆土土壌中からイノシシの焼骨が 2 個体出土した（第Ⅵ章参照）。P108 は、サケを含む 11 万点余の焼骨が出土した袋状土坑 SK97（中期中葉末～後期初頭）と隣接している。

E　沢

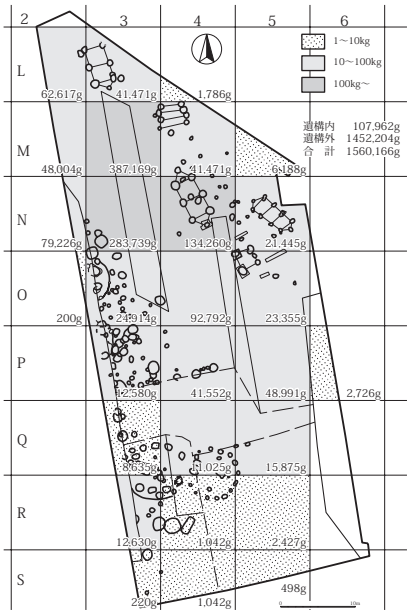
調査区中央やや北寄りから、埋没した沢を検出した（第 2・5 図、図版 2）。本発掘調査及びトレンチ調査により、本沢は幅 15~20m、深さ約 1.5m を測り、グリッド 7S・8R から 2M・3L（南東 - 北東）に流走していることを確認した。本沢の堆積は底面まで断ち割った 5 本のトレンチ（1T~5T: 第 2 図）により、大きく 3 層に分層出来た。下層は褐色土で礫を多量に含み、遺物をほとんど含まない。中層は暗オリーブ褐色土で礫の混入は少なく、遺物をわずかに含む。上層は黒褐色土（クロボク）で、礫をやや含む。上面を中心に遺物を多量に含む。中層上面は竪穴建物・掘立柱建物・土坑などの検出面より低い。また、下・中層には少量ではあるものの、縄文時代中期の遺物を含むことから、該期には半埋没状態であったと考えられる。上層からは、後期前葉（南三十稲場式段階）を下限とする遺物が多量に出土している。このことから、右岸に掘立柱建物が築かれる後期前葉にはほぼ完全に埋没していたと考えられる。しかしながら、沢の上面には岸端の SB3・5 を除き、遺構が検出できないことから、地盤の悪い埋没沢上の開発は進まなかったものと考えられる。なお、トレンチ調査の結果、中・下層からの出土量が極めて少なく、小片であることから沢内の全面発掘はしなかった。

第Ⅴ章　遺　　物

1　縄文土器・土製品

A　概　　要

本遺跡では、包含層を極めて部分的にしか検出しておらず、遺構も上部は破壊されているものが多い。遺物の出土がなく遺構を検出していない地点についても、破壊が及んでいるため、本来的に集落外であったかどうかは不明である。客土中の土器類の重量分布（第９図）は標高の高い南部及び東部が少なく、低位の北西部に集中し、地盤の悪い沢中の 3M・3N・4N にとりわけ多い。このことは、水田を造成する際、高位の包含層を低位に運び入れた結果と考えられる。総量は約 1.5t におよぶが、遺構内出土が約 108kg に対し、客土中出土が約 1,452kg と圧倒的であり、破壊の大きさが分かる。客土中に含まれる土器類は、遺構内出土の土器類と年代観や様相に大幅な差異が認められないことから、客土は本来的に本遺跡の「包含層」乃至は「遺構覆土」であった可能性が極めて高い。したがって、本報告は原位置を保っている遺構内の土器類を最優先に報告することとし、客土中の土器類については時代性及び地域性を示す特徴的なもののみ抽出して補完的に報告するに留める。土器・土製品は浅箱（54㎝× 34㎝× 10㎝）で 280 箱出土し、石器は 59 箱である。



第９図　出土土器類（客土）の重量分布

B　分　　類

縄文土器と土製品があり、縄文土器の出自については大きく、A 類 : 関東系、B 類 : 東北系、C 類 : 越後在地系、D 類 : その他及び不明がある。それらの中には一部、信州からの影響も考慮せねばならないものも含む。以上の 4 大類を、さらに文様構成や器形、技法の特徴から 26 群に細分した（第３表）。以下の分類及び記述（各説含む）は主に［小林編 2008］を参考にした。

時期区分		A 類（関東系）	B 類（東北系）	C 類（越後在地系）	D 類（その他・不明）	
中期	前　葉	1 群・2 群				
	中　葉	10群 a	5 群・6 群	3 群・4 群		18群 19群 20群 21群 24群
	後　葉	10群 a・b・c 22群 b	7 群・8群 9 群・22群 a	11群 12群		
後期	（初 頭）	（10群 c の一部）	14群	（11群・12群）	23群	
	前　葉	15群	22群 c・d	13群	16群	
晩期	中　葉		17群			

（註）横列は並行関係を意味しない。

第３表　土器分類の時期対応表

1 群　勝坂式系統乃至は北陸系新崎式、上山田・天神山式系統　竹管などのヘラ状工具で連続押し引きすることで、曲線文あるいは渦巻き文を有するもの。断面蒲鉾形の半隆起線内に施文するもの（297）と器面に直接施文するもの（60）がある。

2 群　阿玉台式系統　口縁帯直下に押し引き三角文を有するもの。雲母の混入が顕著である。

3 群　火炎土器系統　いわゆる火炎型・王冠型土器及びその系譜上にあるもの。

4 群　いわゆる栃倉式系統　栃倉遺跡第七類土器［寺村 1961］である。基本的に、胴部に縦位半隆線若しくは沈線を施す。縦位線は器面全体に施される場合と、縦位線間を綾杉文などで充填する場合がある。沈線内には刺突が伴う場合もある。双頭渦巻文を特徴とする。口縁部は無文帯になる場合が多い。本報告では、細片が多いため、近似した文様構成を持つ信州系唐草文土器や郷土式土器との区別はしていない。

5 群　大木式系統（8a 式段階）　太い沈線及び頂部の細い半隆線やソーメン状浮文により蕨手状の渦巻文や平行線、方形区画文を重層的に描く。

6 群　大木式系統（8b 式段階）　沈線及び隆線による小型の渦巻文あるいは密に巻く渦巻文を特徴とする。沈線は幅狭で深く鋭い傾向が強く、隆線は断面蒲鉾状もしくは台形が多い。口縁には透かしを施した大型突起を持つものがある。渦巻文は剣先若しくは方形角などの形状を呈した棘状の分岐を経ながら連結される。本群では基本的に隆線を磨かない。ただし、最新段階では後出の 7 群古段階と近似した手法を用いているものもあり、区別が困難なものも存在する。また本群の新段階乃至は直後に 4 群が派生するが、本群にも地紋を短沈線で斜行若しくは綾杉状で充填するもの（越後在地化した「綾杉文系土器」［高橋 2012］）などがあり、4 群との区別に課題を残す。

7 群　大木式系統（9 式段階）　古段階（9a 式併行）と新段階（9b 式併行）に細分した。古段階では先行する 6 群と比較して、渦巻文が大型化し、沈線が浅く幅広になる傾向がある。口縁部波状突起の頂部に渦巻文を有するものが特徴的に見られる。隆線及び沈線内を含む隆線周辺を磨く例が多い。新段階では二列文様帯構成が顕著となる。11 群との区別が困難なものがある。

8 群　大木式系統（10 式段階）　加曽利 E 式・称名寺式最古段階との相互の影響が著しい。

9 群　大木式系統のうち深鉢を除く器種　鍔付き浅鉢、両耳付壺形土器、壺形土器、有孔鍔付土器、器台、器種不明などが確認できる。

10群　加曽利 E 式系統

a、連弧文土器の系譜をひくもの　沈線による連続弧線文を描くもので、加曽利 E 式及び曽利式土器の影響下で成立したと考えられていることから本群に含める。E Ⅱ式後半から E Ⅲ式前半頃に盛行する。

b、E Ⅲ式段階　口縁部文様帯と胴部の縦位沈線及び磨り消し帯を特徴とする。

c、E Ⅳ式段階以降　口縁部文様帯が衰退する。磨り消し・充填縄文・空白部のナデ及びミガキが主体となる。古段階では胴部上・下半に二列の文様帯を構成するものが多く、新段階では細い沈線文により鋸歯状文や入組弧線文を描くものが多い。最新段階（いわゆる「E Ⅴ」「続 E Ⅳ」式）以後では称名寺式との関係が濃厚となり、判別しがたいものもあり、一部は後期に入ると考えられる。

11群　沖ノ原式系統　文様構成の差異により細分が可能である。大木 9 式 ~10 式段階に平行し、本群の最新段階では一部後期に入る。

12群　加飾隆帯をもつ土器　口縁部下位に加飾隆帯をもち、上位に無文帯を設ける一群。城ノ腰類型（式）を中心とする。地文には縄文・撚糸文・条痕文がある。

13群　三十稲場式系統　基本的に広範囲な刺突による施文のあるもので、蓋も含む。

a、深　鉢

b、蓋　　1、地文に刺突　　2、列点文もしくは隆帯に刺突

14群　綱取式系統　口縁部に、円形窩文を沈線でつなぐ「C」字状の貼付文が付属する。

15群　称名寺式系統

16群　沈線文を主体とする土器群　後期の堀之内式・気屋式・「信州系」[品田 2001]・南三十稲場式を含む。

a、渦巻文を基調とする　　b、三角文を基調とする　　c、口縁部

17群　大洞式系統　晩期中葉の C2 式が 1 点（518）のみ出土した。

18群　口縁無文の土器　口縁部にミガキもしくはナデにより無文帯を作出するもの。

a、区画線を持たない

b、区画線を持つ

1、横位押圧縄文

2、太沈線　幅 5㎜以上の横位沈線で区画する。

3、細沈線　幅 2㎜程度の横位沈線で区画する。

c、有　段　口縁部外面を肥厚させることで、無文帯を作出する。

d、微隆帯

19群　条痕・条線文土器　a、沈線による区画　　b、区画線なし

20群　撚糸文土器　a、沈線による区画　　b、隆帯による区画　　c、区画線なし

21群　縄文または無文の土器及び施文の一部を有する土器　他群の一部である可能性を含む

a、縄文のみまたは無文　　b、横位列点文　　c、縦位又は斜位沈線文　　d、横位沈線文

22群　浅　鉢

a、大木式系統

b、加曽利 E 式系統　口縁部が肥厚し、上面が平坦になる特徴的な器形を呈する。内外面に黒色付着物と赤色顔料（ベンガラ）が付着するものが多い。

c、称名寺式系統　　d、堀之内式系統　　e、その他

23群　蓋　系統不明の蓋を一括した。

a、無　文

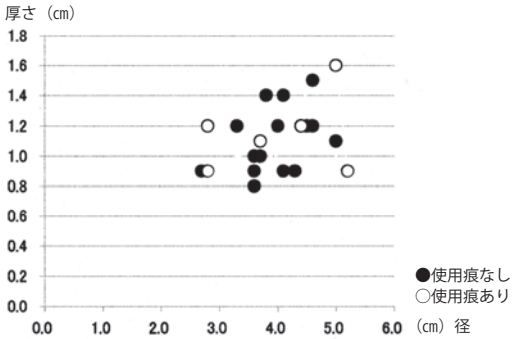
b、条　線　三十稲場式から南三十稲場式にかけて存在する。

c、その他

24群　注口土器　系統不明の注口付き土器を一括した。

25群　土製品

a、土器円盤　　土器片の周縁を打ち欠き、円盤状に二次加工したもの。直径 3~5㎝、厚さ 0.8~1.5㎝程のものが多い（第 10 図）。素材の多くは深鉢胴部片で、底部片が少量ある。多くは縄文のみが施され



第 10 図　土器円盤の法量分布

たもので、わずかに大木 8b 式から称名寺式最古段階頃までの文様が認められる。多くは明瞭な使用痕を持たないが、268 のみ周縁と裏面が著しく摩耗している。

b、耳飾り　　滑車型が 1 点出土した。

c、土　棒　　石棒を模したもの。

d、土　皿　　石皿を模したもの。

e、粘土塊　　中空のものが 1 点出土した。

26群　不　明

C　各　　説

1）　遺 構 内 出 土（図版 21~31・73 ～ 79-1~339）

1~11 は SI27 からの出土である。そのうち、8~11 は竪穴建物とプランが重複する SK20 からの出土である。1 は 21 群 d である。縄文地文を幅広の沈線により、ナデ消す。2 は 21 群 c である。沈線間の半隆線に刺突が伴う可能性がある。3 は 16 群 c である。波状口縁頂部直下に円孔が穿たれ、横位に沈線が 1 条巡る。4 は 21 群 a である。5 は 6 群である。平行短沈線が認められることから、綾杉文系土器の可能性が有り、新段階に位置付けられる。6 は 16 群である。7 は 21 群 c で、底部片である。底部際まで縦位平行沈線が施されていることから、10 群 b か。8 は 11 群である。加飾隆帯により口縁部無文帯を、沈線で胴部器面を区画する。隆・沈線には突瘤文が伴う。9 は 23 群 a である。中央に摘みが付く。10 は 8 群である。幅 1㎝程の太い沈線により横位方向に長いモチーフの文様を描き、縄文を充填する。11 は 21 群 a である。底面はナデ調整される。SI27 の遺物は年代的まとまりをやや欠く。SK20 が本建物に伴うとすると中期末葉 ~ 後期初頭に帰属するものと考えられる。

12~56 は SI46 からの出土である。12~15 は床直上、16・17 は周溝中からの出土である。12 は 11 群である。横位沈線に突瘤文が伴う。13 は 18 群 b2 に分類したが、他群の可能性もある。14 と 15 は 21 群 c である。15 の沈線は幅 7㎜と太いことから、7 群か。16 は 3 群の突起部である。17 は 10 群 a である。幅 3㎜程の沈線により、渦巻文及び連弧文を施す。胴部中央には円形刺突が伴う 2 条の横位沈線が施される。口縁上部の渦巻文は低い隆帯を貼付している。18 はプラン外に近接した埋設土器で、21 群 a である。19 はほぼ完形で、22 群 a である。主文様は隆帯による連続小渦巻文で、ところどころで剣先状の棘状文が分岐する。隆帯に沿って幅広の沈線が巡り、それらにより区画された中を縄文で充填する。隆帯は丁寧に磨かれ、上面が比較的平坦であることから、大木 9a 式段階に位置付けられる。20 は 7 群古段階である。21 は 19 群 b である。22 は 6 群である。断面台形の横位平行半隆線が施される。23 は 11 群で堂平類型に似る。波状口縁で、加飾隆帯が巡る。隆帯より上位には短沈線を充填し、下位は縄文である。24 は 11 群と考えられる。25 は 18 群 c で、26 は 5 群である。27 は 21 群 c である。断面蒲鉾状の縦位半隆線であることから 6 群か。28 は 7 群古段階である。29 は 26 群である。10 群 a に文様構成が似る。30 は 11 群で、つつじ原類型である。欠損しているものの、突瘤文と考えられる痕跡が弧状を描く隆帯に付加される。31 は 7 群古段階である。隆帯による渦巻文と幅広の沈線に区画された充填縄文が認められる。32 は 21 群 c で、底部片である。7 に似ることから、10 群 b か。33 は 11 群である。34 は 2 群である。横位刺突列の下位は条痕文である。35 は 11 群である。加飾隆帯により口縁無文帯を区画し、下位に横位沈線文を巡らせる。36 は 11 群である。37 は 21 群 c である。6 群若しくは 10 群 b であろうか。38 は 4 群であろうか。磨り消し帯を伴う縦位沈線が引かれ、沈線内には刺突列が施される。39 は 18 群 c

である。40 は 7 群新段階である。41 は 7 群古段階である。42 は 25 群 a である。先端の丸い工具による沈線が 3 条認められることから、6 群若しくは 11 群を素材にしているものと考えられる。43 は 21 群 c である。44 は 11 群で、つつじ原類型と考えられる。横に長い「U」字状沈線及び縦位沈線が描かれる。沈線には突瘤文が伴う。45 は 4 群である。46 は 10 群 b である。縦位磨り消しを施す。47 は 11 群である。48 は 16 群 c の口縁部突起である。遺存部は扁平な弧状を呈し、中央に円孔が開く。外面は突起の形状に沿って、弧状の沈線が 3 条巡る。口縁部直下には横位沈線が 1 条巡り、やや湾曲する沈線が垂下する。49 は 6 群である。50 は 21 群 c である。沈線間は無文である。51 は 21 群 c に分類したが、4 群の可能性もある。52 は 18 群 a である。53 は 10 群である。幅 5㎜程の工具により、縦方向に磨り消し、無文帯を作出する。ただし、磨り消しは粗雑で、無文帯の器面は工具の単位痕跡が明瞭で、凹凸が残る。10 群 b と考えられるが、10 群 c まで下る可能性もある。54 は 6 群である。55 は 10 群 c である。玉抱文と考えられる。56 は 18 群 a である。口縁部を欠損するが、口縁部下端と考えられる屈曲部を横ナデし、無文帯を作出していることから本類に分類した。SI46 は、48 のように後期の所産の可能性がある遺物を少量含むものの、概ね沖ノ原式・大木 9a 式・加曽利 E Ⅲ式前後の土器が多いことから、中期後葉に帰属すると考えられる。なお、SI46 を切る P112 からは加曽利 E Ⅳ式段階以降の土器が出土しており、齟齬はない。

57~71 は SI91 からの出土である。72~74 は本建物のプラン内に位置するものの、切り合い関係にあると考えられる SI91-P3 からの出土である。57 は 16 群 c である。口縁帯に円形窩文を連続して施し、下端は押し引き文が巡る。胴部はやや斜行の縦位平行沈線が引かれる。内外面のミガキは丁寧である。58 と 59 は 4 群である。58 は口縁部に横位沈線が 2 条巡り、そのうち 1 条には沈線内に刺突列が施される。胴部は縦位沈線が連続する。59 の縦位沈線内には刺突列を有する。60 は 1 群である。1 条の隆帯と 3 条の爪形連続押し引き文が平行しながら一連の曲線を描く。押し引き文は器面に直接施文している。61 は 6 群である。断面蒲鉾状の縦位半隆線により区画され、短沈線で充填する。本群の新段階に位置付けられる。62 は 11 群で、万條寺林類型である。沈線により施文される。63 は 4 群である。本群の特徴である縦位隆・沈線を伴わないものの、多くの属性が共通することから、本群に含めた。短く外反する口縁部は無文で、屈曲部に 4 条の沈線が巡る。胴部には隆起した双頭渦巻文を隆線で連結する。主文様は下位に移るにつれて隆線が徐々に高さを減じていき、胴部下半では沈線へと変化していくとともに、横位沈線へと連結し、底部付近では、ついに沈線すらも無くなりナデ調整のみとなる。沈・隆線間は短沈線により綾杉状若しくは斜行に充填される。図化しなかったが、同一個体の可能性がある破片の存在から、双頭渦巻文同士の中間に上位へと垂直に尖る剣先状モチーフの隆・沈線が施される可能性がある。64 は 22 群 e である。沈線が横位に数条施される。内外面の磨きは雑である。65 は 4 群である。66 は 6 群に分類した。地文には撚糸文を採用し、縦位沈線を描く。沈線間には規則的な凹みが認められる。それらが、意図的な刺突であれば、4 群に分類すべきであるが、地文の残留とも判断でき、ひとまず本群に分類しておく。いずれにしても本群新段階に位置付けられる。67 は 25 群 a である。68 は 26 群である。器種不明で、把手が付く。69 は 6 群である。断面が三角形から台形を呈する隆線 2 条で構成される大型渦巻文を描く。地文には撚糸文を採用する。施文技法や文様構成が 7 群に類似してきていることから新段階に位置付けられよう。70 は 6 群、71 は 18 群 a、72 は 16 群 a である。73 は 16 群 b である。頸部に平行沈線、胴部に斜行沈線を施し、刺突列を伴う。74 は 16 群である。沈線文の多くが平行に引かれ、細分は出来ない。SI91 は後期の 57、中期末葉 ~ 後期初頭の 62 などを含むものの、多くは栃倉式・大木 8b 式新段階にま

とまることから、中期中葉に帰属すると考えられる。SI91-P3 は後期前葉の沈線文系土器期にまとまりがあり、SI91 と新旧関係にある。

75~84 は SI92 からの出土である。75 は 21 群 a である。76 は 2 群である。口縁部外面には幅 1.2㎝程の肥厚帯を持ち、内面は斜位に面取りする。口縁上端面は平坦に面取りされ、先端の尖る工具で沈線状に押し引きされる。口縁帯の直下には先端の尖らない工具による横位の押し引き、三角文の下位二辺は細い工具による押し引き若しくは貝殻復縁による施文がなされる。雲母の混入が顕著である。77 は 21 群 c である。6 群か。78 は 18 群 a、79 は 21 群 a、80 は 20 群である。81 は 10 群である。隆帯及び幅広の磨り消し無文部が縦位方向に施される。E Ⅲ段階（b）から E Ⅳ段階（c）に位置付けられる。82 は 20 群、83 は 21 群 c である。84 は 10 群 c である。幅 3㎜程の沈線により磨り消し帯を区画する。SI92 からは時期を限定できる良好な資料に乏しいが、明瞭な後期の土器を含まず、後期の遺構である SK116 に切られることから中期後葉頃に帰属するものと考えておきたい。

85 は SB2 からの出土で 13 群 a であることから、SB2 は後期前葉に帰属すると考えられる。

86 と 87 は SB4 からの出土である。86 は 15 群である。「J」字状と考えられる沈線区画と押し引き文が認められる。87 は 16 群である。管状工具による刺突列を伴う横位沈線文と、やや湾曲する斜行沈線文を施す。このことから SB4 は後期前葉に帰属する。

88~93 は SB5 からの出土である。88 は 16 群 b である。頸部に幅 6㎜程の太い沈線を施し、以下を縄文で埋め、沈線及び磨り消しにより三角基調の文様を描く。89 は 16 群である。「ハ」字状の細い沈線文が認められる。90 は 16 群 c である。口縁内面には弧状沈線が平行して施され、外面には横位沈線が 1 条と押し引き文列が 1 条巡る。内外面のミガキは丁寧である。91 は 13 群 a である。2 条の沈線で挟まれた刺突列が認められる。92 は 16 群 c である。口縁帯に管状工具による円形窩文を 2 箇配し、左右両方向に断面「U」字状の太沈線が 1 条引かれる。93 は 21 群 a で、底部片である。底面は平行細沈線が施される。SB5 は後期後葉に帰属するが、88 などのように堀之内Ⅱ式段階と考えられる土器を含むことから、SB2・4 より後出する。

94~115 は SB1 からの出土である。94 は 18 群 a である。95 は 8 群である。小さい方形区画を沈線で描き、内側を縄文で充填する。加曽利 E Ⅳ式の対向文の影響と見られる。96 は深鉢の波状口縁部である。「S」字状の隆帯を貼り付けていることから、13 群 a である。97 は 11 群である。沈線中に刺突を伴う。98 は 13 群と考えられる。眼鏡状の隆帯に刺突が施される。99 は 13 群 a の口縁部である。隆帯上及び沈線で区画された方形区画内を管状工具による円形刺突文で充填する。100 は 13 群 b1 である。101 は 11 群である。隆帯により、円形窩文及び縦横区画を作出する。102 は 25 群 a である。103 は 16 群 a の口縁部片である。遺存部左端に弧を描く沈線が施されていることから本群に分類した。地文には縄文が施されている。104 は 16 群 c である。波状口縁の頂部直下の玉抱文から横位に沈線が 1 条引かれる。胴部には縦位方向の沈線が数条認められる。105 は 16 群 a に分類したが、沈線文が入り組んでおり、15 群に該当する可能性もある。106 は 16 群 c である。断面が「U」字状を呈する幅 1㎝程の太い沈線により施文され、遺存部中央には突起の可能性のある瘤状隆起が認められる。107 は 13 群 a である。108 は 12 群である。口縁上面は内傾し、端部からやや下がった場所で口縁に平行して剥落した痕跡が認められることから、269 と同様に蓋受け状の鍔が巡るものと考えられる。109 は 18 群 c である。110 は 23 群 c である。中央に橋状把手が付き、地文に円形窩文と撚糸文が施される。111 は 12 群である。加飾隆帯には縄文が施される。112 は 16 群 b である。鋸歯状に三角文が施される。113 は 11 群である。沈線内に刻

目を施し、突瘤文を貼付する。114 と 115 は 13 群 a である。SB1 は後期前葉に帰属する。112 の存在から堀之内Ⅱ式期まで下る可能性があるものの、13 群が多くを占めることから三十稲場式段階に位置付けられよう。

116~137 は SB3 からの出土である。116 は 16 群 c である。薄手で、無文である。117 は 16 群 b である。118 は 19 群である。櫛歯状工具で条痕文を施す。119 は 13 群 a である。突起の欠損部から把手あるいは貼付文が付属するものと考えられる。突起の下部には円形窩文が施されている。胴部には刺突と沈線、縄文が認められる。120 は 9 群で、器種不明である。分岐する隆帯を貼付し文様を施すとともに、区画された内部に縄文を充填する。内外面は丁寧に磨かれ黒色を呈しており、ススが付着する。121 は 16 群 a、122 は 12 群である。123 は 16 群 b である。細い沈線により三角文を重層的に描き、細密縄文及び磨り消しを施す。堀之内Ⅱ式土器である。124 は 12 群である。隆帯の右端が盛り上がっていることから瘤状突起が付加される可能性がある。突起から下位にはやや湾曲した沈線が施されている。11 群の可能性もある。125 は 13 群 a で、126 は 16 群 b である。127 は 10 群 c である。細い沈線により区画された磨り消し縄文が施され、口縁部には沈線が 1 条巡る。新段階に位置付けられ、後期に入る可能性がある。128 は 20 群、129 は 15 群、130 は 18 群 a である。131 は 26 群である。縦位に沈線で描く波状文は、後期前半に多用される。132 は 11 群である。波状の加飾隆帯が貼付され、口縁部無文帯を区画する。下位は沈線文と縄文である。13 群若しくは 16 群に分類すべきかもしれない。133 は 16 群 a である。南三十稲場式土器である。134 は 13 群 a である。135 は 16 群 b である。沈線により小三角文を連続して施す。胎土中には砂粒が多く混入する。気屋式に類似する。136 は 16 群 b である。横位沈線より下位に平行斜沈線文を施す。137 は 13 群 a である。SB3 からは後期前葉の三十稲場式土器を含むものの、堀之内Ⅱ式・南三十稲場式土器も定量出土していることから、SB1・2・4 に後出し、SB5 と同時期と判断される。

138 と 139 は SK1 からの出土である。138 は 13 群 b1 である。139 は 21 群 a で、簡易なナデ調整のみの無文の土器である。このことから SK1 は後期前葉に位置付けられる。

140 は SK10 からの出土で、6 群である。出土量が少なく遺構の年代は判然としないが、中期中葉に位置付けておきたい。

141~145 は SK34 からの出土である。141 は 21 群 c で、11 群の一部か。142 は 26 群である。幅 3~4㎜程の沈線で渦巻文を施す。大木系土器か加曽利 E 式系土器であろう。143 は 9 群であろうか。内外を丁寧に磨き、湾曲する微隆帯で文様を描く。144 は 21 群 c である。極めて浅い沈線文で無文帯と充填縄文帯を区画する。145 は 21 群 a で、底部片である。遺構の年代は判然としないが、中期後葉であろうか。

146~149 は SK43 からの出土である。146 は 6 群に分類した。地文には撚糸文を採用し、縦位半隆線を描く。本群の新段階に位置付けられ、4 群に分類すべきかもしれない。147 と 148 は 4 群である。149 は 6 群である。横位隆・沈線から縦位隆・沈線が垂下する。本遺構は栃倉式期にまとまりがあり、中期中葉に位置づけられる。

150~153 は SK44 からの出土である。150 と 151 は 18 群 a である。152 は 6 群である。断面台形の隆帯及び幅 3㎜程の沈線により、渦巻文と分岐する平行隆線を描く。153 は 4 群である。本遺構は中期中葉の大木 8b 式から栃倉式期に位置付けておきたい。

154~164 は SK45 からの出土である。154 と 155 は 11 群である。156 は 26 群である。薄手で、幅 5㎜程の沈線と刺突により施文される。沈線は刺突列から 2 条垂下し、その両側を弧状に区画していることから、7 群や 11 群との共通性が高い。157 は 7 群古段階である。158 は 6 群古段階である。波状口縁

の頂部と直下の外面に、幅広の沈線と隆帯により渦巻文が施される。渦巻文の両脇は 2 列の押し引き文が施される。11 群の可能性もある。159 は 7 群古段階と考えられるが、11 群の可能性もある。160 は 7 群古段階である。161 は 7 群古段階である。162 は 7 群古段階である。把手付き波状口縁部で、円孔が穿たれている。163 は 6 群の口縁部突起である。2 箇の円孔が穿たれる。下位には横位隆帯に沿って刺突列が施される。164 は 12 群である。地文の縄文は斜方向で一定せず、渦巻状に施文される傾向にある。また、指ナデによる縦位方向の器面調整がなされており、特に胴部下半に顕著である。SK45 は、加飾隆帯を伴う 164 が新しい傾向にあるものの、概ね大木 9a 式・沖ノ原式にまとまりがあり、中期後葉に位置付けられる。

165 は SK49 からの出土で、7 群新段階の底部付近の破片である。幅広の沈線に区画された充填縄文帯が認められる。縦位方向の長楕円形モチーフの一部と考えられ、10 群 c の可能性も残る。いずれにしても中期後葉に位置づけられる。

166~192 は SK78 からの出土である。166 は 20 群 a である。波状口縁となり、口縁無文帯と内面を丁寧に磨く。波状突起の内面には指頭形の窪みとそれに沿った隆帯が貼付される。167 は C 類（越後在地系）で、浅鉢若しくは深鉢の捻転する口縁把手である。後期初頭に位置付けられる。168 は 20 群 a である。169 は 12 群である。加飾隆帯の上位には沈線が平行して引かれる。また、下位には 1 条の垂下沈線が認められる。170 は 18 群 b2 である。薄手の土器で、渦巻文の可能性が高い沈線文が胴部上半に施される。171 は 12 群である。波状口縁に沿って加飾隆帯が巡る。加飾隆帯の上位には隆帯上面と同様の手法による刺突文が巡り、波状頂部の直下には刺突を伴う環状貼付文が配される。172 は 12 群である。加飾隆帯の刻目は先端の細いヘラ状工具を使用している。加飾隆帯の下位には円形窩文が施される。内面及び無文帯の磨きが丁寧である。173 は 18 群 b2 である。沈線は幅 1㎝程と広い。174 は 20 群 b である。口縁部形状は 10 群 c 以降の系譜を引き、後期初頭頃の所産であろうか。175 は 12 群である。隆帯には指頭圧痕で加飾される。263 と同様、加飾隆帯の分岐傾向や地文などの共通性から、後期初頭 ~ 前葉に位置付けられる。176 と 177 は同一個体と考えられる小型深鉢で 18 群 b3 である。口縁端部は平坦で、やや内傾する。沈線以下は無節斜縄文で埋め、加えて縦位に同原体の側面圧痕によるループ文を施す。底面は幅広のヘラ状工具でナデ調整する。178 は 21 群 a である。179 は 7 群古段階である。ミガキを伴う 3 条の横位平行隆・沈線の下位に「S」字を描く隆帯を貼付する。180 は 11 群である。沈線中に突瘤文を伴う。181 は 18 群 d である。微隆帯の周辺及び内面を丁寧に磨き、外面下位に湾曲する沈線が描かれる。182 は 21 群 a で、底部片である。底面はナデ調整の後、ヘラ状工具による平行沈線が施される。183 は 10 群 c である。沈線による鋸歯状文が認められる。地文には無節縄文が採用されている。184 は 7 群古段階である。185 は 22 群 e の胴部片である。沈線が横位に施される。内外面は丁寧に磨かれている。186 は 11 群で、つつじ原類型であろう。沈線中に突瘤文を伴う。187 は 11 群である。沈線内に刻目を伴う、平行沈線文が施される。188 は 19 群である。縦位に突瘤列を貼付する。189 は 22 群 b である。190 は 21 群 a で、底部片である。底部は丸底で、凹凸が著しい。内面には厚く炭化物が付着している。191 は 20 群である。胴部片のため細分できない。192 は 21 群 a である。胴部は粗い無節縄文を地文とし、底部付近及び底面は縦位方向のナデで器面調整する。SK78 は概ね後期的様相を示す。しかしながら、刺突を伴う典型的な三十稲場式土器（13 群）を含まないことから後期初頭に位置付けられよう。

193~195 は SK80 からの出土である。193 は 21 群 c である。194 は 19 群である。胴部片のため細分できない。195 は 16 群 b である。口縁部には列点文を伴う横位平行沈線、胴部には重層三角文を施す。

本遺構はまとまりを欠くが、195 の存在から後期前葉に位置付けておく。

196~199 は SK94 からの出土である。196 は 20 群 c で、波状口縁となる。197 は 12 群である。波状口縁部で、隆帯も口縁形態に合わせ波状となる。地文には撚糸文を採用している。198 は 11 群で、つつじ原類型と考えられる。横に長い「U」字状隆線及び沈線、やや大型の突瘤文で施文する。199 は 25 群 a である。素材には底部を使用している。このことから、本遺構は中期末葉 ~ 後期初頭に位置付けられる。

200~217 は SK97 からの出土である。200~204 は 18 群 a である。ただし、203 の口縁部無文帯は幅 1㎝程度であり、下端も明瞭でないことから、意図的ではない可能性があり、本類に含まれない可能性もある。205 は 11 群である。突瘤文を伴う隆帯を貼付し、刺突による加飾を行う。206 は 18 群 a、207 は 19 群 b、208 と 209 は 18 群 b3 である。210 は 11 群で、万條寺林類型である。沈線中に突瘤文を伴う。211 は、低く幅広い隆帯と片側に沿う幅 6㎜程の浅い沈線の存在から 7 群に分類した。隆帯の裾部の一部には地文の回転縄文が連続して施されている。また、横位隆線からは沈線が 1 条垂直に上昇し、地文と無文部を区画している。212 は 26 群である。橋状把手の一部であろうか。楕円状沈線に沿う隆帯部に縄文が施され、楕円頂部付近は扁平瘤状に隆起する。中期末葉 ~ 後期前半の所産と考えられる。213 と 214 は 16 群 a である。215 は 6 群で、綾杉文系土器である。縦位区画線は 2 条の沈線である。216 は 4 群に分類したが、6 群綾杉文系土器の可能性もある。217 は 6 群である。本遺構は断面図から時期の異なる 2 つの遺構で構成されていることが判明している。出土遺物もまとまりを欠き、本遺構が攪乱されていることを示すものであろう。出土土器は大きく、中期中葉末 ~ 後期初頭（大木 8b 式新段階・9 式、沖ノ原式期）と後期前葉後半（沈線文系土器期）に分かれ、後期前葉前半の三十稲場式を欠く。この二時期がそれぞれ遺構の新旧に対応する可能性があろう。

218 は SK95（土器埋設土坑）からの出土で、逆位で埋設されていた。8 群である。上位には、幅 2~3㎜程の細い沈線により「J」字状の文様を描き、内側の縄文を磨り消している。器形や文様帯が上位に集中していることなどから本類に分類したが、モチーフは加曽利 E 式最新段階あるいは称名寺式最古段階との影響が濃厚であり、中期最末期 ~ 後期最初頭に位置付けられる。

219~221 は SK98 からの出土である。219 は 16 群である。横位沈線とやや湾曲する斜行沈線文を施す。220 は 16 群 b である。横位沈線文 1 条と斜行短・長沈線の組み合わせで施文する。221 は 16 群 a である。このことから本遺構は、後期前葉に位置付けられる。

222~227 は SK104 からの出土である。222 は 18 群 b3 である。内湾する薄手の器形で、外面をナデ調整する。223 は 12 群である。内面及び無文帯の磨きが丁寧である。224 は 12 群である。加飾隆帯は下位に弧を描き、収束する。225 は 13 群 a である。波状の加飾隆帯で口縁部無文帯と刺突地文部を区画する。226 は 23 群 a である。中央に摘みが付く。227 は 23 群 b である。縁辺部をナデにより面取りする。胎土中に土器片を多量に含む。このことから本遺構は、後期前葉の三十稲場式期に帰属すると考えられるが、227 の存在から沈線文系土器期に下る可能性も残る。

228~240 は SK106 からの出土である。228 は 6 群である。やや幅広の沈線と断面台形の隆線により連結渦巻文を描く。隆線はミガキを施すことから、新段階に位置付けられる。11 群の可能性もある。229 は 12 群である。加飾隆帯は下位に弧を描き収束する。胎土に長石を大量に含み、地文原体が 237 と近似していることから同一個体の可能性がある。230 は 12 群である。加飾隆帯は下位に弧を描き、収束する。233 と地文原体及び胎土が近似しており、同一個体の可能性がある。231 は 11 群で、万條寺林類型である。幅広の沈線文中には刺突を伴うものがある。232 は 20 群 c である。区画線は引かれないが、

口縁部付近は無文帯を設けている。234 は 12 群である。235 は 11 群で、万條寺林類型である。横位隆・沈線により施文され、隆帯には刺突が伴う。236 は 15 群である。加飾隆帯が巡る。238 は 6 群である。小渦巻文同士を隆沈線で連結させ、短沈線で区画内を充填する。新段階に位置付けられる。95（8 群）のような対向文と見ることもできようか。239 と 240 は 10 群 c である。239 は沈線による鋸歯状文が施される。本遺構からは沖ノ原式・加曽利 E Ⅳ式・加飾隆帯文土器（城ノ腰類型）が共伴していることから、中期末葉 ~ 後期初頭に位置付けられる。

241 と 242 は SK116 からの出土である。241 は 16 群である。242 は 26 群で器種不明である。外反する器形で、外面の縦位方向に刺突の伴う隆帯が貼付される。内外面は丁寧に磨かれる。このことから本遺構は、後期に位置付けられる。

243~247 は SK139 からの出土である。243 は 22 群 c である。244 は 10 群 c の口縁部把手である。外面は中央が凹むように湾曲し、縄文が施される。245 は 13 群 a である。246 は 22 群 c で、注口付き浅鉢口縁部である。247 は 18 群 d である。このことから本遺構は、後期前葉に位置付けられる。

248~250 は SK140 からの出土である。248 は 21 群 c である。沈線間は丁寧に磨かれている。249 は 21 群 a である。250 は 12 群である。加飾隆帯の上下には沈線が平行して引かれる。遺構の年代は判然としないが、中期後葉 ~ 後期初頭頃と考えられる。

251~254 は SK142 からの出土である。251 は 11 群である。加飾隆帯の下位に平行沈線を施す。252 は 16 群 c である。口縁帯に沈線による渦巻文と短弧状文、楕円状あるいは横位平行沈線文が施される。253 と 254 は 13 群 b1 である。253 は刺突のほかに円形窩文が施される。このことから本遺構は、後期前葉に位置付けられる。

255~269 は SK216 からの出土である。255 は 22 群 e である。口縁部に捻転する突起が相対して 2 個付く。胴部から口縁部への屈曲部には扁平な突起を伴う隆帯が巡り、口縁突起付近で「U」字状に下位へ分岐する。内外面を磨くが、丁寧とはいえない。C 類（越後在地系）に属し、典型的な三十稲場式（13 群）成立直前の後期初頭に位置付けられる。256 は 22 群 e である。口縁部は端部を外側へ引き出し、上面を平坦に作出する。胴部から口縁部への屈曲部に 255 に類似する突起付き隆帯を巡らせる。内外面は丁寧に磨かれ、内面口縁部付近ではススが著しく付着する。255 との類似性から後期初頭に位置付けられる。257 は 18 群 c である。258 は 11 群で、道尻手類型に似る。259 は 12 群である。地文は撚糸文を採用している。260 は 5 群の口縁突起部と考えられる。261 は 6 群である。断面蒲鉾状の横位平行半隆線が施される。262 と 263 は 12 群である。263 の加飾隆帯には直径 2.5㎜程の管状工具による刺突により、円文が連続して施される。加飾隆帯は一部で上部に分岐することから、綱取式の影響が垣間見られる。地文は条痕が採用されている。後期初頭 ~ 前葉に位置付けられる。264 は 11 群と考えられる。横位平行沈線から縦位沈線を垂下し、方形区画を作出する。7 群の可能性もある。265 は 12 群である。加飾隆帯に瘤状突起が付加される。266 は 6 群で、綾杉文系土器である。小型継ぎ手渦巻文を伴う 3 条の縦位隆帯で区画する。338 と接合する。267 は 5 群とした。ただし、沈線は細く、半隆線は断面蒲鉾状を呈していることから 6 群まで下る可能性を含む。268 は 25 群 a である。裏面（土器の内面）が平滑となり、周縁は平坦面が出来る程擦痕が明瞭である。器面には細い沈線で区画し、区画を磨く施文方法が 218 と共通することから、称名寺式最古段階の土器を素材にしたものと考えられる。269 は 12 群である。加飾隆帯には直径 5㎜程の管状工具による刺突により、中央が隆起する円文が連続して施される。口縁部内面には蓋受けと見られる嘴状の鍔が巡る。地文は胴部上半と下半で異なり、上半が無節斜縄文、下半が条痕文

である。後期初頭～前葉に位置付けられる。本遺構からは中期中葉～後葉の土器を含むものの、典型的な三十稲場式（13 群）成立直前段階である後期初頭の頃にまとまりがある。本遺構は中期中葉の栃倉式期の竪穴建物 SI91 を切って構築していることから、中期の遺物は混入である可能性が高く、本遺構の年代は後期初頭に位置付けるのが妥当であろう。

270~280 は SK219 からの出土である。270 は 10 群 c である。271 は 18 群 b2 である。外反する口縁部で、口縁端部は小玉縁状を呈する。272 は 12 群である。地文には無節斜縄文を採用している。273 は 18 群 b3 である。緩やかに内湾する口縁部である。274 は 18 群 a で、275 は 20 群 a である。276 は 10 群 b 新段階もしくは 7 群古段階である。蕨手状沈線が認められる。277 は 11 群である。沈線中に突瘤文を伴う。278 は 11 群である。やや湾曲した縦位沈線中に突瘤文を貼付する。279 は 21 群 c で、底部片である。7 に似ることから、10 群 b か。280 は 21 群 a で、底部片である。外面及び底面はナデ調整される。内面に厚くススが付着する。本遺構はまとまりをやや欠くことから、中期後葉～後期初頭頃に位置付けておく。

281~339 は直径 80㎝を超える大型の柱穴を含むピットからの出土である。281 は 16 群 c である。口縁帯中央に幅広の横位沈線を施す。282 は 11 群で、万條寺林類型である。沈線内に刺突を伴う。283 は 4 群である。284 は 13 群 a である。浅い刺突を伴う「S」字状貼付文を施す。285 は 4 群であろうか。断面蒲鉾状の隆線に刺突を施し、短沈線で空白部を充填する。286 と 287 は 3 群の口縁突起の一部と考えられる。288 は 19 群である。289 は 10 群 c である。細い弧状沈線により区画しているものと考えられるが、磨り消し部と縄文帯の差が明瞭に認識できない。290 は 21 群 c に分類したが、16 群の可能性もある。291 は 5 群である。剥離が著しいものの、ソーメン状浮文が認められる。292 は 11 群と考えられる。横位平行沈線から縦位沈線を垂下する。7 群の可能性もある。293 は 11 群である。加飾隆帯により口縁無文帯を区画し、下位に横位沈線文を巡らせる。294 は 10 群 c である。縦位沈線及び幅広の磨り消し無文部が確認できる。295 は 25 群 a である。周縁の擦痕が明瞭である。296 は 11 群である。沈線中に突瘤文を伴う。297 は 1 群である。3 条の半隆起線が平行しながら曲線を描き、中央の 1 条に細かな爪形押し引き文が施される。また、それらの上位には 1㎝ほどの空白域を持つが、境となる両側面の沈線には刻目が施される。298 と 299 は 6 群で、298 の横位隆・沈線からは縦位隆・沈線が垂下する。300 は「S」字状の隆帯を貼り付けているものと考えられ、13 群 a であろう。301 は 6 群である。隆帯は断面台形でミガキを伴い、沈線は断面が丸みを帯び、幅広になりつつあることから、新段階に位置付けられる。302 は 11 群である。沈線内に刺突を伴う。303 は 10 群 c である。沈線間を磨り消し、無文帯を作出しており、縦に長楕円形モチーフ描いているものと考えられる。304 は 16 群であるが、細分は出来なかった。沈線が斜方向に平行して引かれ、沈線間の一部に細密縄文が施される。空白部はナデ調整される。305 は 6 群である。306 は 6 群である。3 条 1 対の断面台形の高い隆帯により小渦巻文及び縦位線文を描く。307 は 26 群で、器種不明である。刺突を伴う弧状の隆帯が貼付され、弧の内側に沈線が 3 条沿う。後期前葉であろうか。308 と 309 は 7 群古段階、310 は 19 群、311 は 16 群 a である 312 は 16 群 b である。斜状平行沈線と短沈線により施文する。313 は 9 群で、壺形土器の底部である。「U」字状あるいは楕円を呈する隆帯文で器面を飾り、内外面を丁寧に磨くとともに、ベンガラを塗布している。大木 10 式段階に位置付けられる。314 は 21 群 a である。315 は 11 群である。沈線間に突瘤文が貼付される。316 は 26 群で深鉢と考えられる。幅 3~4㎜程の沈線が細長い楕円状に深く彫り込まれる。11 群であろうか。317 は 16 群 a である。318 は 21 群 a である。僅かに 6㎜程度の口縁部無文帯を

有する。319 は 21 群 a、320 は 7 群古段階、321 は 13 群 a、322 は 21 群 c、323 は 7 群古段階である。324 は 18 群 b2 である。内外面の磨きは丁寧である。325 は 11 群である。326 は 4 群に分類したが、6 群綾杉文系土器の可能性もある。327 は 11 群である。隆帯上に刺突と突瘤を交互に施文する。13 群の可能性もある。328 は 16 群 a に分類したが、沈線文が入り組んでおり、15 群に該当する可能性がある。329 は 16 群 c である。口縁帯の中央を幅広の横位沈線より凹ませ、下端に加飾隆帯状の刻目を施す。330 は 21 群 d である。波状口縁部で、内側が肥厚する。遺存部最下端に横位基調の沈線が認められる。後期の所産か。331 は 16 群 c である。口縁部に円形窩文と弧状沈線を施す。332 は 16 群 c である。肥厚する口縁帯を有し、円形窩文と横位沈線が施される。窩文からは管状工具による 3 列の押し引き文が垂下する。333 は 21 群 a である。口縁端は摘んで先細りに作り出している。334 は 7 群古段階である。335 は 25 群 a である。周縁の突出している箇所が部分的に擦られている。幅広の浅い沈線が認められることから大木 9 式土器を素材にしたものであろうか。336 は 12 群である。ただし、加飾隆帯は横「J」字状に収束することから、一線を画す。地文に回転縄文を施すことから本類に分類したが、三十稲場式古段階に類例が見られ、13 群に含めることも可能である。337 は、断面台形を呈する隆帯に沿って幅 6㎜程の浅い沈線状のナデが認められることから、7 群に分類した。338 と 339 は 6 群で、綾杉文系土器である。338 は 206 と接合し、339 の器面は小型渦巻文を伴う縦位隆帯で区画される。

ピット出土の土器は、中期後葉と後期前葉の土器が混在する場合が多く、良好な一括資料は僅少である。この傾向は、中期の集落の上から後期のピットを掘り込む本遺跡の集落構造に由来すると考えられ、沢の西側（グリッド 3N~P）で特に顕著である。一方、中期の開発がほとんど見られない東側に位置する P178 ではほぼ後期前葉の土器でまとまる。

2）　埋没沢上層出土（図版 32・79-340~350）

調査区の南東から北西にかけて検出した埋没沢では、下・中層から極めてわずかながら中期の土器が出土した。このことから本沢は、中期には半埋没状態であったと考えられる。340~350 は上層の上面付近から出土した土器である。340 は 6 群で、綾杉文系土器である。トンボ眼鏡状突起と剣先付渦巻文を施し、地文を短沈線で埋める。341 は 10 群 b で、磨り消しは粗雑である。342 は 22 群 b である。343 と 344 は 15 群で、344 は幅 5㎜程の沈線で「J」字状に区画された内部を細密縄文で埋める。345 は 16 群 c である。文様構成は 480 に似るが、胴部は重層三角文である。346 は 16 群 a、347 は 21 群 a、348 は 16 群 c である。350 は 11 群である。小型の深鉢形土器で、口縁部内側に蓋受と考えられる鍔が巡る。口縁部は丁寧な磨きにより無文帯を作出し、隆帯で区画する。隆帯からは縦位突瘤列と縦位波状隆帯が垂下し、地文には横「ハ」字状短沈線を施す。口縁部には把手の基部の可能性がある欠損部が認められる。底面はナデ調整する。本群新段階に位置付けられ、後期に入るものと考えられる。349 は 26 群で、波状口縁部である。頂部には環状沈線文が配され、直下に橋状把手が付く。把手両側には沈線文が施され、波状口縁の縁には刺突を伴う隆帯が巡る。このことから本沢は、後期前葉の段階でほぼ完全に埋没したものと考えられる。

3）　遺 構 外 出 土（図版 32・80~86・42-351~536）

351 は 26 群で、口縁部装飾の一部である。施文方法などは、十日町市笹山遺跡出土の獣面把手付土器［石原 1998］に類似する。中期中葉頃の所産であろう。352~357 は 3 群である。352 と 353 は鋸歯状突起

部周辺部、354 と 355 はトンボ眼鏡状突起、356 と 357 は冠状突起である。

358~361 は 5 群である。362~375 は 6 群である。362~365 は同一個体の可能性が高い。3 条 1 対の断面蒲鉾状の隆起及びそれらに沿う沈線により連結する渦巻文を描く。本群中段階に位置付けられる。366 は口縁部上面に隆帯による小渦巻文が施される。外面は無文である。368 は 7 群の波状口縁部片と類似するものの、装飾は細かく、丁寧である。隆線にも磨きが見られつつあることから、本群新段階に位置付けておくが、7 群古段階まで下る可能性を含む。369 は綾杉文系土器である。口縁はやや外に開くものの、直線的に立ち上がる。口縁上面には 3 条の隆沈線が巡る。胴部上位の横位展開する剣先渦巻文に沿って、刺突列が伴う。370 は 3 条 1 対の縦位隆沈線により区画し、地文に綾杉状短沈線を施す。本群新段階に位置付けられる。371 は深鉢の波状口縁部で、幅広の隆帯による大型渦巻文を施す。渦巻文の上面は平坦で、短沈線が充填される。また、渦巻文に沿って刺突が施される。地文は撚糸文を採用している。これらの施文手法の共通点から、本群新段階に位置付けられる綾杉文系土器に分類しておく。4 群及び類似信州系土器との比較検討が課題である。372 と 373 は綾杉文系土器である。372 の隆線は細く磨かれ、断面は台形である。剣先付渦巻文を施し、地文を短沈線で埋める。373 の胴部の文様構成は 369 に似る。374 の隆線は断面方形で高く、沈線は深い。地文を短沈線で埋める。本群新段階に位置付けられる。375 は口縁部文様帯部である。口縁帯上部には幅 5㎜程の横位沈線が 2 条巡る。中位には隆帯による渦巻文を配し、両脇には沈線で囲まれた楕円状区画が施される。楕円状区画内は縦位短沈線で充填される。本群新段階に位置付けられ、4 群に平行すると考えられる。

376 と 377 は 4 群である。376 の口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部の上半は無文、下半は隆帯による小渦巻文を配し、地文に沈線で区画した長方形区画内を縦位短沈線で埋める。渦巻文からは垂直に幅 1㎝ほどの隆帯が貼付され、隆帯の中央には管状工具で連続的に刺突する。また、隆帯の両脇には上方が弧を描いて逆「U」字状に連続する刺突列が施される。胴部の地文は短沈線による綾杉文が施される。377 の上面形は楕円を呈する。口縁部には、渦巻文が連結する隆帯により無文帯を区画する。その隆帯の下位には刺突を伴う隆帯が 1 条沿う。胴部にも、隆帯及び刺突を伴う隆帯により、大小の連結渦巻文を施し、地文を短沈線で充填する。

378~381 は 7 群である。378 は古段階、379~381 は新段階に位置付けられる。379 の上位には 380 と類似した手法の主文様を施す。胴部の最大径付近で波状沈線により区画線を設け、それより下位には縄文のみとなる。文様帯が上位に集中する傾向から、380 より後出とみられ、8 群古段階にまで下る可能性がある。380 は幅 5㎜程の沈線により縦位対向楕円文及び垂下楕円文を描き、沈線で区画された内部には縄文を充填する。381 の胴部上位には「コ」字状文が向きをランダムに変えながら配置され、胴部中央から下位には「U」字状文が連続して巡る。主文様は、幅 6㎜程の沈線により区画され、内部に縄文を充填する。

382~392 は 9 群である。382 は赤色両耳付壺形土器である。隆帯で縦横に器面を覆い、下位では大型の渦巻文を作出する。内外面を丁寧に磨き、外面はベンガラを塗布している。耳は口縁部やや下位と胴部下半の二箇所に合い向かいで設置されている。大木 10 式古段階に位置付けられる。383 は鍔付き浅鉢である。鍔の上面には幅広の沈線による渦巻文が、胴部には曲線状の幅広沈線と充填縄文が施される。大木 9 式段階頃であろう。384 は有孔鍔付土器の口縁部である。把手の基部に縦位及び横位に十字状に穿孔される。内外面を丁寧に磨くとともに、ベンガラを塗布している。385 は器種不明である。隆帯による横位の「U」字状若しくは楕円文を施す。内外面を丁寧に磨くとともにベンガラを塗布する。386 は有孔鍔

付土器である。器面には湾曲した「U」字状沈線と、蕨手状の沈線の一部が認められる。内面は剥離が著しいものの、内外面を磨くとともに、ベンガラを塗布している。387 は有孔鍔付土器である。386 と同様の湾曲した「U」字状沈線が認められる。388~390 は器種不明である。388 は高い隆帯を貼付し文様を施す。内外面にはススの付着が著しい。389 は隆帯により文様を施す。内外面を丁寧に磨くとともに内外面にベンガラを塗布する。390 は隆帯による渦巻文を施す。器面は丁寧に磨かれ、外面にベンガラが塗布されている。ススの付着が著しい。391 と 392 は器台の可能性がある。391 の図の上面は平坦で、下面と 392 の上面には端面及び部分的な欠損部が認められることから、透かしが施されているものと考えられる。外面には沈線により方形区画文を描く。391 と 392 は同一個体の可能性がある。器台であれば、図の天地が逆となろう。十日町市幅上遺跡で類品が出土している［菅沼・宮内 2007］。

393~403 は 10 群 b である。393 は口縁部文様帯である。394 は波状口縁部で、磨り消しによりやや縦長の大型渦巻文を施す。395 は地文に縄文を施したのち、幅 5㎜程の浅い縦位沈線を巡らす。底部境 2㎝程はナデ調整され、無文となる。396 と 397 は内湾する口縁部で、幅 1㎝程の太い沈線で渦巻文を描く。同一個体の可能性がある。398 の区画線には隆帯を伴う。400 は口縁部文様帯部で、7 群古段階の可能性もある。隆帯及び幅広沈線による渦巻文が施される。401 と 402 の口縁部上半は無文帯である。隆帯により文様を区画する。403 は口縁部文様帯部と考えられることから、本類に分類したが、隆帯を伴う文様が均整を崩しつつあることから、10 群 c まで下る可能性を含む。

404~412 は 10 群 c である。404 は隆帯を伴う入組弧線文を描く。沈線幅は 3~5㎜程度と広い。406 と 407 は区画線に隆帯を伴う。同一個体の可能性がある。408 は幅広の縦位無文帯を有する。409 は玉抱文を描き、頂部に突起が付属する。本群最新段階に位置付けられる。410 は細い沈線により、入組弧線文を描く。本群最新段階に位置付けられる。411 は鋸歯状文と考えられる文様を細沈線で描くことから本群に分類した。しかしながら、加飾隆帯の上下に沈線及び充填縄文が及ぶため、他に分類すべきか迷う。本群最新段階であろうか。412 は加飾隆帯で口縁部無文帯を区画する。加飾隆帯中には円形窩文若しくは蕨手状の窩文が施され、隆帯が垂下する。隆帯沿いには幅広の磨り消し帯が付帯し、内側に縄文が充填される。本群の中でも新しい様相が見られ、後期の所産と考えられる。

413~416 は 22 群 b である。417~437 は 11 群である。417 はつつじ原類型である。加飾隆帯により口縁部無文帯を作出し、突瘤文を伴う沈線が垂下する。418 は大小の渦巻文と隆・沈線、刺突で口縁部に施文する。419 は万條寺林類型である。420 の横位沈線には突瘤文が伴う。421 と 422 は万條寺林類型である。421 は加飾隆帯を伴い、沈線中に刺突が確認できる。423 は突瘤文を伴う沈線により器面を区画する。426 はつつじ原類型である。加飾隆帯及び上方に沿う沈線で口縁部無文帯を区画し、胴部には隆・沈線により施文される。427 は道尻手類型に似る。428 は刺突を伴う加飾隆帯及び上方に沿う刺突列により、口縁部無文帯を区画する。隆帯からは沈線が 2 条垂下する。429 は沈線内に刻目を伴う、平行沈線文が施される。431 は指頭による円形の凹みと沈線による半楕円状の区画を持ち、区画内は短沈線を充填する。図の縦横は誤りの可能性もある。432 は隆・沈線による半楕円形区画内を縦長の刺突文で充填する。433 の沈線中には突瘤文を伴う。434 の加飾隆帯の刺突は、左から右に向かい管状工具で連続的に施している。隆帯の上下には浅い幅広の沈線が平行して引かれ、地文には細密縄文が採用されている。つつじ原類型の最新段階に位置付けられ、後期に入るものと考えられる。435 は堂平類型である。波状口縁に沿った加飾隆帯により口縁部無文帯を区画する。436 は加飾隆帯で口縁無文帯を区画する。波状口縁で、直下には橋状把手が付く。把手には小渦巻文が配され、胴部には沈線文で囲まれた方形区画

に縄文を充填する。本群の最新段階に位置付けられ、後期に入るものと考えられる。437 は反里口類型である。短沈線で横「ハ」字状文を施す。本群最新段階である。

438~447 は 12 群である。438 の地文には撚糸文が施されている。442 は加飾隆帯と同様の刻目を付した環状浮文を貼付する。443 の加飾隆帯の上位には極めて浅い沈線状の凹みが 1 条平行して巡る。444 の隆帯は波状を呈し、細くて高い。上端に浅い刻目を連続的に施す。口縁部上端は幅 1㎝程の平坦面が作出され、縄文が施される。445 の加飾隆帯は下方への弧状収束部が相対し、連続しない。446 の隆帯は波状を呈し、上端に縄文を加飾する。加飾隆帯上の所々で扁平な瘤が貼付される。447 の加飾隆帯は波形を呈すると考えられる。加飾隆帯上の刺突と同様の刺突が、口縁部にも巡る。地文は条痕文である。

449~466 は 13 群である。448~457 は深鉢で 13 群 a である。456 は管状工具により途切れなく列状に押し引き若しくは刺突を行うことにより、爪形状の文様を施す。外面には把手が付き、内面口縁部直下には蓋受けと考えられる隆帯が 2 条巡り、隆帯間は同様の文様を施している。457 は環状浮文と沈線文が施され、地文を管状工具で鈍角に刺突する。458~465 は蓋で 13 群 b である。そのうち、458~461 の施文方法は b1 である。459 の内面にはかえし状の突帯が巡る。460 は刺突、沈線の他に「U」字状の貼付文が施される。462~465 の施文方法は b2 である。463 の上面縁は折り返され、肥厚する。肥厚部には刺突が伴い、境には幅広の沈線が巡る。464 の中央には摘みと沈線文を施し、周縁には隆帯が貼付され細長い刺突が施される。465 の中央には摘みを有し、周囲には刺突を伴う網目状の隆帯が貼り巡らされる。

466~468 は 23 群 a である。466 は本群に分類したが、10 群 b の波状口縁部の可能性もある。468 の中央には橋状把手が付くものと考えられる。469~472 は 15 群である。469 の沈線は幅 2㎜程と狭い。471 と 472 は沈線間に幅広の隆帯を貼付する。473 は 14 群である。本群を特徴付ける貼付文のほかは丁寧に磨かれている。474~476 は 26 群で、管状工具により円文列を施す一群である。円文列は三十稲場式に類例があるが、本類には縄文地文がある。474 の円文列の下位には沈線が沿い、胴部には沈線で区画されたと考えられる無文帯及び縄文地文が確認できる。476 は円文列の下位に沈線が沿う。沈線以下は縄文地文である。

477~483 は 16 群である。477 は 16 群 a で、文様構成は斜方向に展開する。3 条の沈線により、不整形の渦巻文を連結する。南三十稲場式土器である。478~482 は 16 群 c である。478 の口縁部には突起を有する。口縁突起には多重沈線が施されて、内面には環状浮文の貼付及び円孔が穿たれている。突起の基部には円形窩文が配され、幅 3㎜程の沈線が横に伸びる。内側に屈曲する口縁部には縄文が施されるが、胴部は磨かれ、無文である。479 の波状口縁頂部からは沈線が垂下し、口縁帯は横に長い楕円形区画文を配し、区画内を刺突文で埋める。胴部は、刺突文列を伴って平行する斜沈線及び曲線沈線が施される。480 の口縁帯には円形窩文及び同心円状重弧文・横位沈線を施し、下端に押し引き文列が巡る。胴部には台形に近い方形区画文を幅 3~4㎜程の沈線により施文する。481 の波状口縁頂部直下には弧状文と円形窩文を施す。482 は外反する薄手の口縁部で、小突起が付属する。小突起の内外面には円形窩文が配され、外面には更に弧状沈線と両脇に円形窩文が施される。内外面のミガキは丁寧である。483 は 16 群 b である。堀之内Ⅱ式に文様構成が類似する。

484 はB類の注口土器であろうか。胴部には中央に突起の付く環状浮文を沈線でつなぐ施文がなされる。外面のミガキは丁寧であるが、内面は差程ではない。十腰内式に類似し、後期前葉に位置付けられる。

485~488 は 22 群である。485 は 22 群 a である。波状口縁を呈する。口縁部は外に鍔が付き、折り返

して作出した平坦面には楕円状の簡素な沈線文が施される。平坦面の内端は「T」字状に上下へ突出する。内外面は丁寧に磨かれている。大木 9 から 10 式段階若しくは後期初頭頃に位置付けられようか。486 は 22 群 d である。薄手で、波状口縁の内側に上面が平坦な隆帯により渦巻文を貼付する。487 と 488 は 22 群 e で、同一個体の可能性がある。注口付き浅鉢か。波状口縁で、口縁部には刺突列を伴う 2 条の沈線が口縁形状に沿って施され、胴部には多条沈線が施される。欠損しているものの、把手が付く可能性が高い。後期前半に位置付けられる。

489 は A 類の注口土器であろうか。器壁は極めて薄い。内外面を丁寧に磨き、口縁部直下から薄い橋状把手が付く。把手の外面には渦巻沈線文が配され、側面には「C」字状沈線で円形窩文を繋ぐモチーフが施されている。把手両側の胴部には沈線を伴う刺突列が、下位には渦巻沈線文が施される。堀之内式に類似し、後期前葉に位置付けられる。

490 と 491 は 24 群である。490 は幅 3㎜程の沈線に囲まれた範囲に縄文を充填する。491 と同様に注口の下面にススが付着している。7・8 群ないしは 10 群 c 段階であろうか。491 の遺存部は無文で、注口の下面にススが付着している。492 は 26 群である。把手付き注口土器であろうか。凹凸のある粗い器面を丁寧に磨く。後期の所産か。

493~495 は 20 群である。493 は胴部片のため細分できない。器面には幅 4㎜程の沈線により区画された無文帯で主文様が描かれることから、大木 9~10 式段階に位置付けられる。494 は口縁帯を肥厚させ段を作出することで、地文部を区画する。波状口縁で、中央に三角形の凹みを有し、刺突列が巡る。495 は口縁部に 1 単位の突起が付き、外面中央には先端から下位に三日月形の沈線が施される。

496~504 は 19 群である。そのうち、496~499 は沈線を伴う 19 群 a で、500~504 は伴わない 19 群 b である。497 の沈線は幅広い。499 の区画沈線は幅 1.5~2.0㎜程で明瞭ではなく、沈線より上位にも条痕が飛び出していることから、19 群 b に分類することも可能である。条痕は斜方向に施される。503 は著しく内湾する口縁部である。天地逆で蓋の可能性もある。504 は 19 群 b である。櫛歯状工具で渦巻文や方形区画文を描く。本群の地文に条痕を施す一群とは一線を画すことから、他群に分類することも可能である。11 群の範疇に類品が見られる。

505~509・511・512 は 18 群である。505 は 18 群 c である。波状口縁部に直径 18㎜の円孔が穿たれる。506 と 507 は 18 群 b1 である。やや肥厚する口縁帯の直下に横位押圧縄文が施される。506 には 2 条、507 には 3 条が巡る。508 は 18 群 c に分類したが、肥厚する口縁帯より下位 2㎝程も無文帯となるため、分類が適切か否かについては検討の余地がある。波状口縁を呈し、口縁帯の中央に円形窩文を施す。窩文の両脇も三角形の凹みを作出する。509 は 18 群 c である。511 と 512 は 18 群 a である。

510 は 21 群 b である。頸部を 2 列の横位列点文で区画する。513 は 21 群 a である。514 は 26 群である。波状口縁で、管状工具による円形刺突を伴う加飾隆帯で口縁無文帯を区画する。欠損しているものの、遺存部のほぼ中央付近から加飾隆帯の頂部に掛けて把手が貼付されていた可能性が高い。胴部には幅 2㎜程の沈線による不整形の楕円形が配され、内部に加飾隆帯と同様の施文方法による刺突文が充填される場合もある。地文には円形刺突と無節縄文が施される。後期の所産と考えられる。515 は 26 群である。深鉢の波状口縁部である。細い管状工具による刺突が施された加飾隆帯が口縁形状に沿って貼付され、口縁部無文帯を区画する。遺存している加飾隆帯の最上面は面取りされていることから、波状にならず、「ハ」字状を呈する可能性がある。加飾隆帯の下位には同様の刺突を持つ 5 条の半隆線が平行し、遺存部中央には橋状把手が付く。把手の上面にも半隆線が施され、把手の下位には同様の刺突を持つ突瘤文が付加さ

れる。地文は無節縄文である。円形刺突を多用する土器には北陸系串田新Ⅱ式が知られ、影響関係を考慮する必要があるかもしれない。516 は 21 群 a である。517 は 26 群で、器種不明である。口縁上面は中央がやや凹むものの、平坦面を作出しており、内外に鍔状に突出する。遺存部の下位には剥離の痕跡が認められ、口縁部突起に向かい橋状把手などが付加されていた可能性がある。その推測が正鵠を得ているのであれば、後期の所産であろう。518 は 17 群である。薄手で、外面には雲形文を有する。沈線内は縄文を充填するが、それ以外の内外面は丁寧に磨かれ、ベンガラが部分的に遺存している。

519~536 は 25 群である。519 は 25 群 d である。上面は縁が高くなり、中央が凹む。側面はほぼ直立し、下面は中央に向かい下がる。520 は 25 群 c である。下部を欠損する。遺存部の最大径は 23㎜で、先端に向かい徐々に細くなる。先端は丸めている。521 は 25 群 b である。いわゆる滑車型の土製耳飾りである。522 は 25 群 e である。中空で、内外面に指頭圧痕が無数に認められる。作為的な造形とは考えられない。523~536 は 25 群 a である。523・524・526・533 の平面形は楕円形に近い。523 の周縁は突出している箇所が部分的に擦られている。527 は裏面（土器の内面）がやや平滑であり、周縁は擦痕が明瞭である。土器の粘土紐接合部を使用しており、外面はやや屈曲する。531 は裏面（土器の内面）がやや平滑であるものの、周縁には擦痕は認められない。剣先状あるいは棘状文の一部とみられる沈線が認められることから大木 8b 式を素材にしているものと考えられる。532 は断面蒲鉾状の縦位半隆起線が認められることから、素材には大木 8b 式土器の胴部を用いているものと考えられる。536 は底部を使用している。

2　骨　角　器

537（図版 42・86-537）は SK20 出土で、大きさは高さ 11.8㎜、幅 9.4㎜、厚さ 2.5㎜を測る。頭部にある孔径は 2.4㎜で片側から穿孔し、反対側からも孔の縁を削り整ている。頭部周辺は半円形に端部を整えているが、左右と下部を欠いている。下部は股状になると思われ、股部には調整の削り痕が見られる。動物骨を使用しているが、どのような製品であるか不詳である。加熱で白色化している。

3　石器・石製品

A　は　じ　め　に

本遺跡で出土した石器・石製品は、1,742 点である。そのうち遺構内出土は 161 点にすぎず大半は客土（一部包含層出土有り）によるものである。時期的には、縄文時代中期から後期の所産と考えられるが、多くを占めるのは中期中葉から後期前葉までと考えられる。遺構の検出状況から、調査区の南東から北西に延びる埋没河川を挟み西側に竪穴建物群・袋状土坑群、東側に掘立建物群の居住空間が見られるが、調査区内の包含層残存率が低いことから顕著な廃棄空間が認識できないため、ある程度の偏りを推察するに留める。遺物の数が多かった 3M・N 区は埋没河川の覆土上層位であり、廃棄時の投げ込みが考えられる。

B　器　種　分　類（第 4 表、第 11・12 図）

石器および石製品の内訳は、石鏃・石錐・石匙・不定形石器・板状石器・打製石斧・磨製石斧・両極石器・石錘・磨石類・砥石・石皿・石核・礫類・礫剝片・薄片類・石製品である。（第 4 表）各器種の分類方法は、

五丁歩遺跡［高橋 1992］に準じ、細分については、清水上遺跡Ⅱ［鈴木 1996］に準拠した。石器・石製品は 121 点を抽出し掲載した。

石　鏃　無茎のものと有茎のものに大別し、基部の形状が明瞭な凹状（抉り）を有すもの、基部の凹状が浅く不明瞭なもの、基部に三角形状の突部を有すもの、基部が棒状のものに細分した。尖頭部の形状については、幅広のものや細身のものも含まれるが、不明瞭な部分も存在するので細分していない。

A 類　いわゆる無茎のものである。

A1 類　基部の凹状が明瞭なもの。（538・539・541~545）

A2 類　基部の凹状が不明瞭なもの。（540・546~549）

B 類　いわゆる有茎のものである。

B1 類　基部に三角形状の突部を有すもの。（550）

B2 類　基部が棒状のもの。（551）

板状石器　4~6cm 大の扁平礫や板状の礫剥片を素材とし、ほぼ全周する急角度剥離の片面加工を基本とした二次加工を施すものである。平面形は円形や楕円形が多く、断面形は台形状を呈する。また片面（裏面）には摩耗あるいは線条痕がある。平面形状で A~C まで 3 分類した。

A 類　平面形が三角形で側縁に抉りのあるもの。（575・576）

B 類　平面形が円形及び楕円形で周縁に剥離調整を施すのもの。（577・579・581~585）

C 類　平面形が不整形で周縁の剥離調整がとぎれるのもの。（578・580・586）

不定形石器　二次加工や使用痕のある石器で、主に刃部形状の違いにより細分した。分類は、清水上遺跡［高橋ほか 1990］、五丁歩遺跡［高橋 1992］の「不定形石器分類案」に従った。この中で、器種認定可能としたものは、不定形石器から分離した。

A 類　スクレイパー　刃部に急角度の連続剥離が施されるものである。二次加工は片面を基本とするが、一部に半両面加工も含まれる。細分は二次加工の大きさ、加工部位により 3 分類した。

1 類 : 中型の急角度連続剥離が施されるもので、二次加工は側縁ないし底縁である。

（556・557・560・572: 五丁歩遺跡表 28 の A 類に相当する。）

2 類 : 小型の急角度連続剥離が施されるもので、二次加工は側縁ないし底縁である。

（567: 五丁歩遺跡表 28 の B 類に相当する。）

3 類 : 素材の端部に小型の急角度連続剥離が施されるもの。

（571: 五丁歩遺跡表 28 の I 類に相当する。）

B 類　鋸歯縁石器　刃部に鋸歯状の剥離が施されるもの。

（561・564・569・570・574: 五丁歩遺跡表 28 の C1・C2 類に相当する。）

C 類　抉入石器　刃部が抉入状（ノッチ）のもの。

（565: 五丁歩遺跡表 28 の E1・E2 類に相当する。）

器種名	石鏃	石錐	石匙	不定形石器	板状石器	打製石斧	磨製石斧	石錘	磨石類	両極石器	砥石・石皿	石核	礫類	礫剥片	剥片類	石製品	合計
出土数（点）	18	1	2	30	26	104	20	13	51	9	65	19	156	1030	187	20	1751
百分率（%）	1	0.1	0.1	1.7	1.5	6	1.1	0.7	2.9	0.5	3.7	1.1	8.9	58.8	10.7	1.2	100

第 4 表　石器類の器種別数量

D 類　微細剥離痕のある剥片　無加工ないし二次加工が極めて少ない刃部に使用痕（主に微細剥離痕）が見られるもの。

（558・559・562・563・566・568・573: 五丁歩遺跡表 28 の J1・J2 類に相当する。）

打製石斧　素材には剥片と扁平礫があり、剥片素材には薄手と厚手のものを大別した。さらに平面形状から撥形・短冊形に分類した。

A 類　薄手の剥片素材で平面形が撥形のもの。

１類　両側縁がやや抉れる。（587・599・600）

２類　両側縁に明瞭な抉りを有すもの。（601~605）

B 類　薄手と厚手の剥片素材で平面形が短冊形のもの。

１類　薄手剥片で両側縁がやや抉れる。（598）

２類　薄手剥片で両側縁が直線状かやや膨らむもの。（588・592・594）

３類　厚手剥片で両側縁が直線状かやや膨らむもの。（589・596・597）

C 類　扁平礫を素材とし平面形が短冊形のもの。（590・591・593・595）

扁平礫の周縁部を荒割剥離で成形したもの。

磨製石斧　いわゆる定角式磨製石斧として識別したもので、形の大きさにより基端から刃部までの長さで３つに分類した。

A 類　大型で長さが 11㎝以上のもの。（611・612）

B 類　中型で長さが 4cm 以上、11㎝未満のもの。（607~610）

C 類　小型で長さが 4cm 未満、幅が 2㎝未満のもの。（606）

磨石類　主に扁平礫や棒状の礫を素材とし、磨痕・凹痕・敲打痕が一つの礫に複数残るものである。以下にそれぞれの痕跡の組み合わせで分類した。

A 類　磨痕と凹痕が残るもの。（627・631）

B 類　凹痕だけが残るもの。（624・626・629）

C 類　凹痕と敲打痕が残るもの。（623・625・628）

D 類　敲打痕だけが残るもの。（630）

石　核　石核には小型素材のものと大型素材のものを大別し、更に調整段階（荒割り及び打面調整）のものと剥片剥離作業段階のものを分類した。

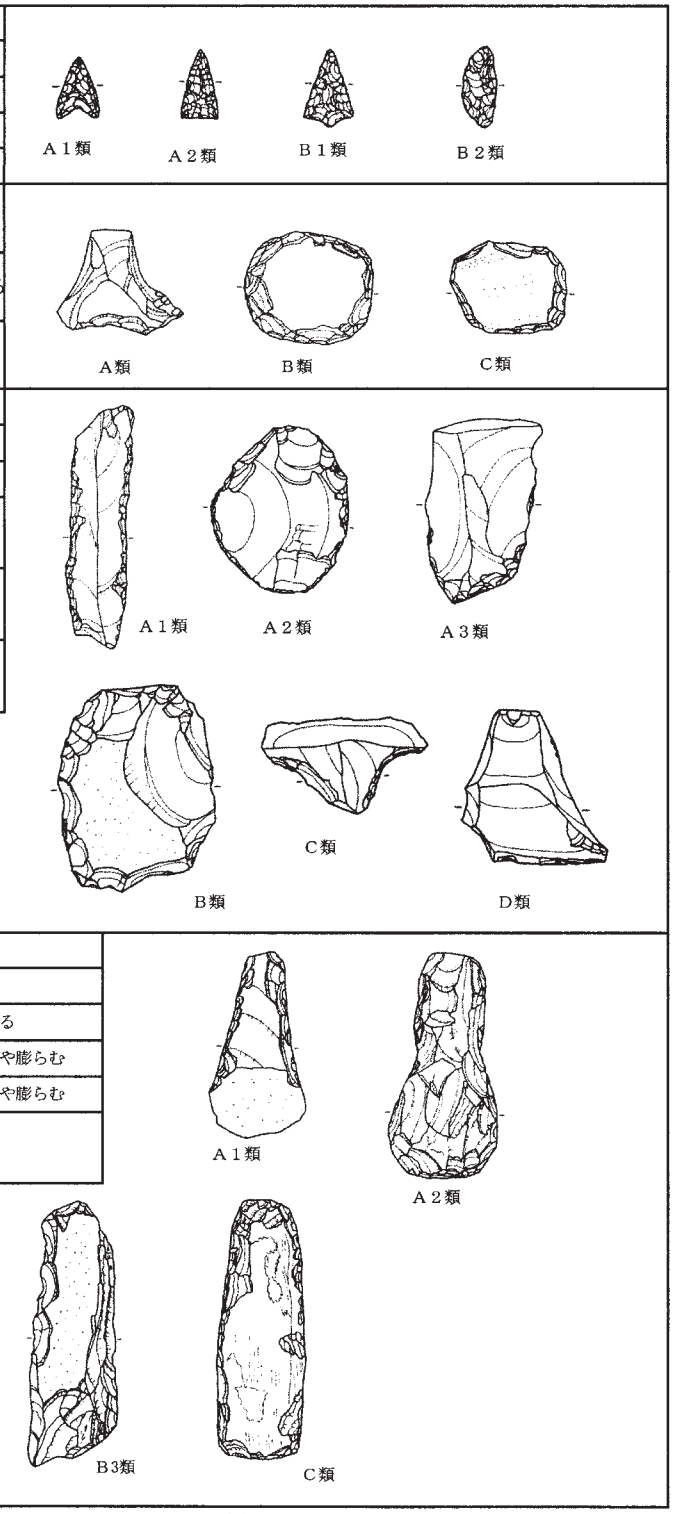
A 類　小型素材の母岩で調整段階のもの。（651）

B 類　小型素材の母岩で剥離作業段階のもの。（653）

C 類　小型素材の母岩で稜線上からの剥離作業段階のもの。（650・652・654・655）

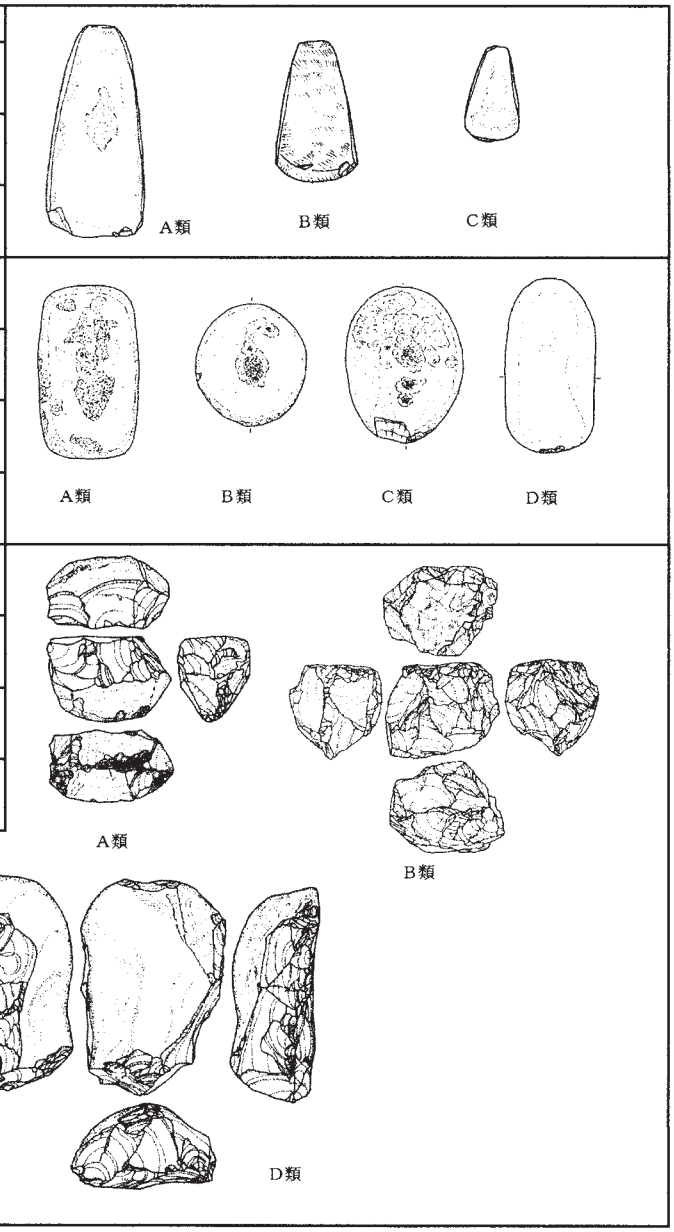
D 類　大型素材の母岩で調整段階のもの。（656~658）

器種	形態的特徴	分類	部位の形状
石鏃	A類 凹状無茎鏃	1類	基部の抉りが明瞭
		2類	基部の抉りが不明瞭
	B類 凸状有茎鏃	1類	基部が三角形状の中茎
		2類	基部が尖頭状の中茎
板状石器	平面形が三角形	A類	側縁に抉りが入る
	平面形が円形か楕円形	B類	剥離調整が周縁に入る
	平面形が不整形	C類	周縁の剥離調整がとぎれる
不定形石器	A類 スクレイパー 急角度の片面剥離	1類	側縁に中型の連続剥離
		2類	側縁に小型の連続剥離
		3類	端部に小型の連続剥離
	鋸歯縁石器	B類	刃部に鋸歯状剥離を施すもの
	抉入石器	C類	刃部が抉入状（ノッチ）のもの
	微細剥離及び痕のある剥片	D類	無加工剥片に使用痕（微細剥離）がある
打製石斧	A類　撥形 薄手の剥片素材	1類	両側縁がやや抉れる
		2類	両側縁に明瞭な抉り
	B類　短冊形 薄手・厚手の剥片素材	1類	薄手で両側縁がやや抉れる
		2類	薄手で両側縁が直線かやや膨らむ
		3類	厚手で両側縁が直線かやや膨らむ
	C類　短冊形 扁平礫素材		周縁部を荒割剥離調整



第11図　石器器種分類表（1）

器種	形態的特徴	分類	部位の形状
磨製石斧	大型	A類	長さ11cm以上のもの
	中型	B類	長さ４～10cmのもの
	小型	C類	長さ４cm未満、幅２cm未満のもの
磨石類		A類	磨痕と凹痕が残る
		B類	凹痕だけが残る
		C類	凹痕と敲打痕が残る
		D類	敲打痕だけが残る
石核		A類	小型素材で調整段階
		B類	小型素材で剥離作業段階
		C類	小型素材で稜線上による剥離作業段階
		D類	大型素材で調整段階



第 12 図　石器器種分類表（2）

分類	刃部形状	刃部ライン	素材	二次加工部位	再分類	五丁歩遺跡の分類	
A類	中型急角度連続剥離	直線状	縦長剥片	片側縁・両側縁	A１類	A類	スクレイパー
	小型急角度連続剥離	外湾状	縦長剥片	片側縁・両側縁	A２類	B類	
	小型急角度連続剥離	直線状	縦長剥片	端部（底縁）	A３類	Ⅰ　類	
B類	鋸歯縁石器	外湾状	縦長・横長剥片	片側縁・底縁		C類	
C類	抉入石器	内湾上	縦長・横長剥片	片側縁・両側縁		E類	
D類	微細剥離・使用痕ある薄片		縦長・横長剥片	側縁と端部		J類	

第 5 表　不定形石器分類表

C 各　　説

1） 概　　要

今回抽出した掲載石器・石製品の内訳は、石鏃 14 点・石錐 1 点・石匙 3 点・板状石器 12 点・打製石斧 19 点・磨製石斧 7 点・石錘 10 点・磨石類 9 点・両極石器 6 点・不定形石器 19 点・砥石 4 点・石皿 3 点・石核 9 点・石棒 5 点である。石器の大半は客土中（一部包含層）の出土だが、土坑やピットの覆土中に少数ではあるが剥片石器・礫石器が出土している。遺構内出土の掲載遺物は、12 点である。

当該期（縄文時代中期中葉～後期前葉）の石器組成の特徴は、打製石斧がやや多いこととその素材となる厚手の礫剥片が多くみられる。また、厚手の礫剥片を作り出す大型の石核も認められることから、打製石斧を大量生産していたことが想定される。所謂、用途別分類［鈴木 1991］の中の採取・加工具に含まれる打製石斧は、山間部および丘陵部を中心に分布する傾向を示しており［鈴木 1996］、清水上遺跡・清水上遺跡Ⅱ［高橋ほか 1990・鈴木 1996］、五丁歩遺跡［高橋 1992］、笹山遺跡［阿部ほか 1998］などは大量に出土する代表的な遺跡である。

2） 石　　器

石　鏃（図版 43・87-538~551）

538~540 は無茎の A1・2 類で遺構内から出土している（538:SK97、539:SK123、540:SK4）。形態については、城之腰遺跡［國島ほか 1991］と対比した。538・539・541~545 は A1 類である。このタイプは、基部にやや深い抉り込みが認められる凹基無茎鏃で、城之腰遺跡［國島前掲］の石鏃ＣⅠb・CⅡb 類に相当する。540・546~549 は A2 類である。540・546~548 は、城之腰遺跡［國島前掲］の石鏃ＡⅠa、549 は同ＡⅠb に相当するもので、後期初頭から前葉にかけて量産される平基無茎式である。543 は基部の抉り込み部に僅かながらタールの付着が認められる。550・551 は数少ない B 類の有茎鏃である。538 の石材は、透明感のある黒曜石で、他の搬入石材と比べても剥片の出土が極少であることから製品として搬入した可能性も想定される。

石　錐（図版 43・87-552）

石錐は 1 点のみで、P110 から出土している。厚みのある剥片素材で、つまみ部と錐部の境が不明瞭な棒状を呈している。二次加工は錐部の両側縁とつまみ部の片側縁に施され、特に錐部の加工は入念で、断面は菱形を呈している。

石　匙（図版 43・87-553~555）

石匙は縦長剥片を素材としており、553 は基部の抉りが明瞭に認められるもので、刃部の二次加工調整は、片側縁には正面に、一方の側縁には裏面に施されている。554・555 は基部の抉りが不明瞭で、側縁部の調整痕は粗い二次加工が認められる程度である。

不定形石器（図版 43・44・87・88-556~574）

不定形石器は 19 点を抽出した。ここに含まれるものは、「スクレイパー」・「二次加工のある剥片」・「使用痕や微細剥離が認められる剥片」である。遺構覆土中から出土したものは、557（SK104）・561（P33）・

564（SI91-P8）の３点である。分類別にみると 556・557・560 は、ＡⅠ類（五丁歩遺跡Ａ類相当）である。558・559・562・563・565・567・568 は、ＡⅡ類（五丁歩遺跡Ｂ類相当）である。571 は、ＡⅢ類（五丁歩遺跡Ⅰ類相当）である。561・564・569・570・572・574 は、Ｂ類（五丁歩遺跡 C1・C2 類相当）で鋸歯縁状の刃部を形成する石器である。565 は､C 類（五丁歩遺跡 E1･E2 類相当）の抉入石器である。573 は、D 類（五丁歩遺跡 J1・J2 類相当）で微細剥離痕のある剥片である。

不定形石器を総体的にみると特徴的な点は、鋸歯縁状の刃部を有するものとその素材となる大型剥片が多量に出土した事があげられる。これは、時期的な特徴と近隣から石材を容易に保持できたという地域的な特徴を加味していると考えられる。

板状石器（図版 45・89-575~586）

板状石器は、平面形態により３つに大別した。分類別にみると、Ａ類２点（575･576）･Ｂ類７点（577･579・581~585）・Ｃ類３点（578・580・586）である。遺構覆土中からは 577 の１点である。小型の扁平礫を素材としたものは 10 点（575・577・578・580~586）、剥片を素材としたものは２点（576・579）である。長径を幅とした場合、幅 5~7cm のものが主体的である。厚さは素材に関わりなく 10~16mm に大部分が収まる。使用痕が認められたのは 10 点（575･577~583･585･586）､認められないものは２点（576･584）である。使用痕は裏面に顕著に見られ、摩耗痕あるいは線条痕が認められる。また、側縁部にも摩耗痕が認められるのは７点（577・578・580・582~585）である。

打製石斧（図版 45~47・89~91-587~605）

打製石斧は、剥片素材のＡ・Ｂ類と扁平礫素材のＣ類に大別し、それぞれを形態的特徴で細分した。剥片素材のＡ類（撥形）は８点（587・599・600・601~605）、Ｂ類（短冊形）は７点（588・589・592・594・596~598）、扁平礫素材のＣ類（短冊形）は４点（590・591・593・595）である。刃部に見られる顕著な使用痕は、摩滅痕およびつぶれ状況が素材別、形態別に関わらず大半のもの（587~591・593~595・598・599・601~605）に認められる。特に、Ｃ類の両側縁にみられるものは、成形時の敲打調整が入念になされており、刃部の使用面は敲石の使用痕に酷似し平坦になっている。

磨製石斧（図版 47・91-606~612）

磨製石斧は器面全体に念入りな研磨が施され、刃部が形成されるものを抽出した。形の大きさにより３つに分類した。大形のＡ類は２点だが、612 は特に大型のもので、ほぼ全面に研磨を施すが、部分的に敲打調整が認められる。刃部には打撃による潰れや剥離痕が認められる。また、横断面がやや丸みを帯びるが、両側縁が平坦な定角式磨製石斧であり、縄文時代中期中葉以降のものに酷似する。中形のＢ類は４点で、608~610 は均一に肉厚だが、607 は幅と厚さが小型のＣ類（606）に酷似する。609 は入念な研磨成形を施しているが、端部・側面・刃部に打撃による成形痕が残る。小型のＣ類１点とＢ類の 609 は形態的特徴が類似する事から、使用目的が同じ製品と考えられる。つまり、鑿（ノミ）の様な機能が想定される。

刃部に使用痕が認められるものは、Ａ類の 612、Ｂ類の 608・610 である。いずれも顕著な摩滅痕が認められる。

石　錘（図版 47・48・91・92-613~622）

石錘は完形品 10 点を抽出し掲載した。素材は、比較的大きさにまとまりのある扁平礫（4.5~7cm 大）で、長径の軸に沿って両端に打撃剥離を行い明瞭な抉り（糸掛け部）を作出するものである（613~622）。620 は、剥離によって抉りを作出した後に一面に刻線を施している。

磨石類（図版 48・49・92・93-623~631）

磨石類は、自然の円礫等を用いたものが多いため形態分類は行わず、痕跡の組み合わせで 4 つに分類した。今回抽出した磨石類は、凹痕・敲打痕・磨痕の使用痕跡が認められた。

A 類の 627 は、肉厚の扁平礫を素材としているが、正面・裏面・両側面・両端面に平坦な磨痕が認められ長方形を呈している。631 は、断面が三角形（三角柱状）を呈した自然礫を素材としたもので、その稜に使用面を持つもので、平坦な磨痕が認められる。岩原 I 遺跡［北村ほか 1990］では「特殊磨石」としたもので、縄文時代早期後葉の条痕文系土器期に属するものである。つまり本類も該期に属するものであろう。B 類の 624・626・629 は、扁平礫を素材としたもので、いずれも正・裏面の中央部に複数の凹痕が認められる。C 類の 623・625 は扁平礫、628 は棒状の礫を素材としたものである。また、628 は両端に敲打痕と剥離が認められる。D 類の 630 は、磨石類には数少ない石材で、頁岩の扁平礫の一端に摩滅痕が認められる。

砥　石（図版 49・93-632~635）

砥石は、平坦な砥面を持つ比較的大型の破片資料である。632 は SK146 から出土した。632~634 は扁平あるいは板状の形状の薄型砥石で、砥面の浅い凹痕は幅広で、正面・裏面に認められる。635 は、砥面が 4 面に認められ断面が四角形を呈している。特に 634・635 は、部分的に浅い溝状の砥面が数条認められるが、このような使用痕跡から見て、石斧等の研磨が想定される。

石　皿（図版 49・93-636~638）

石皿は、側縁あるいは周縁を縁取り加工したものの破片資料である。636 は、裏面に脚と思われる丸い突起が 2 か所認められ、後期の所産と考えられる。使用面の形状は、636 はやや緩くくぼむもので、637・638 はほぼ平坦である。

両極石器（図版 49・50・93・94-639~644）

両極石器は、小剥片・礫剥片・扁平礫を素材とし、2 個 1 対の両極剥離痕を持つものである。639~641 はいわゆるピエス・エスキーユに含まれるものである。642~644 は礫剥片・扁平礫の両端に剥離痕が認められるものである。644 は、3 個の剥離痕が認められる。これらは両端に剥離痕を持つ石錘に類似する部分があるが、両者の違いは両極の剥離調整の形状にみられると、考えられる。つまり石錘は、意図的な抉り（V 字状ないし U 字状）を両端に認められるが本類ついては、それとは異にした成形過程が想定される。

石　核（図版 51・52・95-650~658）

石核は、小型石核 6 点と大型石核 3 点である。小型石核の 650・652・654・655 は、剥離作業段階の残核と考えられるもので、扁平な形状を呈している。655 は、稜線上の交互剥離と考えられる。651・653 は再調整段階の打面調整が残るものと考えられ、打面と思われる平坦面は未調整段階である。これらの石核は、石鏃・石錐・スクレイパー類の素材となりえた剥片を剥離するものと推測される。大形石核の 656~658 は、礫皮を大まかに剥離し、平坦面を打面調整したもの（657）と、稜線上で交互剥離作業が行われたもの（656・658）と考えられる。

3）石　製　品

石　棒（図版 50・94-645~649）

石棒は、棒状に仕上げられたものでいずれも一端あるいは両端が欠損している。645~647 は大型石棒で断面が円形のものである。最終成形は丁寧な研磨が施されているが、部分的に敲打による成形痕を残している。648 は中型の石棒で一端が欠損している。ほぼ中央部位の断面は円形だが先端部位は扁平の形状を呈している。全体的に敲打成形で仕上げている。649 は小型の石棒で片端部に小規模な剥離が認められるが、ほぼ完形品である。全体的に粗い研磨仕上げを施しているが、敲打痕を多く残している。

4）小　　結

本調査で出土した石器及び石製品は、過去の水田造成により、主体部の包含層が消滅した実情をふまえると、当該期の本来の包含層乃至遺構内覆土の一部は客土中で撹拌されていたことが想定される。しかし、客土直下で検出された、縄文時代中期後半～後期前半の竪穴建物・掘立柱建物・袋状土坑等の出土遺物との対比の中では、各遺構の時代幅に含まれる所産と考えられる。ただ、本遺跡の石器群は、客土とともに流動的な動きがあるという制約があり、組成の様相・特徴を的確に捉えられるものではない。したがって今回は本石器群を総体的見知から断片的にまとめてみたい。石器組成は、出土点数が多い主要な石器を順に並べると、打製石斧 104 点、石皿・砥石類 65 点、磨石類 51 点である。つまり、打製石斧・磨石類・石皿・砥石類が石器組成の主体を占めている。次いで不定形石器 30 点、板状石器 26 点、磨製石斧 20 点、石鏃 18 点、石錘 13 点となる。特定の石器では、石匙・石錐の数は極端に少ない。また、各石器の形状組成から見られる特徴は、石鏃は後期前葉に相当するものがまとまっており、打製石斧は中期前葉から中葉の量産時期に含まれるものや後期前葉～後葉のものが主体をなしている。なお、石皿・砥石類の破片が多量に出土しているが、1 個体を意図的に破砕したと思われる接合資料は認められなかった。

先に、清水上遺跡Ⅱ［鈴木 1996］で縄文時代中期の石器組成分析が行われ、3 類型の組成と 4 ブロックの地域圏が見出されている。後に、『新潟県の考古学』の論稿で「早期から晩期の石器組成」［鈴木 1999］が報告され、中期以前・以後の石器組成の変遷が見出されて来た。そこで、本遺跡の石器組成を前述の組成類型や地域性分類基準に準じて見てみる。遺跡の立地から見ると本遺跡は魚野川と破間川の合流点寄りの上流にある。地域圏から見ると、ブロック 3 の中央部山間地域および丘陵部である。前記の流域からさらに信濃川流域にいたる中央部山間地域でも、多少時期差（中期～後期）がある遺跡も含めると、打製石斧を量産した地点が多い。魚野川流域の状況で見る主な遺跡は、本遺跡を含め、清水上遺跡［高橋ほか 1990］・五丁歩遺跡［高橋 1992］・清水上遺跡Ⅱ［鈴木 1996］・城之腰遺跡［田中 1991］等がある。

清水上遺跡・五丁歩遺跡は中期前半期、本遺跡・城之腰遺跡は中期後半期～後期の時期幅に含まれ、前者の組成類型は「採取・加工具（打製・磨製石斧、板状石器など）＞調理具（磨石類、石皿など）＞狩猟・漁猟具（石鏃、石錘など）型」をとり、後者は、「調理具＞採取・加工具＞狩猟・漁猟具型をとる」とある［鈴木 1999］。このことから、本遺跡の打製石斧の出土量から中期前葉～中葉の時期幅が想定され、石鏃の形状組成から後期前葉の時期幅に含まれると考えられる。また、打製石斧のA類（撥形）に見られる諸特徴に類似した資料が、最近の論稿の中で紹介されている。吉川耕太郎氏が東北地方北部（青森県・秋田県・岩手県）を中心とした打製石斧について、「有肩打製石器」と呼称したもの［吉川 2012］である。形態的特徴は「基部と肩部が明瞭に区別される平面形を持つ」とし、素材は「大型分厚な分割剝片もしくは石核素材のもの、板状剝片素材のもの、扁平長狭もしくは棒状のもの」に細分されている。これらの時期幅は、前期後半から中期にかけて出現し始め晩期に盛行するとある。

また、用途についても「晩期における焼畑農耕を背景とした“手持ちの軽作業具（除草具）」を示唆している。この特定的な打製石斧の製作技術面や用途についての類似点が、今後の比較検討の中で一致する面が明確になると、中部圏から東北地方への物流と生業文化の移入がより鮮明に見出されることになる。

第Ⅵ章　自然科学分析

1　赤色塗彩土器の赤色顔料

A　試料と分析の目的

日本列島で使用されていた旧石器時代から古墳時代のまでの赤色顔料は、現在大きく分けて２種類あることが自然科学分析によって確認されている。一つは硫化水銀（HgS）を主成分とする「水銀朱」、もう一つは酸化第二鉄（Fe_2O_3）を主成分とするベンガラである。本報告では、町上遺跡から出土した赤色塗彩土器 12 点の内面・外面に付着した赤色顔料計 23 点を分析対象試料とし（第６表）、赤色顔料の種類とその原料を把握することを目的として分析を行った。

B　観察及び分析の方法

試料の観察・分析にあたっては、東北芸術工科大学文化財保存修復センターの分析走査型電子顕微鏡を借用させていただき、米村祥央氏からご指導いただいた。

試料の採取・調整　　赤色塗彩土器の内外面から、メスを用いて赤色顔料を削り取り、実体顕微鏡下で混入した土砂を取り除いた。これをスライドグラスに貼付したカーボンテープに乗せ観察・分析試料とした。

走査型電子顕微鏡による試料の粒子の観察　　試料の粒子の形状を観察し、赤色顔料の種類とその原料を把握するため、走査型電子顕微鏡（SEM）による二次電子像の観察を行った。観察には、日本電子株式会社製分析走査型電子顕微鏡 JSM-6390LA を加速電圧 15kV の条件下で使用し、1,000 倍で観察した。

エネルギー分散型Ｘ線分析装置による存在元素の確認　　試料が「水銀朱」か「ベンガラ」かを判別する指標となる、水銀（Hg）と鉄（Fe）の存在を確認するため、前述の SEM にエネルギー分散型Ｘ線分析装置を連動させ、加速電圧 15kV の条件下で存在元素の確認を行った。

C　結 果 と 考 察

対象試料 23 点の SEM による粒子の観察とＸ線分析の結果を、第６表と第 13~19 図にまとめた。

今回分析した赤色顔料 23 点は、全て酸化鉄系赤色顔料のベンガラであった。また町上遺跡出土のベンガラは、粒子の形状と検出元素から、パイプ状粒子を含むベンガラと、パイプ状粒子を含まないベンガラの２種類に分類でき、試料 20 を除いて全て前者であることが確認された。

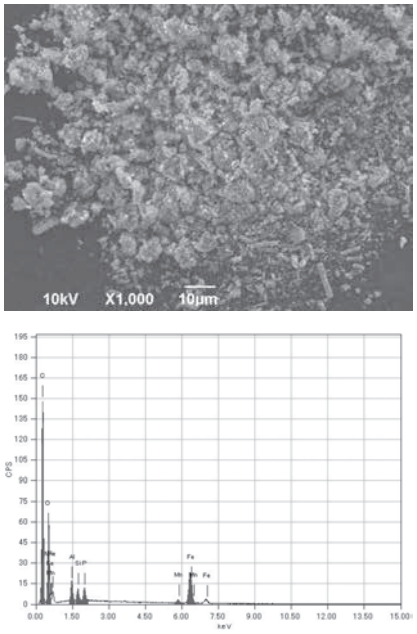
試料 1~19・21~23 のベンガラは、直径約 1.5 μ m、長さ約数 ~25 μ m のパイプ状粒子が塊、あるいは分散した状態で存在し、検出元素に Fe・Al・Si・P などが認められる（第 13~16・18・19 図、第６表）。一般に「パイプ状ベンガラ」と呼ばれ、ベンガラの中でも鉄分の含有率が高く、質が良いと考えられている。パイプ状粒子は、鉄細菌が水中に溶存している鉄分を体内に蓄積して生成する生体鉱物の一種である［岡田 1997］。鉄細菌は、崖端の湧水部や地下水・伏流水中に棲息し、赤褐色の綿屑状に浮遊したり、沈殿物を生じていることがある。縄文人は、これらを集めて乾燥・加熱・粉砕し、赤色顔料に利用していたものと推測される。

一方、試料 20 のベンガラは、パイプ状粒子を含まず、表面に凹凸のあるブロック状を呈しており、検出元素に Fe、Al、Si が認められる（第 17 図、第 6 表）。現時点では、原料の特定は難しい。

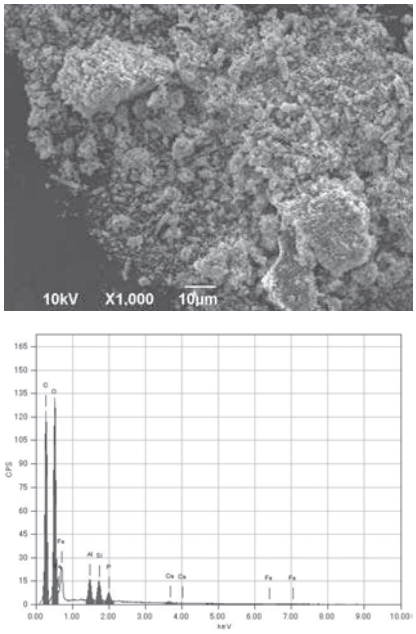
今回分析対象とした試料は、縄文時代中期後葉 ~ 最終末、および晩期中葉に所属するが（第 6 表）、赤色顔料の種類・粒子の形状・検出元素に明確な時期差は認められなかった。

試料 No.	報告 No.	外面 内面	土器 分類	所属時期	出土位置			観察・分析		
					遺　構	グリッド	層　位	SEM の観察 粒子の形状	X 線分析 検出元素	分析結果
1	313	外面	9 群	中期最終末	SK105			パイプ状	Al、Fe、P、Si、Mn	ベンガラ（パイプ状）
2	313	内面	9 群	中期最終末	SK105			パイプ状	Fe、Al、Si、P、Ca	ベンガラ（パイプ状）
3	382	外面	9 群	中期最終末		2M・3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P、Ca	ベンガラ（パイプ状）
4	382	内面	9 群	中期最終末		2M・3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
5	387	外面	9 群	中期最終末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
6	387	内面	9 群	中期最終末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
7	386	外面	9 群	中期最終末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
8	386	内面	9 群	中期最終末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
9	384	外面	9 群	中期最終末		4O	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
10	384	内面	9 群	中期最終末		4O	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
11	414	外面	22 群 b	中期後葉～末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
12	414	内面	22 群 b	中期後葉～末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
13	389	外面	9 群	中期最終末		4D	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
14	389	内面	9 群	中期最終末		4D	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
15	390	外面	9 群	中期最終末		5D	客土	パイプ状	Fe、Si、Al、P	ベンガラ（パイプ状）
16	385	外面	9 群	中期最終末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、P、Si	ベンガラ（パイプ状）
17	385	内面	9 群	中期最終末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
18	342	外面	22 群 b	中期後葉～末		2M	沢上層	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
19	342	内面	22 群 b	中期後葉～末		2M	沢上層	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
20	413	外面	22 群 b	中期後葉～末		3M	客土	ブロック状	Fe、Al、Si	ベンガラ（ブロック状）
21	413	内面	22 群 b	中期後葉～末		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
22	518	外面	17 群	晩期中葉		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）
23	518	内面	17 群	晩期中葉		3M	客土	パイプ状	Fe、Al、Si、P	ベンガラ（パイプ状）

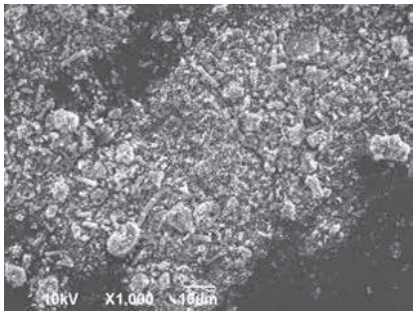
第 6 表　町上遺跡出土赤色塗彩土器の赤色顔料分析結果

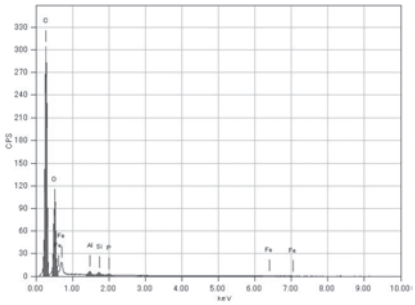


第 13 図 試料 No.1 二次電子線像（上）と X 線チャート（下）

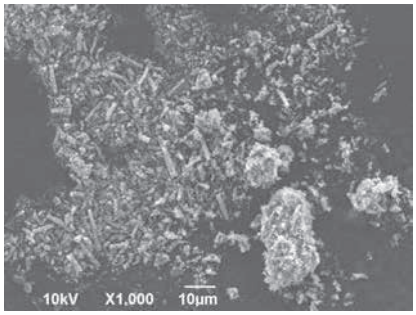


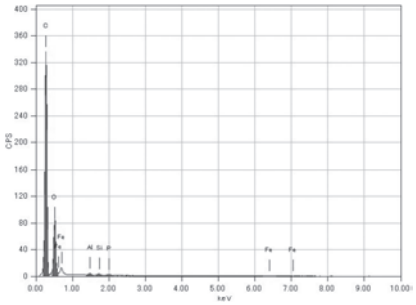
第 14 図 試料 No.3 二次電子線像（上）と X 線チャート（下）



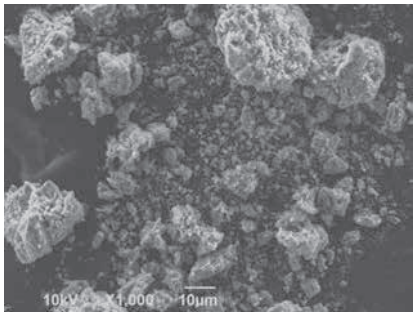


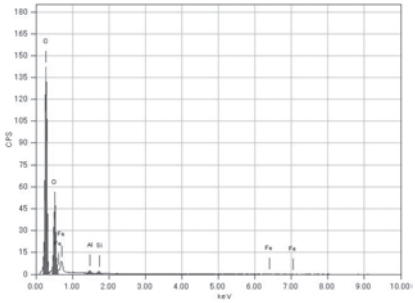
第 15 図 試料 No.18 二次電子線像（上）と X 線チャート（下）



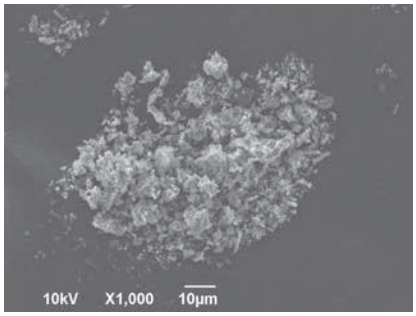


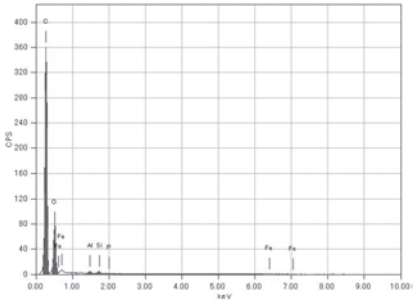
第 16 図 試料 No.19 二次電子線像（上）と X 線チャート（下）



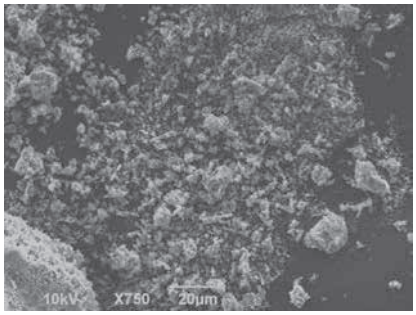


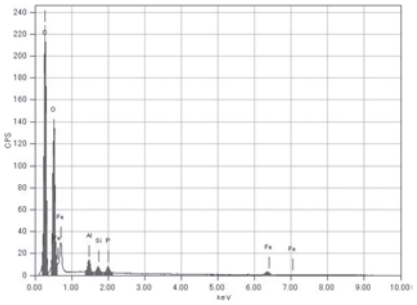
第 17 図 試料 No.20 二次電子線像（上）と X 線チャート（下）





第 18 図 試料 No.21 二次電子線像（上）と X 線チャート（下）





第 19 図 試料 No.22 二次電子線像（左）と X 線チャート（右）

2 動物遺存体

国立文化財機構　奈良文化財研究所　山﨑 健

A はじめに

町上遺跡では、縄文時代中期末～後期前葉の土坑やピットから焼骨片が多量に出土した。町上遺跡から出土した動物遺存体は、火を受けたために残りやすくなったものと考えられ、貝塚の分布密度が低く出土事例の少ない日本海側における生業活動を検討する上で貴重な資料といえる。本稿では、これらの動物遺存体の分析結果を報告し、町上遺跡における動物資源利用を検討する。

B 分析資料

発掘調査の段階で、遺構埋土に白色の微細な骨片が含まれていることを確認した。これらの骨片類を回収するため、発掘調査時に現地で遺構ごとに土壌を採取し、整理事務所に持ち帰り 1㎜目までのフルイによる水洗選別作業を実施した。

分析資料は微細な骨片であったため、同定に有効な部位を残存した資料だけでなく、1㎜以上の資料をすべて分析対象とした。その結果、合計 113,594 点（544.84g）の動物遺存体を抽出した。出土した動物遺存体は、熱を受けた骨に認められる亀裂や収縮が認められ、白色や黒色に変色していた。種や部位が特定された資料（12,219 点、84.91g）について、骨の色調をみると、破片数算定・質量算定ともに 99.9% が白色を呈していた。骨の外表面だけでなく、破断面や内表面（骨髄腔側）も同様に変色していることから、割れる前に火を受けただけではなく、割れた後にも火を受けたと考えられる。

骨が焼けた場合には、貝塚、洞穴・岩陰遺跡、低湿地遺跡という特殊な堆積環境だけでなくとも、動物遺存体が残ることがある。骨は、主に無機物であるリン酸カルシウムと有機物であるタンパク質から構成されており、焼けるとタンパク質は燃焼され、無機質であるリン酸カルシウムのみが残存する。また、灰とともに焼骨が埋没した場合には、酸性土壌が中和されて、骨の残存しやすい堆積環境に変化した可能性が考えられる。

焼骨は 3 つの遺構埋土から検出された。SK97 が 113,428 点（515.15g）と最も多く、P108 から 123 点（27.83g）、SK20 から 43 点（0.27g）が出土した。これらの遺構では焼土面や灰層が検出されていないため、出土した動物遺存体はこの場で火を受けた訳ではなく、焼骨が土坑やピットに投棄されたものと考えられる。

C 同定・記載の方法

同定は現生骨格標本との比較によりおこない、比較標本には奈良文化財研究所環境考古学研究室が所蔵する標本（NAC 標本群）を用いた。同定や計数は肉眼および実体顕微鏡下でおこなった。同定をおこなった資料は番号を登録し、同定破片数と質量を記録した。出土した動物遺存体は焼けて細かな破片となっており、最小個体数で評価することができないため、破片数とともに質量で算定した。質量は電子天秤を用いて、小数点第 2 位まで計測したものである。

D　分類群の記載

貝類、魚類、両生類、鳥類、哺乳類を同定した。ほとんどの資料が細片であるため、種同定は全体的に困難で同定可能な資料はわずかであった。

1）貝　　類

貝類の可能性がある資料（「貝類？」と記載）が、SK97 から 1 点（0.03g）出土した。

2）魚　　類

出土した魚類は 76,702 点（162.00g）で、このうち骨格部位が特定された資料は 12,353 点（42.38g）であった。同定した分類群はサケ科のみであった。

サケ科　*Salmonidae sp.*

椎骨片 11,659 点（38.35g）、歯 470 点（3.12g）、顎骨 2 点（0.17g）の計 12,131 点（41.64g）が出土した。計測可能な椎骨はほとんど出土していないが、小型～大型の椎骨片が含まれている。現在の新潟県では、サケの他に、河川の上流～中流に生息するイワナ（アメマス）、中流に生息するヤマメ（サクラマス）といったサケ科魚類が分布する［本間監修1983］。他の魚種と比較してサケ科が卓越して出土していることから、資源量・漁獲量の多いサケが主体であると推測される。サケは、産卵のために毎年決まった時期に河川を群れで遡上するため、時間的にも空間的にも獲得が予測可能な資源といえる。

町上遺跡は、信濃川の支流である魚野川右岸に位置する。現在の新潟県内をみると、三面川のような中規模の川は、河口から 1~2km ほど上流の場所からサケの産卵場となっているのに対し、下流の発達した信濃川では、河口から 100km 以上も上流の魚野川が主な産卵場となっている［本間前掲］。したがって、町上遺跡周辺においてもサケの産卵場が存在し、短期間のうちに集中的な漁撈活動がおこなわれたものと考えられる。

3）両　生　類

カエル目　*Aura spp.*

SK97 から計 2 点（0.01g）が出土し、腸骨や四肢骨片を同定した。

4）鳥　　類

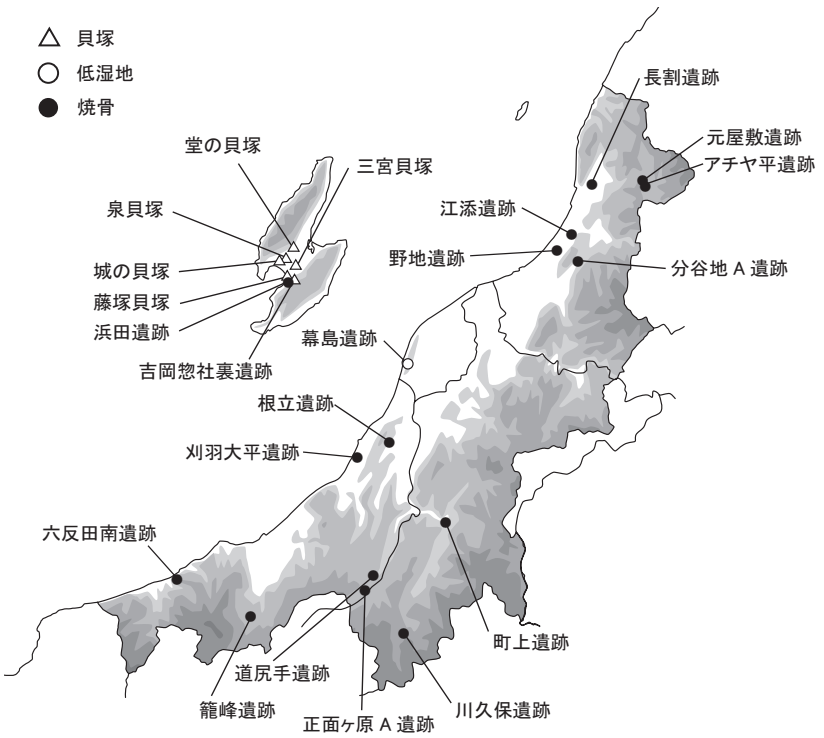
SK97 から種不明の脛足根骨や可能性のある資料（「鳥類？」と記載）が計 6 点（0.27g）出土した。

5）哺　乳　類

出土した哺乳類は 6,486 点（309.02g）で、このうち骨格部位が特定された資料は 65 点（45.51g）であった。同定された分類群はイノシシとイヌであった。

イノシシ　*Sus scrofa*

中手骨あるいは中足骨 4 点（2.35g）、手根骨 3 点（2.49g）、腰椎 2 点（6.33g）、踵骨 2 点（5.17g）、中手骨 1 点（0.55g）、足根骨 1 点（0.77g）、基節骨 1 点（0.03g）、中節骨 1 点（0.22g）、末節骨 1 点（0.18g）、の計 16 点（18.09g）が出土した。



第 20 図　新潟県域におけるイノシシの出土遺跡（縄文時代中期～後期）
※資料の帰属時期が後期～晩期の資料も含まれている

現在、新潟県にはイノシシが分布していない［阿部監修 2008］。イノシシは雪に弱く、積雪深 30㎝以上あると分布が制限されると言われている［朝日 1975、常田・丸山 1980］。とくに、町上遺跡の所在する魚沼市は「豪雪地帯」に指定され、植物珪酸体分析によって約 1 万年前以降は現在の積雪分布と近い状況であったと考えられている［杉山・早田 1997］。すなわち、町上遺跡周辺は、縄文時代中期～後期においても多量の積雪があったと推測される。したがって、遺跡周辺では獲得できない「非現地性資源」であった可能性を検討する必要がある。

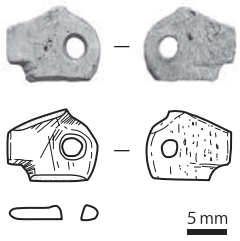
第 20 図は、新潟県域における縄文時代中期～後期のイノシシが出土した遺跡である。積雪量が相対的に少ない海岸部や平野部だけでなく、山間部の遺跡からもイノシシが出土することが確認できる。ここから、山間部から出土したイノシシすべてが、積雪量の少ない地域から持ち込まれた「非現地性資源」と解釈するよりは、積雪量の多い地域にもイノシシが生息することがあったと解釈するほうが妥当であろう。

イヌ　Canis familiaris

SK97 から、脛骨の近位端 1 点（0.73g）と遠位端 1 点（1.72g）の計 2 点（2.45g）が出土した。

6）骨　角　器

SK97 から、穿孔された骨角器の破片が 1 点（0.24g）出土した。穿孔は片側からなされている（第 21 図）。また、骨角器の可能性がある資料が SK20 から 1 点（0.16g）、SK95 から 2 点（0.12g）の計 3 点（0.28g）出土した。緻密骨のみで、棒状を呈している。



第 21 図　穿孔された骨角器

E　遺構ごとの検討

1）SK97

SK97 からは、合計 113,428 点（515.15g）と非常に多くの焼骨片が出土した。帰属時期は、縄文時代後期前葉（南三十稲場式期）を下限とする。貝類、魚類、両生類、鳥類、哺乳類が確認され、とくに魚類が卓越していた。SK97 の埋土には焼土粒や炭化物が含まれているが、焼土や灰層が堆積した状況ではないため、土坑内で火を焚いたのではなく、焼骨が土坑やピットに投棄されたものと考えられる。

筆者は、新潟県村上市の長割遺跡（後期前葉）において、炉跡、袋状土坑、ピット（柱穴）、遺物包含層から出土した焼骨を比較して、焼骨の生成要因を検討したことがある［山﨑・納屋内 2011］。その結果、炉跡や袋状土坑では魚類が多く、遺物包含層では哺乳類が多く、ピット（柱穴）は中間的な様相を示していた。炉跡は、調理などを目的として一定の場所で繰り返して火を焚いた跡である。そのため、炉跡から検出された焼骨は、調理中の混入や食料残滓の焼却処理によるものと考えられる。そして、その炉跡資料と同じ傾向を示すことから、袋状土坑から検出された焼骨は、土坑の廃絶に際して炉内の焼土や灰を投棄したものと推測された。

遺　構	種　名	部位（癒合状態）	左右	破片数	質量（g）
P108	イノシシ	腰椎 棘突起＋後関節突起		1	4.92
		腰椎 乳頭関節突起	左	1	1.41
	哺乳類種不明（大型）	腰椎 椎体		2	12.91
		椎骨 椎体板		2	0.57
		椎骨 棘突起		1	1.41
SK20	サケ科	椎骨		2	0.01 未満
	哺乳類種不明	不明【骨角器】		1	0.16
SK97	貝類？			1	0.03
	サケ科	顎骨		2	0.01
		歯		470	3.12
		椎骨		11657	38.35
	魚類種不明	椎骨 椎体		8	0.02
		尾椎		4	0.01
		腹椎		5	0.02
		腹椎		1	0.01 未満
		歯		2	0.01
	カエル目	腸骨	右	1	0.01
		四肢骨		1	0.01 未満
	鳥類種不明	脛足根骨 遠位端（癒合）	左	1	0.01 未満
	鳥類？	部位不明 骨幹部		5	0.27
	イヌ	脛骨 近位端（癒合）	左	1	0.73
		脛骨 遠位端（癒合）	左	1	1.72
	イノシシ	手根骨	右	3	2.49
		中手骨 近位端（癒合）		1	0.55
		踵骨 載距突起	左	2	5.17
		足根骨	左	1	0.77
		中手骨 / 中足骨 遠位端（未癒合骨端部）		4	2.35
		基節骨 近位端（未癒合骨端部）		1	0.03
		中節骨（癒合）		1	0.22
		末節骨（癒合）		1	0.18
	哺乳類種不明（大型）	大腿骨 遠位端滑車溝		1	0.76
		基節骨 / 中節骨 遠位端（癒合）		2	0.90
		指骨 近位端（癒合）		3	1.29
		指骨 近位端（未癒合脱落）		1	0.25
		指骨 近位端（未癒合骨端部）		1	0.17
	哺乳類種不明（中型）	頸椎		1	0.47
		上腕骨 遠位端（未癒合脱落）		1	0.68
		中手骨 / 中足骨 遠位端（癒合）		2	0.06
		指骨 近位端（癒合）		1	0.01 未満
		椎骨		11	1.69
		肋骨		6	0.70
	哺乳類種不明（中・小型）	指骨（癒合）			
	哺乳類種不明	頭蓋骨？		1	0.99
		椎骨 椎体板		2	0.26
		肋骨		8	1.11
		不明【穿孔のある骨角器】		1	0.24
		不明【骨角器？】		2	0.12
	不明	指骨		1	0.01

※出土した動物遺存体のうち、種や部位が特定された資料のみを示している。
※哺乳類種不明と記載した資料のうち、可能なものは以下の基準で分類した。
「大型」：イノシシ、ニホンジカ程度の大きさ　「中型」：イヌ、キツネ、タヌキ程度の大きさ
「小型」：ネズミ科程度の大きさ
※骨端部の癒合状態は、以下の基準で分類した。
「癒合」：骨端部が癒合している資料　「未癒合脱落」：未癒合で骨端部が脱落した資料
「未癒合骨端部」：未癒合で脱落した骨端部の資料

第 7 表　動物遺存体の同定結果

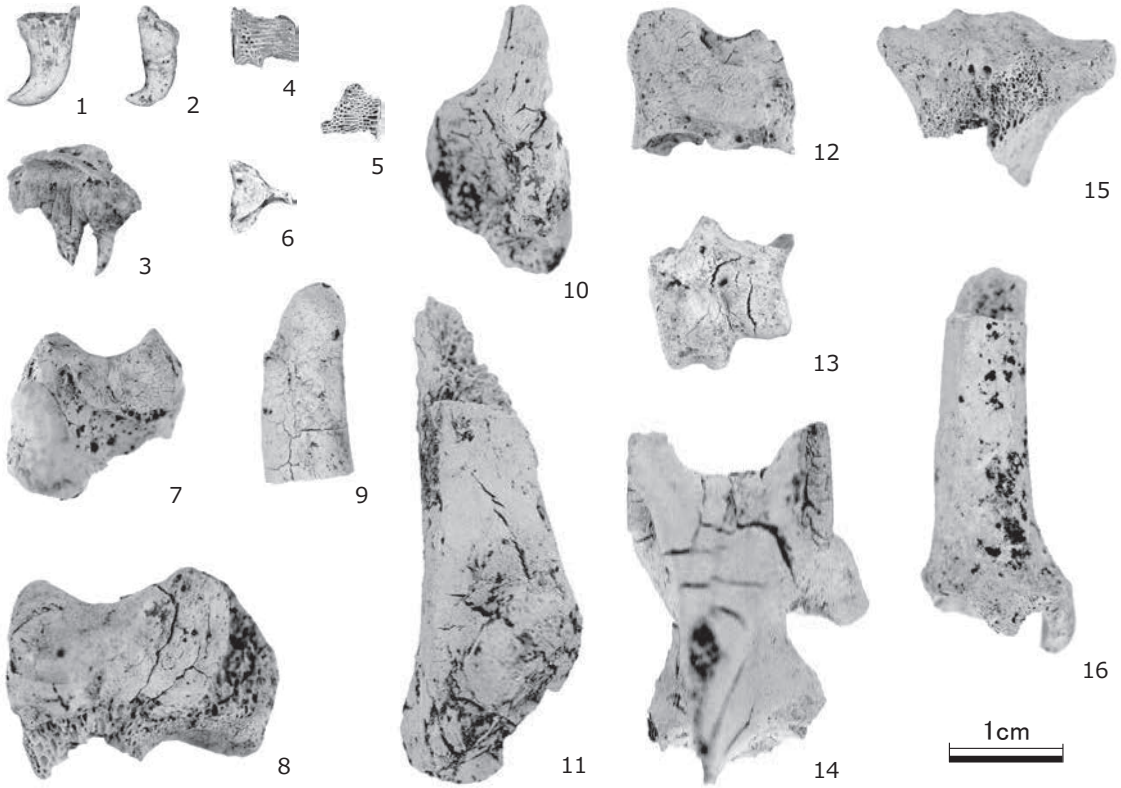
SK97 も魚類が卓越していたため、炉内の焼土や灰が投棄されたことが示唆される。とくにサケ科魚類が集中して出土していることから、季節的な廃棄単位を反映している可能性が高い。

2）P108

P108 からは、合計 123 点（27.83g）の焼骨片が出土した。帰属時期は、縄文時代中期中葉 ~ 後葉（大木 9~10 式期）である。哺乳類以外の骨片は認められず、種が特定された資料はイノシシの腰椎破片 2 点であった。種が特定できない資料でも、大型哺乳類の腰椎椎体や棘突起、椎体板の破片が出土しており、同じイノシシ腰椎であった可能性が高い。以上の点から、P108 には、焼けたイノシシの腰椎 2 個が投棄されたものと考えられる。

3）SK20

SK20 からは合計 43 点（0.27g）の焼骨片が出土し、サケ科の椎骨片と哺乳類の骨片が確認された。帰属時期は、縄文時代中期末～後期初頭である。



1~5: サケ科（1: 歯 ,2: 歯 ,3: 顎骨 ,4: 椎骨 ,5: 椎骨）,6: カエル科（腸骨）,7~14: イノシシ（7: 手根骨 ,8: 手根骨 ,9: 中手骨 近位端 ,10: 踵骨 ,11: 踵骨 ,12: 足根骨 ,13: 中手骨 / 中足骨 遠位端 ,14: 腰椎）,15・16: イヌ（15: 脛骨 近位端 ,16: 脛骨 遠位端）

第 22 図　動物遺存体

引用・参考文献（第Ⅵ章）

朝日　稔　　1975 「イノシシおよびシカの捕獲と植生区分」『生物科学』27-3　日本生物科学者協会編　岩波書店

阿部　永監修　2008 『日本の哺乳類（改訂第 2 版）』東海大学出版会

岡田文男　　1997 「パイプ状ベンガラ粒子の復元」『日本文化財科学会第 14 回大会研究発表会』日本文化財科学会

杉山真二・早田　勉　1997 「植物珪酸体分析による古環境推定―ササ類の植生変遷と積雪量の変動―」『日本第四紀学会講演要旨集』27　日本第四紀学会

常田邦彦・丸山直樹　1980 「イノシシの地理的分布とその要因」『第 2 回自然環境保全基礎調査　動物分布調査報告書（哺乳類）全国版（その 2）』環境省

本間義治監修　1983 『新潟県陸水動物図鑑』新潟日報事業社編　新潟日報事業社

山﨑　健・納屋内高史　2011 「焼獣骨と焼人骨」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 224 集 長割遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

第Ⅶ章　ま　と　め

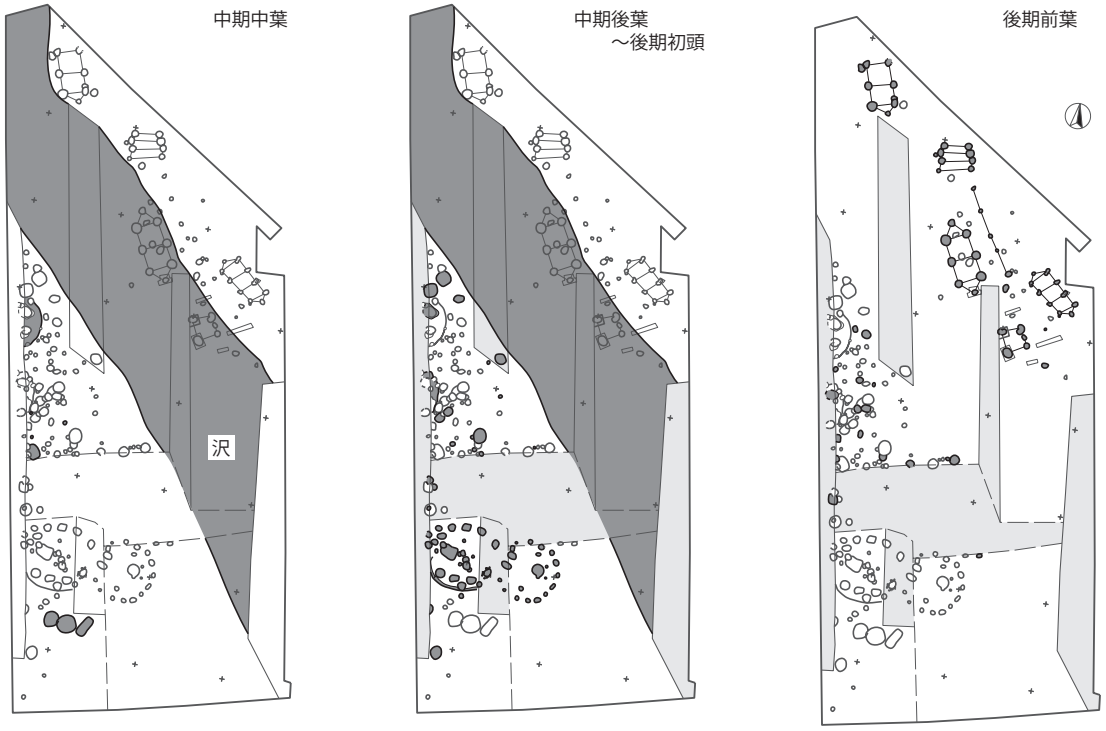
1　遺構の変遷

主に出土遺物から推定した各遺構の年代を基に遺構配置の変遷を見ていく（第 23 図）。

画期は①中期中葉、②中期後葉 ~ 後期初頭、③後期前葉とする。各期に対応する土器型式や類型などは第Ⅴ章の第 3 表に示した。なお、出土土器の時期が特定できない、若しくは出土土器がない遺構については考察から除外した。

①縄文時代中期中葉　　沢は半埋没状態で、遺構群が沢の左岸に展開する。竪穴建物 SI91 はベッド状遺構が付帯する構造である可能性が高い。ピットや土坑が散見され、概して遺構密度は低いものの、グリッド 3・4R では袋状土坑（SK43・44）や建物の炉の可能性がある長方形を呈する土坑（SK10）が集中して検出された。出土した土器は大木 8a 式 ~8b 式段階に時期のものが多い。集落の中心は調査区の西側に在るものと考えられる。

②縄文時代中期後葉 ~ 後期初頭　　沢は浅くなりつつあるものの、①期に引き続き半埋没状態である。遺構群は①期と同様、沢の左岸に展開する。遺構密度は①期よりも高い。竪穴建物は 3 軒検出され、SI46 では石組炉を伴う。竪穴建物の周辺では袋状土坑を含む大型の土坑やピットが展開する。ピットの中には直径が 80㎝を超える大型で柱痕や根固め石が確認出来るものもあり、付近に未認定の建物が存在する可能性もある。また、グリッド 3O では深鉢が逆位に据えられて出土した遺構（SK95）が検出されていることから、付近に墓域が展開していた可能性も指摘できる。



第 23 図　集落の変遷

③縄文時代後期前葉　　沢はほぼ完全に埋没している。該期に至り、沢の右岸地区の開発が始まる。沢の右岸では掘立柱建物群が展開する。沢の中心に近い SB3・5 は南三十稲場式期の建物であり、沢の中心から遠く、地盤の安定している場所に立地する SB1・2・4 は三十稲場式期に位置付けられることから、沢の埋没と共に沢の内側へ開発が及んでいく過程を読み取る事が出来る。沢の左岸には、ピットや土坑が展開する。分布域は中期と重なり、遺構同士の切り合いが著しい。ピットには柱痕を有するものもあることから、沢の左岸にも未認定の建物が存在していた可能性も否定できない。

④その後　　縄文時代後期中葉以降の遺物は、晩期中葉の土器が 1 点と近世末期の陶磁器が数点確認出来るのみである。このことから、縄文時代中期中葉から営まれた町上遺跡は後期前葉に終焉を迎え、その後、昭和 40 年代の国営圃場整備事業により大幅な土地改変が行われるまでの間は、積極的な土地利用がなされていないといえる。

2 縄 文 土 器

主要な遺構毎に出土土器の系統別組み合わせを見ていく（第 8 表）。

①中期中葉　SI91・SK43・44 では大木 8b 式と栃倉式が共伴している。地文に撚糸文を有する土器はすでに出現しているものの、条痕文を有する土器は出現していない。典型的な栃倉式は少なく、綾杉文系土器や大木式の系譜を引く 8b 式新段階頃の土器が多い。

②中期後葉～後期初頭　　SK45・78・94・219 で見られるように、大木 9 式と加曽利 E Ⅲ・Ⅳ式、沖

		中期／後期																		粗製				備考
		中葉					後葉～後期初頭							前葉					中期中葉～後期前葉					
		5群（大木8a）	3群（火炎系）	6群（大木8b）	4群（栃倉）	10群a（連弧文）	7群古（大木9a）	7群新（大木9b）	10群b（加曽利EⅢ）	8群（大木10）	10群c（加曽利EⅣ）	11群（沖ノ原）	12群（加飾隆帯文）	15群（称名寺）	13群（三十稲場）	23群（蓋）	14群（綱取）	16群（沈線文系）	20群（撚糸文）	19群（条痕文）	18群（口縁無文）	21群（縄文など）	凡例 ●有 △可能性のあるもの ・確実な混入
竪穴建物	SI91			●	●							△						△	●		●		SI91-P3を除く
	SI46	●	●	●	●	●	●	●	●			●						△		●	●	●	P112を除く
	SI92								△		●								●		●	●	
	SI27			●						●		●				●		△				●	
掘立柱建物	SB1									●		●	●		●	●		●			●		
	SB2														●								
	SB4													●				●					
	SB3										●	△	●	●	●			●	●	●			
	SB5														●			●				●	
土坑・ピット	SK43			●	●																		
	SK44			●	●																●		
	SK97			●	●			△				●						●		●	●		二時期からなる
	SK216	●	●									●	●								△		SI91を切る
	SK45	△	△				●					●	●										
	SK78						●				●	●	●						●	●	●	●	
	SK219								●		●	●	●						●		●	●	
	SK94											●	●						●				
	SK106			●						△	●	●	●	●					●				
	SK139										●			●	●						●		
	SK104												●		●	●					●		
	SK98																	●					
	P178																	●				●	

第 8 表　主要遺構出土土器の系統別一覧

ノ原式、加飾隆帯文土器が共伴し、該期の大まかな組み合わせが分かる。SI27 に伴うと考えられる SK20 では、蓋がやや時期が下る可能性を残すものの、大木 10 式と加曽利 E Ⅳ式、沖ノ原式が共伴しており、該期後半の組み合わせが分かる。加曽利 E Ⅳ式の出土傾向は SK106・139 にみられるように後期の称名寺式や三十稲場式と伴う特徴があり、該期の後半以降に出現する。該期では魚沼地方を中心に分布する沖ノ原式や加飾隆帯文土器が多い。大木式系統は 9a 式が多く見られるものの、9b 式 ~10 式の出土は少ない。加曽利 E 式は定量出土している。

③後期前葉　　SK139 で見られるように、前半では称名寺式と三十稲場式が共伴している。これらは未だ中期末 ~ 後期初頭に中心を持つ土器型式の系譜を引く土器と共伴する例が多い。該期の後半では沈線文系土器が卓越する。掘立柱建物（SB1~5）では別時期の遺物の混入は比較的少なく、該期の良好な資料といえる。該期では蓋付きの土器が急増する。前半では称名寺式が少なく、在地系の三十稲場式が圧倒的に多い。後半では必ずしも系統を明瞭に分別できない土器が多いが、在地系の南三十稲場式も定量見られることから、前半に引き続き在地系の影響は強いものと考えられる。

3　石　　器

町上遺跡から総数 1,751 点の石器が出土した。その所属時期は、遺構出土が少なく明確ではないが、土器型式を当てはめると中期中葉の大木 8a 式から栃倉式の頃より、活動が活発になる。そして後期前葉の称名寺式、三十稲場式に続く在地系の南三十稲場式期に終焉を迎える。これらから、石器も縄文時代中期中葉から後期前葉に収まるものと考えられる。なかでも中期末葉から後期前葉が中心的な時期になるものと考えられる。

石器類のうち、礫類 156 点、礫剥片 1,030 点、剥片類 187 点の合計 1,373 点を除いた、石器 378 点の器種別の比較をしてみた。採取・加工具の打製石斧 104 点と板状石器 26 点の合計 130 点で石器の約 34%。調理具と見られる磨石類 51 点と砥石・石皿 65 点の合計 116 点で石器の約 31% を占め、狩猟・漁猟具は 8% である。採取・加工具 > 調理具 > 狩猟・漁猟具の順になり、清水上遺跡Ⅱ等をまとめた鈴木の分析［鈴木 1999］に対比すると、採取・加工具が石器のなかで最多を占める、清水上遺跡・五丁歩遺跡の縄文時代中期前半期の類例に近い。ただ、調理具も採取・加工具に較べやや少ない程度であり、さらに石鏃は後期の特徴を備えていることから、調理具が採取・加工具よりも多い城之腰遺跡（中期後半から後期前半）例に近い組成への変化を示しているとみられる。

4　総　　括

発掘調査によって縄文時代中期中葉から後期前葉にまたがる集落遺跡であることが明らかになった。

遺跡は水無川扇状地の北端に近い、扇端部に位置する。この扇状地は南北約 5.6km、東西約 3.5km、面積約 14.6㎞^{2} の規模である。付近には扇端部から湧く伏流水を利用した養魚場もあることから、現在では見えない水場を想定することも可能である。

今回の発掘調査では、調査区の中央を斜めに南東の高い方から、北西の低い方へ沢が流れており、縄文時代中期には埋没過程の最終段階であったと見られ、沢内からは遺構は検出できなかった。この沢の両岸に遺構を検出した。左岸（西側）は縄文時代中期中葉から後期初頭の竪穴建物や土坑等を検出した。初期

の遺構は竪穴建物 SI91 である。ベッド状遺構を持つ遺構と見られるが、遺構の大半が北西側の調査区外へ延びる。出土土器は在地では栃倉式、東北南部の土器型式では大木 8 から 8b 式期のものである。

沢左岸の利用は後期初頭まで続き、根固石を持つ柱穴や竪穴建物も 3 基確認した。

後期は沢の東側、右岸の利用が始まる。掘立柱建物を 5 棟検出した。棟持柱を持つ建物が 3 棟、それを持たない、あるいは不明な建物が 2 棟ある。柱穴内の出土遺物から後期前葉に属すると考えられる。掘立柱建物は、桁行 1 間、梁間 2 間から 3 間、柱間面積 5.3㎡から 14㎡まである。

土坑覆土（埋土）中に含まれる白色で微細な骨片を現地調査中に確認した。注意深く観察すると、魚の歯のようなものが多く見えたため、3 か所（SK97、SK20、P108）の遺構の土壌を水洗して、残滓を乾燥後に選別した。その資料を奈良文化財研究所の山崎健氏に分析を依頼した（第Ⅵ章 2 動物遺存体）。分析の結果、貝類、魚類、両生類、鳥類、哺乳類が含まれており、特に魚類が卓越していた。魚類でも、サケ科のみで占められ、魚野川を産卵のために遡るサケを集中的に捕獲していたことを裏付けるものと見られる。現在でも、魚野川でサケ漁が行われ魚沼市の魚野採捕場では、2011 年度に 4,382 匹を捕獲している（第Ⅱ章 C 魚野川水系の水産資源）。縄文時代と直接結びつけることは難しいが、サケの捕獲は重要な食料獲得の手段であったと思われる。

遺跡の広がりは、中期を主体とする遺構群は西側の水田に延びるものと考えられる。沢を挟んで後期の掘立柱建物群は、北の市道八色原 5 号線下から北西へ広がる可能性がある。市道から北の浦佐バイパス法線内は県教委に確認調査によって、遺跡が延びない事が判明している。

要　　約

1　町上遺跡は、新潟県魚沼市大字大浦字八色原に所在する。遺跡は、越後三山（駒ヶ岳・中ノ岳・八海山）から発する水無川下流域に形成された扇状地に立地し、標高は 115.4~117.2m である。

2　調査は一般国道 17 号浦佐バイパスの建設に伴い、2011（平成 23）年度に実施した。調査面積は 2,578 ㎡である。

3　遺跡は、大部分が昭和 40 年代に始まる圃場整備により破壊されている。その影響は、包含層のほとんどと遺構の一部に及ぶ。

4　調査の結果、縄文時代中期中葉 ~ 後期前葉の集落と遺物を検出した。そのほか、縄文時代晩期中葉の土器と近世後半 ~ 近代の陶磁器類がわずかに出土した。

5　検出した遺構は、竪穴建物 4 軒、掘立柱建物 5 棟、土坑 33 基、ピット 100 基以上である。

6　集落は、中期中葉から後葉では竪穴建物を主体とするが、後期前葉では掘立柱建物へと変化する。また、中期では集落範囲が沢（幅 15~20m、深さ約 1.5m）により限定されているが、後期に入り沢が埋没すると旧沢の両岸に土地開発範囲が拡大する。

7　3 基の土坑やピットの覆土土壌中から微細な焼骨片を確認した。同定の結果、貝類・魚類・両生類・鳥類・哺乳類が含まれていることが判明した。特に魚類が卓越し、サケ科の比率が極めて高い。

8　出土した遺物は、縄文土器が浅箱 280 箱（約 1.55t）、石器類が浅箱 59 箱出土した。縄文土器の約 1.45t が二次移動された土層（客土）からの出土である。

9　縄文土器は、中期中葉から後期前葉が主体である。土器の系統は A: 関東系、B: 東北系、C: 越後在地系がある。A は阿玉台式・加曽利 E 式・称名寺式、B は大木式（8a~10 式）・綱取式、C は火炎土器系・栃倉式・沖ノ原式・三十稲場式・南三十稲場式などが出土した。その他、粗製土器や信州及び北陸の影響を受けたと考えられる土器群が組み合う。

10　石器は、1,751 点出土した。礫類 156 点、礫剥片 1,030 点、剥片類 187 点を除いた 378 点の内訳は、採取・加工具（打製石斧・板状石器）が最も多く 34% を占め、次いで調理具（磨石類・砥石・石皿）が 31% である。狩猟・漁猟具は 8% と低調である。

引用・参考文献

青木英治ほか　1971「第八編　史跡」『南魚沼郡誌』下　南魚沼郡誌編集委員会編　新潟県南魚沼郡町村会

穴沢吉太郎編　1977「原始古代の郷土」『大和町史 本編上巻』新潟県魚沼郡大和町役場

阿部恭平ほか　1998『十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書第 14 集 笹山遺跡』十日町市教育委員会

網野善彦　1985「古代・中世・近世初期の漁撈と海産物の流通」『講座・日本技術の社会史２』日本評論社

池田　亨　1979『堀之内町文化財調査報告書第 1 輯 上の原遺跡』堀之内町教育委員会

池田　亨　1992a『大和町文化財調査報告第 5 号 御館遺跡』大和町教育委員会

池田　亨　1992b『大和町文化財調査報告第 6 号 堂島長者屋敷遺跡』大和町教育委員会

池田　亨　2002『小出町埋蔵文化財調査報告書第 2 集 居平遺跡（一次調査）』新潟県北魚沼郡小出町教育委員会

池田　亨ほか　1981『堀之内町文化財調査報告書第 2 輯 原・居平遺跡』堀之内町教育委員会

池田　亨ほか　2002『小出町埋蔵文化財調査報告書第 1 集 居平遺跡』新潟県北魚沼郡小出町教育委員会

池田　亨・荒木勇次　1987『大和町文化財調査報告第 2 号 柳古新田下原 A 遺跡』大和町教育委員会

池田　亨・荒木勇次　1988『大和町文化財調査報告第 3 号 水上遺跡』大和町教育委員会

池田　亨・細矢菊治　1990『大和町文化財調査報告第 4 号 水上遺跡』大和町教育委員会

池田　亨・高木公輔　2001『広神村埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集 覚屋遺跡』広神村教育委員会

石原正敏　1998「第Ⅲ章縄文時代の遺構と遺物 2. 遺物 A 土器」『十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書第 14 集笹山遺跡発掘調査報告書』新潟県十日町市教育委員会

植月　学　2006「馬高式期におけるサケ・マス類の利用をめぐって」『津南学叢書第 4 輯 火焔土器の時代―その文化を探る -』新潟県・津南町教育委員会・信濃川火焔街道連携協議会

植月　学　2009「第 5 章付編第 1 節黒姫洞窟遺跡第 5~7 次調査出土の動物遺体」『魚沼市埋蔵文化財調査報告第 5 集 黒姫洞窟遺跡 - 第 2 期発掘調査報告 -』新潟県魚沼市教育委員会・魚沼地域洞窟遺跡発掘調査団

梅川勝史　1992『堀之内町文化財調査報告書第 5 集 古林古墳群』新潟県北魚沼郡堀之内町教育委員会

梅川勝史　1996『堀之内町文化財調査報告書第 6 集 正安寺遺跡 春日平遺跡』新潟県北魚沼郡堀之内町教育委員会

梅川勝史　1997『堀之内町文化財調査報告書第 8 集 正安寺遺跡Ⅱ』新潟県北魚沼郡堀之内町教育委員会

梅川勝史　1998『堀之内町文化財調査報告書第 9 集 原・居平遺跡 倉下遺跡』新潟県北魚沼郡堀之内町教育委員会

梅川勝史・高木公輔　2006『魚沼市埋蔵文化財調査報告書第 1 集 月岡遺跡』新潟県魚沼市教育委員会

岡田武松校訂　1978『北越雪譜』改訂版［鈴木牧之編撰］岩波文庫（初版 1936 年）

尾崎高宏・坂上法子　2001『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 101 集 大久保遺跡』新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

北村　亮ほか　1990『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第 56 集 岩原Ⅰ遺跡』新潟県教育委員会

國島　聡ほか　1991『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第 29 集 城之腰遺跡』新潟県教育委員会

小林達雄編　2008『総覧 縄文土器』アムプロモーション

桜井準也　1996「第 1 編原始・古代・中世 第 1 章原始時代」『小出町史』上巻 小出町教育委員会編

佐藤雅一　1985「権現平遺跡発掘調査報告」『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第 24 下倉山城跡 権現平遺跡 両新田遺跡』新潟県教育委員会

佐藤雅一ほか　1985a『堀之内町文化財調査報告書第 3 輯 布場平 D 遺跡』堀之内町教育委員会

佐藤雅一ほか　1985b『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第 31 瓜ヶ沢遺跡 滝沢の塚 七久保遺跡 苗場山城跡』新潟県教育委員会

佐藤雅一ほか　1995「第 1 編先史・古代と中世の堀之内 第 1 章堀之内町の考古」『堀之内町史 資料編 上巻』堀之内町

品田高志　2001「Ⅳ遺物 1 縄文土器」『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 37 集 十三本塚北』柏崎市教育委員会
菅沼　亘・宮内信雄　2007『十日町市埋蔵文化財発掘調査報告第 34 集　幅上遺跡発掘調査報告書』十日町市教育委員会
鈴木俊成　1996「第Ⅳ章縄文時代の遺構・遺物 2 分類・その他 C 石器」『新潟県埋蔵文化財発掘報告書第 72 集 清水上遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木俊成　1999「第 2 章縄文時代第 5 節 道具と技術 第 2 項 早期から晩期の石器組成」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
鈴木俊成ほか　1996『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 72 集 清水上遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木道之助　1991『図録石器入門事典』柏書房
関　雅之　1980「第 1 編原始・古代の広神」『広神村史』上巻 広神村史編さん委員会編 新潟県北魚沼郡広神村
高木公輔　2002『広神村埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集 大清水遺跡』広神村教育委員会
高木公輔　2007『魚沼市埋蔵文化財調査報告書第 3 集 平成 18 年度埋蔵文化財確認調査報告書』新潟県魚沼市教育委員会
高木公輔　2008『魚沼市埋蔵文化財調査報告書第 4 集 平成 19 年度埋蔵文化財確認調査報告書』新潟県魚沼市教育委員会
高木公輔　2009『魚沼市埋蔵文化財調査報告書第 6 集 一日市遺跡』新潟県魚沼市教育委員会
高木公輔　2010『魚沼市埋蔵文化財調査報告書第 7 集 平成 20・21 年度埋蔵文化財確認調査報告書』新潟県魚沼市教育委員会
高木公輔ほか　2012『魚沼市埋蔵文化財調査報告書第 8 集 馬作り遺跡』新潟県魚沼市教育委員会
高橋　保　2012「第Ⅳ章遺跡 3 遺物」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 233 集 川久保遺跡』新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
高橋保雄　1992「4B 石器類・6B 石器について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 57 集 五丁歩遺跡』 新潟県教育委員会
高橋保雄ほか　1990『新潟県埋蔵文化財発掘報告書第 55 集 清水上遺跡』新潟県教育委員会
田中　靖　1991「第Ⅳ章　遺物 2C 石器」『新潟県埋蔵文化財発掘報告書第 29 集 城之腰遺跡』新潟県教育委員会
寺村光晴　1961「第二章遺物 Ⅰ土器」『栃倉』栃尾市教育委員会編 吉川弘文館
田海義正ほか　1990a『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 55 集 清水上遺跡』新潟県教育委員会
1990b『小出町埋蔵文化財調査報告書第 4 集 月岡遺跡・古長沢遺跡』新潟県北魚沼郡小出町教育委員会
戸田秀一ほか　1989「南魚沼郡大和町」『角川日本地名辞典 15 新潟県』竹内理三編　角川書店
中村孝三郎　1968『新潟県北魚沼郡堀之内町月岡遺跡調査報告書』長岡科学博物棺考古研究室
中村孝三郎　1978『越後の石器』学生社
納屋内高史・松井　章　2009「第Ⅳ章西郷遺跡の自然科学分析 5 西郷遺跡出土の動物遺存体」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 200 集 西郷遺跡 大蔵遺跡』新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
藤巻正信ほか　1985『新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第 24　下倉山城跡　権現平遺跡　両新田遺跡』新潟県教育委員会
細矢菊治　1994『南魚沼郡水無川流域の歴史』大和町水無川流域の歴史を語る会
細矢菊治ほか　1985『大和町埋蔵文化財調査報告第 1 号 京平塚遺跡発掘調査報告書』大和町教育委員会
松井　章ほか　2011「遺構土壌の水洗選別法による屋代遺跡群の縄文中期集落における生業活動の再検討」『長野県立歴史館 研究紀要』第 17 号 長野県立歴史館
八木次男・佐藤雅一　1988「旧石器時代から縄文時代草創期の遺物 - 魚野川流域を中心として -」『新潟考古学談話会会報 第 1 号』新潟考古学談話会
山内清男　1964「日本先史時代概説Ⅲ縄文式文化」『日本原始美術 1 縄文式土器』講談社
山内清男　1969「縄文文化の社会 縄文時代研究の現段階」『日本と世界の歴史』第 1 巻古代　学習研究社
吉川耕太郎　2012「東北地方の縄文石器」『季刊考古学第 119 号 縄文時代の有肩打製石斧』雄山閣

渡辺三省　　1986 「北魚沼郡」「南魚沼郡」『日本歴史地名大系第十五巻 新潟県の地名』平凡社

竪穴建物観察表

S I 27

( )内の数値は推定値

位置	4R 4Q	図版	15・17・18	時期	中期後葉～後期初頭	平面形	円形	規模(m) 長径×短径	7.1×7.1	竪穴(深さ)	未検出	検出標高 底面標高	117.16 –
炉	未検出		床	未検出	付帯施設	袋状土坑(SK20)		切り合い関係	—		出土遺物	P6(1・2)、P22(3) P35(4・5)、P24(6・7) SK20(8～11)	

遺構番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(cm)
[主柱穴]							
P48	円形	–	52	48	116.75	116.58	17
P19	円形	–	68	60	116.99	116.65	34
P18	円形	半円状	58	50	117.05	116.74	31
P17	楕円	階段状	72	60	117.14	116.51	63
P16	楕円	箱状	52	48	117.16	116.84	32
P15	長楕円	階段状	74	36	117.16	116.75	41
P14	楕円	半円状	46	40	117.12	116.91	21
P13	楕円	箱状	68	52	117.14	116.89	25
P12	楕円	台形状	54	54	117.11	116.81	30
P11	楕円	箱状	50	40	117.06	116.73	33
P6	円形	半円状	32	28	116.83	116.62	21
P35	楕円	–	42	34	(116.65)	116.56	(9)
[柱穴]							
P47	円形	–	28	26	116.65	116.55	10
P24	隅丸方形	半円	64	58	116.92	116.59	33
P21	長楕円	箱状	54	36	117.05	116.56	49
P23	円形	U字状	30	26	117.11	116.74	37
P22	楕円	弧状	24	20	117.14	117.06	8
P9	円形	半円状	50	46	117.02	116.66	36
[土坑]							
SK4	楕円	箱状	102	72	116.87	116.34	53
SK3	長楕円	半円	116	68	116.83	116.25	58

S I 46

位置	3R・Q 4R・Q	図版	15・19	時期	中期後葉(大木9a式)	平面形	長楕円	規模(m) 長径×短径	9.0×8.5	竪穴(深さ)	15cm	検出標高 底面標高	117.02 116.74
炉	石組炉(SK67)		床	未検出	付帯施設	土器埋設遺構2 周溝(幅16cm)		切り合い関係	P68>SK67(石組炉) SI46<P112 P65<P64 P62>P110 P62>P63		出土遺物	SI46(12～17)、SK67(19～32) P70(33～38)、P5(39～44) P7(45～47)、P62(48・49) P64・65(50)、P132(51) P112(55・56)、P8(52～55)	

遺構番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(cm)
[主柱穴]							
P5	楕円	台形状	104	73	116.69	116.16	53
P29	楕円	箱状	103	79	116.73	116.29	44
P30	長方形	台形状	74	74	116.73	116.29	44
P31	円形	台形状	84	76	116.70	116.42	28
P70	円形	箱状	104	100	116.80	116.08	72
P60	隅丸方形	箱状	104	70	116.82	116.06	76
P61	楕円	箱状	108	78	116.89	116.13	76
P7	楕円	箱状	96	72	116.80	116.29	51
[柱穴]							
P32	楕円	台形状	74	58	116.68	116.34	34
P125	(楕円)	台形状	(66)	(56)	116.71	116.29	(42)
P132	長楕円	台形状	102	64	116.67	116.40	27
P111	楕円	半円状	36	30	116.74	116.57	17
P37	楕円	台形状	77	62	116.75	116.46	29
P124	楕円	半円	84	68	116.74	116.40	34
P69	楕円	半円	46	30	116.76	116.60	16
P68	楕円	半円	79	65	116.74	116.47	27
P64	楕円	台形状	66	54	116.80	116.58	22
P65	楕円	箱状	50	(40)	116.79	116.63	16
P50	円形	—	74	68	116.56	116.28	28
P63	円形	台形状	(72)	70	116.80	116.63	(50)
P62	楕円	台形状	90	78	116.84	116.31	53
P66	楕円	箱状	40	34	116.80	116.53	27
P110	円形	半円	50	(42)	116.84	116.68	16
P8	円形	台形状	60	54	116.92	116.63	29
P112	楕円	箱状	100	88	117.02	116.43	59
[土坑]							
SK67	長楕円	箱状	188	(122)	(116.74)	116.37	37

S I 91

位置	3O	図版	8・14	時期	中期中葉(栃倉式)	平面形	半円	規模(m) 長径×短径	5.6×—	竪穴(深さ)	25cm	検出標高 底面標高	116.48 116.24
炉	未検出		床	未検出	付帯施設	ベット状遺構周溝(幅25cm)		切り合い関係	P213・SK106・P3>SI92 SI91≒SK1<焼土 SI91>P234>P235 SK216>SK233>P235 P8<P11		出土遺物	SI91 (57～59) P1 (64～69) P2 (70・71) P3 (72～74)	

遺構番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(cm)
[柱穴]							
P1	楕円	台形状	(99)	(80)	116.50	115.69	81
P2	楕円	—	54	40	116.54	115.97	57
P6	楕円	—	52	38	116.48	116.13	35
P5	(楕円)	—	(45)	35	116.46	116.34	(12)
P4	円形	—	48	40	116.46	116.21	(25)
P10	円形	—	30	28	116.50	116.26	24
P7	円形	—	24	24	116.46	116.35	(11)
P3	円形	台形状	50	47	116.40	116.21	(39)
P9	(円形)	—	(60)	48	116.43	116.32	(11)
P8	(楕円)	—	(32)	(64)	116.33	115.85	(48)
P11	楕円	袋状	78	66	116.29	115.68	(61)
P234	(円形)	—	56	(48)	—	115.61	—
P235	(楕円)	—	(60)	50	—	115.63	—

S I 92

位置	3P	図版	8・14	時期	中期後半	平面形	弧状	規模(m) 長径×短径	4.2×—	竪穴(深さ)	30cm	検出標高 底面標高	116.64 116.32
炉	未検出		床	有	付帯施設	—		切り合い関係	SK116>SK146・SI92 SK145>SI92		出土遺物	SI92 (75) SK146 (76・77) SI92-P1 (78～81)	

遺構番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(cm)
[柱穴]							
P1	(楕円)	—	(86)	—	116.47	116.30	17
P214	(楕円)	—	(84)	—	116.49	116.01	48
P2	楕円	—	36	32	116.49	116.29	20
P3	楕円	—	34	28	116.43	116.21	22
P4	楕円	—	58	42	116.58	116.22	36
P199	(楕円)	—	(70)	(60)	116.56	116.22	34
P215	楕円	弧状	55	50	116.51	116.16	35

掘立柱建物観察表

ＳＢ１

（ ）内の数値は推定値　柱穴間隔は芯－間の測定値

図版番号	3・4	位置	2Ｌ 3Ｌ	桁行(m)	2間(4.8)	梁行(m)	1間(2.5)	床面積 13.0㎡	時期 後期前葉	構造	棟持 2×1間	棟方向	N15° W
柱穴番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(m)	柱穴間隔	距離(m)	柱穴間隔		距離(m)	
187	楕円	半円	94	66	115.90	115.25	0.65	187-196	2.30	187-197		4.85	
196	円	－	78	74	115.93	115.33	0.60	196-197	2.50	211-198		4.74	
197	(楕円)	台形	72	(52)	115.70	115.41	0.29	197-198	2.58	切り合い関係			
198	楕円	－	92	72	115.61	115.14	0.47	198-210	2.48	P187＞P188			
210	円	－	88	80	115.64	115.12	0.52	210-211	2.30				
211	円	－	112	106	115.66	115.23	0.23	211-187	2.58	出土遺物			
212	楕円	－	52	52	115.66	115.23	0.43	211-212	2.08	P182 (94～104)、P196 (105･106)			
188	(円)	(半円)	70	(64)	115.90	115.35	0.55	212-187	1.30	P197 (107～110)、P210 (110)			
209	楕円	半円	94	72	115.57	115.28	0.29	196-210	2.62	P211 (112～115)			

ＳＢ２

図版番号	3・4	位置	3Ｍ 4Ｍ	桁行(m)	1間(2.9)	梁行(m)	1間(3.6)	床面積 10.44㎡	時期 後期前葉	構造	1×1間	棟方向	N 9° W
柱穴番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(m)	柱穴間隔	距離(m)	柱穴間隔		距離(m)	
149	円	－	78	74	116.15	115.91	0.24	231-154	0.95	154-151		3.52	
150	楕円	－	92	66	116.16	115.87	0.29	154-153	0.80	153-150		3.40	
151	円	－	78	74	116.18	115.82	0.36	153-152	0.90	231-184		3.70	
152	円	－	80	74	116.20	115.79	0.41	152-149	2.76	切り合い関係			
153	円	半円	90	84	116.22	115.91	0.31	149-150	0.88	－			
154	円	－	78	69	116.24	115.69	0.55	150-151	1.18				
184	円	－	44	42	116.14	115.88	0.26	151-184	1.10	出土遺物			
231	楕円	－	64	58	116.24	115.95	0.29	184-183	1.58	P153 (85)			
183	円	階段	78	70	116.27	115.73	0.54	183-231	2.48				

ＳＢ３

図版番号	5・6	位置	4Ｍ 4Ｎ	桁行(m)	2間(5.2)	梁行(m)	1間(2.7)	床面積 17.5㎡	時期 後期前葉	構造	棟持 2×1間	棟方向	N28° W
柱穴番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(m)	柱穴間隔	距離(m)	柱穴間隔		距離(m)	
163	円	箱状	92	90	116.39	115.61	0.78	179-164	2.50	164-181		2.74	
164	円	箱状	96	92	116.42	115.66	0.76	164-163	2.62	229-148		4.42	
179	円	箱状	100	98	116.27	115.54	0.73	163-180	2.55	148-162		3.95	
180	円	台形	122	114	116.19	115.32	0.87	180-181	2.60	229-162		8.37	
181	円	箱状	100	84	116.21	115.53	0.68	181-182	2.58	切り合い関係			
182	円	箱状	86	80	116.26	115.61	0.65	182-179	2.74	－			
162	楕円	箱状	80	76	116.29	115.81	0.48	182-229	2.00	出土遺物			
230	長楕円	－	82	38	116.32	115.99	0.33	229-170	2.12	P163 (116～119)、P164 (120)			
148	円	－	74	72	116.29	115.55	0.74	163-162	2.12	P179 (121～123)、P180 (124～126)			
229	楕円	W字	68	56	116.25	115.53	0.72	180-162	2.10	P181 (127～133)、P229 (134～137)			

ＳＢ４

図版番号	5・7	位置	5Ｎ	桁行(m)	3間(6.3)	梁行(m)	1間(2.4)	床面積 11.66㎡	時期 後期前葉	構造	棟持 3×1間	棟方向	N53° W
柱穴番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(m)	柱穴間隔	距離(m)	柱穴間隔		距離(m)	
170	長楕円	W字	82	40	116.54	116.27	0.24	191-192	1.70	172-170		1.64	
171	長楕円	W字	68	44	116.56	116.33	0.23	192-171	1.58	174-171		2.28	
173	長楕円	箱状	60	44	116.58	116.20	0.38	171-170	1.72	175-192		2.08	
174	長楕円	半円	64	48	116.58	116.39	0.19	170-173	2.36	173-172		1.15	
175	長楕円	円形	56	38	116.64	116.34	0.30	173-174	1.50	切り合い関係			
176	楕円	U字状	48	44	116.68	116.31	0.37	174-175	1.66	－			
191	楕円	U字状	76	50	116.66	116.03	0.63	175-176	1.60				
192	不整形	弧状	84	44	116.65	116.48	0.17	176-191	1.85	出土遺物			
172	楕円	箱状	42	34	116.55	116.21	0.34	176-193	1.28	P170 (86)			
193	楕円	－	62	46	116.65	116.53	0.12	193-191	1.02	P191 (87)			

ＳＢ５

図版番号	4・5	位置	５Ｎ５Ｏ	桁行(m)	1間(2.3)	梁行(m)	1間(1.9)	床面積 5.29㎡	時期 後期前葉	構造	１×１間	棟方向	N25° E

柱穴番号	平面形状	断面形状	長径(cm)	短径(cm)	確認高(m)	底面高(m)	深さ(m)	柱穴間隔	距離(m)	柱穴間隔	距離(m)
194	長楕円	箱状	108	84	116.54	115.83	0.71	204-194	2.20	224-194	1.12
204	円	箱状	64	60	116.51	115.84	0.67	194-237	2.20	切り合い関係	
237	(楕円)	―	96	62	(116.49)	115.67	(0.82)	237-238	2.42	―	
238	楕円	―	115	92	116.37	115.64	0.73	238-204	2.36	出土遺物	
224	隅丸方	―	60	42	116.51	116.20	0.31	204-224	1.08	P204 (92) 、P237 (88～93)	

袋状土坑観察表

( )内の数値は推定値

遺構番号	時期	位置	図版	平面形	規模(cm、標高はm) 長径	短径	底面径	深さ	底面標高	報告遺物	切り合い	備考
SK20	中期末～後期初	４Ｑ	15・17・18	円形	136	122	156	86	116.25	8～11	≒P27	焼骨43点出土
SK43	中期中葉	３Ｒ	15・16	円形	186	(162)	177	63	116.44	146～149	＜SK44	
SK44	中期中葉	４Ｒ	15・16	円形	224	200	224	88	116.21	150～153	＞SK43	
SK45	中期後葉	３Ｓ	15・17	楕円形	148	126	172	67	116.29	154～164	―	
SK78	後期初頭	３Ｐ	8・11	楕円形	172	146	160	98	115.75	166～192	＞P58 ＜SK139	
SK97	中期中葉末～後期初	３Ｐ	8・10・12	楕円形	112	90	124	106	115.59	200～217	＞P144・SK143 ＜Ｐ(後期前葉)	焼骨11万点余出土
SK106	中期末～後期初	３Ｏ・Ｎ	8・9・14	隅丸方形	162	140	166	81	115.62	228～240	＞SI91	

ピット（柱痕あり）観察表

( )内の数値は推定値

遺構番号	時期	位置	図版	平面形	規模(cm、標高はm) 長径	短径	深さ	底面標高	柱径(cm)	根固石有無	切り合い	出土遺物報告番号	備考
P33	後期前葉	３Ｑ	15・16	楕円形	(84)	108	(69)	115.81	32	有	＞P39・SK34	282～289	
P38		３Ｓ	15・17	円形	48	40	44	116.64	18	無			
P39	中期後葉	３Ｑ	15・16	円形	74	(72)	46	116.04	18	有	＜SK33	290～293	
P54	中期末～後期初頭	４Ｐ	8・13	円形	28	25	21	116.66	15	無	―	有	
P56	後期前葉	４Ｐ	8・13	楕円形	48	34	25	116.60	14	無	―	有	
P57	中期中葉	３Ｐ	8・13	円形	46	42	34	116.30	14	有	―	有	
P72	後期前葉	３Ｐ	8・10	(楕円形)	(79)	(70)	(47)	116.37	20	無	＞SK73	300～302	
P74		３Ｐ	8・13	楕円形	48	40	24	116.60	14	有	―	無	
P75		３Ｐ	8・13	円形	74	68	74	116.09	20	有	―	有	
P83	後期前葉	３Ｐ	8・13	(隅丸方形)	(82)	(56)	(51)	116.29	22	有	―	303～306	
P89	後期前葉	３Ｐ	8・12	円形	94	85	108	115.53	20	有	＞P90	有	
P93	中期後葉～後期初頭	３Ｐ	8・13	楕円形	58	48	44	116.42	14	有	―	有	
P109	中期	３Ｏ	8・11	楕円形	68	55	36	116.20	18	無			
P114	後期前葉	３Ｐ	8・10	楕円形	88	78	83	115.77	24	有	＞P189・SK140	314～317	
P115	中期後葉～後期初頭	３Ｏ	8・10	楕円形	127	118	57	116.03	24	有	＞SK140	318～322	
P117		３Ｏ	8・12	円形	42	40	84	115.76	18	有			
P122		３Ｏ	8・11	円形	47	42	39	116.13	18	無			
P143	後期初頭	３Ｐ	8・12	楕円形	(106)	96	91	115.78	50	有	＜P144・SK97	324～328	
P213		３Ｏ	8・9	楕円形	76	67	80	115.69	18	無	＞SI91	無	

土坑・ピット観察表

( )内の数値は推定値

遺構番号	時期	位置	図版	平面形	規模(cm、標高はm) 長径	短径	深さ	底面標高	切り合い	出土遺物報告番号	備考
SK01	後期前葉	４Ｐ	8・11・14	(楕円形)	(92)	(80)	(29)	116.66	―	138・139	
SK10	中期中葉	４Ｒ	15・17	隅丸長方形	234	100	38	116.68	―	140	炉か
SK34	中期後葉	３Ｑ	15・16	楕円形	(94)	80	(27)	116.30	＜P33	141～145	
SK49	中期後葉	３Ｒ	15・16	不明	(114)	(36)	(－)	116.72	―	165	
SK73	中期中葉	３Ｐ	8・10	楕円形	172	134	46	116.38	＜P72・P141	有	
SK79		４Ｐ	8・11	円形	114	108	50	116.37	―	有	
SK80	後期前葉	４Ｐ	8・11	円形	108	108	46	116.35	―	193～165	
SK94	中期末～後期初頭	３Ｎ	8・9	円形	172	160	52	115.87	＜P147	196～199	
SK95	中期末～後期初頭	３Ｏ	8・9	楕円形	122	85	30	116.09	―	218	埋設土器遺構
SK98	後期前葉	３Ｐ	8・10	楕円形	112	90	40	116.26	＞SK190・P99	219～221	
SK104	後期前葉	３Ｏ	8・9	楕円形	104	90	52	115.99	―	222～227	

観　察　表

遺構番号	時　期	位　置	図　版	平面形	規　模（cm、標高はm）				切り合い	出土遺物報告番号	備　考
					長径	短径	深さ	底面標高			
SK116	後期前葉	3 P	8・9・14	楕円形	(154)	(110)	(85)	115.65	>SI92・SK146・P215・P199	241・242	
SK139	後期前葉	3 P	8・11	(楕円形)	(98)	80	43	116.39	>SK78	243～247	
SK140	中期後葉～後期初頭	3 P	8・10	(楕円形)	(154)	(104)	(42)	116.22	<SK114・SK142・P115	248～250	
SK142	後期前葉	3 P	8・10	長楕円形	136	80	62	115.98	>SK140 ≒P200	251～254	
SK145		3 P	8・14	楕円形	(104)	(84)	(58)	115.52	>SI92	無	
SK146	中期後葉	3 O	8・9・14	(楕円形)	(126)	(92)	(34)	116.22	<SK116 >P199	有	
SK147		3 N	8・9	楕円形	92	90	48	115.86	>SK94	無	
SK190		3 P	8・10	(円形)	(70)	66	(29)	116.34	<P99・P189・SK98	無	
SK216	後期初頭	3 O	8・9・14	(楕円形)	(144)	(106)	(32)	116.46	>SK233	255～269	焼土粒含む
SK217		3 Q	15・16	円形	138	128	67	115.87	<P71	無	
SK219	中期後葉～後期初頭	3 O	8・9	楕円形	136	114	75	115.49	—	270～280	
SK233		3 O	8・14	隅丸長方形	(186)	(140)	64	115.69	P235<<P228・SK216・SI91	無	
P 25		4 Q	15	楕円形	58	38	27	116.79	—	有	
P 26	後期前葉	5 Q	15・17	楕円形	60	46	26	116.80	—	281	
P 36		5 S	15・17	円形	38	32	32	116.65	—	無	
P 38		3 S	15・17	円形	48	40	44	116.64	—	無	
P 40	中期中葉～後葉	3 R	15・16	円形	53	50	28	116.81	—	有	
P 41	中期後葉	3 R	15・16	円形	68	60	42	116.62	—	有	
P 42		3 R	15・16	円形	48	42	12	116.79	—	無	
P 50		4 Q		円形	32	30	19	116.63	—	無	SI46
P 51		3 Q	15	円形	74	68	28	116.28	—	無	
P 52	中期後葉～後期初頭	3 P	8・13	円形	48	44	21	116.68	—	有	
P 53		4 P	8・13	円形	32	28	17	116.68	—	無	
P 55		4 P	8・13	円形	42	34	16	116.72	—	無	
P 58	中期末～後期初頭	3 P	8・11	(円形)	(52)	42	24	116.48	<SK78	有	
P 59	中期後葉	4 P	8・12	楕円形	42	35	40	116.19	—	有	
P 71	中期後葉	3 Q	15	楕円形	48	38	45	116.06	>SK217	296～299	
P 76	中期後葉～後期初頭	3 P	8・13	円形	54	48	26	116.60	>P77	有	
P 77		3 P	8・13	(楕円形)	(48)	37	35	116.54	<P76	無	
P 81	後期前葉	3 P	8・13	長楕円形	86	54	38	116.28	—	294・295	
P 82		3 P	8・13	円形	38	32	31	116.46	—	無	
P 84	中期中葉か	3 P	8・12	円形	32	28	18	116.50	—	有	
P 85	後期前葉	3 O	8・12	楕円形	44	32	23	116.37	—	307	
P 86		3 O	8	楕円形	58	50	18	116.39	—	無	
P 87	中期後葉か	3 O	8・12	楕円形	36	30	26	116.27	—	308	
P 90	中期中葉～後葉	3 P	8・12	(楕円形)	(46)	36	10	116.51	<P89	有	
P 99	中期中葉か	3 P	8・10	円形	30	24	18	116.47	<SK98 >SK190	有	
P 100	後期前葉	3 O	8・12	楕円形	80	68	41	116.19	—	310・311	
P 101	中期中葉～後葉	3 O	8・12	円形	50	48	39	116.21	—	有	
P 102		3 O	8・11	円形	46	40	37	116.20	—	有	
P 103	後期前葉か	3 O	8・12	楕円形	60	50	29	116.32	—	有	
P 105	後期前葉	3 O	8・11	隅丸方形	72	51	32	116.15	—	312・313	
P 107		3 N	8・11	円形	54	50	39	115.93	—	有	
P 108	中期中葉～後葉	3 P	8・12	楕円形	38	33	27	116.38	—	有	焼骨出土
P 109	中期中葉～後葉	3 O	8・11	楕円形	68	55	36	116.20	—	有	
P 113	中期中葉	3 P	8・13	楕円形	34	26	26	116.54	—	有	
P 117		3 O	8・12	円形	42	40	84	115.76	—	無	
P 118		3 O	8	楕円形	45	40	30	116.26	—	有	
P 119		3 O	8・11	円形	36	36	12	116.48	—	有	
P 120		3 O	8・11	楕円形	32	24	29	116.23	—	無	
P 121		3 O	8	楕円形	(72)	58	53	116.00	≒P128	無	
P 122		3 O	8・11	円形	47	42	39	116.13	—	無	
P 127	中期中葉～後葉	3 O	8	円形	42	37	19	116.39	—	有	
P 128	中期中葉	3 O	8・11	円形	40	38	25	116.27	≒P121	有	
P 129		3 O	8・11	円形	45	42	18	116.35	—	無	
P 130		3 O	8・12	長楕円形	88	50	37	116.24	—	無	
P 131	中期後葉	3 P	8・12	楕円形	68	64	31	116.29	—	323	
P 133		3 P	8	楕円形	40	34	20	116.68	—	無	
P 134		3 P	8・13	円形	32	28	20	116.63	—	無	
P 135	後期前葉	3 P	8・12	円形	34	32	19	116.40	—	有	
P 136		4 P	8	円形	54	48	23	116.28	—	無	
P 138		2 N・3 N	8・11	円形	60	52	31	115.91	—	有	

遺構番号	時　期	位　置	図　版	平面形	規　模（cm、標高はm）				切り合い	出土遺物報告番号	備　考
					長径	短径	深さ	底面標高			
P141		3P	8	（楕円形）	(78)	68	(47)	116.40	＞SK73	無	
P144		3P	8・12	（円形）	(58)	50	(28)	116.37	＞P143 ＜SK97	無	
P156		4M	3・5	楕円形	54	36	11	116.06	―	無	SA1
P159		4M	3・5	円形	46	40	21	116.16	―	無	SA1
P160		4M	3・5	円形	56	54	42	115.95	―	無	
P161		4M	3・5	楕円形	52	52	32	116.09	―	無	
P165		4N	3・5・6	楕円形	96	74	39	115.96	―	無	
P166		4M	3・5	楕円形	48	42	21	116.26	―	無	SA1
P167		4N	3・5	円形	34	30	23	116.22	―	無	SA1
P168		4N	3・5	円形	42	38	20	116.20	―	無	
P169		4N	5	円形	36	34	24	116.30	―	無	
P177		5N	5	隅丸三角形	38	34	22	116.37	―	無	
P178	後期前葉	4N	5	楕円形	90	62	37	116.18	≒P222	329～332	
P185		4M	5	円形	32	30	27	115.77	―	無	
P186		3L	3	円形	86	74	41	115.51	―	無	
P189	中期後葉	3P	8・10	楕円形	68	(65)	(42)	116.21		333～335	
P195		5N	4・5	長楕円形	60	36	31	116.21	―	無	
P203	後期初頭	4N	5	円形	54	47	41	115.86	―	336	
P205	後期前葉か	5N	5	円形	28	26	24	116.40	―	337	
P206	後期前葉か	5O	5	楕円形	76	54	49	116.06	―	有	
P207		5O	5	隅丸三角形	46	30	27	116.31	―	無	
P208		4N	5	楕円形	76	60	33	116.22	―	無	SA1
SK209		2L	3・4	楕円形	94	57	29	115.28	―	無	
P220		5N	5	楕円形	36	30	19	116.34	―	無	
P221		4N	3	円形	48	46	14	116.40	―	無	
P223		3M	3・4	円形	44	42	24	115.86	―	無	
P225		5N	5	隅丸三角形	58	42	25	116.41	―	無	
P226		5N	5・7	円形	26	22	14	116.53	―	無	
P227		5N	5	（円形）	46	42	35	116.20	―	無	
P228	中期中葉か 中期後葉	3O	8・14	楕円形	44	32	77	115.60	＜SK216・SK233 SI91との関係不明	338・339	
P236		3P	8	（楕円形）	(40)	30	(60)	116.17	―	無	

縄文・土製品観察表

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
1	深鉢	21群d	SI27 P6		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、雲、礫	平行沈線 LR	—	
2	深鉢	21群c	SI27 P6		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	長、礫	縦位沈線 LR	—	
3	浅鉢	16群c	SI27 P22		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	円孔 沈線	外スス	波状口縁
4	深鉢	21群a	SI27 P35		10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	礫、土	LR	—	
5	深鉢	6群	SI27 P35		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	雲、礫	沈線 短沈線	—	
6	深鉢	16群	SI27 P24		10YR3/2 黒褐	10YR3/2 黒褐	石、雲	沈線 LR	内外スス	
7	底部	21群c	SI27 P24		7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	長、石、チャ、礫	縦位沈線 RL	—	
8	深鉢	11群	SI27 SK20		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目) 突瘤文、沈線、LR	内スス	
9	蓋	23群a	SI27 SK20		10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y3/1 黒褐	礫	ミガキ	—	
10	深鉢	8群	SI27 SK20		7.5YR4/3 褐	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、角、雲、礫	磨り消し LR	外スス	
11	底部	21群a	SI27 SK20		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、雲、礫	LR	外スス	底面ミガキ
12	深鉢	11群	SI46	床上	10YR3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	平行沈線 突瘤文	外スス	3R客土と接合
13	深鉢	18群b2	SI46	床上	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/1 黒褐	石、礫	沈線	内外スス	波状口縁
14	深鉢	21群c	SI46	床上	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫、土	縦位沈線 LR	外スス	
15	深鉢	21群c	SI46	床上	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、礫	斜行沈線 無節(Lr)	—	
16	深鉢	3群	SI46	周溝	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、雲、礫	隆帯	—	口縁部突起
17	深鉢	10群a	SI46		2.5Y3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	渦巻文、波状沈線文 円孔、LR	外スス	
18	深鉢	21群a	SI46 土器埋設2		10YR5/2 灰黄褐	2.5Y3/1 黒褐	長、石、雲、礫	RL	内スス	3R客土と接合
19	浅鉢	22群a	SI46 SK67		7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	雲、礫	隆帯剣先渦巻文 RL	—	
20	深鉢	7群	SI46 SK67		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	波状・渦巻隆帯	—	口縁部突起
21	深鉢	19群b	SI46 SK67		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	礫	条痕	内スス	
22	深鉢	6群	SI46 SK67		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	平行沈線	—	波状口縁か
23	深鉢	11群	SI46 SK67		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	長、雲、礫	加飾隆帯(刻目) 短沈線、RL	—	
24	—	11群	SI46 SK67		10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	長、雲、礫	沈線	—	
25	深鉢	18群c	SI46 SK67		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	長、石、礫	RL	内外スス	平縁口縁
26	深鉢	5群	SI46 SK67		10YR4/1 褐灰	2.5Y4/1 黄灰	石、礫	多条沈線	—	
27	深鉢	21群c	SI46 SK67		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	縦位沈線 RL	内スス	
28	深鉢	7群	SI46 SK67		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文 RL	外スス	
29	—	26群	SI46 SK67		10YR3/1 黒褐	10YR2/1 黒	長、石、礫	波状沈線、円形刺突 無節(Lr)	—	
30	深鉢	11群	SI46 SK67		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR3/1 黒褐	長、雲、礫	隆帯、沈線 LR	内外スス	
31	—	7群	SI46 SK67		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	長、石、礫	隆帯渦巻文 LR	—	
32	深鉢	21群c	SI46 SK67		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR4/2 灰褐	長、雲、礫	縦位沈線 LR	内スス	
33	深鉢	11群	SI46 P70		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	チャ、礫	平行沈線	—	平縁口縁
34	深鉢	2群	SI46 P70		7.5YR5/2 灰褐	7.5YR6/2 灰褐	長、雲、礫	刺突沈線 斜行短沈線	—	
35	深鉢	11群	SI46 P61		10YR3/2 黒褐	10YR5/2 灰黄褐	礫	加飾隆帯(刻目)	外スス	
36	深鉢	11群	SI46 P70		10YR3/3 暗褐	10YR3/2 黒褐	長、礫	平行沈線 RL	内外スス	
37	深鉢	21群c	SI46 P70		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、雲、礫	縦位沈線 LR	内スス	
38	深鉢	4群	SI46 P70		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	縦位沈線、刺突 LR	内外スス	
39	深鉢	18群c	SI46 P5		10YR4/3 にぶい黄褐	5YR5/6 明赤褐	長、雲、礫	RL	外スス	波状口縁

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
40	深鉢	7群	SI46 P5		10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	雲、礫	磨り消し RL	外スス	
41	深鉢	7群	SI46 P5		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	石、雲、礫	縦位隆帯 無節(Rl)	内スス	
43	深鉢	21群c	SI46 P60		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/2 黒褐	長、石、雲、礫	縦位沈線 LR	内外スス	
44	深鉢	11群	SI46 P60		10YR3/1 黒褐	10YR5/2 灰黄褐	長、雲、礫	パネル状沈線文 突瘤文、RL	外スス	
45	深鉢	4群	SI46 P7		10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/1 黄灰	長、石、礫	隆帯渦巻文 短沈線	—	
46	深鉢	10群b	SI46 P7		10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	石、雲、礫	縦位沈線 RL	—	
47	深鉢	11群	SI46 P7		10YR3/1 黒褐	7.5YR4/3 褐	長、石、礫	平行沈線	—	
48	深鉢	16群c	SI46 P62		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	円孔 弧状沈線	—	口縁部把手
49	—	6群	SI46 P62		7.5YR4/2 灰褐	10YR3/1 黒褐	長、石、礫	沈線 LR	内外スス	
50	深鉢	21群c	SI46 P64・65		10YR3/2 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	石、礫	磨り消し、縦位沈線 LR	外スス	
51	—	21群c	SI46 P132		10YR4/2 灰黄褐	5YR4/4 にぶい赤褐	長、石、礫	多条沈線	—	
52	深鉢	18群a	SI46 P8		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/3 暗褐	長、石、礫	LR	内外スス	
53	深鉢	10群	SI46 P110		2.5Y5/2 暗灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	礫	縦位沈線(ミガキ？) 無節(Rl)	外スス	
54	深鉢	6群	SI46 P110		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、礫	沈線 RL	外スス	
55	鉢	10群c	P112		10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	隆帯 沈線	内外スス	3R覆土と接合 波状口縁
56	深鉢	18群a	P112		10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	無節 (Lr)	外スス	
57	鉢	16群c	SI91		2.5Y2/1 黒	2.5Y2/1 黒	長、礫	斜行短沈線、縦位沈線、円形圧痕文	内外スス	
58	鉢	4群	SI91		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	石、礫	刺突沈線 縦位沈線	—	
59	深鉢	4群	SI91		10YR4/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	刺突沈線 縦位沈線	外スス	
60	深鉢	1群	SI91— P1		7.5YR5/6 明褐	7.5YR6/4 にぶい橙	礫	押し引き文	—	
61	深鉢	6群	SI91— P1		5YR6/6 橙	10YR4/2 灰黄褐	長、礫	縦位沈線 斜行短沈線	内スス	
62	深鉢	11群	SI91— P1		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	雲、礫	多条沈線	外スス	
63	深鉢	4群	SI91— P1		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	礫	双頭隆帯渦巻文 平行・斜行短沈線	外スス	
64	浅鉢	22群e	SI91— P1		10YR5/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	雲、礫	沈線	—	
65	深鉢	4群	SI91— P1		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文 縦位沈線	外スス	
66	深鉢	6群	SI91— P1		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	角、雲、礫	縦位沈線 RL	内スス	
68	—	26群	SI91— P1		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	石、角、礫	把手	内外スス	
69	深鉢	6群	SI91— P1		10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄	長、石、礫	撚り糸(R) 半隆起渦巻文	外スス	
70	深鉢	6群	SI91— P2		10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	沈線渦巻文 RL	外スス	
71	深鉢	18群a	SI91— P2		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	ミガキ	外スス	波状口縁
72	—	16群a	SI91— P3		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	沈線	外スス	
73	深鉢	16群b	SI91— P3		10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	角、チャ、礫	沈線、短沈線 刺突	外スス	
74	深鉢	16群	SI91— P3		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、雲、礫	多条沈線	内外スス	
75	深鉢	21群a	SI92		10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、雲、礫	RL	内外スス	
76	深鉢	2群	SI92 P146		10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	長、雲、礫	刺突沈線	外スス	
77	深鉢	21群c	SI92 P146		7.5YR4/2 灰褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、雲、礫	縦位沈線 RL	外スス	
78	深鉢	18群a	SI92— P1		10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	ミガキ	内スス	波状口縁
79	深鉢	21群a	SI92— P1		10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、礫	無節 (LR)	—	
80	深鉢	20群	SI92— P1		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	撚り糸(r)	内スス	
80	深鉢	20群	SI92— P1		10YR7/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	撚り糸(r)	内スス	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
81	深鉢	10群	SI92－P1		2.5Y3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	石、礫	隆帯 LR	外スス	
82	深鉢	20群	SK145		10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	撚り糸(r)	－	
83	深鉢	21群c	SK145		10YR5/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	石、雲、礫	縦位沈線 LR	内外スス	
84	深鉢	10群c	SK145		2.5Y3/1 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	石、礫	弧状沈線 LR	外スス	
85	鉢	13群a	SB2 P153		7.5YR5/4 にぶい褐	5YR6/6 橙	長、礫	加飾隆帯(刺突) 刺突	外スス	
86	深鉢	15群	SB4 P170		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	沈線 押し引き文	－	
87	深鉢	16群	SB4 P191		10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	刺突 沈線	内外スス	
88	深鉢	16群b	SB5 P237		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、チャ、礫	沈線一条 三角沈線文、RL	外スス	
89	深鉢	16群	SB5 P237		10YR5/1 褐灰	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、土	沈線	外スス	
90	深鉢	16群c	SB5 P237		5YR5/6 明赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、礫	弧状沈線 刻目	内外スス	
91	深鉢	13群a	SB5 P237		10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	石、礫	沈線 刺突	－	
92	鉢	16群c	SB5 P204		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	円形刺突 沈線	内スス	
93	底部	21群a	SB5 P238		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	礫、土	底面:平行細沈線	－	
94	鉢	18群a	SB1 P187		7.5YR4/2 灰褐	10YR2/1 黒	石、雲、礫	ミガキ	内スス	
95	深鉢	8群	SB1 P187		10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	長、石、礫	方形沈線 無節(Lr)	－	
96	深鉢	13群a	SB1 P187		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、礫	隆帯	外スス	波状口縁
97	深鉢	11群	SB1 P187		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR4/2 灰褐	長、石、雲、礫	沈線一条	内外スス	
98	—	13群	SB1 P187		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR3/2 黒褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目) 沈線二条	－	
99	深鉢	13群a	SB1 P187		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	円形刺突 沈線、隆帯	－	波状口縁 胎土精良
100	蓋	13群b1	SB1 P187		10YR5/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	礫	刺突	内外スス	
101	深鉢	11群	SB1 P187		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、礫	円形窩文、沈線 隆帯、LR	外スス	
103	深鉢	16群a	SB1 P188		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/3 褐	長、礫	縦沈線 LR	外スス	
104	鉢	16群c	SB1 P188		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、石、チャ、雲、礫	沈線	－	波状口縁
105	鉢	16群a	SB1 P196		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	長、礫	沈線 LR	内外スス	
106	鉢	16群c	SB1 P196		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	長、石、礫	沈線	－	
107	深鉢	13群a	SB1 P197		2.5Y5/3 黄褐	2.5Y6/3 にぶい黄	長、石	刺突	内外スス	
108	深鉢	12群	SB1 P197		10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、礫	加飾隆帯(刺突) 撚り糸(l)	内外スス	蓋受け有り
109	深鉢	18群c	SB1 P197		7.5YR4/2 灰褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、石、礫	LR	外スス	波状口縁
110	蓋	23群c	SB1 P197		10YR4/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	長、石	把手 円形窩文	内外スス	
111	深鉢	12群	SB1 P210		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	加飾隆帯(RL) RL	－	
112	鉢	16群b	SB1 P211		10YR4/2 灰黄褐	2.5Y4/2 暗灰黄	礫、土	三角沈線文	－	
113	深鉢	11群	SB1 P211		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	刻目沈線 突瘤文	外スス	
114	鉢	13群a	SB1 P211		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、礫	沈線一条 刺突	外スス	
115	深鉢	13群a	SB1 P211		10YR3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	刺突	外スス	
116	鉢	16群c	SB3 P163		10YR3/1 黒褐	10YR2/2 黒褐	長、石、雲、礫	ミガキ	内外スス	
117	深鉢	16群b	SB3 P163		10YR4/1 褐灰	2.5Y4/2 暗灰黄	長、石、雲、礫	斜行沈線 LR	外スス	
118	深鉢	19群	SB3 P163		10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、礫	条痕	－	
119	鉢	13群a	SB3 P163		2.5Y3/1 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	刻目 把手(突瘤？)	外スス	
120	—	9群	SB3 P164		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	長、雲、礫	Y字隆帯 LR	内外スス	
121	深鉢	16群a	SB3 P179		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	弧状多条沈線	外スス	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
122	深鉢	12群	SB3 P179		2.5Y3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、礫	加飾隆帯(刺突) LR	外スス	
123	深鉢	16群b	SB3 P179		2.5Y3/2 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	三角沈線 LR	外スス	
124	深鉢	12群	SB3 P180		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	加飾隆帯(刺突) 沈線、LR	外スス	
125	深鉢	13群a	SB3 P180		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR3/1 黒褐	石、礫	刺突	内スス	
126	深鉢	16群b	SB3 P180		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、礫、土	斜行沈線文	外スス	
127	深鉢	10群c	SB3 P181		10YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒褐	長、雲、礫	沈線一条 LR	内外スス	
128	深鉢	20群	SB3 P181		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	石、礫	撚り糸 (r)	—	
129	鉢	15群	SB3 P181		10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、石、チャ、礫	弧状沈線 LR	外スス	
130	深鉢	18群a	SB3 P181		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/1 褐灰	長、礫、土	ミガキ	外スス	
131	深鉢	26群	SB3 P181		10YR3/2 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、土	縦位波状沈線	外スス	
132	深鉢	11群	SB3 P181		10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/3 黄褐	石、土	加飾隆帯(刺突) 沈線、LR	—	
133	深鉢	16群a	SB3 P181		10YR4/2 灰黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	石、礫、土	沈線渦巻文 RL	外スス	
134	深鉢	13群a	SB3 P229		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	石、礫	加飾隆帯(円形刺突) 刺突	—	
135	深鉢	16群b	SB3 P229		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	三角沈線文 LR	内外スス	
136	深鉢	16群b	SB3 P229		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	斜行沈線文	—	
137	深鉢	13群a	SB3 P148		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	刺突	—	
138	蓋	13群b1	SK1		2.5Y7/4 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	長、礫	刺突	外スス	
139	深鉢	21群a	SK1		10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	ナデ	外スス	
140	深鉢	6群	SK10		10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	礫	沈線 LR	—	
141	深鉢	21群c	SK34		10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	縦位沈線 RL	外スス	
142	深鉢	26群	SK34		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	沈線渦巻文	—	口縁端部に沈線
143	—	9群	SK34		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR3/3 暗褐	礫	隆帯 ミガキ	—	
144	深鉢	21群c	SK34		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y4/2 暗灰黄	礫	無節 (Lr)	外スス	
145	底部	21群a	SK34		7.5YR4/3 褐	7.5YR3/4 暗褐	石、雲、礫	底面:ナデ	—	
146	深鉢	6群	SK43		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	礫	縦位沈線 RL	—	
147	深鉢	4群	SK43		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR3/2 黒褐	雲、礫	縦位沈線	内スス	
148	深鉢	4群	SK43		2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄橙	礫	沈線渦巻文 斜行短沈線	—	
149	深鉢	6群	SK43		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、雲、礫	平行・縦位沈線 RL	外スス	
150	深鉢	18群a	SK44		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	LR	—	
151	深鉢	18群a	SK44		7.5YR6/6 橙	7.5YR4/3 褐	長、石、雲、礫	ミガキ	—	
152	深鉢	6群	SK44		2.5Y4/2 暗灰黄	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	隆帯渦巻文	外スス	
153	深鉢	4群	SK44		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	礫	縦位沈線	—	
154	深鉢	11群	SK45		10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	長、雲、礫	平行沈線 RL	外スス	
155	深鉢	11群	SK45		7.5YR4/2 灰褐	10YR5/4 にぶい黄褐	石、礫	平行沈線	外スス	
156	深鉢	26群	SK45		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/1 褐灰	長、石、礫	刻目 縦位沈線	—	
157	深鉢	7群	SK45		10YR3/2 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、雲、礫	隆帯渦巻文	外スス	
158	深鉢	6群	SK45		10YR3/2 黒褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、雲、礫	隆帯渦巻文 刺突	外スス	11群か 波状口縁
159	深鉢	7群	SK45		10YR4/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文 RL	外スス	
160	深鉢	7群	SK45		10YR3/2 黒褐	10YR3/2 黒褐	長、雲、礫	隆帯渦巻文	—	波状口縁
161	深鉢	7群	SK45		10YR3/3 暗褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文	外スス	波状口縁
162	深鉢	7群	SK45		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	隆帯渦巻文、把手 円孔、RL	外スス	波状口縁

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
163	深鉢	6群	SK45		10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長、礫	円孔、押し引き文 隆帯	—	口縁部突起
164	深鉢	12群	SK45		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、チャ、礫	加飾隆帯(刻目) LR、縦位ナデツケ	内外ススス	
195	深鉢	7群	SK49		10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y3/2 黒褐	石、礫	三角沈線文 刺突	内外ススス	
165	—	16群b	SK80		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	礫	磨り消し RL	内外ススス	
166	深鉢	20群a	SK78		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	沈線一条、撚り糸(r) 内:指頭圧痕	外ススス	波状口縁 胎土精良
167	深鉢	C類	SK78		10YR2/1 黒	2.5Y4/1 黄灰	長、石、礫	斜行沈線一条	外ススス	口縁部把手
168	深鉢	20群a	SK78		2.5Y6/2 灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	長、礫、土	沈線一条 撚り糸(r)	—	平縁口縁
169	深鉢	12群	SK78		10YR3/2 黒褐	10YR6/2 灰黄褐	長、石、礫	沈線一条 加飾隆帯(刺突)	内外ススス	
170	浅鉢	18群b2	SK78		10YR2/1 黒	10YR5/2 灰黄褐	礫	沈線一条 沈線渦巻文、LR	外ススス	胎土精良
171	深鉢	12群	SK78		10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、礫	加飾隆帯(刺突) 環状浮文(刺突)	外ススス	波状口縁
172	深鉢	12群	SK78		10YR3/1 黒褐	10YR2/2 黒褐	長、礫	加飾隆帯(刻目) 円形窩文、撚り糸(r)	外ススス	
173	深鉢	18群b2	SK78		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	白	沈線一条 LR	—	胎土精良
174	深鉢	20群b	SK78		2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/3 黄褐	長、礫	隆帯 撚り糸(l)	—	
175	深鉢	12群	SK78		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙	石、礫、土	加飾隆帯(押圧) 条痕	外ススス	
176	深鉢	18群b3	SK78		10YR2/2 黒褐	10YR2/1 黒	石、礫	沈線 無節(Rl)	内外ススス	
177	底部	18群b3	SK78		2.5Y5/3 黄褐	2.5Y4/2 暗灰黄	石、礫	無節(Lr)	内ススス	
178	深鉢	21群a	SK78		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	長、雲、礫	無節(Lr)	—	
179	深鉢	7群	SK78		2.5Y4/2 暗灰黄	10YR6/4 にぶい黄橙	石、雲、礫	平行沈線	—	
180	深鉢	11群	SK78		5YR5/4 にぶい赤褐	10YR2/1 黒	長、石、雲、礫	沈線 突瘤文	内ススス	平縁口縁
181	深鉢	18群d	SK78		10YR3/1 黒褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、土	沈線 隆帯	外ススス	
182	底部	21群a	SK78		2.5Y6/4 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄橙	礫	LR	外ススス	底面:沈線 (平行葉脈状)
183	深鉢	10群c	SK78		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR2/1 黒	長、石、礫	沈線 無節(Lr)	内ススス	
184	深鉢	7群	SK78		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	隆帯 RL	外ススス	
185	浅鉢	22群e	SK79		7.5YR3/1 黒褐	10YR5/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	沈線	外ススス	
186	深鉢	11群	SK78		10YR3/1 黒褐	N2/0 黒	長、石、雲、礫	沈線、突瘤文 LR	外ススス	
187	深鉢	11群	SK78		10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR3/1 黒褐	長、石、礫	沈線 刺突	内外ススス	
188	深鉢	19群	SK78		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長	縦位突瘤文 条痕	—	
189	浅鉢	22群b	SK78		10YR3/2 黒褐	10YR3/1 黒褐	白	ミガキ	—	黒色・赤彩 胎土精良
190	底部	21群a	SK78		7.5YR6/4 にぶい橙	2.5Y3/1 黒褐	石、礫	無節(Lr)	内コゲ	
191	深鉢	20群	SK78		10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	撚り糸(RLR)	内外ススス	
192	底部	21群a	SK78		10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	礫	無節(Rl)	—	底面:ナデ
193	深鉢	21群c	SK80		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	縦位沈線 RL	—	
194	深鉢	19群	SK80		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	長、石、礫	条痕	—	
196	深鉢	20群c	SK94		10YR3/2 黒褐	10YR7/4 にぶい黄橙	礫、土	撚り糸(r)	外ススス	波状口縁
197	深鉢	12群	SK94		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	礫	加飾隆帯(側面圧痕) 撚り糸(r)	内外ススス	波状口縁
198	深鉢	11群	SK94		10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、礫	隆帯、突瘤文 沈線、LR	内外ススス	
200	深鉢	18群a	SK97		10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、石、礫	ナデ、ミガキ	外ススス	平縁口縁
201	深鉢	18群a	SK97		2.5Y3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	ミガキ	外ススス	
202	深鉢	18群a	SK97		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	ミガキ	外ススス	
203	深鉢	18群a	SK97		7.5YR3/1 黒褐	7.5YR4/3 褐	石、雲、礫	RL	外ススス	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
204	深鉢	18群a	SK97		10YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	礫	無節 (LR)	外スス	
205	深鉢	11群	SK97		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	加飾隆帯(刺突) 突瘤文、無節(Lr)	—	
206	深鉢	18群a	SK97		10YR4/1 褐灰	2.5Y5/2 暗灰黄	石、雲、礫	ミガキ	—	
207	深鉢	19群b	SK97		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	礫	条痕	—	平縁口縁
208	深鉢	18群b3	SK97		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、礫	沈線一条 押し引き文	外スス	
209	深鉢	18群b3	SK97		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	沈線一条 無節(LR)	内スス	
210	深鉢	11群	SK97		10YR4/1 褐灰	10YR3/2 黒褐	長、雲、礫	沈線 突瘤文	内外スス	
211	深鉢	7群	SK97		10YR6/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	隆帯、磨り消し RL	内外スス	
212	把手	26群	SK97		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	沈線、磨り消し LR	—	
213	—	16群a	SK97		10YR4/1 褐灰	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、チャ	多条沈線	外スス	
214	深鉢	16群a	SK97		10YR5/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	多条沈線	外スス	
215	深鉢	6群	SK97		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、礫	縦位沈線 矢羽短沈線	内外スス	
216	深鉢	4群	SK97		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	隆帯渦巻文 斜行短沈線	内スス	
217	—	6群	SK97		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	沈線 LR	外スス	
218	深鉢	8群	SK95		10YR4/4 褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、礫	沈線、磨り消し LR	外スス	3N・3O包含層と接合
219	—	16群	SK98		10YR3/2 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	沈線一条 斜行沈線	外スス	
220	深鉢	16群b	SK98		10YR4/1 褐灰	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、角、礫	沈線一条 斜行・縦位沈線	外スス	
221	深鉢	16群a	SK98		7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	石、角、礫	弧状沈線	外スス	
222	—	18群b3	SK104		10YR3/1 黒褐	7.5YR4/3 褐	長、石、雲、礫	沈線一条	外スス	
223	深鉢	12群	SK104		10YR2/1 黒	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	加飾隆帯(押圧) ミガキ	—	
224	深鉢	12群	SK104		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、チャ、礫	加飾隆帯(刺突)	—	
225	深鉢	13群a	SK104		10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	波状加飾隆帯(刻目) 刺突	外スス	
226	蓋	23群a	SK104		5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	礫	内外ミガキ	—	
227	蓋	23群b	SK104		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、石、土	条線文	内外スス	
228	深鉢	6群	SK106		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	隆帯渦巻文	外スス	
229	深鉢	12群	SK106		10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄	長、雲、礫	加飾隆帯(刻目) 無節(Lr)	—	
230	深鉢	12群	SK106		2.5Y5/3 黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刻目) 無節(Lr)	外スス	
231	深鉢	11群	SK106		10YR3/2 黒褐	10YR2/1 黒	長、雲、礫	刺突沈線、突瘤文 沈線、LR	内外スス	
232	深鉢	20群c	SK106		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y4/1 黄灰	石、雲、礫	撚り糸(r)	内外スス	
233	深鉢	12群	SK106		2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/3 黄褐	長、石、雲、礫	隆帯	—	
234	深鉢	12群	SK106		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刻目)	外スス	
235	深鉢	11群	SK106		10YR3/1 黒褐	10YR7/4 にぶい黄橙	礫	刺突半隆帯 RL	外スス	
236	—	15群	SK106		2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/4 にぶい黄橙	礫	加飾隆帯(刻目) 沈線、無節(Lr)	—	胎土精良
237	深鉢	12群	SK106		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刻目) 無節(Lr)	—	
238	深鉢	6群	SK106		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	礫	パネル状沈線文 沈線渦巻文、短沈線	内スス	
239	深鉢	10群c	SK106		10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	石、礫	鋸歯状沈線 LR	内外スス	
240	深鉢	10群c	SK106		7.5YR2/1 黒	10YR3/2 黒褐	石、雲、礫	縦位沈線 LR	内外スス	
241	—	16群	SK116		2.5Y3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	多条沈線 LR	—	
242	—	26群	SK116		7.5YR5/3 にぶい褐	2.5Y4/1 黄灰	石、礫	ミガキ、縦位加飾 隆帯(刻目)	内スス	
244	把手	10群c	SK139		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、雲、礫	無節(Lr)	外スス	口縁部把手

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
245	深鉢	13群a	SK139		5YR4/3 にぶい赤褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、雲、礫	刺突	外スス	
243	浅鉢	22群c	SK139		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	長、石、礫	円孔、円形窩文 沈線渦巻文、LR	—	口縁部突起
246	浅鉢	22群c	SK139		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	石、礫	円孔 沈線	—	口縁部突起
247	深鉢	18群d	SK139		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	石、礫	ミガキ 隆帯	—	
248	深鉢	21群c	SK140		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	磨り消し、縦位沈線 無節(Lr)	—	
249	深鉢	21群a	SK140		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、雲、礫	沈線一条 無節(Lr)	—	平縁口縁
250	深鉢	12群	SK140		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刻目) RL	—	
251	深鉢	11群	SK142		10YR2/1 黒	10YR3/1 黒褐	長、礫	平行沈線 加飾隆帯(刻目)	—	
252	深鉢	16群c	SK142		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	弧状短沈線 沈線渦巻文	外スス	波状口縁
253	蓋	13群b1	SK142		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、礫	円形窩文 刺突	—	
254	蓋	13群b1	SK142		10YR5/4 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	刺突	外スス	
255	浅鉢	22群e	SK216		2.5Y6/4 にぶい黄	10YR3/2 黒褐	石、礫	扁平突瘤文 隆帯、注口	外スス	SI91と接合
256	浅鉢	22群e	SK216		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	礫、土	突瘤文 ミガキ	内外スス	胎土精良
257	深鉢	18群c	SK216		10YR3/1 黒褐	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	RL	外スス	平縁口縁
258	深鉢	11群	SK216		10YR6/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、チャ、礫	平行沈線 突瘤文	—	
259	深鉢	12群	SK216		10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	礫	加飾隆帯(押圧) 無節(Lr)	外スス	
260	深鉢	5群	SK216		7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	石、礫	隆帯	—	
261	深鉢	6群	SK216		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	半隆起線文	—	
262	深鉢	12群	SK216		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	加飾隆帯(円形刺突)	—	波状口縁
263	深鉢	12群	SK216		10YR3/2 黒褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、石、礫、土	加飾隆帯(円形刺突) 条痕	口外スス	
264	深鉢	11群	SK216		10YR3/2 黒褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	沈線 RL	外スス	
265	深鉢	12群	SK216		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、雲、礫	加飾隆帯(円形刺突) 突瘤文	外スス	
266	深鉢	6群	SK216		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	長、雲、礫	縦位隆帯、小渦巻文 矢羽短沈線	—	3N・3O客土と接合
267	深鉢	5群	SK216		7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、チャ、雲、礫	半隆起線渦巻文 RL	—	
269	深鉢	12群	SK216		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	礫	加飾隆帯(円形刺突) 上:無節(Lr)下:条痕	内外スス	2O・3O客土・SI91 (1層)と接合、蓋受け有
270	—	10群c	SK219		10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	沈線一条、突瘤文 LR	外スス	波状口縁
271	—	18群b2	SK219		10YR2/1 黒	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	沈線一条	外スス	玉縁口縁
272	深鉢	12群	SK219		10YR3/1 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、雲、礫	加飾隆帯(押圧) 無節(Lr)	外スス	
273	深鉢	18群b3	SK219		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	無節(Rl)	内スス	
274	深鉢	18群a	SK219		10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	RL	外スス	平縁口縁
275	深鉢	20群a	SK219		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	沈線一条 撚り糸(r)	外スス	
276	深鉢	10群b 7群	SK219		10YR4/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	長、石、礫	蕨手状沈線 RL	内スス	
277	深鉢	11群	SK219		10YR3/2 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	沈線、突瘤文 RL	外スス	
278	深鉢	11群	SK219		10YR2/1 黒	7.5YR5/3 にぶい褐	長、石、雲、礫	沈線、突瘤文 RL	外スス	
279	底部	21群c	SK219		7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、雲、礫	縦位平行沈線 RL	内スス	底面:ナデ
280	底部	21群a	SK219		2.5Y4/1 黄灰	10YR6/3 にぶい黄橙	石、チャ、雲、礫	ナデ	内コゲ	底面:ナデ
281	鉢	16群c	P26		10YR4/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	沈線二条	外スス	
282	深鉢	11群	P33		10YR5/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、角、雲、礫	刺突沈線 沈線	外スス	
283	深鉢	4群	P33		7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	隆帯渦巻文 縦位沈線	—	
284	鉢	13群a	P33		7.5YR5/3 にぶい褐	10YR3/2 黒褐	長、礫	の字状貼付文 刺突	—	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
285	鉢	4群	P33		7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	半隆帯(刻目) 短沈線	—	
286	装飾突起	3群	P33		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	弧状押し引き文	—	口縁部装飾
287	装飾突起	3群	P33		2.5Y4/1 黄灰	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	沈線	—	口縁部装飾
288	深鉢	19群	P33		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、角、チャ、礫	条痕	—	
289	深鉢	10群c	P33		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	石、角、礫	弧状沈線 無節(Rl)	—	
290	—	21群c	P39		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、雲、礫	多条沈線	外スス	
291	深鉢	5群	P39		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	ソーメン状浮文 RL	—	
292	深鉢	11群	P39		10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	石、角、雲、礫	平行・縦位沈線 隆帯、LR	外スス	
293	深鉢	11群	P51		10YR3/2 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	加飾隆帯(刻目) 沈線一条	外スス	
294	深鉢	10群c	P81		10YR3/2 黒褐	7.5YR4/3 褐	礫	縦位沈線、磨り消し RL	—	
296	深鉢	11群	P71		10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	平行沈線 突瘤文	外スス	
297	深鉢	1群	P71		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	石、チャ、礫	弧状半隆起文 押し引き文	内スス	
298	深鉢	6群	P71		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	縦位平行沈線 RL	外スス	
299	深鉢	6群	P71		10YR3/2 黒褐	2.5Y5/2 暗灰黄	礫	沈線 RL	外スス	
300	深鉢	13群a	P72		7.5YR5/3 にぶい褐	10YR3/1 黒褐	角、礫	突瘤文	内外スス	波状口縁
301	深鉢	6群	P72		10YR3/2 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、礫	隆帯 平行沈線	外スス	
302	深鉢	11群	P72		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	刺突沈線、沈線 RL	—	
303	深鉢	10群c	P83		10YR3/2 黒褐	7.5YR4/3 褐	長、雲、礫	弧状沈線、磨り消し RL	外スス	
304	深鉢	16群	P83		10YR3/1 黒褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	斜行沈線 LR	外スス	
305	深鉢	6群	P83		10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、角、礫	沈線 RL	外スス	
306	深鉢	6群	P83		10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	隆帯渦巻文	—	
307	—	26群	P85		2.5Y3/1 黒褐	2.5Y7/3 浅黄	長、雲、礫	加飾隆帯(刻目) 弧状沈線	—	
308	深鉢	7群	P87		10YR6/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄橙	長、石、礫	隆帯 RL	—	
309	深鉢	7群	P89		2.5Y5/3 黄褐	10YR6/2 灰黄褐	石、角、礫	隆帯渦巻文	外スス	
310	深鉢	19群	P100		7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、礫	条痕	外スス	
311	深鉢	16群a	P100		10YR4/1 褐灰	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	多条沈線	外スス	
312	深鉢	16群b	P105		10YR4/1 褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐	長、雲、礫	三角沈線文 斜行短沈線	外スス	
313	底部	9群	P105		10YR3/2 黒褐	10YR2/2 黒褐	石、礫	楕円隆帯 ミガキ	—	赤彩、胎土精良 底面:ミガキ
314	深鉢	21群a	P114		2.5Y3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	無節(Lr)	外スス	
315	深鉢	11群	P114		10YR3/1 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	礫	沈線二条 突瘤文	外スス	
316	—	26群	P114		10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/2 黒褐	礫	沈線	外スス	
317	深鉢	16群a	P114		2.5Y5/2 暗灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	多条沈線 LR	外スス	
318	深鉢	21群a	P115		2.5Y3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	LR	—	平縁口縁
319	深鉢	21群a	P115		10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	無節(Lr)	—	平縁口縁
320	深鉢	7群	P115		10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	長、雲、礫	隆帯、沈線 RL	外スス	
321	深鉢	13群a	P115		7.5YR6/6 橙	2.5Y7/2 灰黄	長、雲、礫	刺突	—	
322	深鉢	21群c	P115		7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	雲、礫	縦位沈線 無節(Lr)	外スス	
323	深鉢	7群	P131		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、雲、礫	隆帯、沈線 RL	—	
324	深鉢	18群b2	P143		10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	雲、礫	沈線	外スス	
325	深鉢	11群	P143		10YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒褐	長、石、雲、礫	沈線渦巻文 沈線	外スス	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
326	深鉢	4群	P143		10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	隆帯渦巻文 斜行短沈線	—	
327	深鉢	11群	P143		10YR4/2 灰黄褐	2.5Y4/2 暗灰黄	礫	加飾隆帯(刺突)、沈線 突瘤文、無節(Lr)	内外ススス	
328	深鉢	16群a	P143		10YR3/1 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、角、礫	沈線 RL	外ススス	
329	鉢	16群c	P178		10YR4/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	長、礫	加飾隆帯(刻目) 沈線一条	—	
330	深鉢	21群d	P178		10YR5/4 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	石、角、礫	LR	内外ススス	
331	鉢	16群c	P178		10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	石、礫	円形窩文 弧状沈線文	—	
332	鉢	16群c	P178		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/4 褐	長、礫	円形窩文、沈線 押し引き文	—	
333	深鉢	21群a	P189		10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	無節(Lr)	外ススス	
334	深鉢	7群	P189		7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、礫	沈線 無節(Lr)	—	
336	深鉢	12群	P203		10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刺突) 無節(RL)	外ススス	
337	深鉢	7群	P205		10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	長、礫	加飾隆帯(刻目) 隆帯、LR	—	
338	深鉢	6群	P228		10YR5/4 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	礫	隆帯 短沈線	—	
339	深鉢	6群	P228		10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	隆帯渦巻文 斜行短沈線	—	
340	深鉢	6群	4P	沢上層	10YR4/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	石、礫	隆帯剣先渦巻文 斜行短沈線	内外ススス	トンボ眼鏡状突起
341	深鉢	10群b	2M・2N	沢上層 客土	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、雲、礫	縦位沈線、磨り消し LR	外ススス	
342	浅鉢	22群b	2M	沢上層	10YR3/1 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	礫	ミガキ	—	黒色・赤彩 胎土精良
343	鉢	15群	2M	沢上層	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、雲、礫	沈線 RL	—	波状口縁
344	鉢	15群	2M・2N	沢上層	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	長、礫	沈線 RL	外ススス	胎土精良
345	鉢	16群c	4N	沢上層	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	石、雲、礫	三角沈線文 円形窩文、沈線	—	
346	鉢	16群a	4O	沢上層	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	多条沈線	外ススス	
347	深鉢	21群a	4N	沢上層	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/6 明黄褐	角、チャ、礫	RL	外ススス	
348	鉢	16群c	4N	沢上層	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	円形窩文 円形・弧状沈線	—	
349	鉢	26群	4O	沢上層	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目) 円形沈線文、把手	—	波状口縁
350	深鉢	11群	2M	沢上層 客土	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/4 にぶい黄褐	礫	横ハ字状短沈線 隆帯、縦位突瘤文	外ススス	蓋受け有り 底面:ミガキ
351	装飾突起	26群	3N	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	刺突 円孔	—	口縁部突起
352	深鉢	3群	3M	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	鶏頭冠、隆帯 短沈線	—	
353	深鉢	3群	2M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	長、雲、礫	鶏頭冠、円形窩文 隆帯、短沈線	—	
354	深鉢	3群	2M・3M	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	トンボ眼鏡状突起 隆帯、短沈線	外ススス	口縁部突起
355	深鉢	3群	3N	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、雲、礫	トンボ眼鏡状突起 隆帯渦巻文、沈線	外ススス	
356	装飾突起	3群	3M	客土	2.5Y3/2 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	長、石、雲、礫	透かし 渦巻文	外ススス	
357	装飾突起	3群	3M	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文	—	筒状
358	深鉢	5群	2M	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	長、石、礫	半隆起線文	内ススス	
359	深鉢	5群	3M	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙	石、雲、礫	円形浮文、刺突 多条沈線、RL	外ススス	
360	深鉢	5群	3M	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	多条沈線	内外ススス	
361	深鉢	5群	西開渠	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、礫	隆帯	外ススス	
362	深鉢	6群	3N	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫、	半隆起線文 RL	外ススス	
363	深鉢	6群	3N	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫、	渦巻状半隆起線文 RL	外ススス	
364	深鉢	6群	3N	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫、	渦巻状半隆起線文 RL	—	
365	深鉢	6群	3N	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	長、石、雲、礫、	渦巻状半隆起線文 RL	—	
366	深鉢	6群	3N	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	口縁上面:隆帯継ぎ手渦巻文	外ススス	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
367	深鉢	6群	3N	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	石、礫	隆帯	外スス	
368	深鉢	6群	2M	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文 透かし	外スス	口縁部突起
369	深鉢	6群	3M	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	石、礫	隆帯渦巻文、刺突 矢羽・斜行短沈線	内外スス	
370	深鉢	6群	3N	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR4/1 褐灰	長、雲、礫	縦位隆帯 矢羽短沈線	内外スス	
371	深鉢	6群	3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	礫	隆帯渦巻文、刺突 短沈線、RL	—	口縁部突起
372	深鉢	6群	3M	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	長、石、礫	隆帯剣先渦巻文 斜行短沈線	内外スス	
373	深鉢	6群	3M	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文 矢羽・斜行短沈線	外スス	口縁部突起
374	深鉢	6群	2M・3M	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	隆帯渦巻文、沈線 斜行短沈線	—	
375	深鉢	6群	3N	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、雲、礫	隆帯渦巻文、沈線 縦位短沈線	内外スス	
376	深鉢	4群	2M・3M	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、礫	隆帯渦巻文、刺突 縦位・矢羽短沈線	内外スス	
377	深鉢	4群	3N	客土	7.5YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	石、雲、礫	加飾隆帯(刻目)、隆帯 渦巻文、縦位短沈線	外スス	
378	深鉢	7群	3M	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文 RL	外スス	
379	深鉢	7群	3N	客土	5YR4/2 灰褐	5YR4/3 にぶい赤褐	長、雲、礫	楕円・波状沈線 磨り消し、無節(Lr)	外スス	
380	深鉢	7群	2M・3M 3O・4O	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	石、礫	楕円沈線、磨り消し 沈線一条、LR	—	胎土精良
381	深鉢	7群	3M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、雲、礫	沈線、磨り消し 無節(Lr)	外スス	
382	両耳付壺	9群	2M・3M 3O・4O	客土	7.5YR2/2 黒褐	7.5YR3/1 黒褐	礫	隆帯 ミガキ	—	赤彩 胎土精良
383	鍔付き浅鉢	9群	2M	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	石、礫	沈線渦巻文 沈線、LR	外スス	
384	有孔鍔付	9群	4O	客土	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	チャ、雲、礫	把手	—	赤彩
385	—	9群	3M	客土	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、角、礫	隆帯	—	赤彩
386	有孔鍔付	9群	3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	沈線	—	赤彩
387	有孔鍔付	9群	3M	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	沈線	—	赤彩
388	—	9群	4N	客土	2.5Y3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	石、礫	隆帯	内外スス	
389	—	9群	4O	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR4/3 褐	雲、礫	隆帯	—	赤彩
390	—	9群	5P	客土	10YR2/1 黒	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	隆帯	内外スス	赤彩
391	器台か	9群	3M	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	長、角、雲、礫	パネル状沈線文 透かし	—	
392	器台か	9群	3M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y3/1 黒褐	長、礫	パネル状沈線文 透かし	—	
393	深鉢	10群b	3M	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、雲、礫	隆帯 RL	外スス	
394	深鉢	10群b	3M	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	礫	沈線渦巻文 LR	外スス	波状口縁
395	深鉢	10群b	3L	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	礫	縦位沈線 RL	内外スス	底面:ナデ
396	深鉢	10群b	2M・2N	客土	10YR3/1 黒褐	7.5YR4/3 褐	長、石、礫	沈線渦巻文 LR	外スス	
397	深鉢	10群b	2M・2N	客土	10YR3/1 黒褐	7.5YR4/2 灰褐	長、石、礫	沈線渦巻文 LR	外スス	
398	深鉢	10群b	3M	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、礫	隆帯 LR	—	
399	深鉢	10群b	3M	客土	5YR5/6 明赤褐	2.5Y2/1 黒	長、石、雲、礫	沈線、隆帯 LR	—	胎土精良
400	鉢	10群b	2M・3M	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、チャ、礫	隆帯渦巻文 沈線、RL	内外スス	
401	鉢	10群b	3M	客土	10YR4/1 褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐	礫	隆帯 RL	—	
402	鉢	10群b	3M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	長、礫	隆帯 RL	—	
403	深鉢	10群b	3N	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	隆帯 RL	外スス	
404	深鉢	10群c	3M	客土	10YR2/2 黒褐	10YR2/2 黒褐	石、雲、礫	隆帯、沈線 LR	内外スス	
405	深鉢	10群c	2L	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	長、礫	隆帯 RL	内スス	
406	鉢	10群c	3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y4/2 暗灰黄	雲、礫	隆帯 RL	—	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
407	—	10群c	3M	客土	10YR3/2 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	石、雲、礫	隆帯 RL	外スス	
408	深鉢	10群c	3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、礫	沈線、磨り消し RL	外スス	
409	鉢	10群c	西開渠	客土	7.5YR4/2 灰褐	2.5Y4/2 暗灰黄	長、石、礫	沈線、突瘤文 LR	外スス	
410	深鉢	10群c	4O	客土	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR4/2 灰黄褐	白、石、礫	鋸歯状沈線 磨り消し、LR	内スス	
411	深鉢	10群c	2L	客土	10YR3/1 黒褐	10YR2/1 黒	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刺突) 鋸歯状沈線、LR	内外スス	
412	深鉢	10群c	3M	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目)、RL 円形窩文、縦位隆帯	外スス	
413	浅鉢	22群b	3M	客土	10YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	礫	ミガキ	—	黒色・赤彩 胎土精良
414	浅鉢	22群b	3M	客土	10YR3/2 黒褐	10YR3/2 黒褐	石、角、礫	ミガキ	—	黒色・赤彩 胎土精良
415	浅鉢	22群b	3M	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR2/2 黒褐	長、石、礫	ミガキ	—	黒色・赤彩 胎土精良
416	浅鉢	22群b	2O・3O	客土	10YR4/6 褐	10YR3/2 黒褐	石、礫	ミガキ	—	黒色・赤彩 胎土精良
417	深鉢	11群	3M	客土	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/3 にぶい褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目)、沈線 突瘤文、LR	外スス	
418	深鉢	11群	3N	客土	10YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	隆帯渦巻文 刺突、LR	内外スス	
419	深鉢	11群	3M・3N	客土	10YR3/2 黒褐	10YR3/2 黒褐	長、石、雲、礫	沈線、突瘤文 LR	内外スス	
420	深鉢	11群	3N	客土	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	石、雲、礫	沈線、突瘤文 LR	内外スス	
421	深鉢	11群	3N	客土	10YR3/1 黒褐	10YR2/1 黒	石、礫	加飾隆帯(刻目) 沈線、刺突、突瘤文	内外スス	
422	深鉢	11群	3N	客土	2.5Y3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	沈線、突瘤文 LR	内外スス	
423	深鉢	11群	3N	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	角、礫	沈線、突瘤文 LR	外スス	
424	深鉢	11群	3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、角、雲、礫	沈線 LR	—	
425	深鉢	11群	3M	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	沈線 RL	—	
426	深鉢	11群	3M	客土	10YR3/1 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	礫	加飾隆帯(刻目) 沈線、隆帯、LR	内外スス	
427	深鉢	11群	3N	客土	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、礫	沈線、突瘤文 LR	外スス	
428	深鉢	11群	2M・3M	客土	2.5Y3/2 黒褐	7.5YR5/3 にぶい褐	角、礫	加飾隆帯(刺突) 刺突	外スス	
429	深鉢	11群	3N	客土	10YR3/2 黒褐	10YR4/3 にぶい黄褐	長、石、雲、礫	沈線、刺突沈線 LR	内外スス	
430	深鉢	11群	3N	客土	10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	沈線 突瘤文	外スス	
431	深鉢	11群	3P	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	石、礫	隆帯 短沈線	—	
432	深鉢	11群	2M・3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、雲、礫	沈線 短沈線	外スス	
433	深鉢	11群	3N	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	長、石、礫	沈線 突瘤文	外スス	
434	深鉢	11群	3M	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR4/2 灰黄褐	長、石、チャ、雲、礫	加飾隆帯(刺突) 無節(Lr)	内スス	
435	深鉢	11群	3M	客土	7.5YR2/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、雲、礫	加飾隆帯(刻目) 沈線、LR	内外スス	
436	深鉢	11群	2M・3M	客土	10YR3/2 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目)、沈線 LRL、沈線渦巻文	外スス	波状口縁 把手
437	—	11群	2L	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR3/1 黒褐	角、礫	横ハ字状短沈線 沈線	内スス	
438	深鉢	12群	2N	客土	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/4 褐	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刻目) 撚り糸(r)	—	
439	深鉢	12群	3N	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	長、石、チャ、礫	加飾隆帯(刺突) 撚り糸(r)	内外スス	
440	深鉢	12群	4O	客土	10YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目)	内外スス	
441	深鉢	12群	2L	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	長、石、礫	加飾隆帯(刺突)	外スス	
442	深鉢	12群	2M・3M	客土	10YR3/2 黒褐	7.5YR4/3 褐	長、石、礫	加飾隆帯(刻目) 円形浮文(刻目)	外スス	波状口縁
443	深鉢	12群	3M	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲	加飾隆帯(刻目)	外スス	
444	深鉢	12群	2M・3M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR3/2 黒褐	長、石、雲、礫	波状加飾隆帯(圧痕 LR)、LR	内外スス	口縁上端面:LR
445	深鉢	12群	2M・3M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	加飾隆帯(刺突)	内スス	
446	深鉢	12群	2L	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	礫	加飾隆帯(圧痕RL) 突瘤文、無節(Rl)	—	波状口縁

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
447	深鉢	12群	2M・3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	石、礫	加飾隆帯(刺突) 刺突、条痕	外スス	
448	深鉢	13群a	2M・3M	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	石、礫	花弁状刺突	内外スス	把手
449	深鉢	13群a	3M	客土	10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	礫	花弁状刺突	内外スス	
450	深鉢	13群a	3M	客土	7.5YR4/2 灰褐	5YR4/4 にぶい赤褐	礫	刺突 RL	外スス	把手
451	深鉢	13群a	3N	客土	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	石、礫	加飾隆帯(刺突) 刺突	—	
452	深鉢	13群a	4N	客土	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	礫	刺突	外スス	把手
453	深鉢	13群a	3M	客土	2.5Y3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	礫	刺突	内外スス	把手
454	深鉢	13群a	3M	客土	2.5Y3/2 黒褐	2.5Y3/2 黒褐	雲、礫	刺突	外スス	把手
455	深鉢	13群a	4M	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	角、礫	刺突	内外スス	把手
456	深鉢	13群a	4N	客土	10YR5/2 灰黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄	礫	押し引き沈線文	外スス	把手
457	鉢	13群a	4N	客土	2.5Y3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	雲、礫	円形浮文、刺突 沈線	内外スス	
458	蓋	13群b	4O	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	刺突 沈線	内外スス	
459	蓋	13群b	5O	包含層	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	礫	刺突 沈線	外スス	
460	蓋	13群b	3N	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	角、礫	刺突、隆帯 沈線	—	
461	蓋	13群b	4N	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	礫	刺突 沈線	—	
462	蓋	13群b	3M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	角、礫	加飾隆帯(刺突)	内スス	
463	蓋	13群b	4O	客土	2.5Y3/2 黒褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石、角、礫	加飾隆帯(刺突) 沈線、刺突	—	
464	蓋	13群b	4O	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	角、礫	加飾隆帯(刺突) 沈線、無節(Lr)	—	
465	蓋	13群b	2M・3M	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、雲、礫	加飾隆帯(刺突)	内外スス	摘み
466	蓋	23群a	3M	客土	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、礫	沈線	—	
467	蓋	23群a	排土	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	2.5Y3/1 黒褐	礫	ナデ ミガキ	—	
468	蓋	23群a	2M・3M	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、雲、礫	ナデ	—	摘み
469	深鉢	15群	2M	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	雲、礫	沈線、磨り消し LR	外スス	
470	鉢	15群	2M・2N	客土	2.5Y3/2 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	礫	沈線、磨り消し RL	—	胎土精良
471	鉢	15群	3O 2M ・2N	客土	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	石、礫	沈線、磨り消し 隆帯、RL	内外スス	胎土精良
472	鉢	15群	3O 2M ・2N	客土	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	礫	沈線、磨り消し 隆帯、RL	外スス	胎土精良
473	深鉢	14群	3M・3N	客土	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/4 褐	長、石、礫	ミガキ 縦位腕骨文	外スス	波状口縁
474	深鉢	26群	2M・3M	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	礫	竹管文、沈線 LR	—	胎土精良
475	蓋	26群	2L	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、礫	縦位竹管文	内外スス	
476	深鉢	26群	2M・3M	客土	10YR4/1 褐灰	10YR6/4 にぶい黄橙	礫	竹管文、沈線一条 LR	—	胎土精良
477	深鉢	16群a	5P	客土	10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	沈線渦巻文	内外スス	口縁部突起
478	鉢	16群c	4P・5P	客土	10YR3/1 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、礫	多条沈線、円形窩文 LR	内外スス	口縁部突起
479	深鉢	16群c	5O	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、角、礫	沈線 刺突	外スス	
480	鉢	16群c	4N	客土	10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	円形窩文 パネル状・弧状沈線	外スス	
481	鉢	16群c	4O	客土	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、礫	円形窩文 半円弧沈線	外スス	波状口縁
482	鉢	16群c	4M	客土	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	石、礫	円形浮文・窩文	内外スス	口縁部突起
493	深鉢	20群	3O・4O	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	白、赤、礫	沈線、磨り消し 撚り糸(r)	内スス	
483	鉢	16群b	5O	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	白、石	斜行沈線文 磨り消し、LR	外スス	
484	—	B類	4N	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y4/2 暗灰黄	長、石、礫	沈線、隆帯 円形浮文	—	
485	浅鉢	22群a	4N	客土	10YR3/2 黒褐	7.5YR4/4 褐	長、石、礫	ミガキ 鍔部:沈線文	外スス	

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	分類 器形	分類 群・類	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	消費痕跡	備考
486	浅鉢	22群d	3M	客土	10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	長、礫	隆帯渦巻文	外スス	波状口縁
487	浅鉢	22群e	2L	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	長、角、礫	沈線 刺突	—	把手、波状口縁
488	浅鉢	22群e	2L	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	長、石、礫	沈線二条、刺突 円形浮文	外スス	
489	壷か	A類	2M・3M	客土	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y3/1 黒褐	角、礫	沈線渦巻文 刺突、円形窩文	外スス	把手
490	注口	24群	2M・3M	客土	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	沈線 LR	外スス	
491	注口	24群	3N	客土	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	角、チャ、礫	ミガキ	外スス	
492	—	26群	排土	客土	2.5Y2/1 黒	2.5Y2/1 黒	礫	ミガキ	内外スス	把手
494	深鉢	20群	3N	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	刺突 撚り糸(l)	—	
495	深鉢	20群	3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、角、雲、礫、土	沈線一条 撚り糸(r)	内外スス	口縁部突起
496	深鉢	19群a	2M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	沈線一条 条痕	外スス	
497	深鉢	19群a	3N	客土	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、雲、礫	沈線一条 条痕	—	
498	深鉢	19群a	3M	客土	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、石、雲、礫	沈線一条 条痕	外スス	
499	深鉢	19群a	3M	客土	2.5Y4/1 黄灰	10YR5/4 にぶい黄褐	礫	沈線一条 条痕	外スス	
500	深鉢	19群b	2N	客土	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	石、雲、礫	条痕	外スス	
501	深鉢	19群b	3M・3N	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	礫	条痕	外スス	
502	深鉢	19群b	4N	客土	10YR2/1 黒	10YR5/4 にぶい黄褐	長、礫	条痕	内外スス	
503	深鉢	19群b	3N	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	石、礫	条痕	外スス	
504	深鉢	19群b	2M・3M	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y3/2 黒褐	長、石、礫	条痕	—	
505	深鉢	18群c	3M	客土	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石、礫	円孔 無節(Rl)	外スス	波状口縁
506	深鉢	18群b1	3M	客土	10YR5/4 にぶい黄褐	2.5Y7/3 浅黄	長、石、雲、礫	側面圧痕(LRL) RL	—	波状口縁
507	深鉢	18群b1	4N	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	長、石、雲、礫	側面圧痕(RLr) RL	—	波状口縁
508	深鉢	18群c	3N	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	石、角、礫	円形窩文、沈線 RL	—	波状口縁
509	深鉢	18群c	3R	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、石、礫	無節(Lr)	—	波状口縁
510	深鉢	21群b	3N	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y5/2 暗灰黄	長、石、チャ、礫	刺突 LR	外スス	
511	深鉢	18群a	2M・3M	客土	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/2 灰褐	角、チャ、礫	RL	外スス	
512	深鉢	18群a	4N	客土	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長、角、礫	LR	内外スス	
513	深鉢	21群a	2M・2N	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	石、雲、礫	LR	外スス	
514	深鉢	26群	3M	客土	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	礫	加飾隆帯(円形刺突) 円形刺突、沈線	内スス	波状口縁 把手か、無節(Lr)
515	深鉢	26群	3M	客土	10YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	礫	加飾隆帯(円形刺突) 円形刺突、無節(Lr)	内外スス	波状口縁 把手
516	深鉢	21群a	3N	客土	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	長、角、礫	LR	内外スス	
517	—	26群	2M・3M	客土	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	礫	ナデ	外スス	把手か
518	鉢	17群	3M	客土	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y2/1 黒	石、礫	雲形沈線文 磨り消し、LR	—	赤彩
519	土皿	25群d	3L	客土	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y5/3 黄褐	長、礫	ナデ	—	
520	土棒	25群c	4N	客土	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	チャ、礫	—	—	
521	耳飾り	25群b	3O	客土	10YR7/4 にぶい黄橙	10R6/6 赤橙	礫	—	—	滑車型
522	粘土塊	25群e	排土	客土	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	ナシ	指押さえ	—	

土製円盤 (25 群 a) 観察表

長:長石 石:石英 角:角閃石 チャ:チャート 雲:雲母 礫:砂礫 土:土器片

報告番号	出土位置 遺構・位置	出土位置 層位	法量mm 直径	法量mm 厚さ	色調 外面	色調 内面	胎土混入物	文様	使用痕		備考
42	SI46 P5		50	16	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y3/1 黒褐	礫	縦位沈線 LR			素材:大木8b ～沖ノ原式
67	SI91－P1		33	12	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	礫	無節 (Lr)			
102	SB1 P187		36	9	7.5YR4/3 褐	7.5YR3/3 暗褐	礫	LR			
199	SK94		41	9	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y4/1 黄灰	石、礫	ナデ			素材:底部
268	SK216		52	9	10YR6/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	長、礫	沈線、磨り消し LR	◎	◎	素材:称名寺式 最古段階
295	P81		37	11	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	石、礫	LR	○		
335	P189		28	9	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	石、角、礫	沈線 RL	△		素材:大木9式か
523	不明	客土	28	12	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	石、礫	RL	△		
524	3N	客土	36	8	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	角、チャ、礫	LR			
525	2L	客土	27	9	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	長、石、礫	LR			
526	3N	客土	37	10	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、角、礫	RL			
527	4Q・5Q	客土	44	12	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR4/1 褐灰	礫	－	○	?	
528	2M・3M	客土	41	14	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR4/6 褐	長、礫	ナデ			素材:底部片
529	2L	客土	38	14	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長、角、礫	RL			
530	3M	客土	46	12	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	長、礫	RL			
531	4N	客土	36	10	10YR4/1 褐灰	7.5YR4/2 灰褐	角、礫	沈線 LR		?	素材:大木8b式
532	不明	客土	40	12	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐	長、礫	縦位沈線 RL			素材:大木8b式
533	3N	客土	50	11	2.5Y3/2 黒褐	7.5YR5/6 明褐	長、雲、礫	RL			
534	不明	客土	43	9	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	長、礫	LR			
535	4P・5P	客土	45	12	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	礫	RL			
536	2M・3M	客土	46	15	10YR6/3 にぶい黄橙	2.5Y6/2 灰黄	長、礫	ナデ			素材:底部片

使用痕:◎著しい ○有り △僅か ？不明瞭

石器観察表

報告番号	種別	遺存状況	石材	出土地点・遺構名 グリッド	遺構番号	層位	法量 (mm) 長さ	幅	厚さ	重さ (g)	備考
538	石鏃	完	黒曜石	3P	SK97		17.4	12.6	2.8	0.5	凹基無茎
539	石鏃	完	鉄石英		SK123	覆土下辺	22.9	13.8	4.1	1.3	凹基無茎
540	石鏃	完	頁岩		SK4	検出面	18.4	13.2	4.9	1.0	平基無茎 SI46
541	石鏃	完	黒曜石	50		包含層	21.9	11.2	2.7	0.5	凹基無茎
542	石鏃	完	鉄石英	4L,4M		客土	19.4	10.2	2.3	0.4	凹基無茎
543	石鏃	完	鉄石英	4・5M		客土	19.4	13.7	3.4	0.7	凹基無茎
544	石鏃	欠	鉄石英	3N		沢上層	24.6	15.6	3.9	1.5	凹基無茎
545	石鏃	完	黒曜石	3R		客土	21.6	15.3	4.2	0.9	凹基無茎
546	石鏃	完	頁岩	4・5M		客土	23.3	13.0	3.7	1.0	平基無茎
547	石鏃	完	鉄石英	30		客土	16.8	12.4	2.5	0.5	平基無茎
548	石鏃	完	鉄石英	4M		客土	18.6	13.7	4.0	0.8	平基無茎
549	石鏃	完	頁岩	4M		客土	20.7	14.0	5.6	1.8	平基無茎
550	石鏃	欠	鉄石英	3R		客土	27.5	17.2	2.9	1.1	凸基有茎 (中茎欠損)
551	石鏃	完	頁岩	3N		客土	29.3	12.7	5.3	1.4	尖基
552	石錐	完	鉄石英		P110	覆土	51.8	17.9	10.1	8.8	棒状 SI46
553	石匙	完	頁岩	3P	SK97	覆土	53.9	17.9	5.3	5.3	縦長、被熱
554	石匙	完	頁岩	5N		客土	76.4	32.7	13.4	21.1	縦長、つまみ部に付着物
555	石匙or不定型	完	頁岩	3R		客土	77.8	24.0	8.5	14.0	浅い抉り
556	不定型	-	メノウ	30		客土	97.3	23.8	10.2	31.4	側縁剥離
557	不定型	-	鉄石英		SK104	覆土	63.9	30.2	14.7	25.4	端部剥離
558	不定形石器	縦長	頁岩	5N		客土	42.0	39.2	5.3	8.3	片側縁に使用痕　端部にﾘﾀｯﾁ
559	不定型	-	鉄石英			客土	30.7	21.5	7.3	4.8	側縁剥離
560	不定型	-	凝灰岩	排土			40.7	23.0	16.4	14.1	両面剥離
561	不定形石器	横長	頁岩		P33	覆土	43.3	74.2	12.3	45.5	片縁部に連続剥離 (粗) 礫剥片
562	不定形石器	半欠	鉄石英	-		客土	19.3	22.0	6.0	2.5	片面調整
563	不定形石器	半欠	鉄石英	-		客土	24.5	24.2	4.2	2.3	両側縁に歯こぼれ
564	不定型	-	安山岩		SI91-P8	覆土	80.5	44.9	11.4	46.8	側縁剥離
565	不定形石器	半欠	流紋岩	-		客土	26.4	44.8	11.4	9.3	両側縁に抉りを入れ尖頭状を呈す (片面)
566	不定形石器	棒状	黒曜石	5N		客土	30.6	15.3	10.9	7.2	片側縁に不連続剥離
567	不定形石器	縦長	流紋岩	4M		沢上層	55.3	47.0	9.7	23.4	両側縁に連続剥離調整
568	不定形石器	完	頁岩	3M		客土	45.4	37.7	10.7	16.8	片側縁に連続剥離 (片面)

報告番号	種別	遺存状況	石材	出土地点・遺構名			法量（mm）			重さ（g）	備考
				グリッド	遺構番号	層位	長さ	幅	厚さ		
569	不定形石器	縦長	流紋岩	3M		客土	59.3	44.6	13.7	34.6	片側縁下端部に粗い連続剥離あり
570	不定形石器	縦長	頁岩	3M		客土	77.9	32.6	19.0	52.9	片側縁に連続両面剥離　礫剥片
571	不定形石器	縦長	頁岩	2M・3M		客土	64.3	37.8	9.9	25.5	下端部に連続剥離
572	不定形石器	半欠	頁岩	2L		客土	49.2	40.1	8.0	15.1	片側縁に両面連続剥離調整
573	不定形石器	縦長	頁岩	30・30P		客土	105.8	109.4	20.0	239.0	端部に粗い剥離　礫皮（大）
574	不定形石器	縦長	頁岩	4N		客土	105.8	93.4	20.0	208.0	片側縁と端部に粗い剥離（連続） 礫皮（大）
575	板状石器	完	粘板岩	3M		客土	42.2	53.7	10.7	25.0	三脚状
576	板状石器	完	頁岩	4N		客土	43.8	52.9	15.1	32.4	三脚状
577	板状石器	完	結晶片岩		SI91-P1	覆土	49.2	73.4	11.2	52.5	楕円形
578	板状石器	完	粘板岩	3M		客土	58.8	43.5	11.7	52.7	楕円形
579	板状石器	完	粘板岩	2M		客土	31.6	41.3	6.5	11.3	楕円形
580	板状石器	完	砂岩		SK98	覆土	35.6	42.0	8.1	16.6	不整楕円形
581	板状石器	完	砂岩	3R		客土	39.4	51.5	12.0	38.9	楕円形
582	板状石器	完	砂岩	2M・3M		客土	43.3	58.1	12.7	42.2	楕円形
583	板状石器	完	粘板岩	3M		客土	47.4	65.2	11.2	54.2	楕円形
584	板状石器	完	安山岩	3L		客土	53.2	64.0	10.4	56.1	楕円形
585	板状石器	完	結晶片岩	4N		客土	51.2	57.3	15.7	70.9	楕円形
586	板状石器	半欠	頁岩	3M		客土	46.8	57.4	16.4	69.4	楕円形
587	打製石斧	完	千枚岩		P113	覆土	101.6	53.8	13.4	75.3	側縁剥離調整（撥形）
588	打製石斧	完	粘板岩	-		-	95.7	39.8	14.9	69.0	両面剥離調整（短冊形）
589	打製石斧	完	安山岩	3R		客土	90.9	52.1	22.7	124.9	側縁・刃部剥離調整（撥形）
590	打製石斧	完	緑泥片岩	3R		客土	112.7	55.5	23.1	257.0	側縁・刃部剥離調整（短冊形）
591	打製石斧	完	緑泥片岩	3P		客土	127.0	60.4	24.1	307.0	側縁・刃部剥離調整（短冊形）
592	打製石斧	完	粘板岩	30		客土	135.7	42.0	11.6	81.0	両面剥離調整（短冊形）
593	打製石斧	完	緑泥片岩	2L		客土	143.5	49.1	26.0	308.0	側縁・刃部剥離調整（短冊形）
594	打製石斧	完	粘板岩	3N		客土	135.9	45.6	15.8	103.0	両面剥離調整（短冊形）
595	打製石斧	完	緑泥片岩	3M		客土	131.8	55.7	26.4	326.0	側縁・刃部剥離調整（短冊形）
596	打製石斧	完	頁岩	2M・3M		客土	143.7	47.8	27.3	223.0	側縁・刃部剥離調整（撥形）
597	打製石斧	完	頁岩	2M・3M		客土	131.1	79.4	33.2	362.0	側縁・刃部剥離調整（変形撥形）
598	打製石斧	完	粘板岩	西開渠		客土	85.3	42.8	12.3	55.0	側縁・刃部剥離調整（撥形）
599	打製石斧	完	粘板岩	3M		客土	82.6	70.2	11.1	99.3	側縁・刃部剥離調整（撥形）
600	打製石斧	完	粘板岩	3M		客土	89.5	46.9	17.6	82.0	側縁・刃部剥離調整（撥形）
601	打製石斧	完	粘板岩	-		-	98.8	50.3	12.6	82.0	側縁・刃部剥離調整（抉り）
602	打製石斧	完	粘板岩	-		-	89.6	70.9	24.0	146.0	側縁・刃部剥離調整（抉り）
603	打製石斧	完	粘板岩	3M		客土	109.1	42.8	14.3	69.0	側縁・刃部剥離調整（抉り）
604	打製石斧	完	粘板岩	4P、5P		客土	132.2	93.6	16.7	260.0	側縁剥離調整（抉り）
605	打製石斧	完	粘板岩	排土			134.4	66.1	18.8	194.0	側縁・刃部剥離調整（抉り）
606	磨製石斧	完	蛇紋岩	50		客土	34.7	20.0	6.2	7.1	石のみ
607	磨製石斧	完	蛇紋岩	30		客土	55.0	18.2	6.6	10.9	
608	磨製石斧	完	蛇紋岩	4P・5P		客土	76.8	45.4	21.8	130.0	
609	磨製石斧	完	頁岩	3P		客土	67.3	34.7	12.9	42.4	
610	磨製石斧	完	蛇紋岩	西開渠			78.7	43.0	18.9	95.3	
611	磨製石斧	完	蛇紋岩	排土			113.7	48.0	23.2	205.0	
612	磨製石斧	完	輝緑石	3L		客土	146.8	66.7	34.7	552.0	
613	石錘	完	安山岩	3L・3M		客土	48.7	42.5	13.5	42.7	剥離調整２極一対　タール付着
614	石錘	完	頁岩	2M・3M		客土	45.0	40.5	13.0	33.9	剥離調整２極一対
615	石錘	完	安山岩	3M		客土	52.0	45.0	13.0	45.7	
616	石錘	完	凝灰岩	排土			56.7	52.1	15.3	65.6	剥離調整２極一対
617	石錘	完	粘板岩	40		客土	49.5	24.7	11.2	19.5	剥離調整２極一対
618	石錘	完	安山岩	2M・3M		客土	71.0	47.7	16.5	81.6	剥離調整２極一対
619	石錘	完	花崗岩	4M・5M		客土	48.0	41.0	14.0	29.0	
620	石錘	完	砂岩	5M		客土	50.0	43.0	11.0	28.9	一条の刻線が半周
621	石錘	完	流紋岩	3M		覆土	57.0	35.0	11.0	35.6	
622	石錘	完	安山岩	30		客土	81.7	84.7	21.0	202.0	剥離調整２極一対
623	磨石類	完	安山岩		P164	覆土	109.0	72.3	49.0	556.0	凹石　下端史部敲打 SB３
624	磨石類	完	砂岩	50		客土	116.4	96.6	37.1	595.0	凹石
625	磨石類	完	安山岩	4M		客土	119.9	89.4	60.0	865.0	凹石
626	磨石類	完	輝緑石	4N		客土	90.4	81.6	36.1	380.0	凹石
627	磨石類	完	花崗岩	排土			137.0	77.0	55.2	1,002.0	全面に使用痕
628	磨石類	完	砂岩	2M		客土	272.0	86.0	65.0	2,160.0	敲石
629	磨石類	完	花崗岩	2L		客土	141.8	62.7	31.0	404.0	凹石
630	磨石類	完	頁岩	3M		客土	115.6	60.1	28.4	321.0	敲石
631	磨石類	完	輝緑石	3M		客土	15.7	67.5	50.8	821.0	擦石
632	砥石	半欠	花崗岩		SK146	覆土	97.8	97.0	31.5	330.0	
633	砥石	半欠	閃緑岩	3N・30		客土	128.0	124.0	38.0	790.0	
634	砥石	半欠	花崗岩		SK97	覆土	167.5	100.0	51.0	1,325.0	
635	砥石	半欠	凝灰石	2L		客土	141.0	101.0	66.0	1,335.0	
636	石皿	半欠	軽石	4M・5M		客土	106.0	107.0	65.0	1,040.0	足付
637	石皿	半欠	安山岩	40		客土	226.0	223.0	99.0	4,960.0	
638	石皿	半欠	砂岩	-		客土	176.0	126.0	55.0	1,140.0	足付
639	両極石器	完	頁岩	-		客土	20.8	21.4	4.8	2.0	上下端部にﾘﾀｯﾁ
640	両極石器	完	鉄石英	-		-	26.7	18.6	11.7	4.9	上下端部に打撃片側縁に 剥離調整（両面）
641	両極石器	半欠	頁岩	4M・5M		客土	26.2	28.4	14.4	13.8	両極に打撃調整
642	両極石器	完	粘板岩	3M		客土	72.2	70.3	22.5	126.3	
643	両極石器	完	頁岩			客土	63.4	58.3	15.4	87.7	
644	両極石器	完	頁岩	2M・3M		客土	75.1	60.4	18.7	129.8	
645	石棒	欠	緑泥片岩	2L		客土	244.5	60.7	55.0	1,443.0	両端欠損

報告番号	種別	遺存状況	石材	出土地点・遺構名			法量（mm）			重さ（g）	備考
				グリッド	遺構番号	層位	長さ	幅	厚さ		
646	石棒	欠	輝緑石	40		客土	187.0	65.5	58.0	1,384.0	両端欠損
647	石棒	欠	凝灰岩	3P		客土	243.0	120.0	90.0	3,670.0	両端欠損
648	石棒	欠	緑泥片岩	3L		客土	180.0	48.0	46.9	579.0	片端欠損
649	石棒	完	緑泥片岩	3P		客土	90.7	18.4	18.6	58.0	一条の刻線が全周
650	石核	-	頁岩		P111	覆土	82.3	64.0	38.7	237.0	SI46
651	石核	-	硬質頁岩	50		客土	39.2	57.3	33.1	93.0	
652	石核	-	頁岩		SI91-P8	覆土	71.3	82.6	30.6	218.0	
653	石核	-	鉄石英	2M・3M		客土	59.0	68.8	51.8	206.0	
654	石核	-	頁岩	2M・3M		客土	41.2	39.5	28.1	40.0	
655	石核	-	頁岩		SK67	覆土	71.5	59.2	27.8	138.0	SI46石組炉
656	石核	-	頁岩	40		客土	137.4	132.4	48.0	970.0	
657	石核	-	頁岩	3R		客土	193.0	127.0	77.0	2,390.0	
658	石核	-	頁岩	4Tr		客土	164.0	210.0	112.0	4,450.0	

図　　版

凡　例

1　遺構断面図の地山以下は斜線のスクリーントーンで示した。

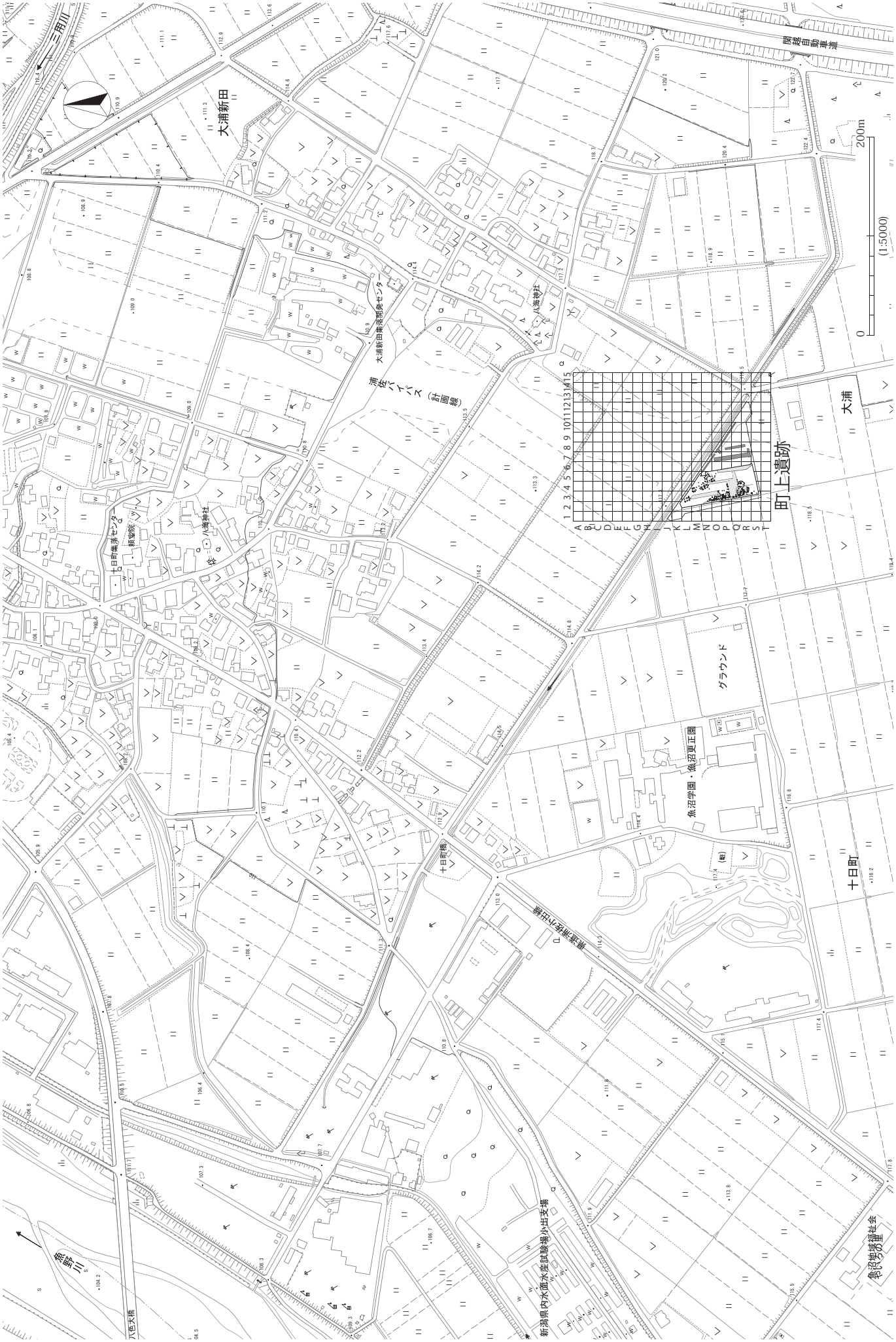
2　セクション中の礫は□、柱痕は■で示した。

3　土層説明の土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版　標準土色帖』（2007年版）に準拠する。

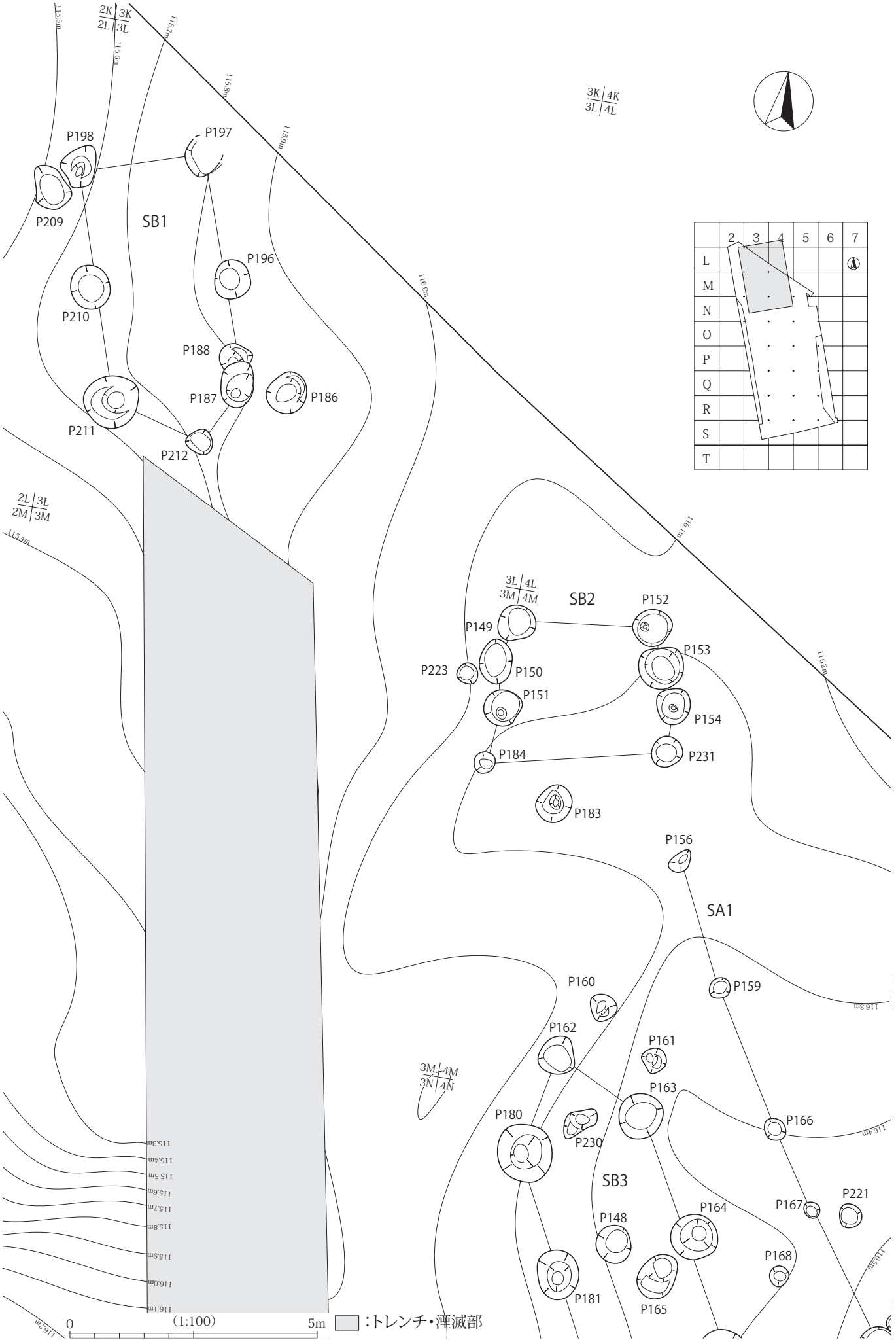
4　土層説明の粘性及びしまりは、強・やや強・中・やや弱・弱の５段階で示した。

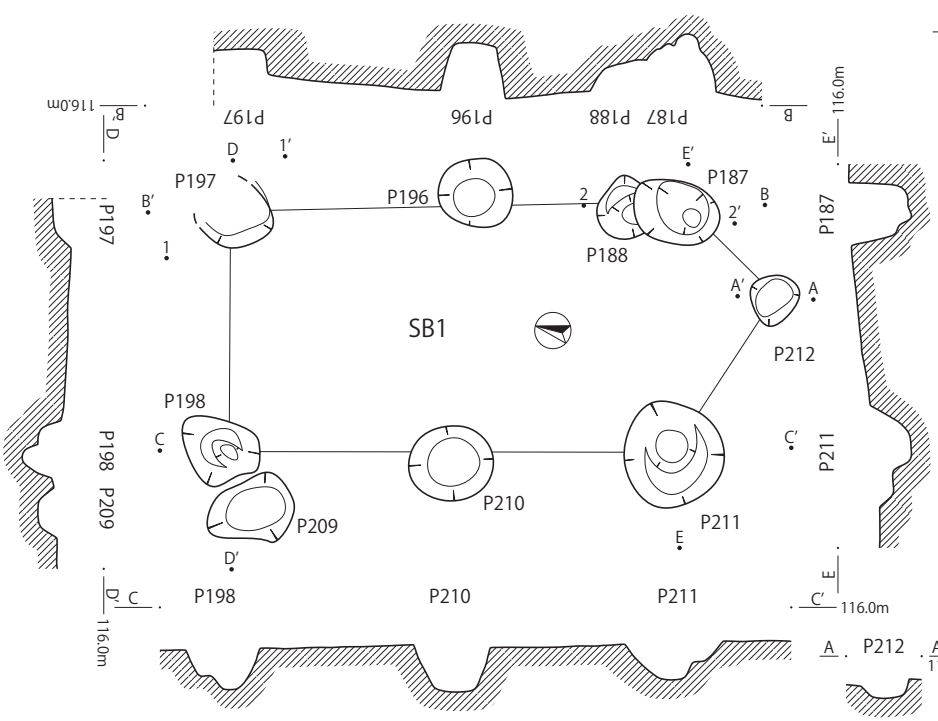
5　土層説明の混入物の密度は、極めて多量・多量・少量・僅かの４段階で示した。

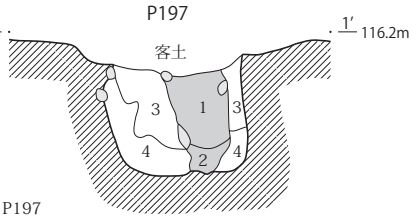
6　セクション中の「RB」はロームブロックの略号である。


三角川
大浦新田
関越自動車道
200m
(1:5000)
0
大浦新田産業開発センター
八海神社
浦佐バイパス（計画線）
大浦
町上遺跡
十日町産業センター
八海神社
グラウンド
魚沼学園・魚沼更正園
十日町
十日町橋
浦佐十日町線
魚沼川
八色大橋
新潟県内水面水産試験場小出支場
魚沼地域振興社会

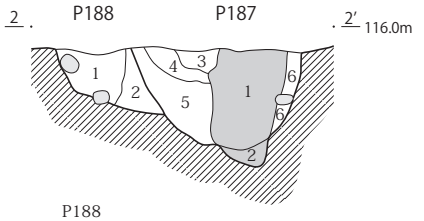
遺構全体図


SB1
SB2
SB3
SA1
P197
P198
P209
P196
P210
P188
P187
P186
P211
P212
P149
P150
P151
P152
P153
P154
P223
P184
P231
P183
P156
P159
P160
P162
P161
P163
P166
P180
P230
P148
P164
P167
P221
P168
P181
P165
2K 3K / 2L 3L
3K 4K / 3L 4L
2L 3L / 2M 3M
3L 4L / 3M 4M
3M 4M / 3N 4N
115.5m
115.6m
115.7m
115.8m
115.9m
116.0m
116.1m
116.2m
116.3m
116.4m
116.5m
115.4m
115.3m
0
(1:100)
5m
：トレンチ・湮滅部



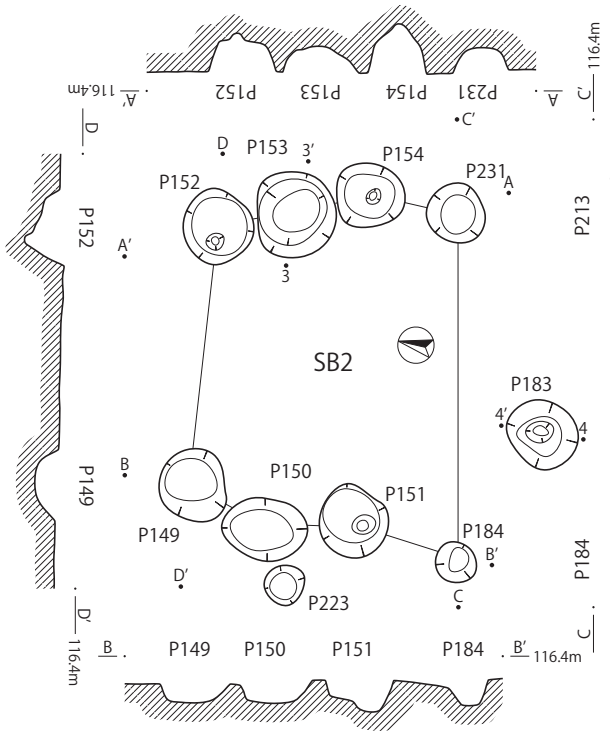


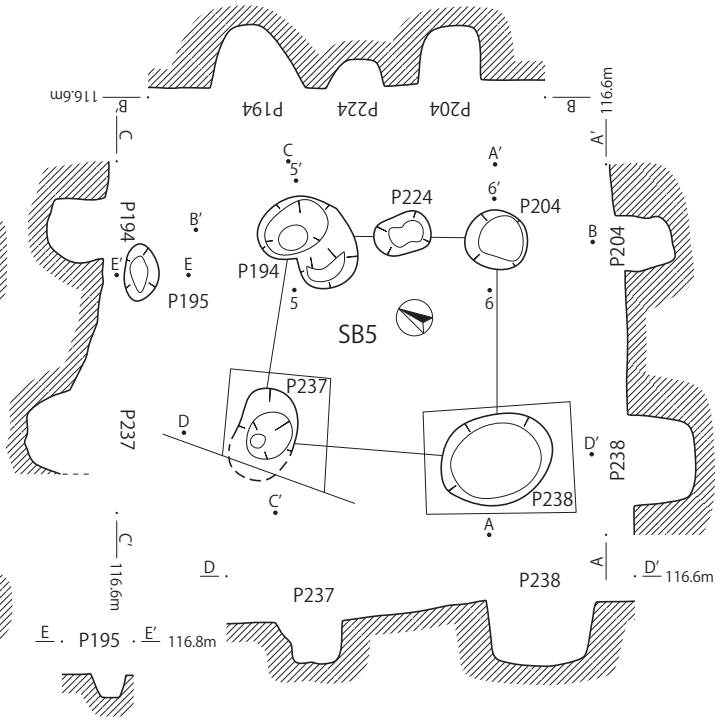
P197
1　黒褐色土(10YR2/2)　拳大の円礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ10㎜の礫を少量含む。粘性やや強、しまり弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　φ40㎜の礫を少量、炭化粒を微量に含む。粘性やや強、しまり弱。
4　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを多量に、礫を少量含む。粘性やや強、しまり弱。

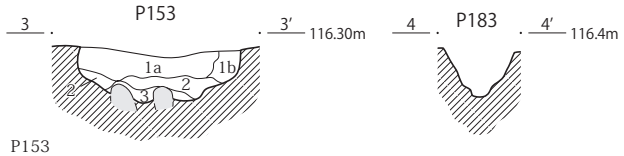


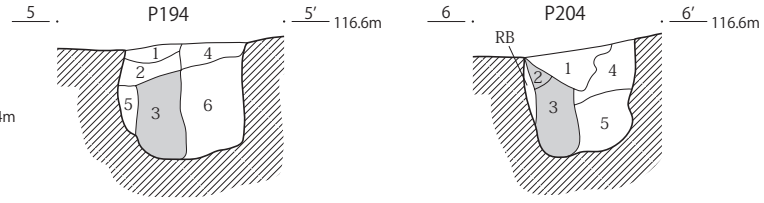
P188
1　黒褐色土(10YR3/2)　拳大の礫を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を多量に、角礫を少量含む。粘性やや強、しまり弱。

P 187
1　黒褐色土(10YR2/3)　φ20㎜程の礫・ローム粒・黄色砂粒・白色砂粒を少量、φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR2/2)　φ50㎜程の礫を多量、ロームブロック・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　褐色土(10YR4/6)　φ30㎜程の礫・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまり弱。
5　暗褐色土(10YR3/3)　小礫・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまり弱。
6　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを多量に含む。粘性中、しまりやや弱。







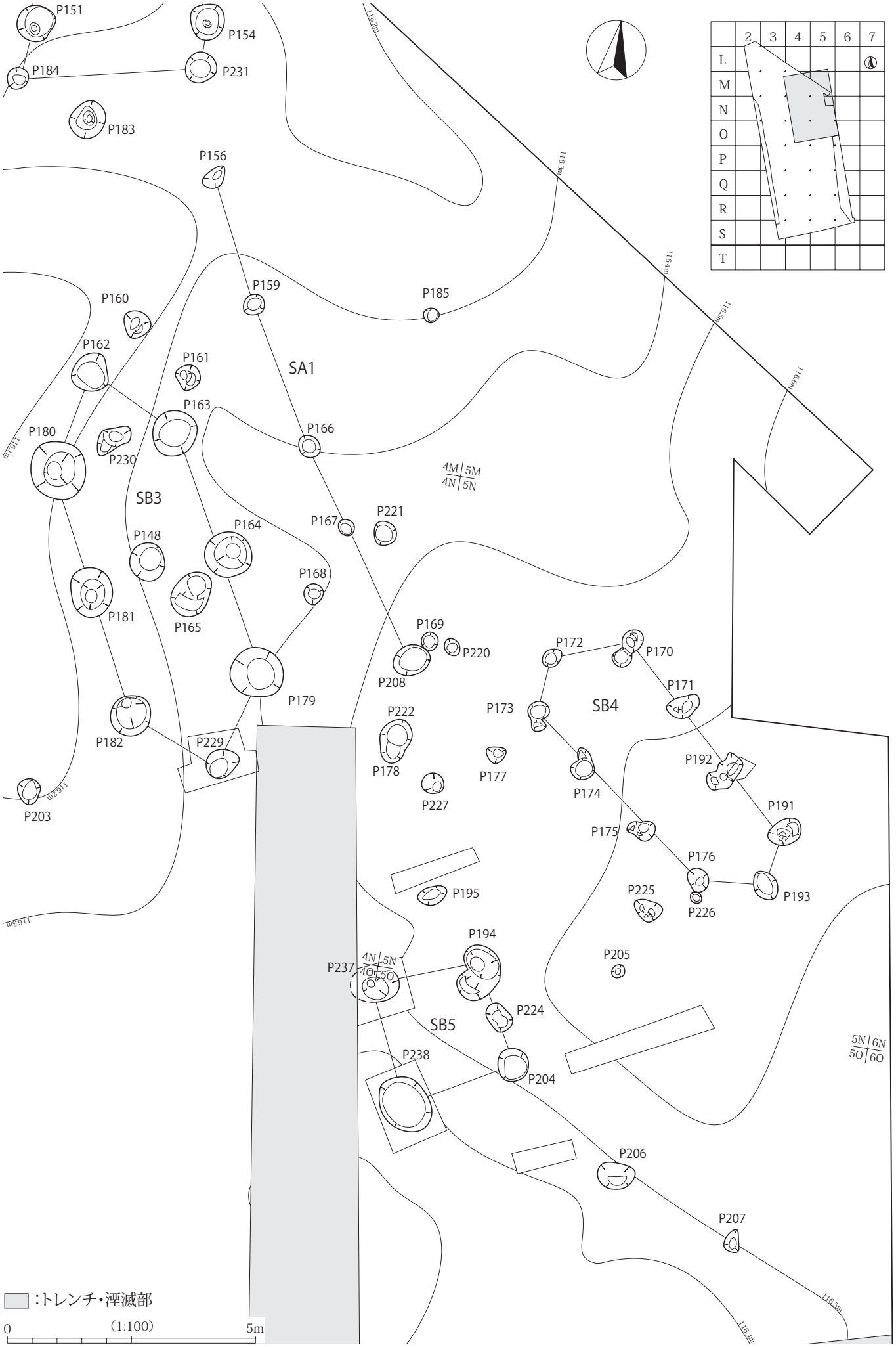


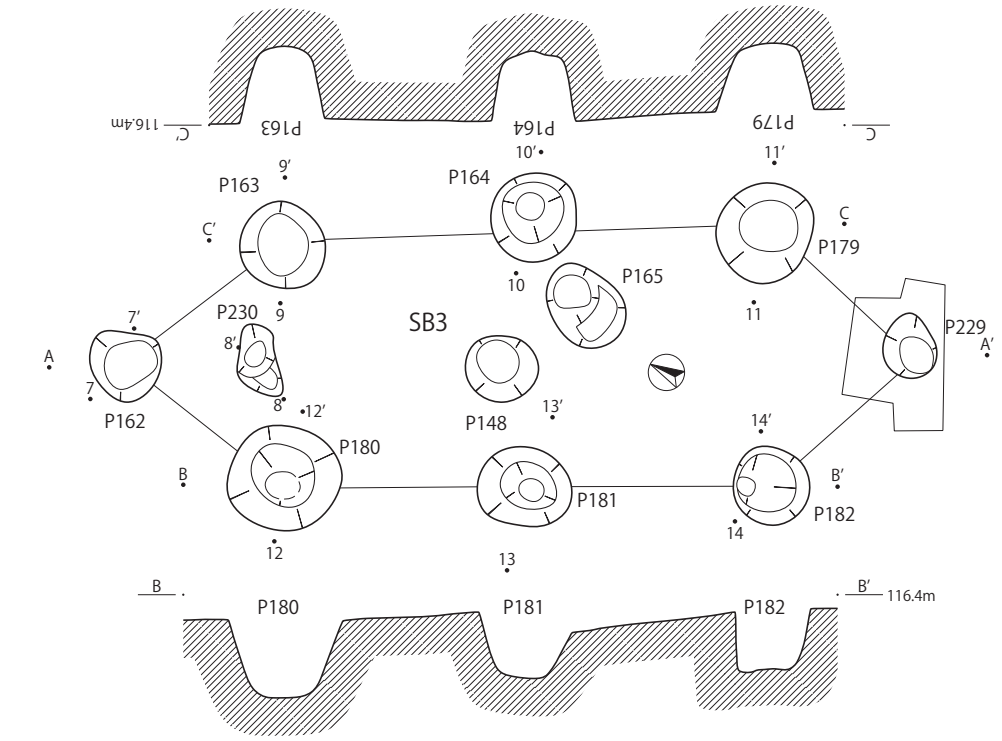
P153
1 a　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
1 b　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に含む。1 a層よりローム粒、砂粒が多い。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗灰黄色土(2.5YR4/2)　ローム粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
3　暗灰黄色土(2.5YR4/2)　炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

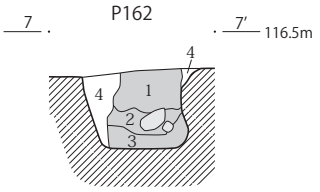
P194
1　黒色土(10YR2/1)　円礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強、しまりやや弱。
4　黒褐色土(10YR3/2)　φ100㎜の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
5　黒褐色土(10YR3/1)　φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱、しまりやや強。

P204
1　黒色土(10YR2/1)　小礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや強、しまり弱。
5　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　拳大の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

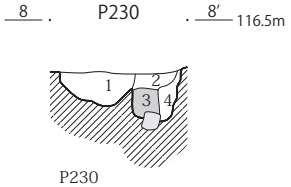
0　断面図　2m
(1:40)
0　平面図・エレベーション　4m
(1:80)


P151
P154
P184
P231
P183
P156
P159
P185
P160
P162
P161
SA1
P163
P180
P230
P166
SB3
P167
P221
P164
P148
P168
P181
P165
P169
P220
P208
P172
P170
P171
P179
P222
P173
SB4
P182
P229
P178
P177
P174
P192
P227
P203
P191
P175
P176
P195
P225
P226
P193
P194
P205
P237
P224
SB5
P238
P204
P206
P207
4M/5M
4N/5N
4N/5N
4O/5O
5N/6N
5O/6O
116.2m
116.3m
116.4m
116.5m
116.6m
116.1m
116.2m
116.3m
116.4m
116.5m
:トレンチ・湮滅部
0
(1:100)
5m

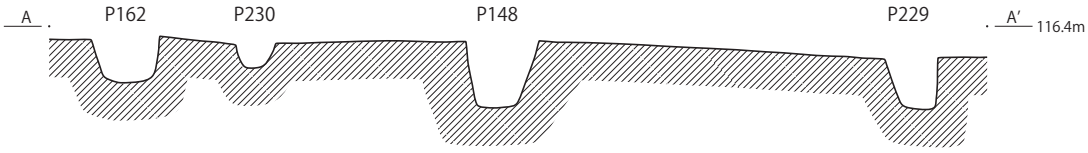


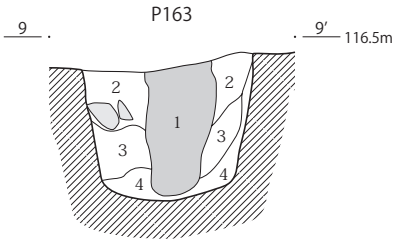


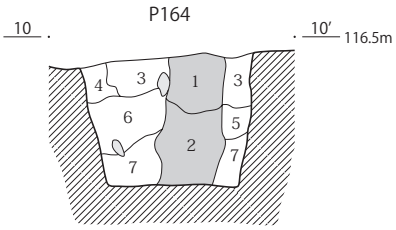
P162
1　黒褐色土と褐色土との混合
2　地山をブロック状に多量に含む層
3　灰黄褐色粗砂
4　灰黄褐色土

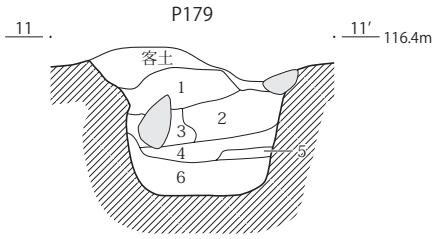


P230
1　黒色土
2　黒褐色土
3　黒褐色土
4　地山ブロックを多量に含む層





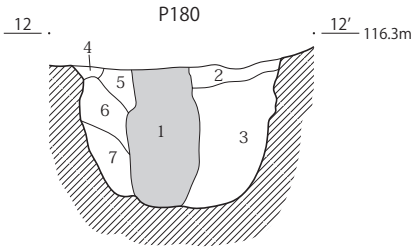


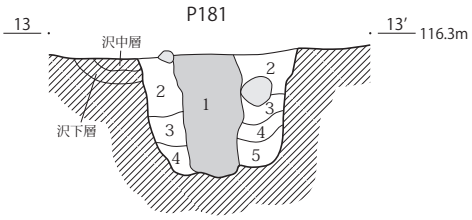


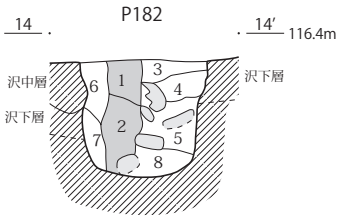
P163
1　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロック・拳大の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/1)　拳大の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　暗オリーブ褐色粗砂2.5Y3/3)　粘性やや弱、しまりやや強。

P164
1　黒色土(10YR2/1)　粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや強、しまりやや弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量に含む。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロック・黒色土ブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
6　黒褐色土(2.5Y3/1)　粘性中、しまりやや強。
7　黒褐色土(10YR3/1)　壁際に拳大の礫が少量混入する。粘性やや強、しまりやや強。

P179
1　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多量に、φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/1)　φ30㎜の礫を多量に、ロームブロックを微量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや強、しまりやや弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量、黒褐色土ブロック・φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　混入物はほとんど無く4層よりしまる。粘性やや弱、しまりやや弱。
6　暗オリーブ褐色粗砂(2.5Y3/3)　粘性やや弱、しまりやや強。







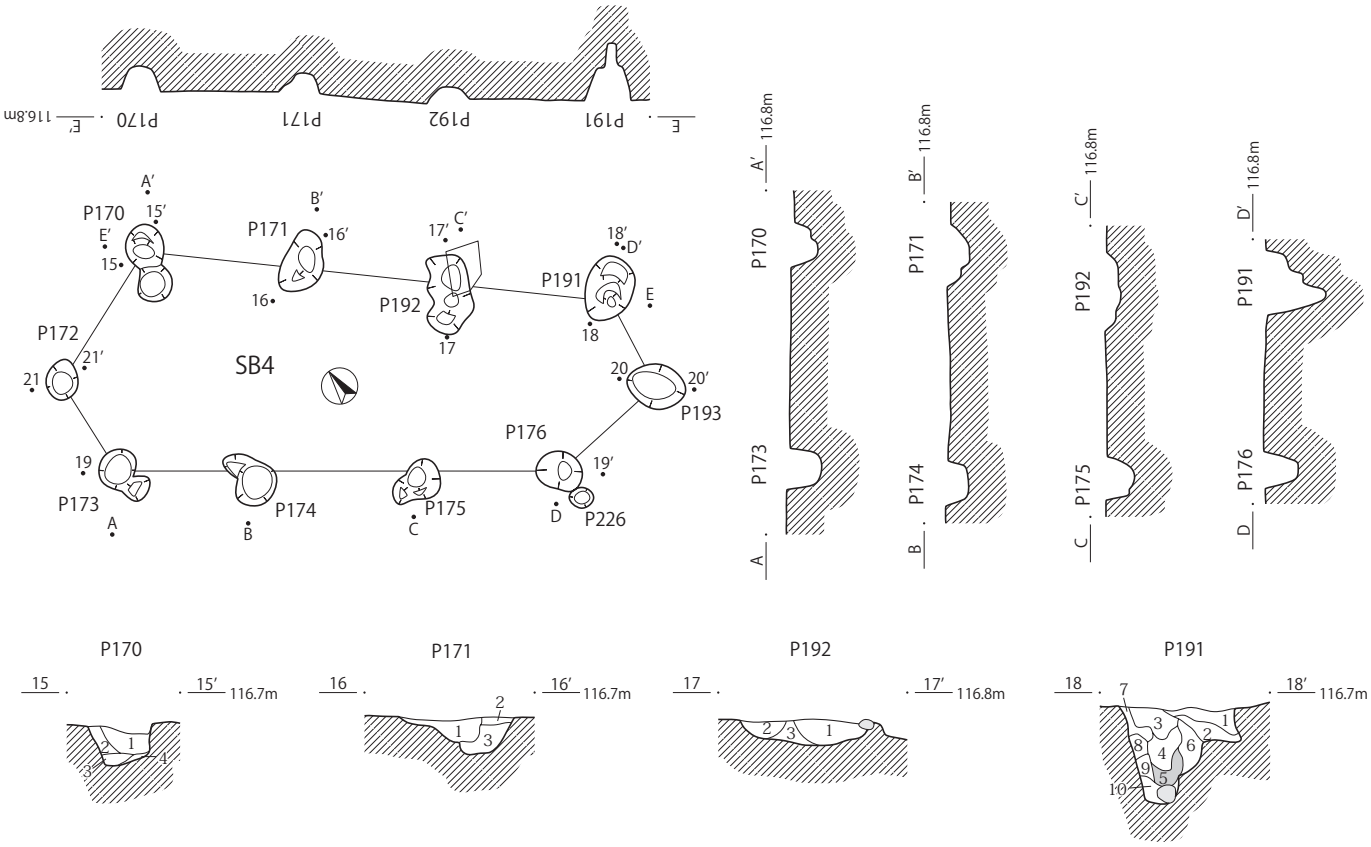
P180
1　黒色土(10YR2/1)　円礫をわずかに含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　暗オリーブ褐色粗砂(2.5Y3/3)　拳大～人頭大の礫を極めて多量に含む。粘性弱、しまりやや強。
4　にぶい黄褐色ローム土(10YR4/3)　粘性やや強、しまりやや強。
5　黒褐色土(10YR3/1)　φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを少量、φ30㎜の礫を微量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
7　暗オリーブ褐色粗砂(2.5Y3/3)　φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

P181
1　黒色土(10YR2/1)　炭化粒を微量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/1)　φ30㎜～拳大の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　黒色土(10YR2/1)　拳大～人頭大の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
5　黒褐色土(10YR2/2)　φ20㎜の礫を微量に含む。粘性弱、しまりやや強。

P182
1　黒褐色土(10YR2/2)　炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強。しまりやや弱。
4　黒褐色土(10YR2/2)　φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
5　黒色土(10YR2/1)　φ30㎜～拳大の礫を極めて多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
6　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
7　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
8　暗オリーブ褐色粗砂(2.5Y3/3)　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

0　断面図　2m
(1:40)

0　平面図・エレベーション　4m
(1:80)

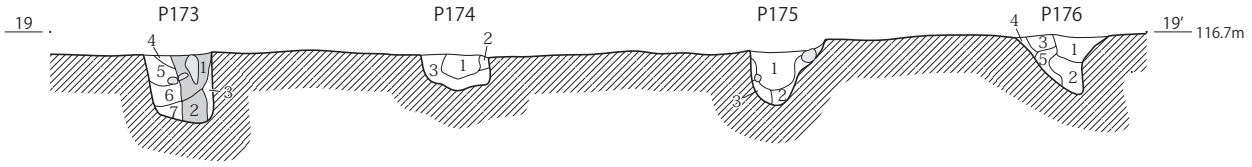


P170
1　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや強、しまりやや弱。

P171
1　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒色土(10YR2/1)　φ3～50㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

P192
1　黒色土(10YR2/1)　φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒色土(10YR2/1)　φ20㎜の礫を少量含む、炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

P191
1　黒色土(10YR2/1)　φ30㎜の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　地山ロームブロックを極めて多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強、しまりやや弱。
5　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱、しまりやや強。
7　オリーブ褐色土(2.5Y4/3)　粘性弱、しまりやや強。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや強、しまりやや強。
9　オリーブ褐色土(2.5Y4/4)　粘性やや強、しまりやや強。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや強、しまりやや弱。

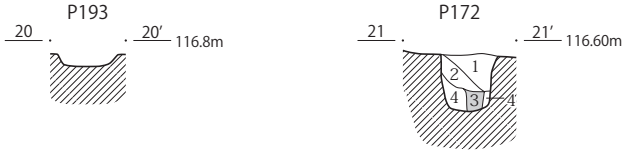


P173
1　黒色土(10YR2/1　ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/1))　ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘性やや強、しまりやや弱。
4　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや弱、しまりやや弱。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
7　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。

P174
1　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまり弱。

P175
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。

P176
1　黒色土(10YR2/1)　ローム粒を微量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒色土(10YR2/1)　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　粘性やや弱、しまりやや強。
5　黒褐色土(10YR3/1)　ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

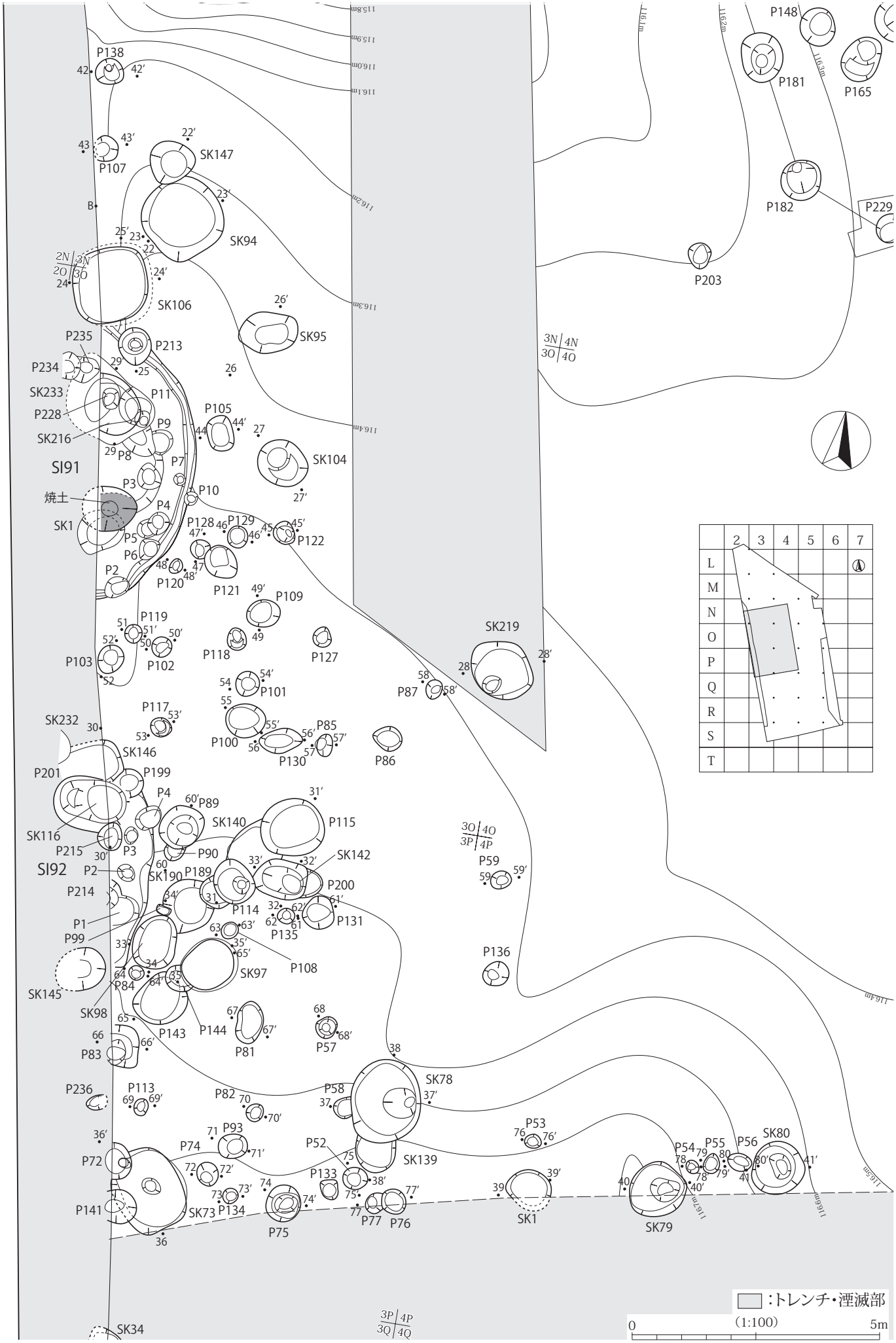


P172
1　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを多量に含む。φ30㎜の礫を少量含む。
　粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや強、しまり弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを微量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

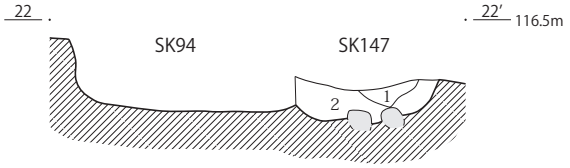
0　断面図　2m
(1:40)

0　平面図・エレベーション　4m
(1:80)

遺構分割図（3）


P138
P107
SK147
SK94
SK106
SK95
P235
P213
P234
SK233
P228
SK216
P11
P9
P8
P7
SI91
P3
焼土
SK1
P4
P10
P5
P6
P2
P128
P129
P122
P120
P121
P105
SK104
P109
P119
P103
P102
P118
P127
P101
P87
SK219
P117
SK232
SK146
P100
P130
P85
P86
P201
P199
P89
SK140
P115
SK116
P215
P90
SK142
SI92
SK190
P189
P200
P214
P114
P131
P1
P99
P135
P108
P136
SK145
P84
SK97
SK98
P143
P144
P81
P57
P83
SK78
P236
P113
P82
P58
P53
P72
P74
P93
P52
SK139
P133
P54
P55
P56
SK80
P141
SK73
P134
P75
P77
P76
SK1
SK79
SK34
P148
P181
P165
P182
P229
P203
:トレンチ・湮滅部
0
(1:100)
5m

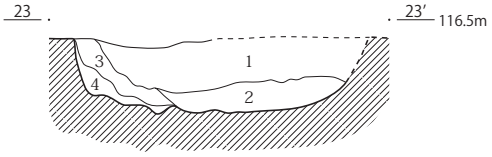
SK147・SK94



SK147
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　小礫を少量、ローム粒・砂利を多量に含む。粘性中、しまり中。
2　黒褐色土(10YR3/2)　　小礫・砂礫・ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

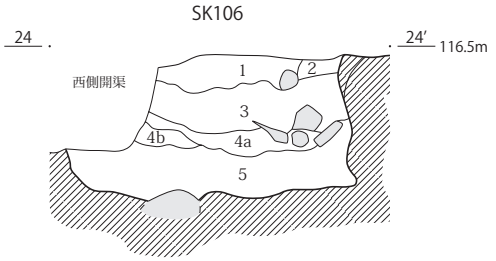
SK94
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・小礫・ φ5㎜の炭化粒を多量、黄色・白色砂粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

SK94



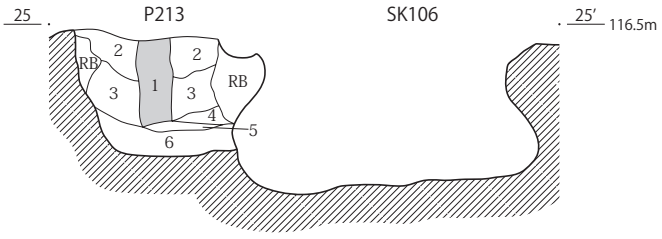
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　小礫・白色砂粒を少量、φ3㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや弱、しまり 中。
3　黒褐色土(10YR3/2)　　小礫を少量、砂粒を微量、φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまり中。
4　黒褐色土(10YR3/1)　黄色砂粒・白色砂粒・ロームブロックを少量含む。粘性中、しまりやや弱。

SK106



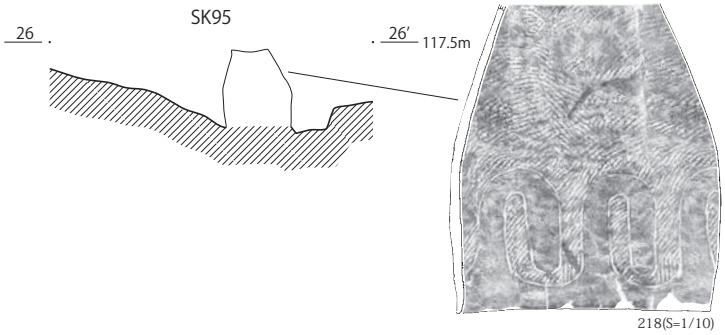
SK106
1　　黒褐色土(10YR3/2)　φ60 ㎜程の礫・黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を多量に、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまり強。
2　　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に・小礫・黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。粘性中、しまり中。
3　　暗褐色土(10YR3/3)　φ50㎜ 程の礫を多量に、黄色砂粒・白色砂粒・炭化粒φ3㎜を少量含む。粘性中、しまりやや強。
4 a　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色砂粒・ローム粒・φ2㎜の炭化粒を少量、小礫 を微量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
4 b　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ3mmの炭化粒を多量に、砂粒を少量、ローム粒を微量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
5　　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒・φ130㎜程の礫を少量含む。粘性やや弱、しまり中。

P213・SK106

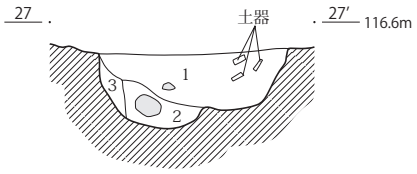


P213
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
2　褐灰色土(10YR4/1)　φ100㎜程の礫・黄色・白色砂粒を多量に含む。粘性中、しまり中。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄色・白色砂粒・ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
5　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
6　灰褐色土(7.5YR4/2)　ロームブロックを多量に、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまり中。SI91覆土か。

SK95

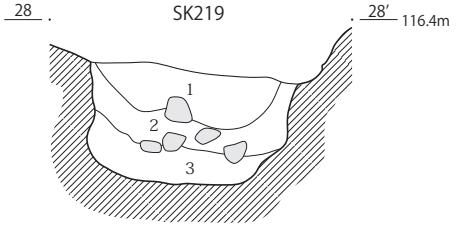


SK104



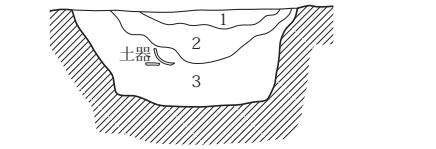
SK104
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまり中。
2　黒褐色土(10YR3/1)　砂粒を僅か、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまり中。
3　黒褐色土(10YR3/1)　黄色砂粒・φ3㎜の炭化粒を少量、ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

SK219



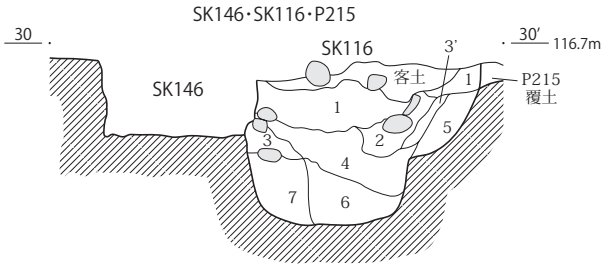
SK219
1　黒褐色土(10YR3/1)　φ50㎜程の礫・黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　φ50㎜程の礫を多量、ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　φ50㎜程の礫を多量、ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。

SK216



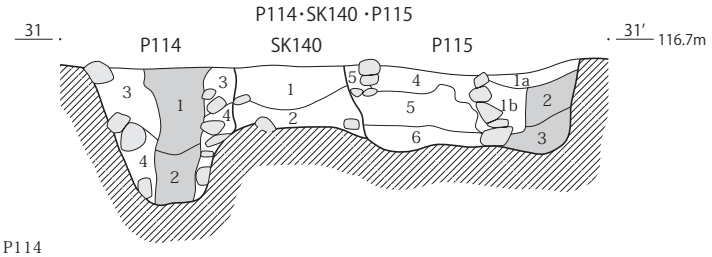
SK216
1　黒褐色土(10YR3/1　黄色・白色砂粒・φ5㎜の炭化粒・φ5㎜の焼土(粒を多量、ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまり中。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色・白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を多量に、焼土(粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄色・白色砂粒を少量、砂礫を多量に含む。粘性中、しまりやや強。

SK146・SK116・P215



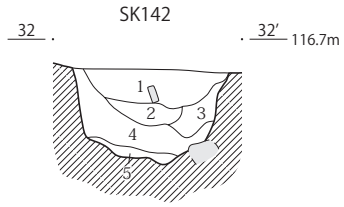
SK116
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　φ30㎜の礫・白色砂粒・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　1 層と比べローム粒を少量含み、黄色砂粒・炭化粒が多量に混入。粘性やや弱、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ30㎜の礫・ローム粒を多量に、炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3’　3層類似層。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　2層と比べ白色砂粒・ローム粒を多量に、炭化粒を少量含む。粘性強、しまりやや強。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒を主体土とし、φ10～30㎜の礫・小礫・砂粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ10～30㎜の礫を少量含む。3層と比べ炭化粒が多く、ローム粒が少なく混入する。粘性やや強、しまりやや弱。
7　黒褐色土(10YR3/2)　φ10～30㎜の礫・ロームブロックを多量に含み、6層と比べ黄色砂粒・小礫が多く混入する。粘性やや弱、しまりやや弱。

0　(1:40)　2m



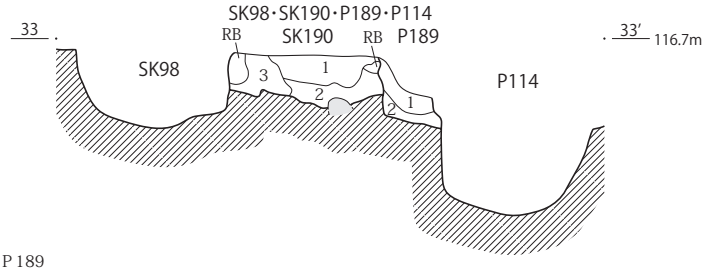
P114
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒を多量に、φ50㎜程の礫・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒・白色砂粒・φ3㎜程の炭化粒を少量、φ50㎜程の礫を微量に含む。粘性中、しまり中。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒を少量、ロームブロック・φ100㎜程の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまり強。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ロームブロックを少量、φ100㎜程の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまり中。

P115
1 a　暗褐色土(10YR3/4)　φ150㎜程の礫・ローム粒を多量に、黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
1 b　褐灰色土(10YR4/1)　黄色砂粒・ロームブロック・φ100㎜程の礫を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・φ5㎜の炭化粒を多量に、小礫を少量含む。粘性中、しまり強。
3　黒褐色土(10YR3/1)　粘性やや弱、しまり中。
4　黒褐色土(10YR3/1)　黄色砂粒・白色砂粒・φ10㎜の炭化粒を多量に、小礫を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
5　褐灰色土(10YR4/1)　φ50㎜ 程の礫・φ5㎜の炭化粒を多量に、黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
6　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒・φ100㎜程の礫を少量、φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。



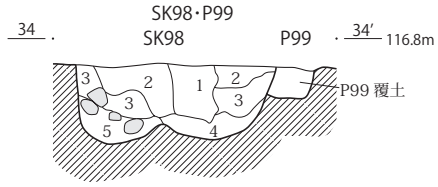
SK140
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・φ100㎜程の礫・白色砂粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/4)　φ100㎜程の礫を多量に、ローム粒を少量、白色砂粒を微量に含む。粘性中、しまり弱。

SK142
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ100㎜程の礫・黄色・白色砂粒・ローム粒・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　円礫 を多量に含み、黄色・白色砂粒・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含 む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒を多量、小礫を少量、黄色砂粒・白色砂粒を微量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。



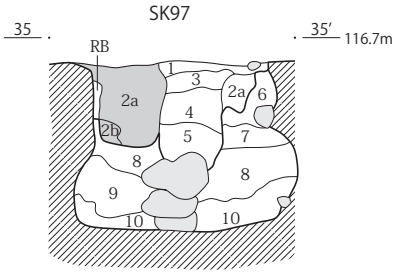
P 189
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ30㎜程の礫・ローム粒・白色砂粒・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまり弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量、φ30㎜程の礫・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり中。

SK190
1　灰褐色土(7.5YR5/2)　ローム粒を多量、小礫・黄色砂粒・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　灰褐色土(7.5YR5/2)　ローム粒・砂粒を多量、φ30㎜程の礫・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　ロームブロックを多量、小礫・黄色砂粒・白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。

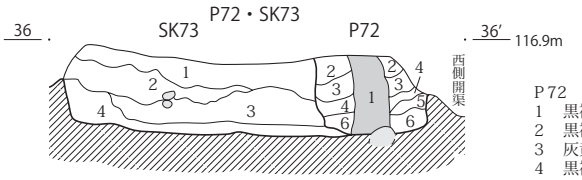


SK98
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ロームブロック・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり中。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ100㎜程の礫・黄色砂粒・ロームブロックを多量に、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ50㎜ 程の礫・黄色砂粒・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり中。
4　褐色土10YR4/4)　φ50㎜ 程の礫・砂粒・ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
5　明黄褐色土10YR6/8)　ロームブロック・黄色砂粒を多量に、φ50㎜程の礫を少量含む。粘性中、しまり中。

P 99
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量、黄色・白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。



SK97
1　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量、小礫を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2 a　黒褐色土(10YR2/2)　黄色砂粒・白色砂粒・φ20㎜程の礫を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2 b　灰黄褐色土(10YR4/2)　8 層をブロック状に混入。ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　地山ローム粒を主体土とする。黄色砂粒を多量に含む。粘性中、しまり強。
4　灰褐色土(7.5YR5/2)　黄色砂粒・白色砂粒を少量、小礫・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまり強。
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　焼土粒・焼骨片を含む。白色砂粒・φ10㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色砂粒・ローム粒を多量に、φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
7　灰褐色土(7.5YR4/2)　暗褐土ブロックを斑文状に、小礫・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまり中。
8　暗赤褐色土(5YR3/4)　焼骨片を含む。焼土粒を多量に、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
9　赤褐色土(5YR4/6)　全体的に焼骨片を含む。焼土粒・白色砂粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
10　赤褐色土(5YR4/8)　地山ローム粒と焼土粒の混合土。小礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

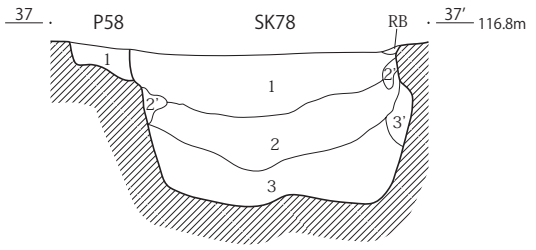


P 72
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色・白色砂粒・ローム粒・小礫を少量、φ3㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ロームブロック・φ5㎜の炭化粒を少量含む、粘性やや弱、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量、黄色砂粒・白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり強。
4　黒褐色土(10YR3/2)　暗褐色土ブロックを斑状に、ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロック・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを多量、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。

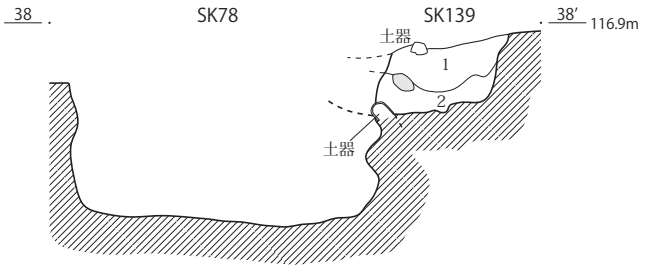
SK73
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロック・φ50㎜程の礫・φ5㎜の炭化粒を少量含む。しまり強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒・砂礫・φ3㎜の炭化粒を少量、ローム粒を微量に含む。粘性中、しまり強。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒を微量、φ100㎜程の礫を少量、φ3㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　小礫・砂礫・ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまり強。

0　(1:40)　2m

SK78・P58



SK139・SK78

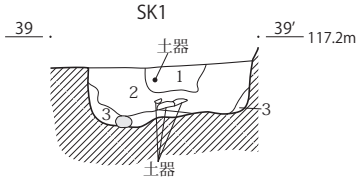


P 58
1　暗褐色土(10YR3/3)　小礫・ロームブロックを多量に含む。粘性中、しまりやや強。

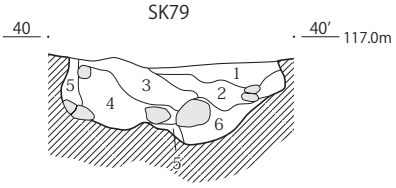
SK78
1　黒褐色土(10YR3/2)　小礫 を多量に、黄色砂粒・白色砂粒・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/3)　φ100㎜程の礫を多量に、ローム粒を少量、白色砂粒を微量に含む。粘性やや強、しまり中。2′はロームブロックを多量に含む。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を多量に、、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり中。3′はロームブロックを多量に含む。

SK139
1　暗褐色土(10YR3/3)　φ100㎜程の礫・黄色・白色砂粒・φ5㎜の炭化粒を多量に、ローム粒を微量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ50㎜程の礫・ローム粒を多量に、黄色・白色砂粒を少量、φ 3㎜の炭化粒を微量に含む。粘性中、しまりやや強。

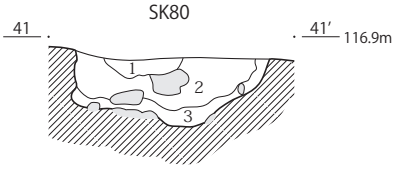
SK1



SK79



SK80

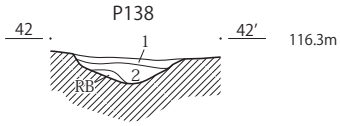


SK 1
1　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒とφ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性あり、しまり強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックとφ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを多量に含む。粘性中、しまりやや強。

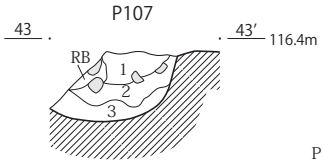
SK80
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。しまりやや弱。
2　褐灰色土(10YR4/1)　砂粒・ローム粒を多量に含む。粘性やや弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・φ50㎜程の礫を多量に含む。粘性やや強。

SK79
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量に、砂粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを少量、φ50㎜ 程の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック・φ50㎜ 程の礫を多量に含む。2層と比べ砂粒を多く含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR3/2)　２層に類似する。φ50㎜ 程の礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
5　黒褐色土(10YR2/2)　細砂粒を含む。粘性やや弱、しまりやや強。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・φ60㎜程の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

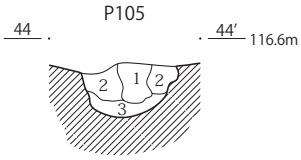
P138



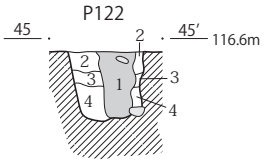
P107



P105



P122



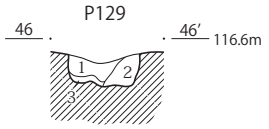
P 138
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ30㎜程の礫・黄色砂粒・白色砂粒・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり中。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　小礫 を多量、ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

P 107
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR2/2)　黄色・白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを少量、黄色砂粒・白色砂粒を微量に含む。粘性中、しまりやや強。

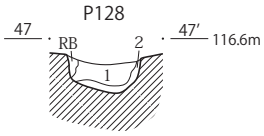
P 105
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・小礫を少量含む。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒を多量、ローム粒を少量含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　黄色砂粒・白色砂粒を少量、ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。

P 122
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色・白色砂粒・ローム粒・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまり中。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄色・白色砂粒・ローム粒を多量、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒を多量、小礫を少量、黄色砂粒・白色砂粒を微量に含む。粘性中、しまりやや強。
4　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を少量含む、粘性中、しまり中。

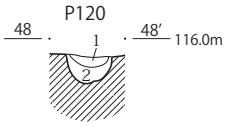
P129



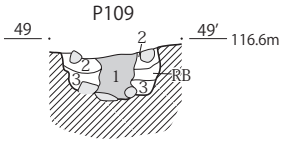
P128



P120



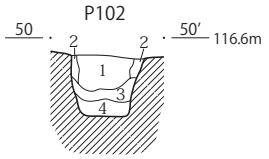
P109



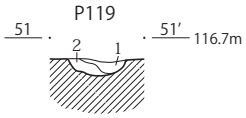
P 129
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒色土ブロックを斑状に、φ30㎜程の礫・ローム粒・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒を多量、小礫を少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。

P 128
1　黒褐色土(10YR3/2)　砂粒・ロームブロック・φ3㎜の炭化粒を多量、φ50㎜程の礫を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを極めて多量に含む。

P102



P119



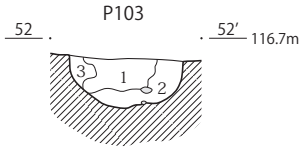
P 120
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・拳大の礫を多量、φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　灰褐色土(7.5YR4/2)　ローム粒を多量に含む、φ50㎜程の礫・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。

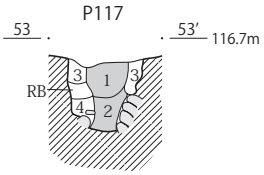
P 109
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を多量、φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり中。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ100㎜程の礫・黄色砂粒・白色砂粒・ロームブロックを多量、φ3㎜の炭化粒を少量含む。壁際に小礫が多く含まれる。粘性やや強、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ10㎜程の礫を極めて多量に含む。

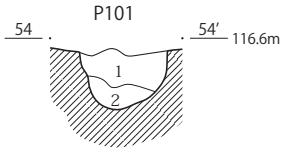
P 102
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・φ30㎜程の礫を少量、φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性強、しまりやや弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・φ30㎜程の礫を少量含む。粘性やや強、しまり中。
4　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ロームブロック・小礫 を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。

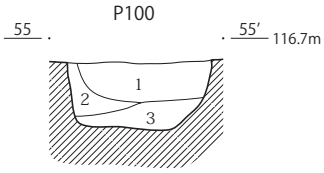
P 119
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒・小礫を多量、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量、白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。

0　(1:40)　2m







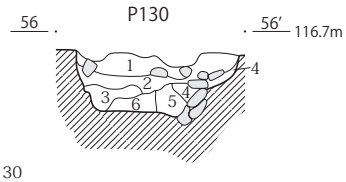


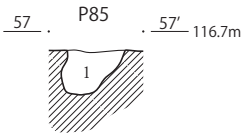
P 103
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を多量、φ50㎜程の礫・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックを多量、白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性強、しまりやや強。

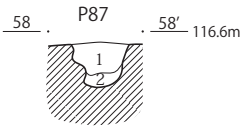
P 117
1　暗褐色土(10YR3/3)　小礫を少量、黄色・白色砂粒・ローム粒・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量、小礫・黄色砂粒・白色砂粒・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
3　暗褐色土7.5YR3/3)　大礫を多量、砂粒・ロームブロックを少量含む。粘性中、しまり中。
4　褐色土(10YR4/4)　小礫・ローム粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。

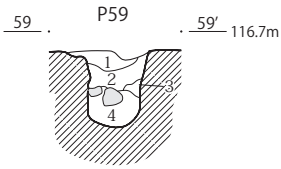
P 101
1　黒褐色土(10YR2/2)　小礫 を多く含む。粘性やや強、しまり中。
2　褐色土(10YR4/4)　粘性やや強、しまりやや弱。

P100
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・φ50㎜ 程の礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・小礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　暗褐色土(10YR3/3)　地山ローム土と黒褐土との混合土。ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。







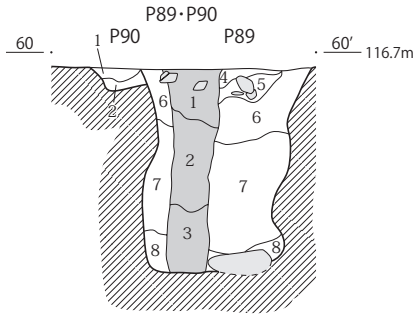


P130
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を多量に、拳大の礫・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを多量に、小礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　拳大 の礫を多量に含む、粘性やや弱、しまりやや強。
5　黄褐色土(10YR5/6)　粘性やや弱、しまりやや弱。
6　明黄褐色土(10YR6/6)　円礫・ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

P 85
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色砂粒・ローム粒を少量含む、φ30㎜程の礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。

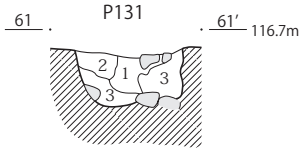
P 87
1　褐灰色土7.5YR4/1)　白色砂粒・ロームブロック・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ローム粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。

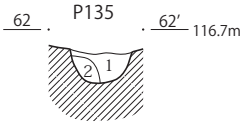
P 59
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ70㎜程の礫・黄色砂粒・白色砂粒を少量、ローム粒・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまり中。
2　黄褐色土(10YR5/6)　小礫・ロームブロック・φ3㎜の炭化粒を多量、黄色・白色砂粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
3　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまり強。
4　褐色土(10YR4/4)　黄色砂粒・白色砂粒を多量に含む、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまり中。

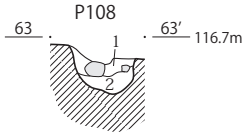


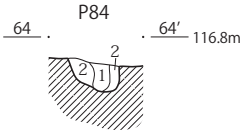
P89
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまり弱。
4　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒を少量、φ100㎜程の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
5　灰黄褐色土(10YR5/2)　黄色砂粒を少量、ローム粒・φ50㎜程の礫を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・拳大 の礫を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
7　灰黄褐色土(10YR5/2)　拳大 の礫を多量に含む。粘性中、しまり中。
8　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロック・小礫 を多量に含む。粘性中、しまり強。硬く固められる。

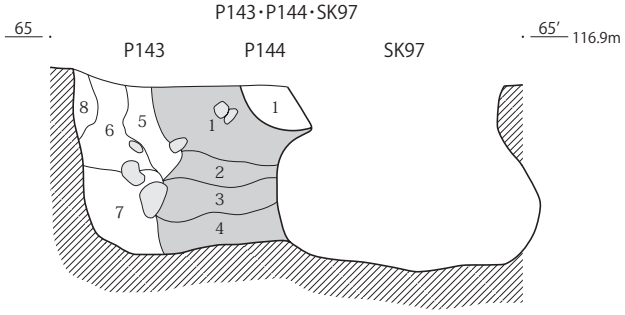
P 90
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。











P131
1　黒褐色土
2　灰黄褐色土　ロームブロックを多量に含む。
3　黒褐色土　φ50㎜程の礫を多く含む。

P 135
1　黒褐色土(10YR3/2)　小礫・黄色砂粒・白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム粒を多量、小礫を少量含む。粘性中、しまりやや強。

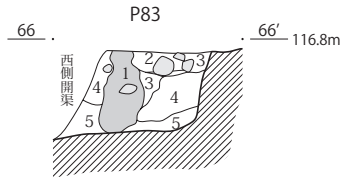
P 108
1　黒褐色土(10YR3/2)　骨片を含む。黄色・白色砂粒・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　砂粒・ローム粒を多量に、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

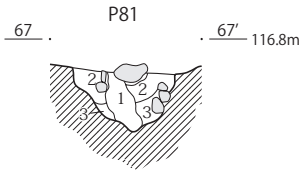
P 84
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色砂粒・小礫を少量含む。粘性やや強、しまり中。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。

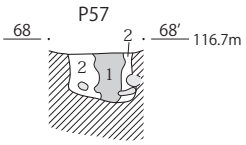
P143
1　暗褐色土(10YR3/3)　拳大の礫を少量、φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム粒を多量に、φ3㎜の炭化物を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒を多量に、小礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
4　褐色土(10YR4/4)　ローム粒・小礫を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
5　暗褐色土(10YR3/3)　小礫を僅かに、φ3㎜の炭化物を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
6　黄褐色土(10YR5/6)　小礫を主体に黄褐色土ブロックが混入。ロームブロックを少量含む。
7　褐色土(10YR4/4)　φ10㎜程の礫を多量に含む。
8　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック・φ10㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。

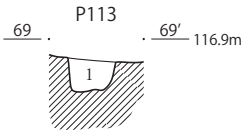
P 144
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色砂粒・白色砂粒を少量、小礫・φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまり強。

0　(1:40)　2m







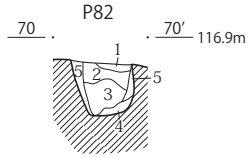


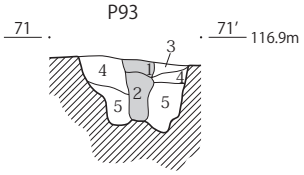
SK83
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒・白色砂粒を少量、φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性強、しまりやや強。
3　灰褐色土(7.5YR6/2)　ロームブロックを多量に、砂粒・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
4　明黄褐色土(10YR7/6)　ロームブロック・円礫を多量に含む。粘性中、しまり強。
5　灰黄褐色土(10YR5/2)　ロームブロック・砂礫・小礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

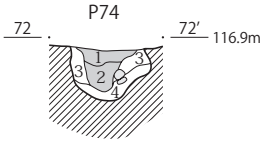
SK81
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を少量、φ10㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒・φ3㎜の炭化粒を多量に、小礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・小礫を少量、φ5㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

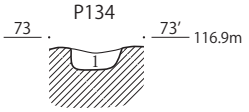
P 57
1　暗褐色土(10YR3/4)　黄色砂粒・白色砂粒・炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ローム粒・小礫・炭化粒を多量に含む。粘性やや強。

P 113
1　黒褐色土(10YR3/2)　黒褐色土ブロックを斑状に、白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。



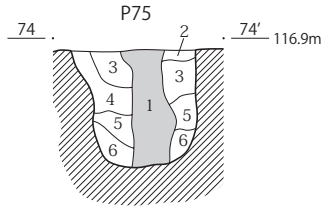


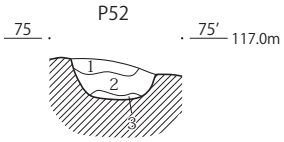


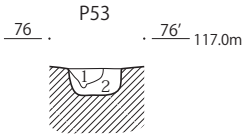


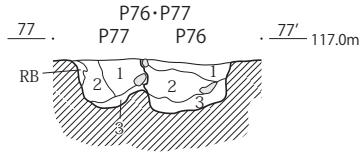
P 82
1　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒・φ30㎜程の礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ロームブロックを多量、小礫を少量含む。粘性やや強、しまり中。
4　灰褐色土7.5YR4/2)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまり中。
5　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。

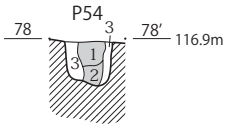
P 93
1　浅黄橙色土(10YR8/4)　ロームブロック・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色砂粒・φ5㎜の炭化粒を少量、ロームブロックを微量に含む。粘性中、しまり中。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒を微量、小礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックを多量、φ2㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロック・小礫 を多量、砂礫・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。

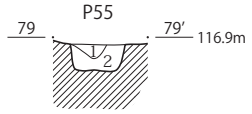


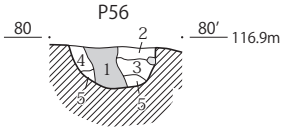












P 54
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・ローム粒・小礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色砂粒を少量、ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまり中。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを多量、円礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

P 55
1　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを少量、小礫 を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロック・円礫 を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

P 75
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒・φ3㎜の炭化粒・φ10㎜程の礫を少量含む。粘性やや強、しまり中。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色砂粒・ローム粒・小礫を少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/2)　小礫・ローム粒を多量、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
4　にぶい黄橙色土(10YR7/4)　ロームブロックを多量、小礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
5　暗褐色土(10YR3/3)　小礫・ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒を少量、ローム粒・小礫 を多量に含む。粘性中、しまりやや弱。

P 52
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/1)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を多量、φ30㎜程の礫を少量含む。粘性やや強、しまり中。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　地山ローム土を基層とし、黄色砂粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

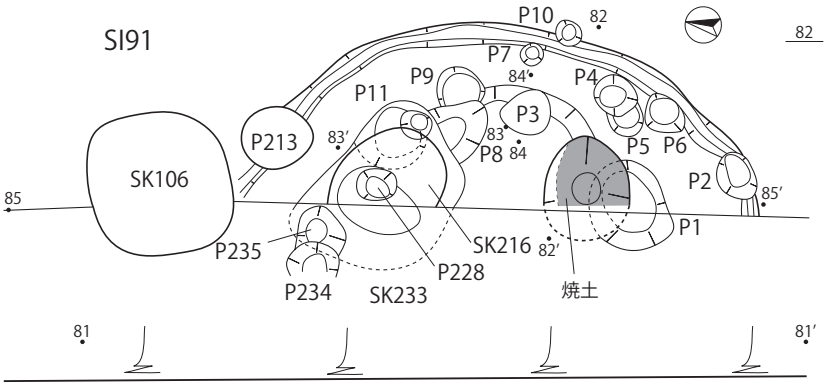
P 53
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性やや強。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　ロームブロックを多量、φ50㎜程の礫を少量含む。粘性中、しまりやや弱。

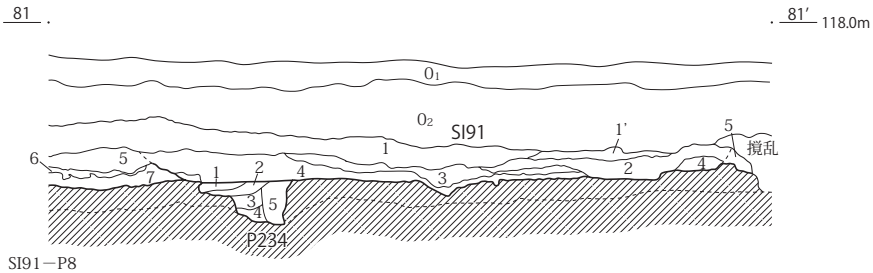
P 76
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・ローム粒・炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/4)　炭化粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量、小礫・炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

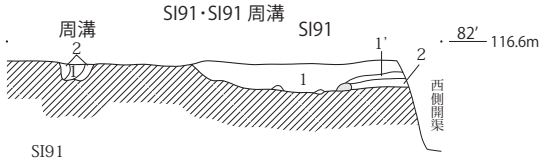
P 77
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・ローム粒・炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/4)　炭化粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量、小礫・炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

P 56
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　粘性やや強、しまり中。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
4　褐灰色土(10YR4/1)　黄色砂粒・白色砂粒・ロームブロック・炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
5　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒を多量に含む。粘性強、しまりやや弱。

0　(1:40)　2m

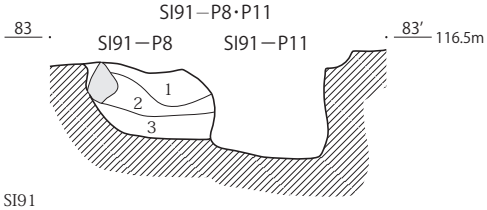






SI91
1　暗灰褐色土　白色砂粒・黄色砂粒・ローム粒が少量混入する。粘性やや強、しまりやや強。
1’　暗灰褐色土　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗灰褐色土　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。

周溝
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色砂粒・黄色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒を多量に含む、黄色砂粒が薄く堆積する。粘性強、しまりやや強。

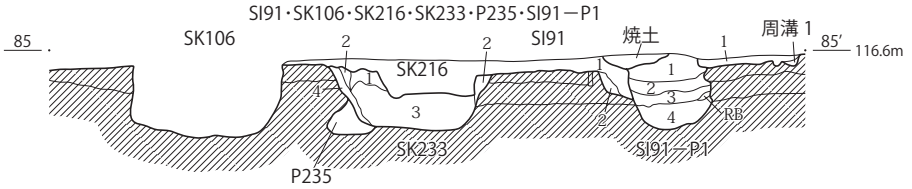


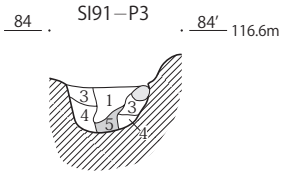
SI91
1　黒褐色(10YR3/1)～黒色(10YR2/1)土　クロボクに礫が多量に混入。炭化物・土器が多い。焼土粒も含む。
1’　黒褐色土　地山土が水平に入る。下層とは明瞭に分層できる。
2　黒色土　やや密に締まる・炭化物が多く土器も含む。床面を覆う。
3　黒褐色土　地山の黄褐シルトが多く、やや明るい。
4　黒色土　礫・焼土・炭化物が多い。やや締まるが粘性弱い。
5　黒色土　クロボク主体に礫を多く含む。土器・炭化物・焼土粒が目立つ。やや軟質で締まりが弱い。
6　黒色土　5層を主体に地山土が入り、上下層と区分できる。
7　黒褐土(10YR2/2)　クロボクに地山土シルト・砂が入りやや明るい。こぶし大以下の礫が多く入る。

P234
1　黒色土　地山土が入る。礫含まず、柔らかい。
2　黒色土　炭化物やや多く、土器片を含む。
3　黒色土　礫を含む。
4　黒褐色土　地山土が多く入る。
5　にぶい黄褐(10YR4/3)　埋土。シルト・砂。

SI91－P8
1　黒褐色土(10YR3/2)　全体的にローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　褐色土(10YR4/4)　1層と比べローム粒を多量に含む。粘性強、しまり強。
3　暗褐色土(10YR3/4)　φ10㎜の礫を多量に含む。2層と比べローム粒が少ない。粘性やや強、しまりやや弱。

SI91－P3
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒を多量に含む。黄色砂粒・炭化粒が少量混入する。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　1層よりローム粒が少ない。粘性強、しまりやや弱。
3　暗褐色土(10YR3/3)　1層より白色砂粒、ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまり強。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ30㎜の礫・小礫、砂利、ロームブロックを多量に、ローム粒を微量に含む。粘性やや弱、しまり強。
5　灰黄褐色土

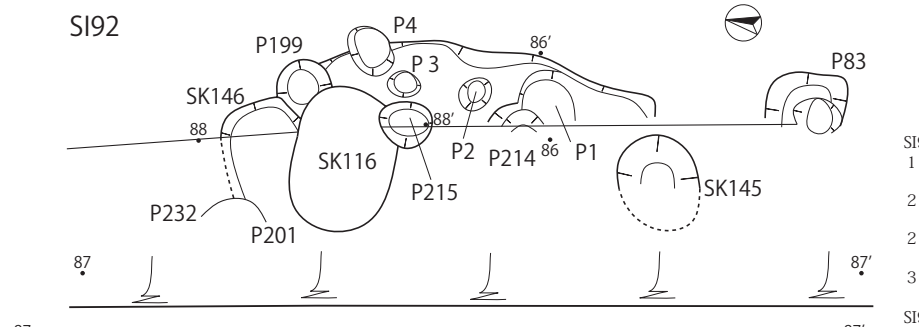


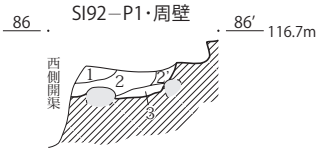


P1
1　黒褐色土(10YR3/2)　礫・ローム粒・炭化粒多量。
2　黒褐色土(10YR2/3)　礫多量。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒極めて多量。
4　黒褐色土(10YR2/3)　2層に似る。礫少量。

SK233
1　黒褐色土(10YR3/1)　炭化粒・砂礫多量。
2　灰褐色土(10YR4/1)　RB・砂礫多量。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　小礫多量。RB少量。
4　黒褐色土(10YR3/2)　礫少量。ローム粒多量。

0　断面図　2m
(1:40)
0　平面図・81－81’・85-85’　4m
(1:80)

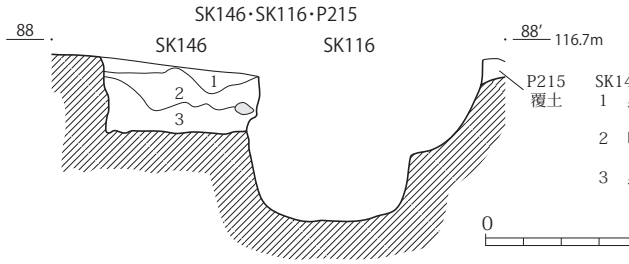




SI92－P1
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色砂粒・黄色砂粒・ローム粒が少量混入する。粘性やや弱、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　白色砂粒・黄色砂粒を少量、ローム粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
2’　暗褐色土(10YR3/3)　2層と比べローム粒の小ブロックを少量含む。粘性中、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　全体的にローム粒が多量に混入。粘性やや強、しまりやや強。

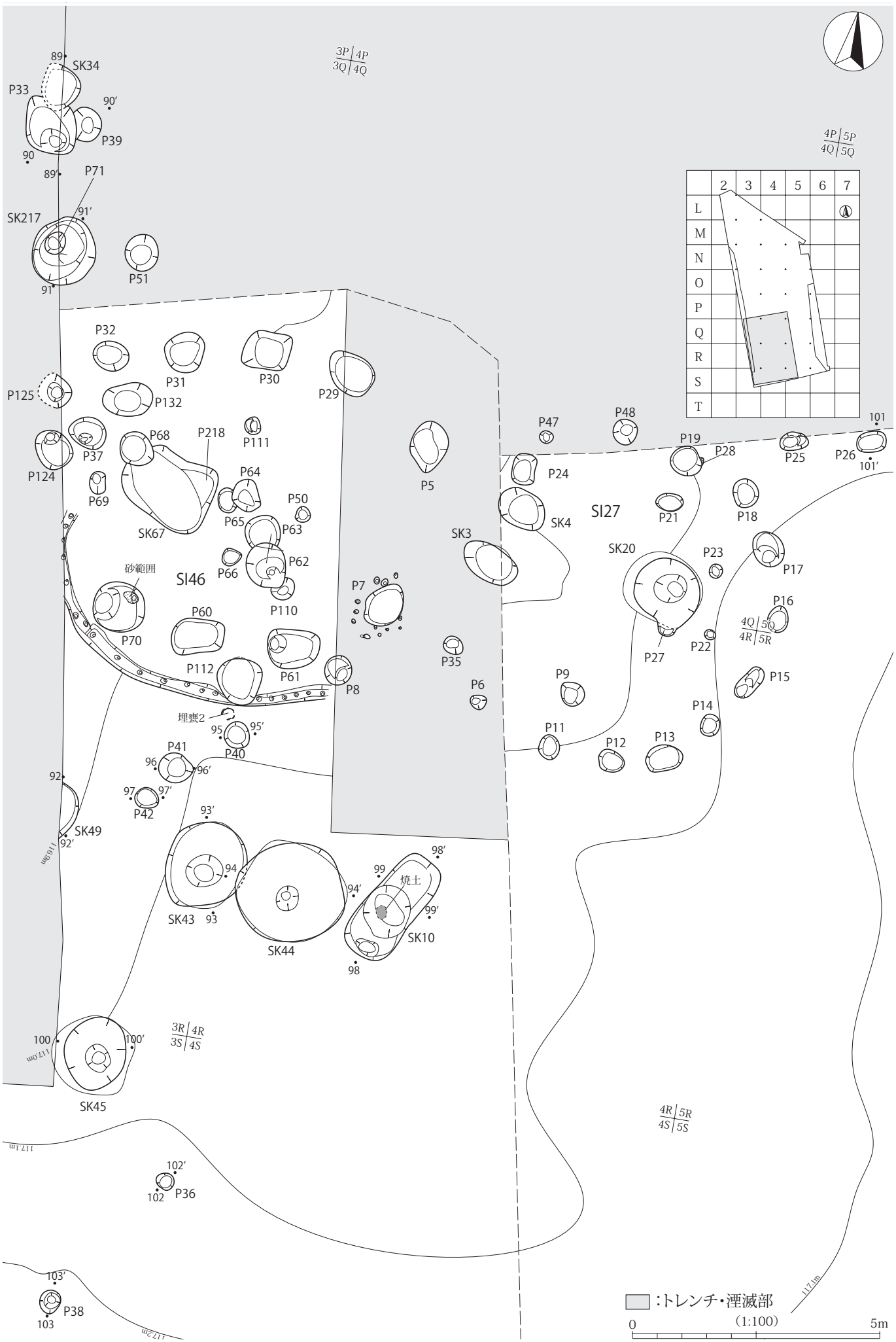
SI92
O1　表土・水田畦畔　黒褐色クロボクに礫が多量に入る。耕地整理による撹乱土。
O2　耕地整理の客土。
1　黒褐色土(10YR2/2)　φ25cmから数cmの礫が混じる。焼土粒が少量混入し、土器が見られる。硬く締まるが、粘性弱く脆い。
1’　黄褐色砂　砂にφ1cm程の礫が入る。流水による堆積と見られる。一部は下層の黒褐土と混合する。
2　黒褐色土(10YR2/2)　締まりの弱いクロボク。土器・土器粒・礫・炭化物を多量に含む。
3　黒色土(10YR2/1)地山粒を含み、φ3cm以下の礫も混入。やや硬く粘性弱い。

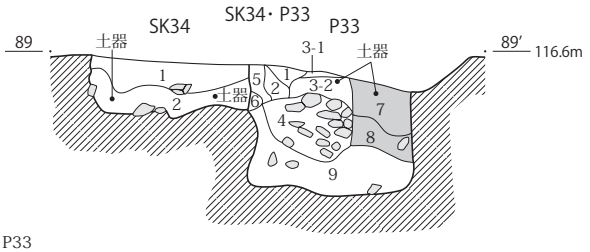
SK145
1　黒褐色土　埋土の一部　シルト質の黄褐色土と混じる。礫や土器粒、焼土など混入物は少ない。
2　黒色土(10YR2/1)根固め土　小礫を非常に多く含む。固く締まる。炭化物が目立つ。
3　黒色土　柱痕部。黒色で粘性弱く、締まりがない。礫は少ない。



SK146
1　黒褐色土(10YR3/1)　φ10～30㎜の礫・白色砂粒・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを形成する。φ10～30㎜の礫・小礫・φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/1)　φ10～30㎜の礫、φ3㎜の炭化粒を多量に含み、1層より白色砂粒・ローム粒が少なく、小礫を多く含む。粘性やや強、しまりやや弱。

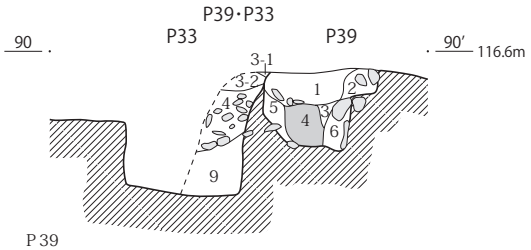
0　断面図　2m
(1:40)
0　平面図・87－87’　4m
(1:80)


SK34
P33
P39
P71
SK217
P51
P32
P31
P30
P29
P125
P132
P68
P218
P111
P37
P124
P69
P64
P65
P50
P63
SK67
P62
P66
SI46
砂範囲
P110
P70
P60
P61
P112
P8
P7
P5
SK3
P47
P48
P24
SK4
SI27
P19
P28
P25
P26
P21
P18
SK20
P23
P17
P16
P27
P22
P35
P6
P9
P15
P14
P11
P12
P13
埋甕2
P40
P41
P42
SK49
SK43
SK44
SK10
焼土
SK45
P36
P38
:トレンチ・湮滅部
(1:100)
0
5m

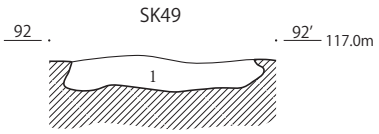


P33
1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロック(大)を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロック(小)を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3-1　黒褐色土(10YR2/2)　地山ブロック(大)を僅かに、円礫を少量含む。粘性やや強。しまりやや弱。
3-2　黒褐色土(10YR2/2)　地山ブロック(大)を多量に含む。粘性やや強。しまりやや強。
4　灰黄褐色砂礫層(10YR4/2)　φ30～80㎜程の礫を多量に含む。粘性弱、しまり弱。根固め石に相当。
5　黒色土(10YR2/1)　炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまり強。
6　黒褐色砂礫層(2.5Y3/2)　ロームブロックを多量に含む、炭化粒を僅かに含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
7　黒褐色土(10YR2/2)　炭化粒を僅かに含む。粘性やや強、しまりやや強。
8　黒褐色砂礫層(2.5Y3/2)　小礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
9　黒褐色砂礫層(2.5Y3/1)　φ30 ㎜程の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまり弱。

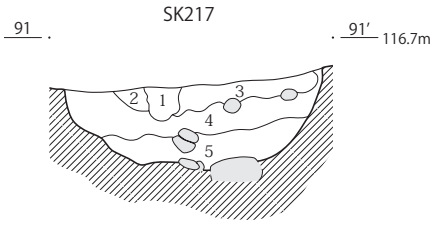
SK34
1　黒色土(10YR2/1)　ロームブロックを微量に、φ50㎜程の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。



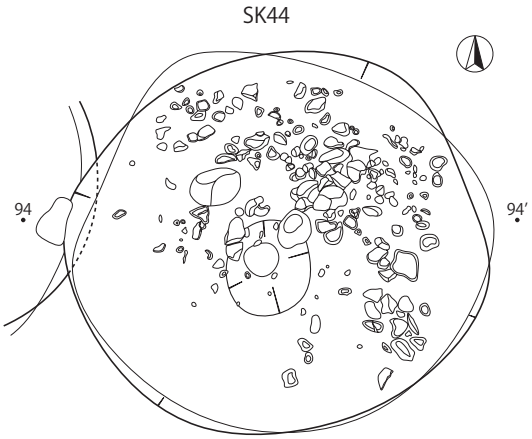
P39
1　黒褐色土(10YR2/2)　小礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/1)　小礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを少量含む。粘性やや弱、しまり中。
4　黒色土(10YR2/1)　粘性やや弱、しまりやや弱。
5　暗褐色土(10YR3/2)　粘性やや強、しまりやや弱。
6　黒褐色土(10YR3/2)　拳大の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

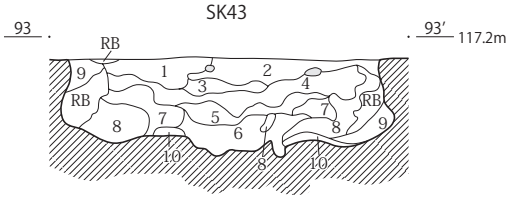


P49
1　黄褐色土(10YR5/6)　白色砂粒・ローム粒・小礫を少量含む。粘性やや強、しまり中。

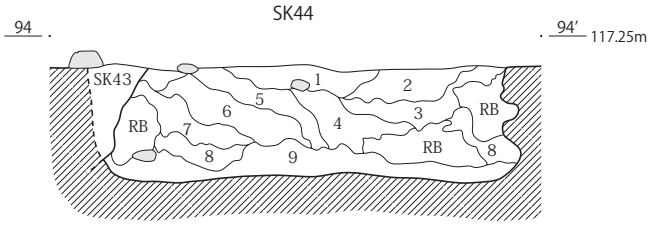


SK217
1　黒褐色土(10YR2/2)　小礫を微量、黄色砂粒・白色砂粒を少量、φ3㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・小礫・φ5㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　小礫・ロームブロックを多量に含む 、φ10㎜の炭化粒を少量含む。粘性中、しまり中。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　φ30 ㎜程の礫・砂礫・ローム粒・φ3㎜の炭化粒を多量に含む。粘性中、しまりやや強。
5　黒褐色土(10YR3/2)　4層と比べ、黒褐土ブロックを多く含み、小礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。

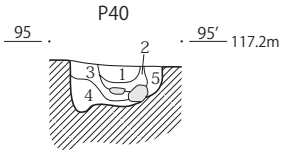


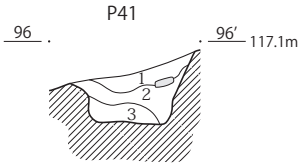


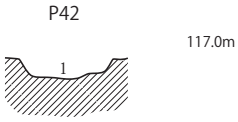
SK43
1　黒褐色土(10YR2/3)　黄色砂粒・白色砂粒を微量に、ロームブロック・炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　白色砂粒・ローム粒を多量に、、炭化粒を微量に含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・炭化粒を少量含む。
4　褐灰色土(10YR4/1)
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒を少量含む。
6　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒を多量に含む。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　白色砂粒を微量に、ローム粒を多量に含む。
8　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　地山ローム土を主体土とする。灰褐土をブロック状に、ローム粒を少量含む。
9　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　地山ローム土を主体土とする。黒褐土混じりで、砂粒を多量に、ローム粒を少量含む。
10　灰黄褐色土(10YR4/2)　5層に類似する。炭化粒を少量含む。粘性強、しまり中。



SK44
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/1)　白色砂粒・ローム粒を微量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒を少量、ロームブロックを多量に含む。しまりやや弱。
4　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒を少量、ロームブロックを多量に含む。粘性やや強。
5　灰黄褐色土(10YR5/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
6　黒褐色土(10YR3/2)　4層と類似する。黄色砂粒・ローム粒を少量含む。しまりやや弱。
7　暗褐色土(10YR3/3)　基層の粒度が細かい。ローム粒を多量に含む。しまりやや強。
8　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　黒色土ブロック・ロームブロック・小礫を少量含む。粘性やや強。





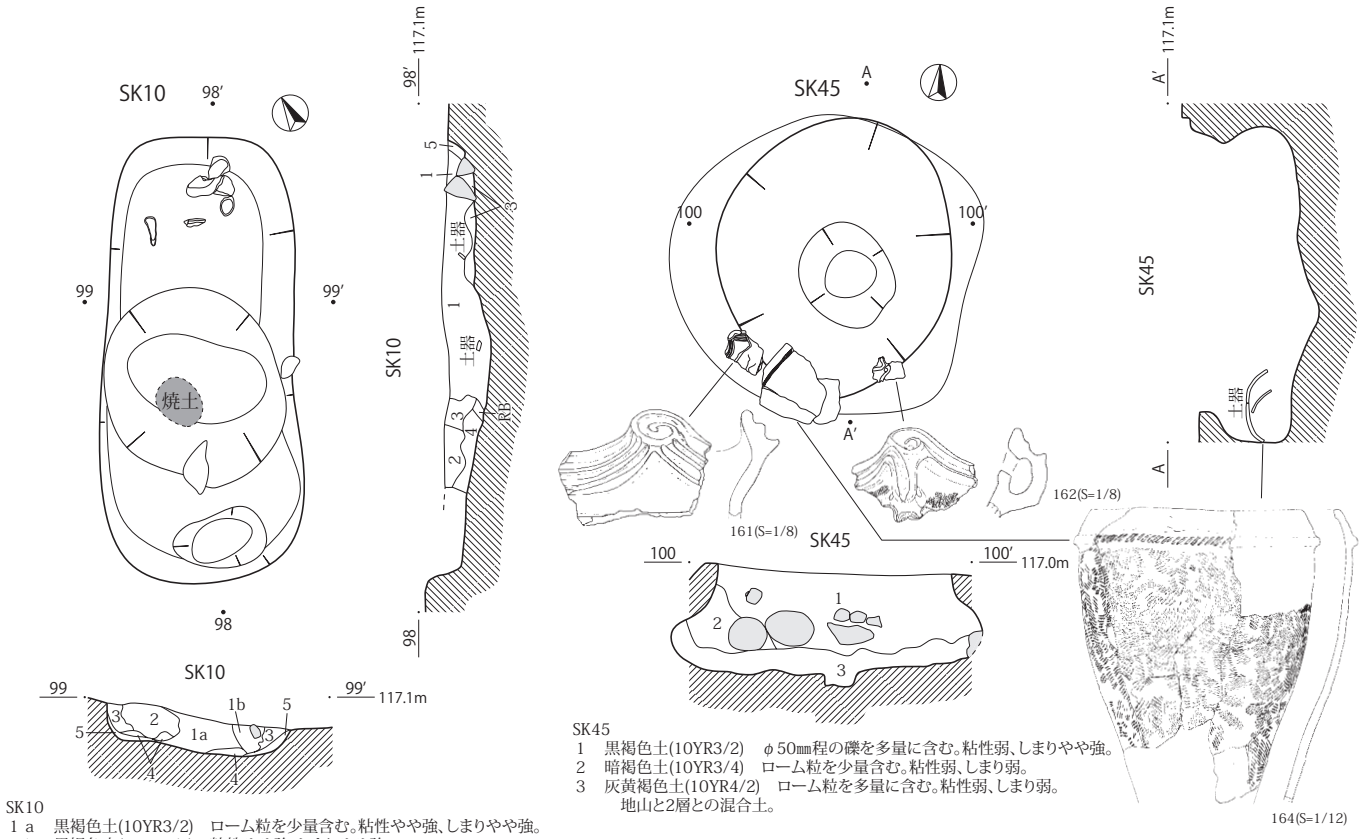


P40
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒・ローム粒・小礫・炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒・小礫・炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・ローム粒を少量含む。粘性強。
4　にぶい黄橙色土(10YR6/3)　ロームブロック・炭化粒を多量に含む。粘性やや強。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。

P41
1　灰褐色土(7.5YR4/2)　黄色砂粒・炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや弱。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　炭化粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　灰褐色土(7.5YR5/2)　ローム粒を多量、黄色砂粒・φ50㎜程の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

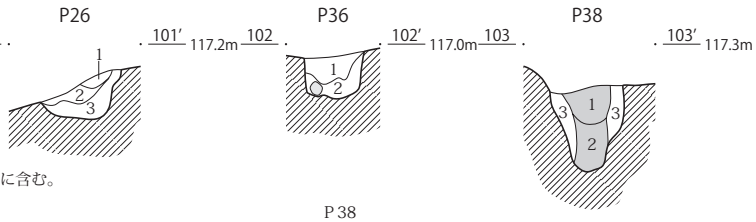
P42
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒・炭化粒を多量に含む。粘性強、しまりやや弱。

0　(1:40)　2m



SK10
1 a　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
1 b　黒褐色土(10YR2/2)　粘性やや強、しまりやや強。
2　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
5　黄褐色土(10YR5/6)　粘性やや強、しまり中。地山崩落土。

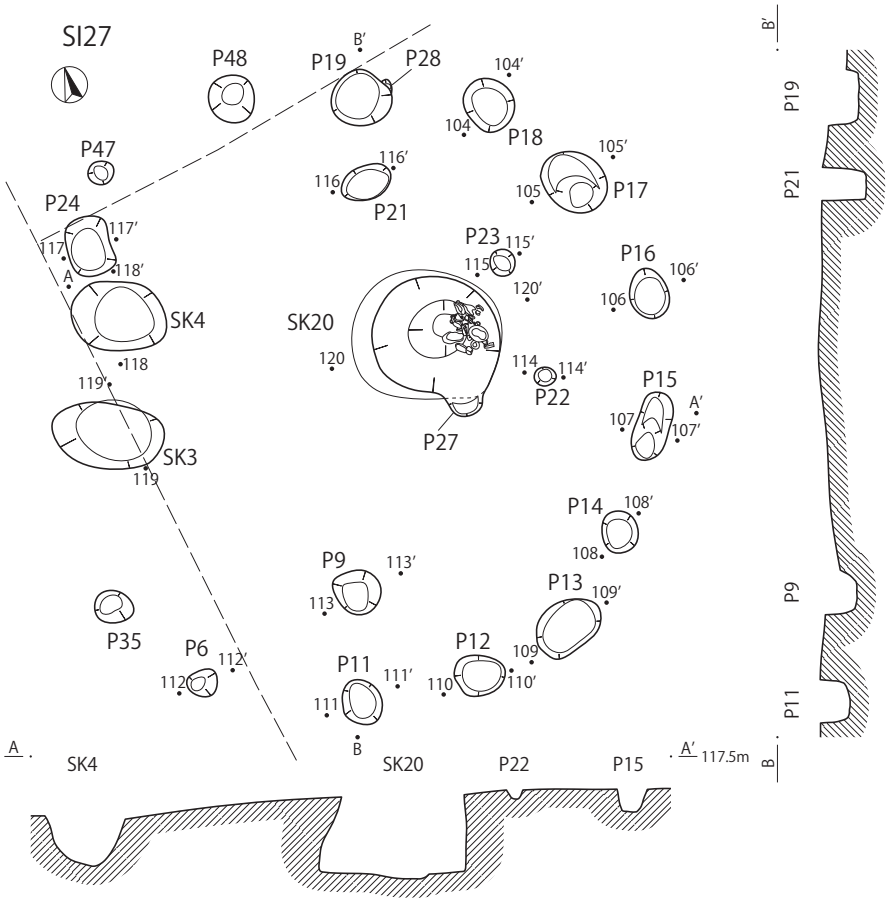
SK45
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ50㎜程の礫を多量に含む。粘性弱、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を少量含む。粘性弱、しまり弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量に含む。粘性弱、しまり弱。
地山と2層との混合土。

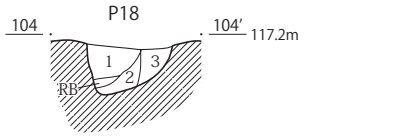


P26
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒を多量に含む。粘性強、しまりやや弱。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　暗褐色土をブロック状に、ロームブロック・小礫 を多量に含む。
粘性やや弱、しまりやや弱。

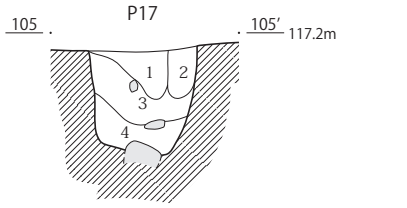
P36
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・ローム粒を少量、小礫 を多量に含む。粘性やや強、
しまりやや強。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒・拳大の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

P38
1　黒褐色土(10YR3/1)　黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。
粘性やや弱、しまり弱。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒を多量、
黄色砂粒・φ50㎜ 程の礫を少量含む。粘性中、
しまりやや弱。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロック・小礫を少量含む。
粘性やや強、しまりやや弱。



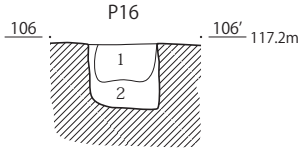


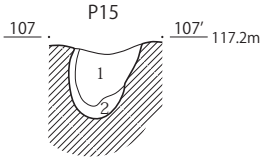
P18
1　黒褐色土(10YR2/2)　φ10～30㎜の礫・φ10㎜の
炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒を多量に含む。
粘性やや強、しまりやや弱。
3　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒を多量に含む。
粘性やや強、しまりやや弱。

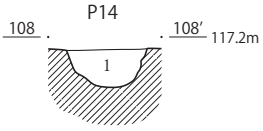


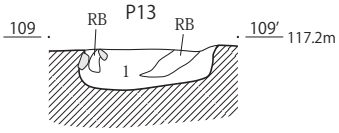
P17
1　褐色土(10YR4/6)　拳大の礫を少量含む。
粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に、φ10～30㎜
の礫を少量、炭化粒を微量に含む。粘性やや強、
しまりやや強。
3　黒褐色土(10YR3/2)　φ30㎜の礫を多量に含む。
粘性やや強、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR2/2)　φ10～30㎜の礫を多量に含む。
粘性やや弱、しまりやや強。

0　断面図・平面図　2m
(1:40)
0　SI27平面図・エレベーション　4m
(1:80)







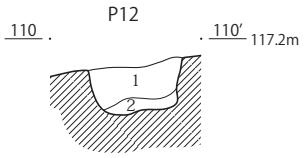


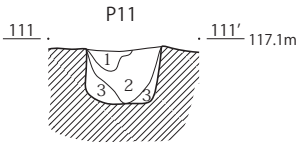
P16
1　黒褐色土(10YR2/2)　φ30㎜の礫を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを多量に、φ30㎜の礫を少量含む。
　　粘性やや強、しまりやや弱。

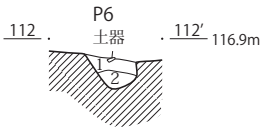
P15
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　φ10～30㎜の礫を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。

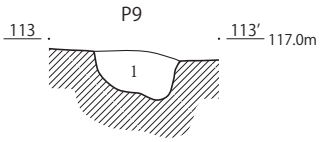
P14
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ30㎜の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

P13
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ30㎜の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。









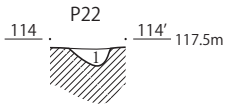
P12
1　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。

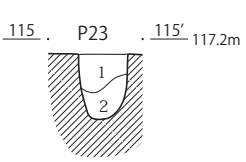
P11
1　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/4)　φ10㎜の礫・ローム粒・炭化粒を少量含む。粘性やや強、
　　しまりやや強。

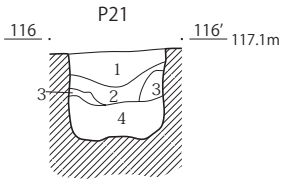
3　黒褐色土(10YR3/2)　φ10㎜の礫を少量、ローム粒・炭化粒を微量に含む。粘性やや強、
　　しまりやや弱。

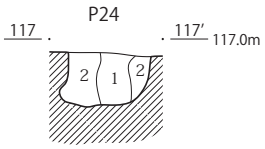
P6
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ20㎜の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。

P9
1　暗褐色土(10YR3/4)　φ10～30㎜の礫、φ10㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、
　　しまりやや弱。









P22
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまり中。

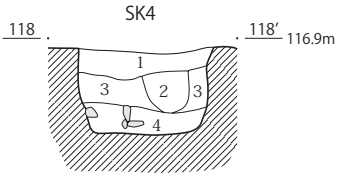
P23
1　暗褐色土(10YR3/4)　黄色砂粒を含み、φ10～30㎜の礫・φ10㎜の炭化粒を少量含む。
　　粘性やや強、しまりやや弱。
2　黄褐色土(10YR5/6)　黄色砂粒・φ30㎜の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

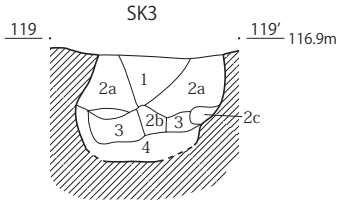
SK4
1　黒褐色土(10YR2/2)　小礫を多量に、炭化粒φ3㎜を少量含む。粘性やや強、しまり強。
2　暗褐色砂質土(10YR3/3)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　暗褐色砂質土(10YR3/3)　ローム粒を少量、円礫 を多く含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　黒褐色砂質土(10YR3/2)　小礫を多く含む。粘性弱、しまりやや強。

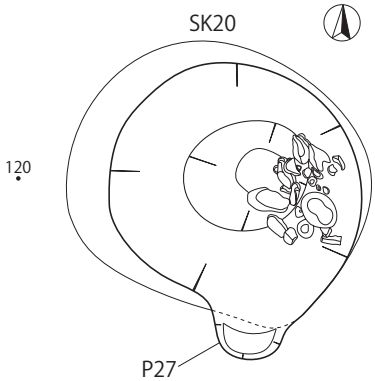
SK3
1　　黒褐色土(10YR2/2)　拳大 の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2 a　黒褐色砂質土(10YR3/2)　黒ボク土に類似。ロームブロックを少量、円礫を
　　多く含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
2 b　黒褐色土(10YR3/2)　黒ボク土に類似。粘性やや弱、しまりやや弱。
2 c　黒褐色土(10YR3/2)　黒色土ブロックを含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
4　　黒褐色砂質土(10YR3/2)　円礫を少量含む。粘性やや弱、しまり中。

P21
1　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。しまり強。
2　褐色土　ロームブロックを多量に含む。
3　褐色土　ロームブロックを極めて多量に含む。
4　褐色土　黒褐色土ブロック・ロームブロックを多量に含む。

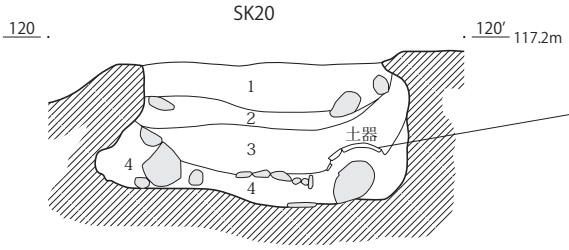
P24
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまり弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック・φ40㎜の礫を多量に含む。粘性やや弱、しまり強。

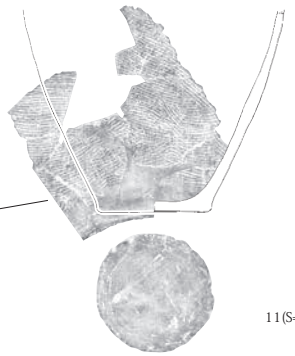






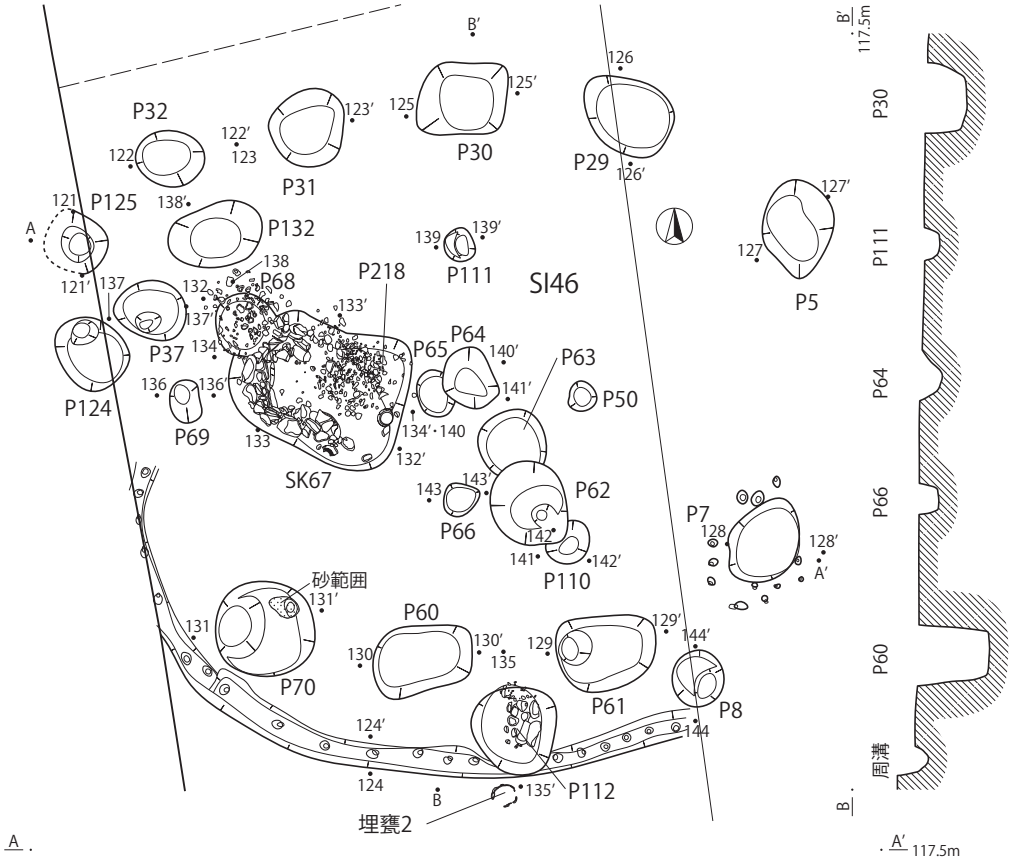
SK20
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒を少量、φ30㎜の礫を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に、φ10～30㎜の礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR3/2)　拳大の礫を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

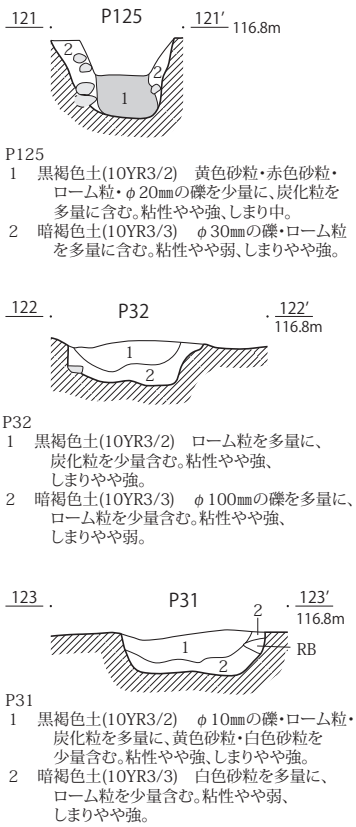




11(S=1/10)

0　(1:40)　2m

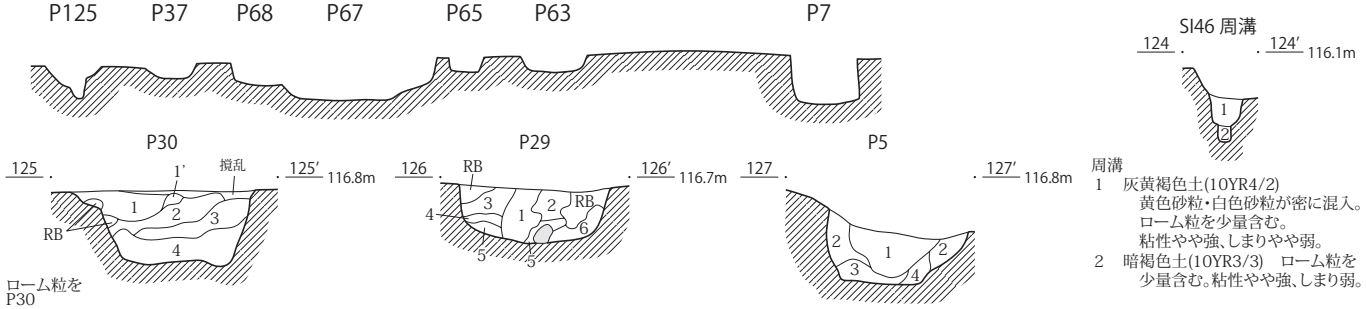




P125
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・赤色砂粒・ローム粒・φ20㎜の礫を少量に、炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまり中。
2　暗褐色土(10YR3/3)　φ30㎜の礫・ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。

P32
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に、炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/3)　φ100㎜の礫を多量に、ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。

P31
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ10㎜の礫・ローム粒・炭化粒を多量に、黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/3)　白色砂粒を多量に、ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

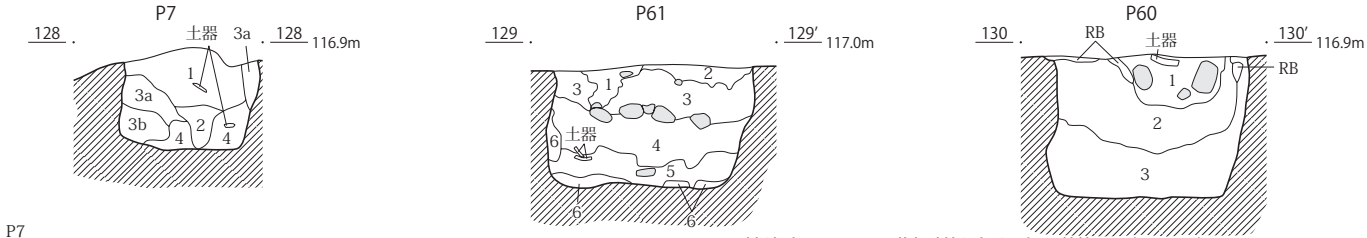


周溝
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・白色砂粒が密に混入。ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまり弱。

ローム粒を
P30
1　黒褐色土(10YR2/3)　黄色砂粒・ローム粒・炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまり強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・炭化粒を少量、ローム粒を微量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　暗褐色土(10YR3/3)　φ5㎜の炭化粒を多量に含み、部分的にロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
4　黒褐色土(10YR2/3)　黄色砂粒・白色砂粒・φ5㎜の炭化粒を多量に、φ10㎜の礫・ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

P29
1　黒褐色土(10YR2/2)　白色砂粒・黄色砂粒・ローム粒・炭化粒（φ5㎜）を多量に含む。粘性強、しまり強。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　白色砂粒・ローム粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3　褐灰色土(10YR4/1)　灰色粒・黄色砂粒・ローム粒を多量に、炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
4　灰黄褐色土(10YR4/2)　ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
5　褐灰色土(10YR4/1)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
6　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ロームを主体とする。5層より黄色砂粒が多く混入。粘性やや強、しまりやや弱。

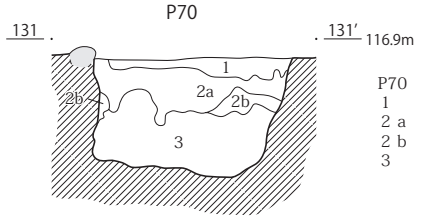
P5
1　黒褐色土(10YR2/2)　φ20㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまり弱。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや弱、しまりやや強。
3　黒褐色砂質土(10YR3/2)　粘性やや強、しまりやや強。
4　黒褐色土(10YR3/2)　粘性やや強、しまりやや強。



P7
1　黒褐色土(10YR2/2)　炭化粒を微量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
3 a　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
3 b　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックを少量含む、粘性やや強、しまりやや弱。
4　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。

P61
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色砂粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒を多量に含む。粘性やや強、しまり強。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　白色砂粒・黄色砂粒を多量に、ローム粒を斑状に少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
4　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　灰褐色土を斑状に含む。粘性強、しまりやや強。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを多量に、炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
6　明黄褐色土(10YR6/6)　地山・黄褐色粘質土を主体とする。粘性やや強、しまりやや強。

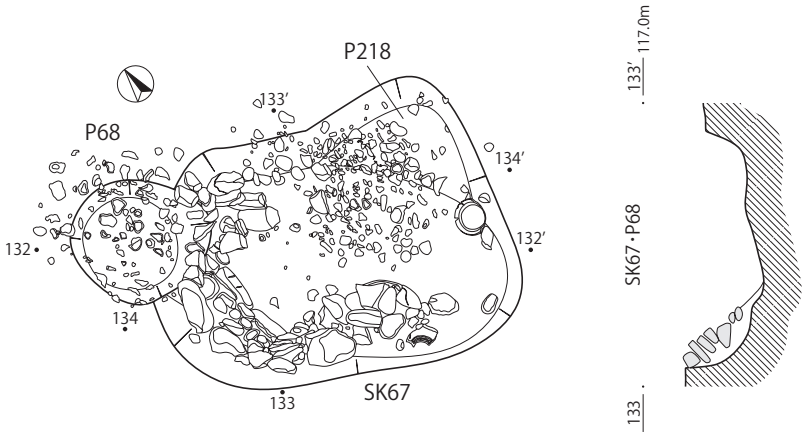
P60
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ10㎜の礫・黄色砂粒・ローム粒を少量、炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　黄色砂粒・ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。



P70
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒・φ20㎜の礫を少量含む。粘性やや弱、しまり中。
2 a　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームを主体とする。黒褐土を斑状に含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2 b　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームを主体とする。2a層より黒褐土を多く含む。粘性やや弱、しまりやや弱。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　暗褐色土を僅かに含む。ロームを主体とする。粘性強、しまりやや強。

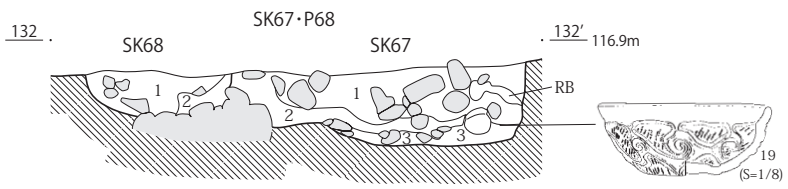
0　断面図・平面図(1:40)　2m

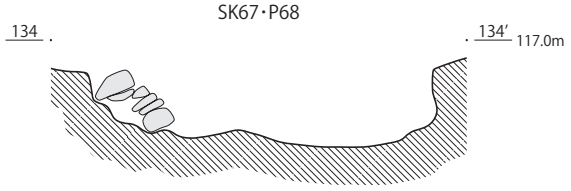
0　SI27平面図・エレベーション(1:80)　4m

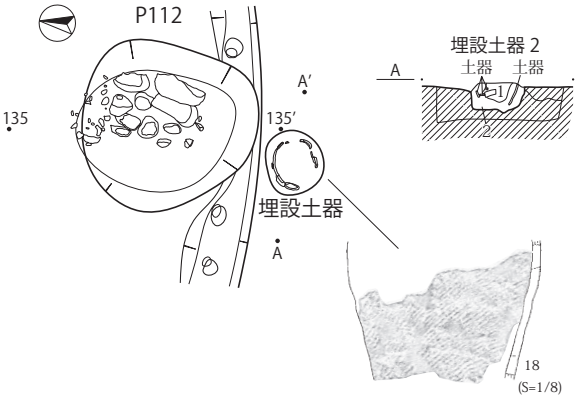


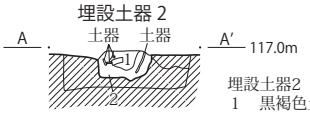
P67
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・拳大 の礫を多量に、ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・小礫 を多量に含む。粘性強、しまり中。
3　黒褐色土(10YR3/2)　黄色砂粒・白色砂粒・小礫 を多量に、炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。

P68
1　黒褐色土(10YR2/2)　φ30㎜の礫を多量に、炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に含む。粘性強、しまり中。

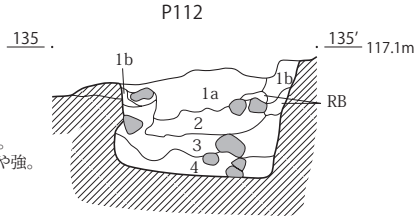




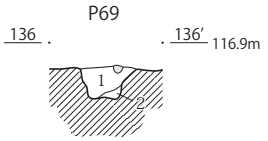


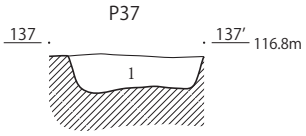


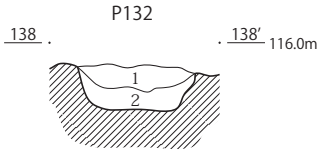
埋設土器2
1　黒褐色土　黄色砂粒・白色砂粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　灰黄褐色粘質シルト　暗褐色土を斑状に含む。炭化粒を僅かに含む。粘性やや強、しまりやや強。

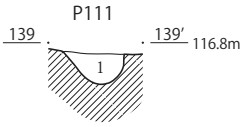


P112
1 a　暗褐色土(10YR3/3)　φ30㎜の礫・黄色粒・赤色粒・白色粒・炭化粒を多量に、ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
1 b　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒・炭化粒を多量に、φ30㎜の礫を少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　灰黄褐色土(10YR4/2)　ロームブロックを多量に、φ10㎜の礫を少量含む。粘性強、しまり中。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒を少量含み、2層より砂粒が少ない。粘性強、しまり中。
4　明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロックを多量に含み、薄く暗褐色土が混入。粘性やや強、しまりやや強。







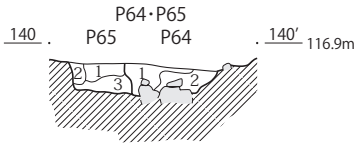


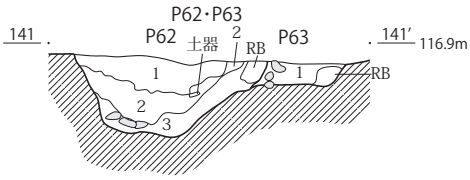
P 69
1　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒・ローム粒・小礫・炭化粒を少量含む。粘性中、しまりやや強。
2　明黄褐色土(10YR7/6)　地山ローム土を基層とする。暗褐色土をブロック状に少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。

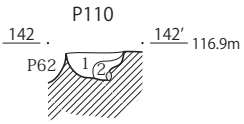
P37
1　黒褐色土　φ30㎜の礫を多量に含む。黄色砂粒・赤色砂粒・小礫が全体的に多く混入。粘性やや強、しまりやや弱。

P132
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色粒、ローム粒を多量に、炭化粒（φ3㎜）を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　φ100㎜の礫、黄色粒、ローム粒、炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。

P111
1　黒褐色土(10YR2/2)　黄色砂粒、ローム粒を多量に含む。粘性強、しまりやや強。







P64
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色砂粒・ローム粒・炭化粒が薄く入る。粘性やや弱、しまり中。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を多量に、白色砂粒・炭化粒を少量含む。粘性強、しまり中。

P65
1　黒褐色土(10YR2/3)　φ20㎜の礫・黄色砂粒・白色砂粒・ローム粒・炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまり中。
2　暗褐色土(10YR3/3)　φ20㎜の礫・ローム粒を多量に、白色砂粒・黄色砂粒を少量含む。粘性中、しまり弱。
3　黒褐色土(10YR3/2)　φ30㎜の礫・ロームブロック・黄色砂粒・白色砂粒・φ3㎜の炭化粒を多量に含む。粘性やや強、しまり強。

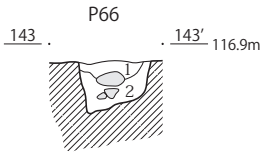
P62
1　暗褐色土(10YR3/4)　黄色砂粒・ローム粒・拳大 の礫を多量に、炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　にぶい黄橙色粘質土(10YR6/4)　暗褐土色をブロック状に少量、炭化粒を少量、ロームブロックを多量に含む。粘性強、しまりやや弱。
3　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒色土ブロック・ローム粒を多量に含む。粘性強、しまりやや強。

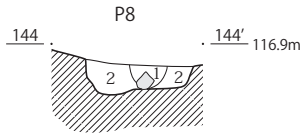
P63
1　暗褐色土(10YR3/4)　黄色砂粒・ローム粒・拳大の礫を多量に、炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。

P110
1　黒褐色土(10YR3/2)　黄色粒・ローム粒を全体的に少量含む。炭化粒を少量含む。粘性やや強、しまりやや弱。
2　暗褐色土(10YR3/3)　黄色砂粒・ローム粒を含む。粘性やや強、しまりやや弱。

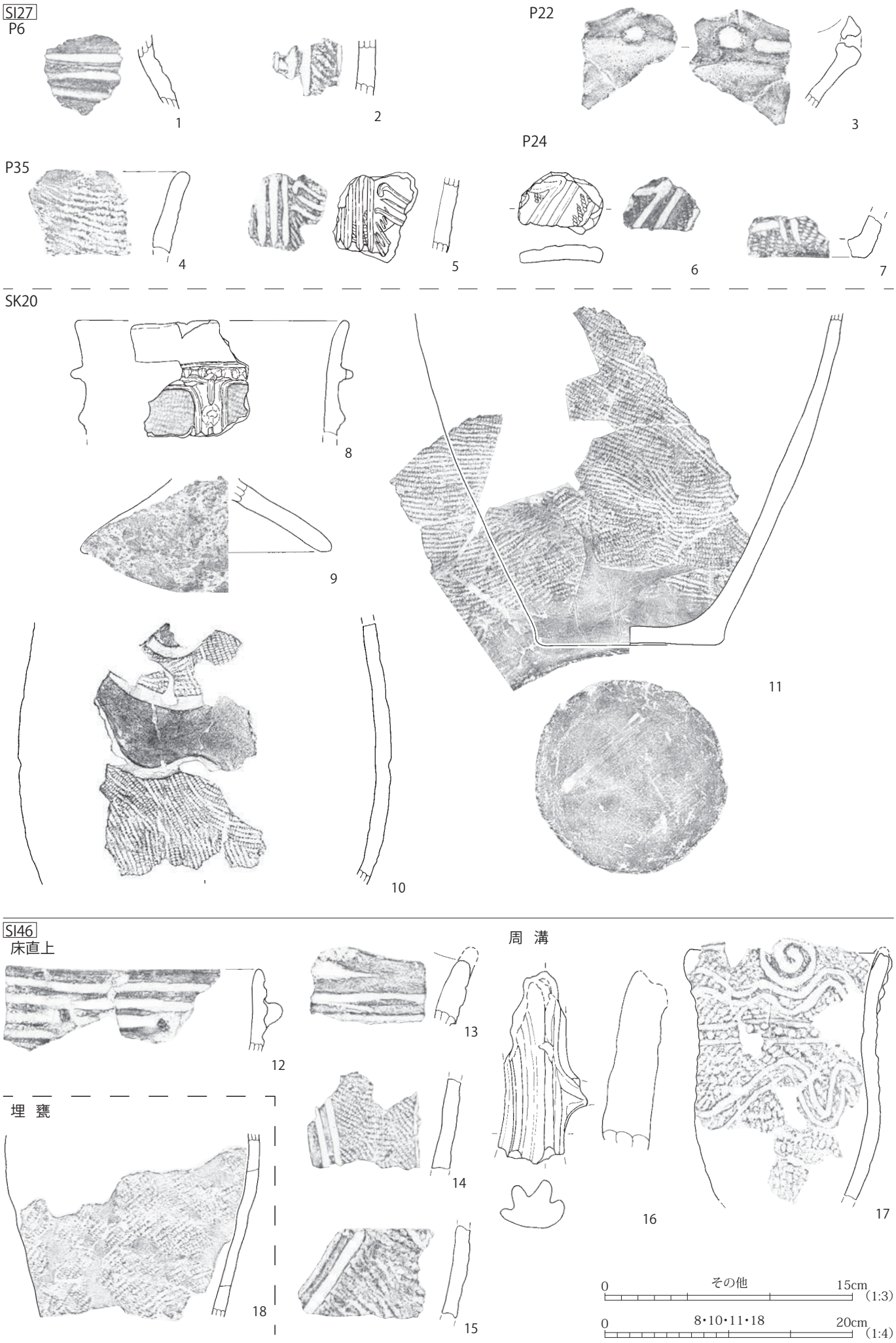
P66
1　黒褐色土(10YR3/2)　φ20㎜の礫・黄色砂粒・砂利を多量に、ロームブロック、φ3㎜の炭化粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや強。
2　暗褐色土(10YR3/4)　φ30㎜の礫・黄色砂粒・砂利・ローム粒を多量に含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

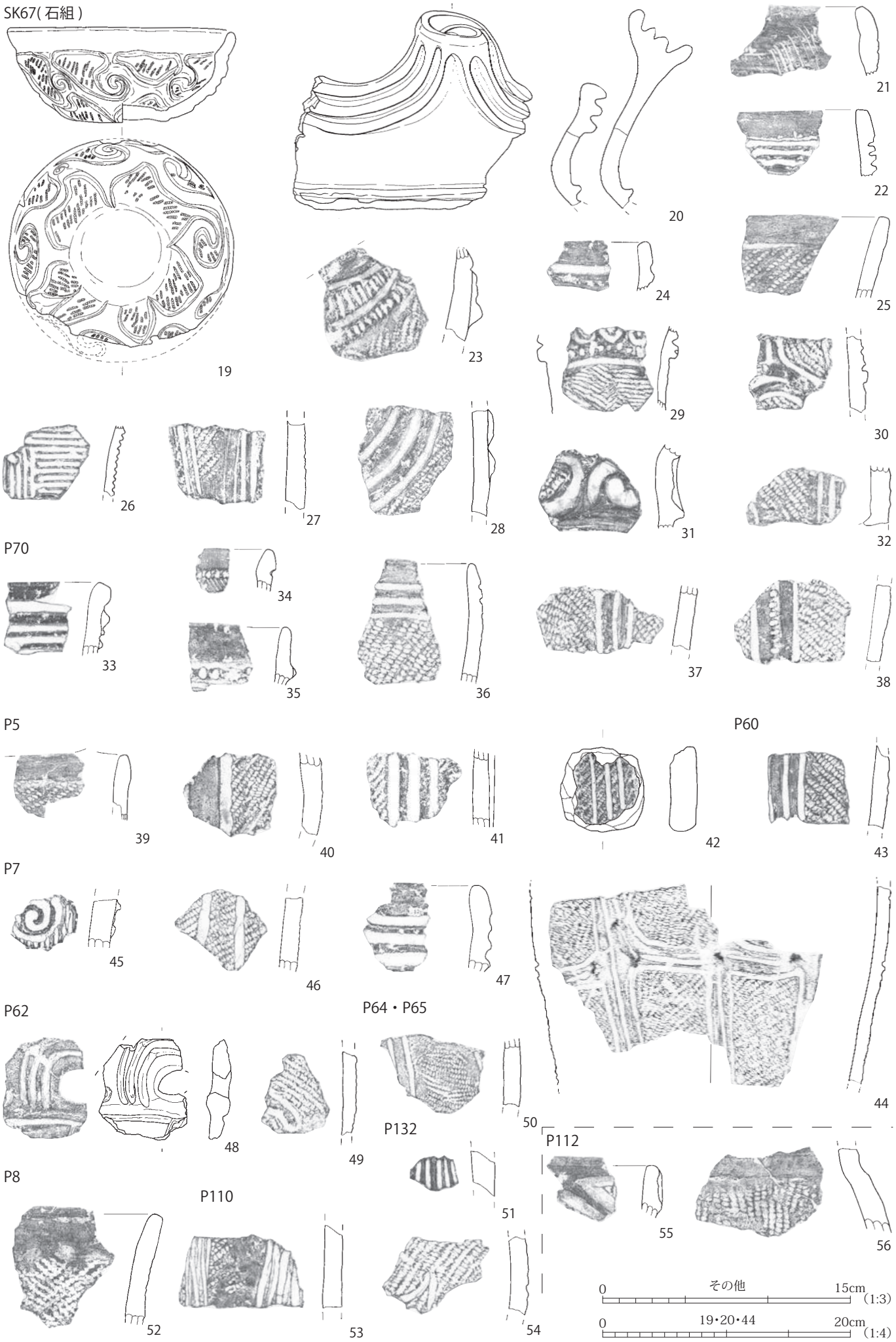
P8
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを少量含む。粘性やや強、しまりやや強。
2　黒褐色土(10YR3/2)　ローム粒を少量含む。粘性やや弱、しまりやや弱。

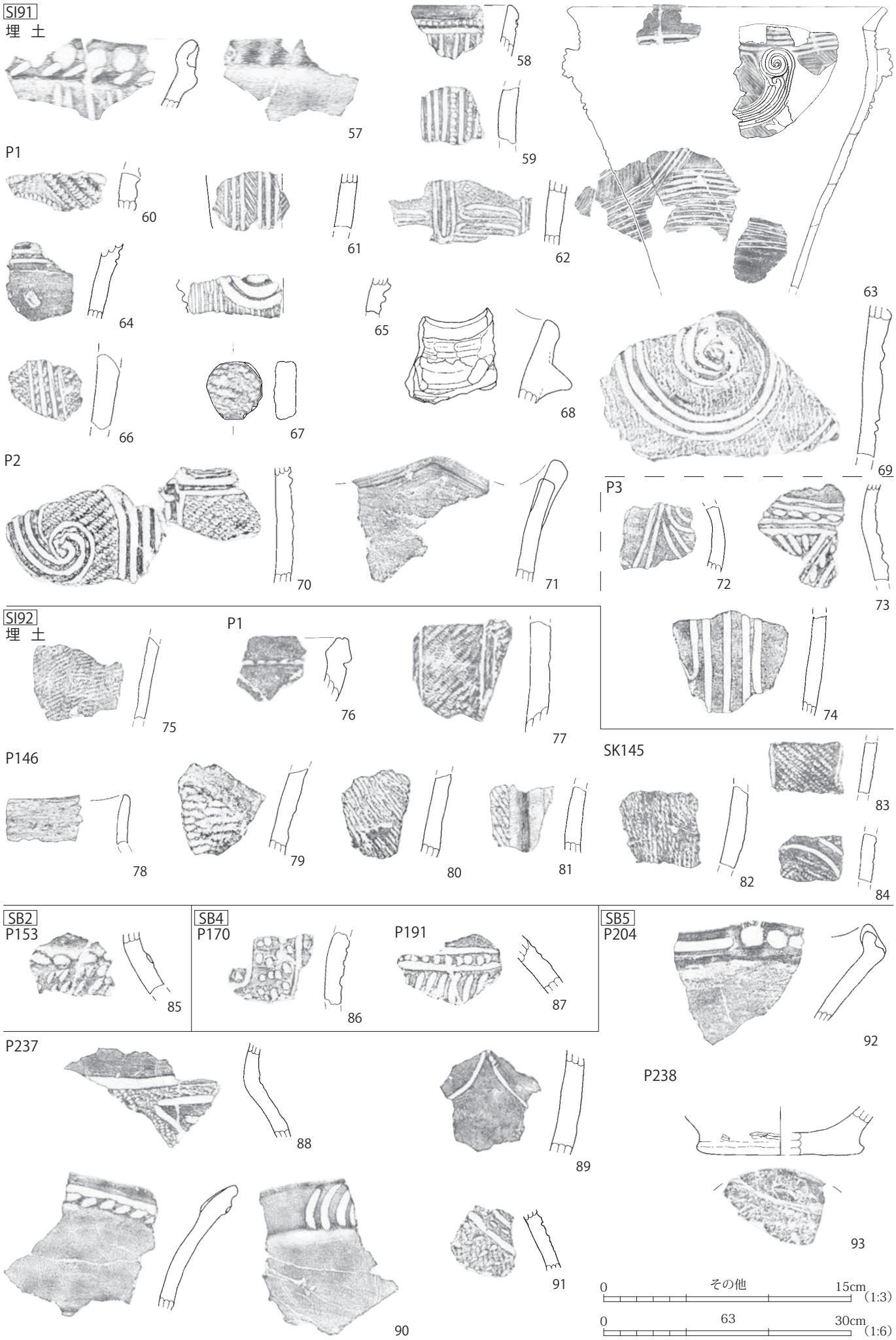




0　(1:40)　2m


SI27
P6
1
2
P22
3
P24
P35
4
5
6
7
SK20
8
9
10
11
SI46
床直上
12
13
14
15
周溝
16
17
埋甕
18
その他
0
15cm
(1:3)
8・10・11・18
0
20cm
(1:4)


SK67(石組)
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
P70
33
34
35
36
37
38
P5
39
40
41
P60
42
43
P7
45
46
47
44
P62
48
49
P64・P65
50
P132
51
P112
55
56
P8
52
P110
53
54
その他
0
15cm
(1:3)
19・20・44
0
20cm
(1:4)

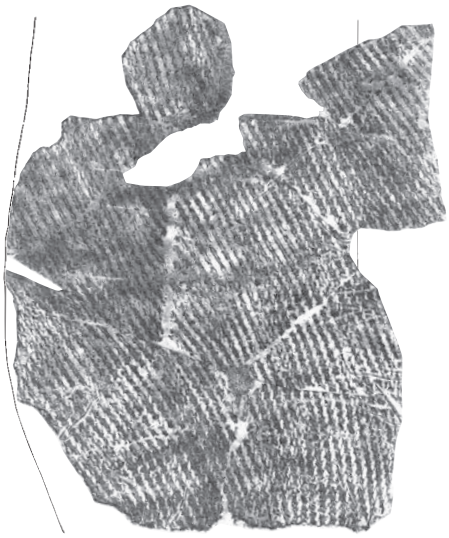

SI91
埋 土
57
58
59
P1
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
P2
70
71
P3
72
73
74
SI92
埋 土
75
P1
76
77
P146
78
79
80
81
SK145
82
83
84
SB2
P153
85
SB4
P170
86
P191
87
SB5
P204
92
P237
88
89
90
91
P238
93
その他
0
15cm
(1:3)
63
0
30cm
(1:6)

SB1
P187
94
95
96
97
98
99
100
101
P188
102
103
104
P196
105
106
P197
107
108
109
110
P210
111
P211
112
113
114
115
SB3
P163
116
117
118
119
P164
120
P179
121
122
123
P180
124
125
126
P181
127
128
129
130
131
132
133
P229
134
P148
135
136
137
0
15cm
(1:3)

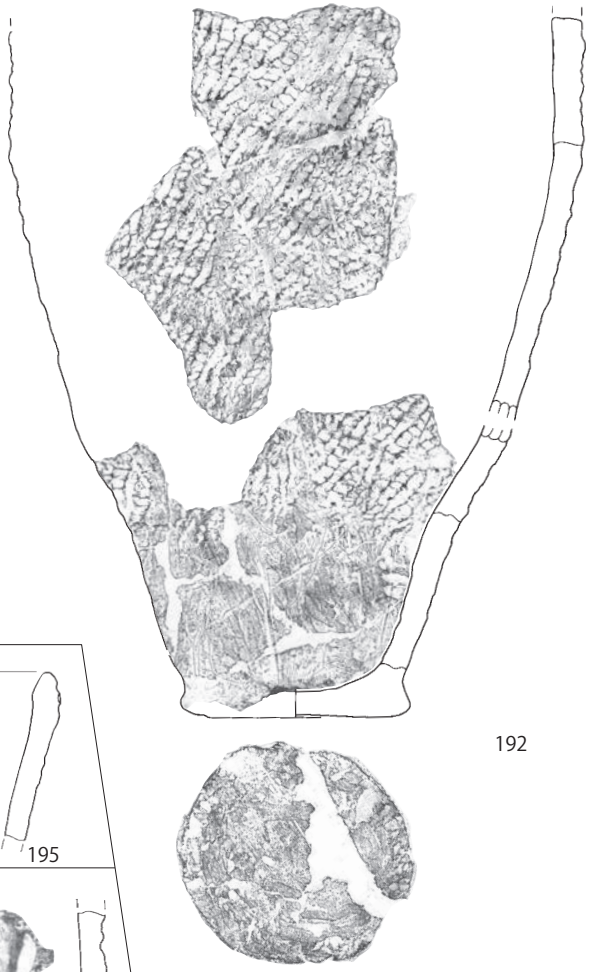
SK1
138
139
SK10
140
SK43
146
147
148
149
SK34
141
142
143
144
145
SK45
154
155
159
SK44
150
151
152
153
156
157
158
160
161
162
163
164
その他
0
15cm
(1:3)
139・158・160～162・164
0
20cm
(1:4)

SK49
SK78
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
漆
0
その他
15cm
(1:3)
0
166・176・177・182
20cm
(1:4)

SK78



191

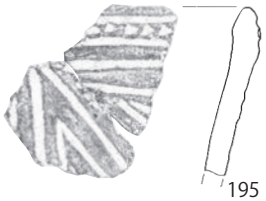


192

SK80

193

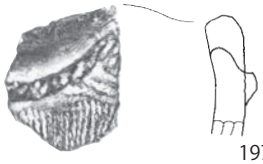
194



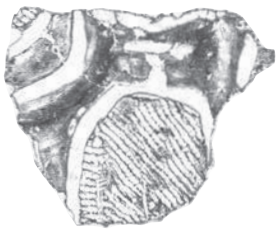
195

SK94

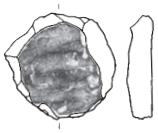
196



197



198

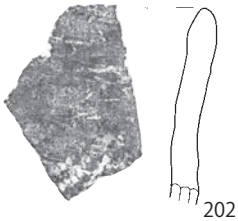


199

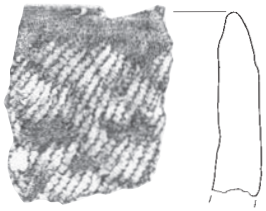
SK97

200

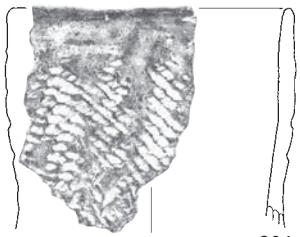
201



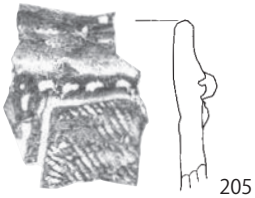
202



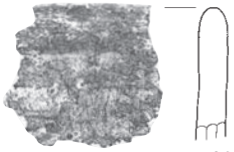
203



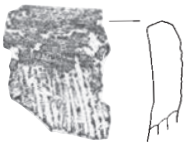
204



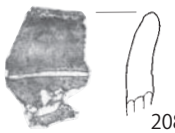
205



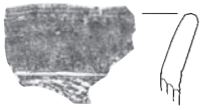
206



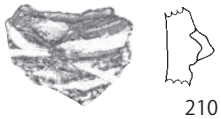
207



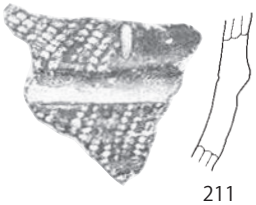
208



209



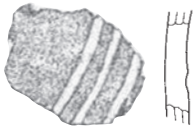
210



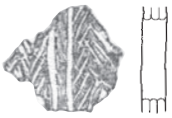
211

212

213

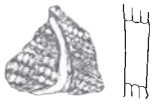


214



215

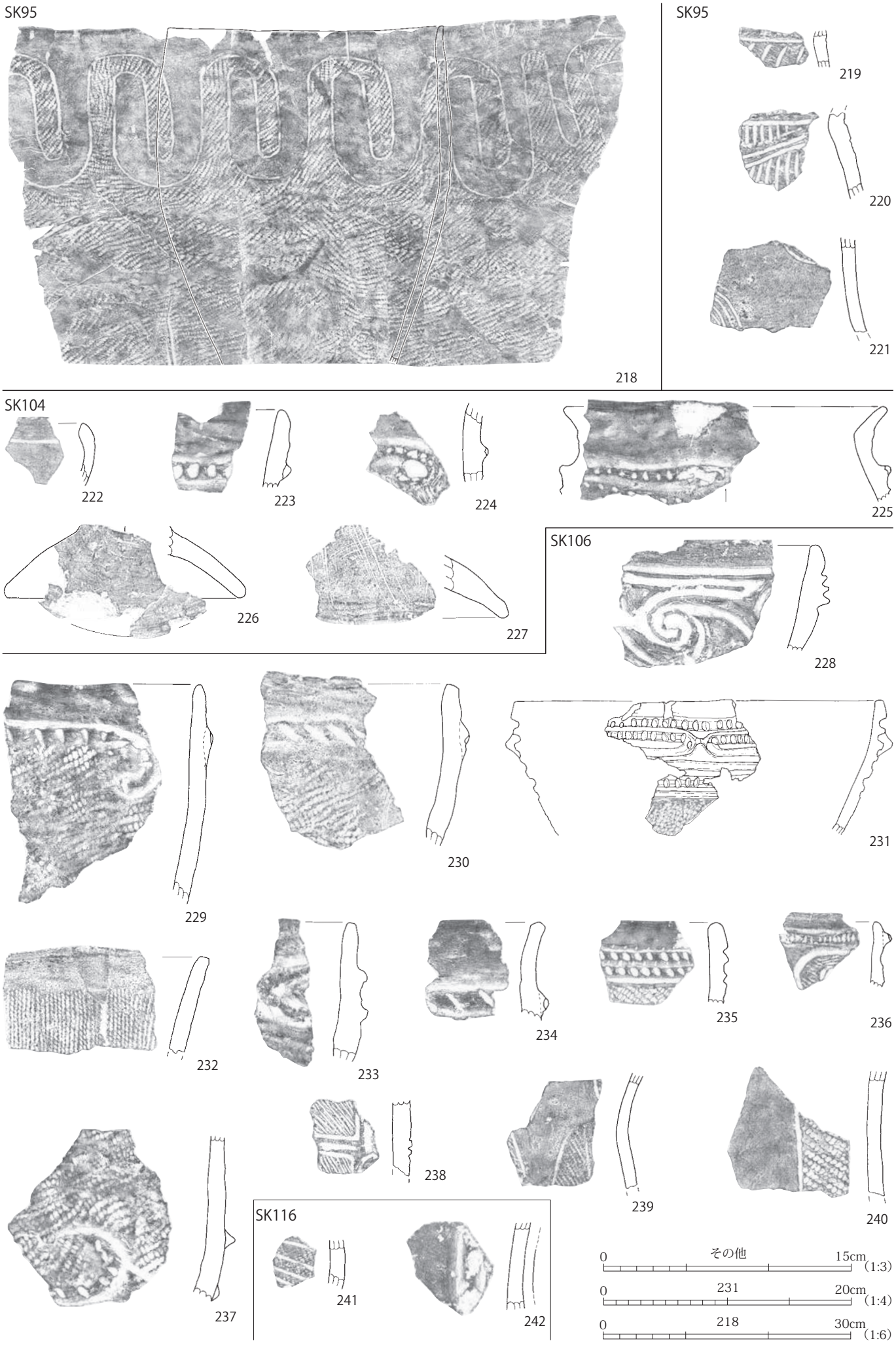
216



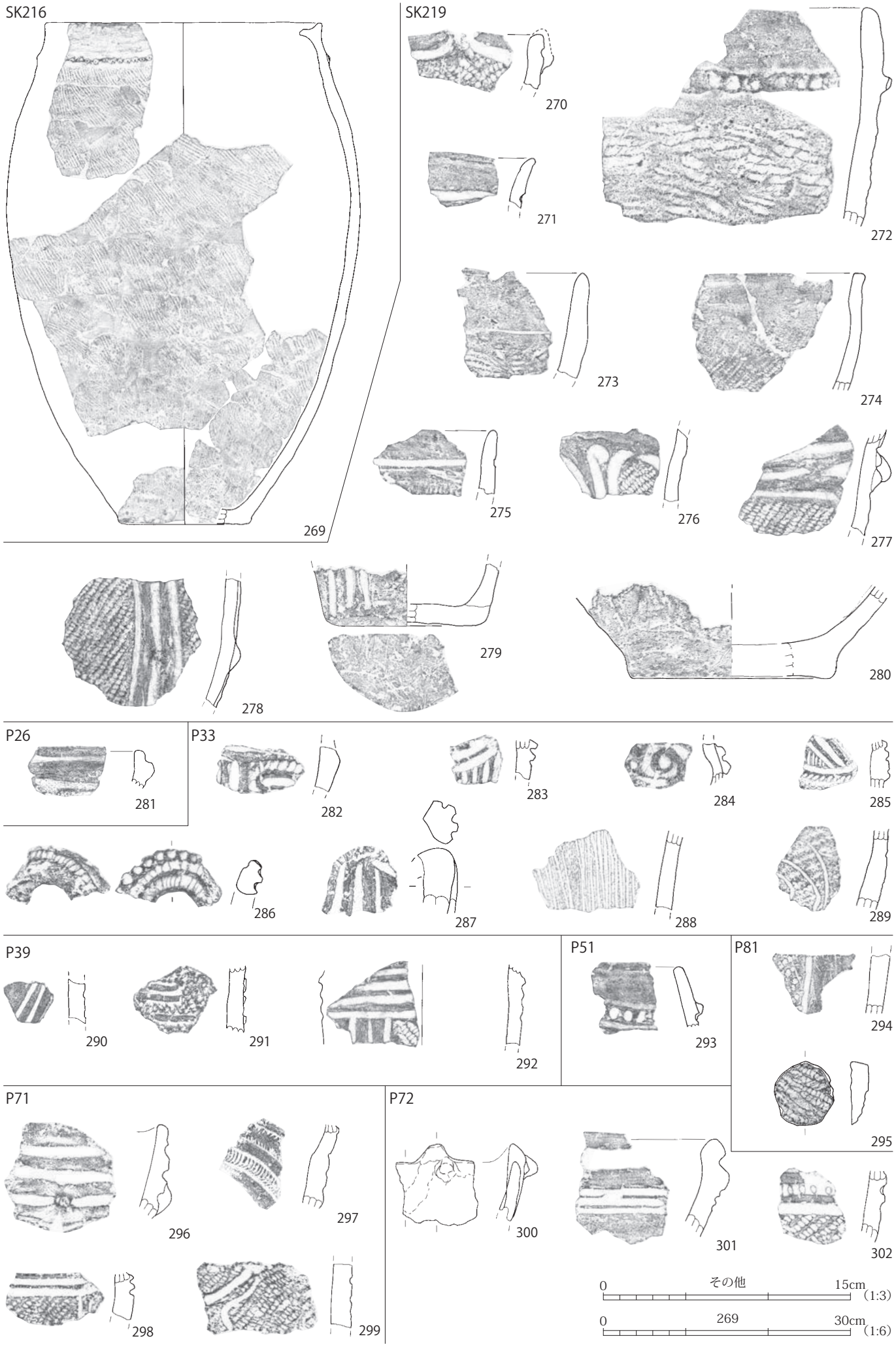
217

0　その他　15cm（1:3）

0　191・192　20cm（1:4）

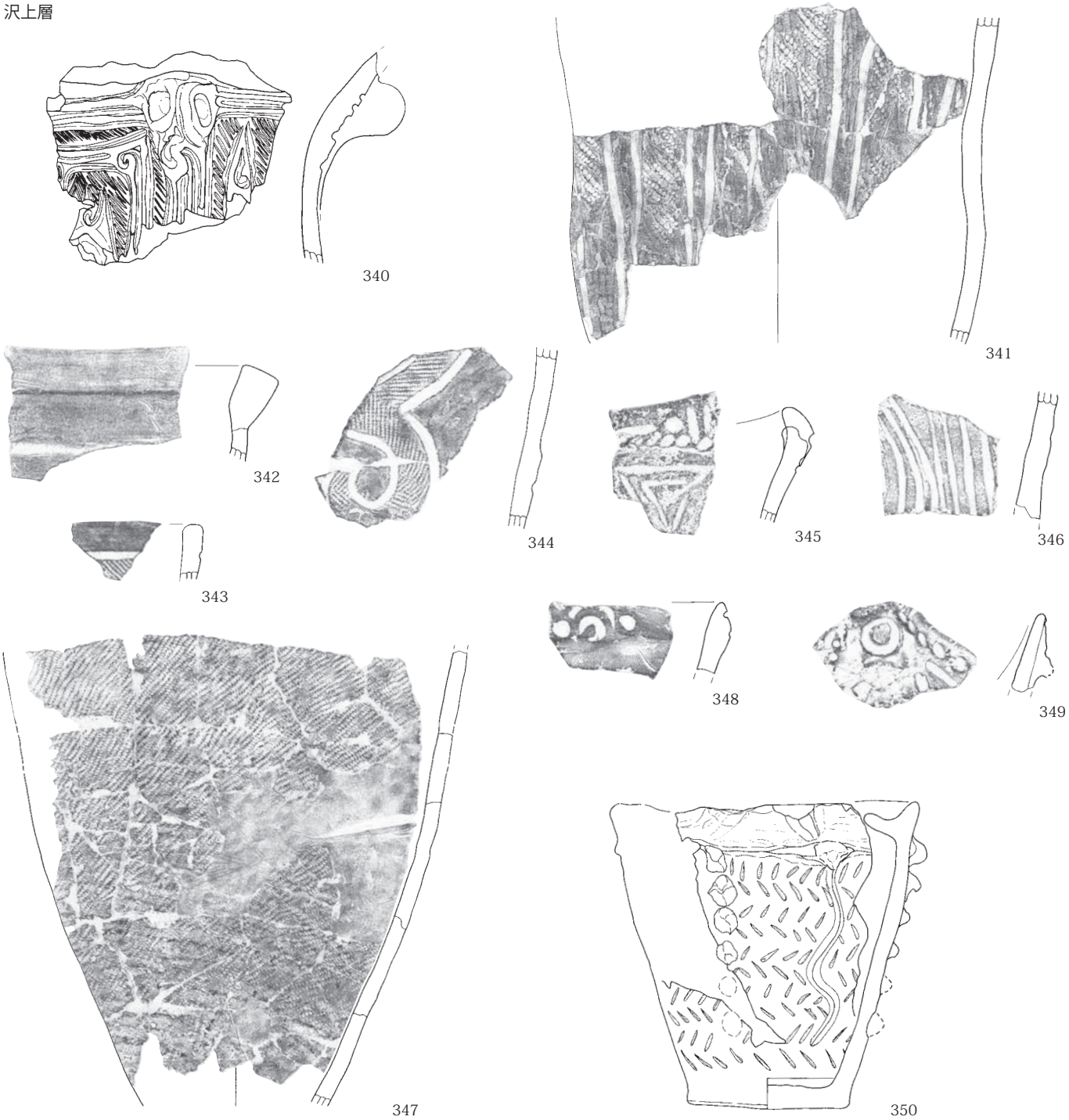

SK95
218
SK95
219
220
221
SK104
222
223
224
225
226
227
SK106
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
SK116
241
242
その他
0
15cm
(1:3)
231
0
20cm
(1:4)
218
0
30cm
(1:6)

SK139
243
244
245
246
247
SK140
248
249
250
SK142
251
252
253
254
SK216
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
その他
0
15cm
(1:3)
255～258・263
0
20cm
(1:4)

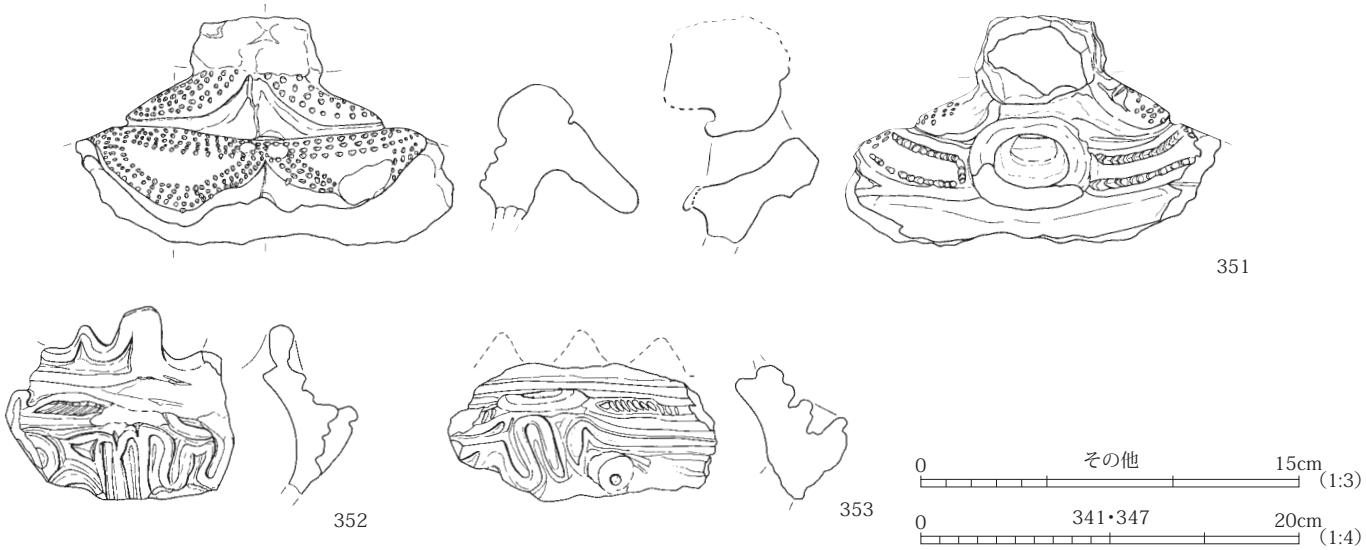

SK216
269
SK219
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
P26
281
P33
282
283
284
285
286
287
288
289
P39
290
291
292
P51
293
P81
294
295
P71
296
297
298
299
P72
300
301
302
その他
0
15cm
(1:3)
269
0
30cm
(1:6)

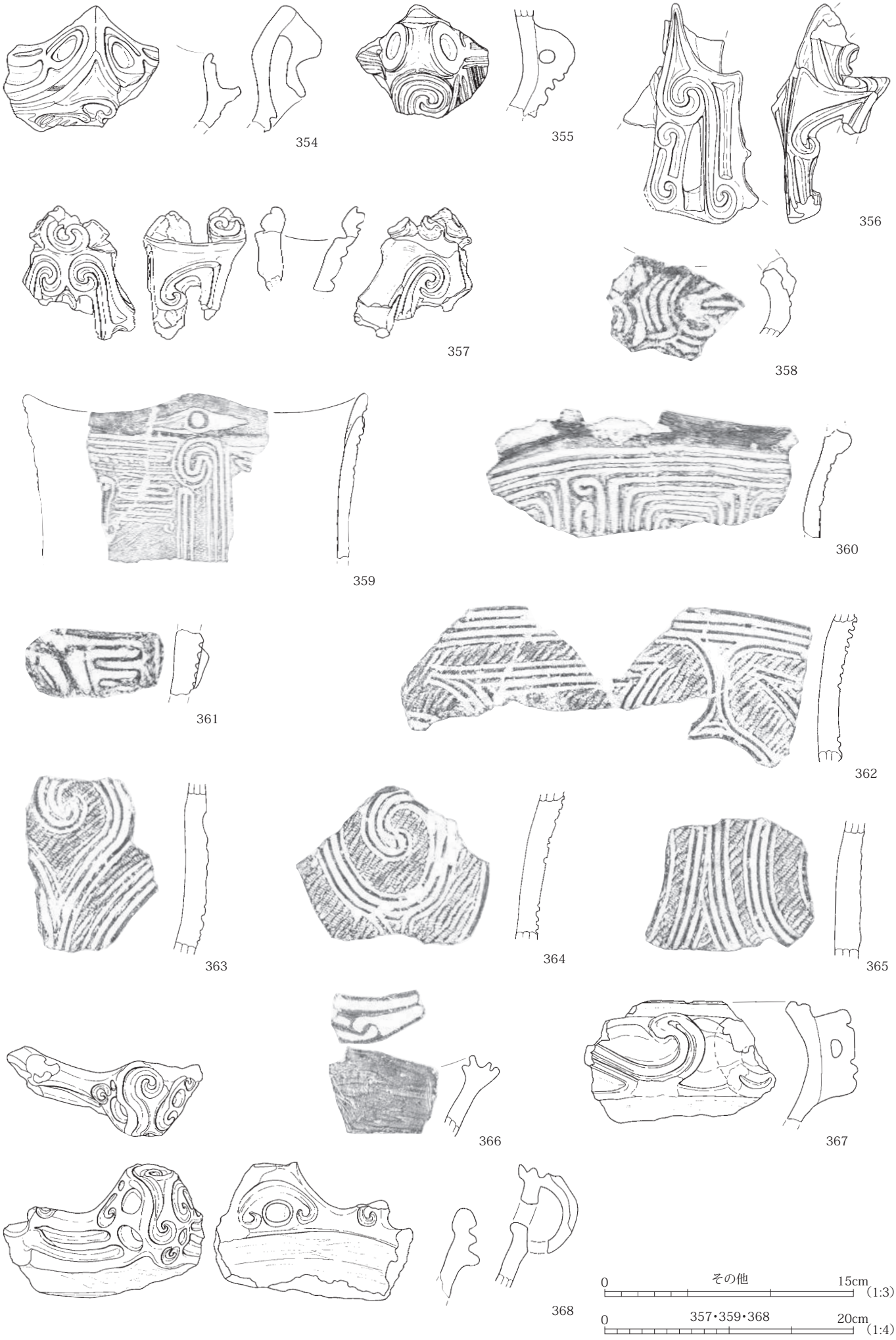
P83
303
304
305
306
P85
307
P87
308
P89
309
P100
310
311
P105
312
313
P114
314
315
316
317
P115
318
319
320
321
322
P131
323
P143
324
325
326
327
328
P178
329
330
331
332
P189
333
334
335
P203
336
P205
337
P228
338
339
0
15cm
(1:3)

沢上層

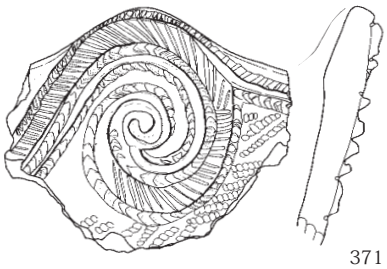

340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350

遺構外


351
352
353
0
その他
15cm
(1:3)
0
341・347
20cm
(1:4)

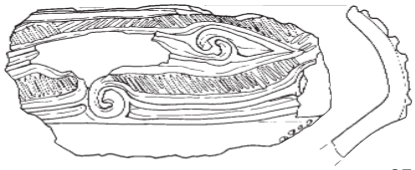

354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
その他
0
15cm
(1:3)
357・359・368
0
20cm
(1:4)

370

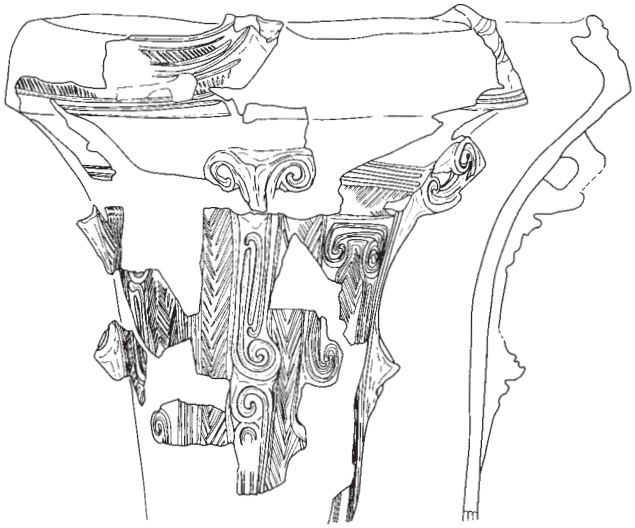


371

369

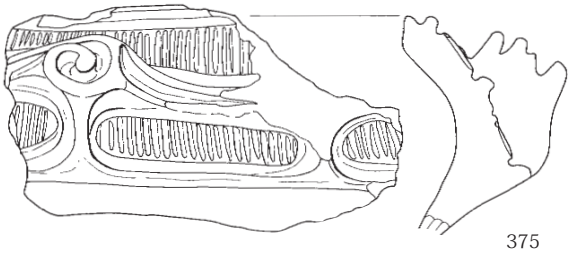


372



373

374

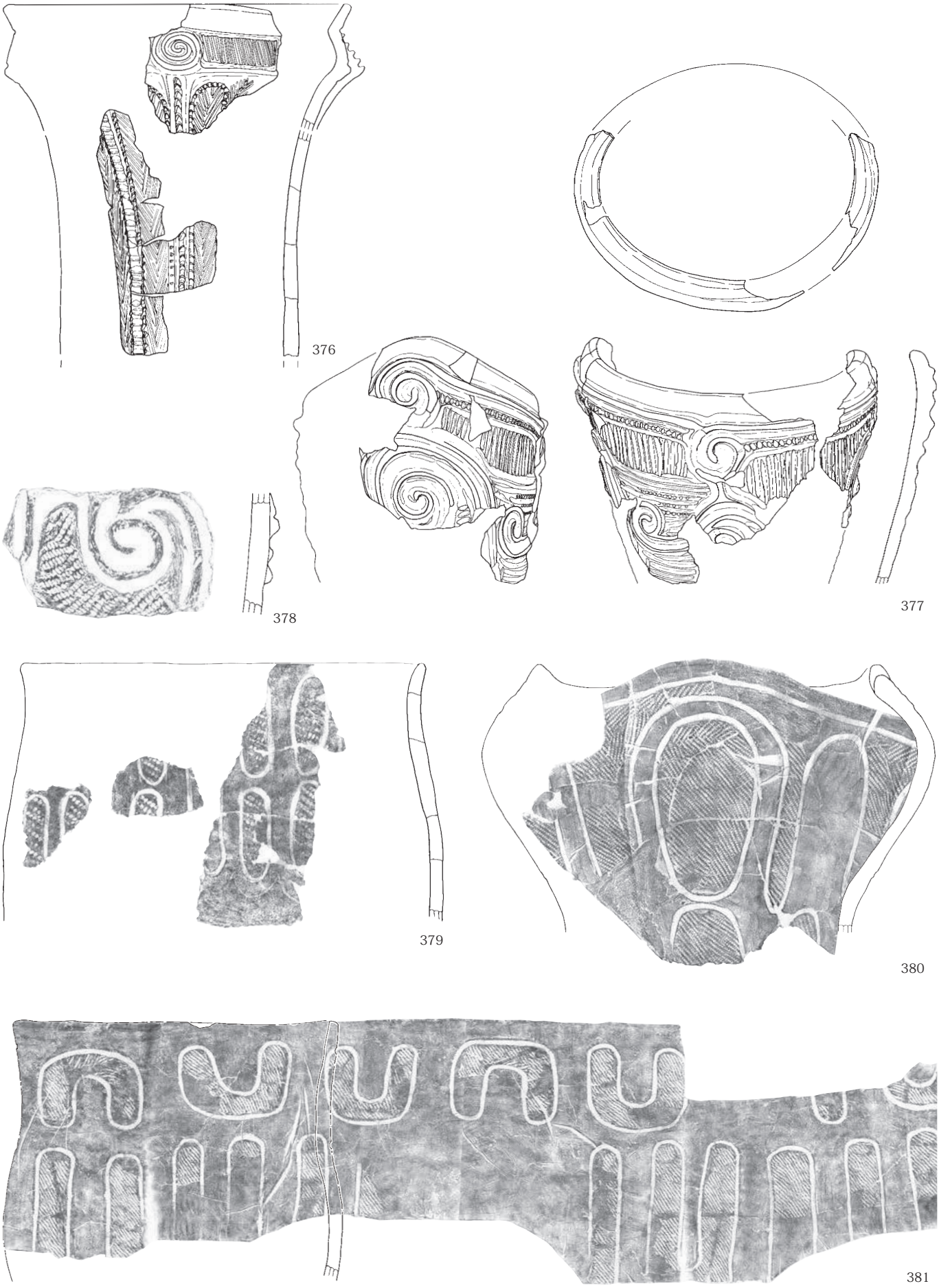


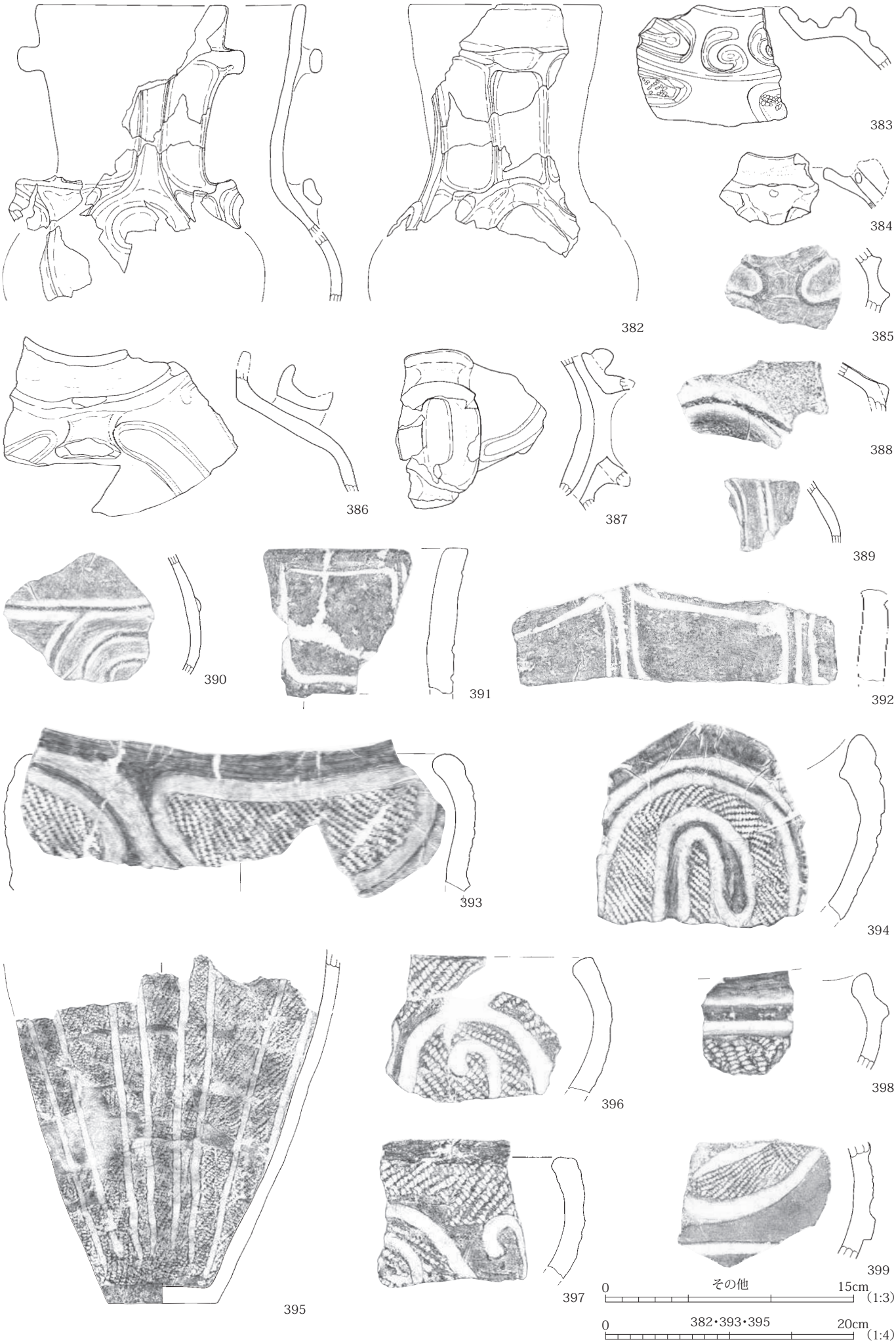
375

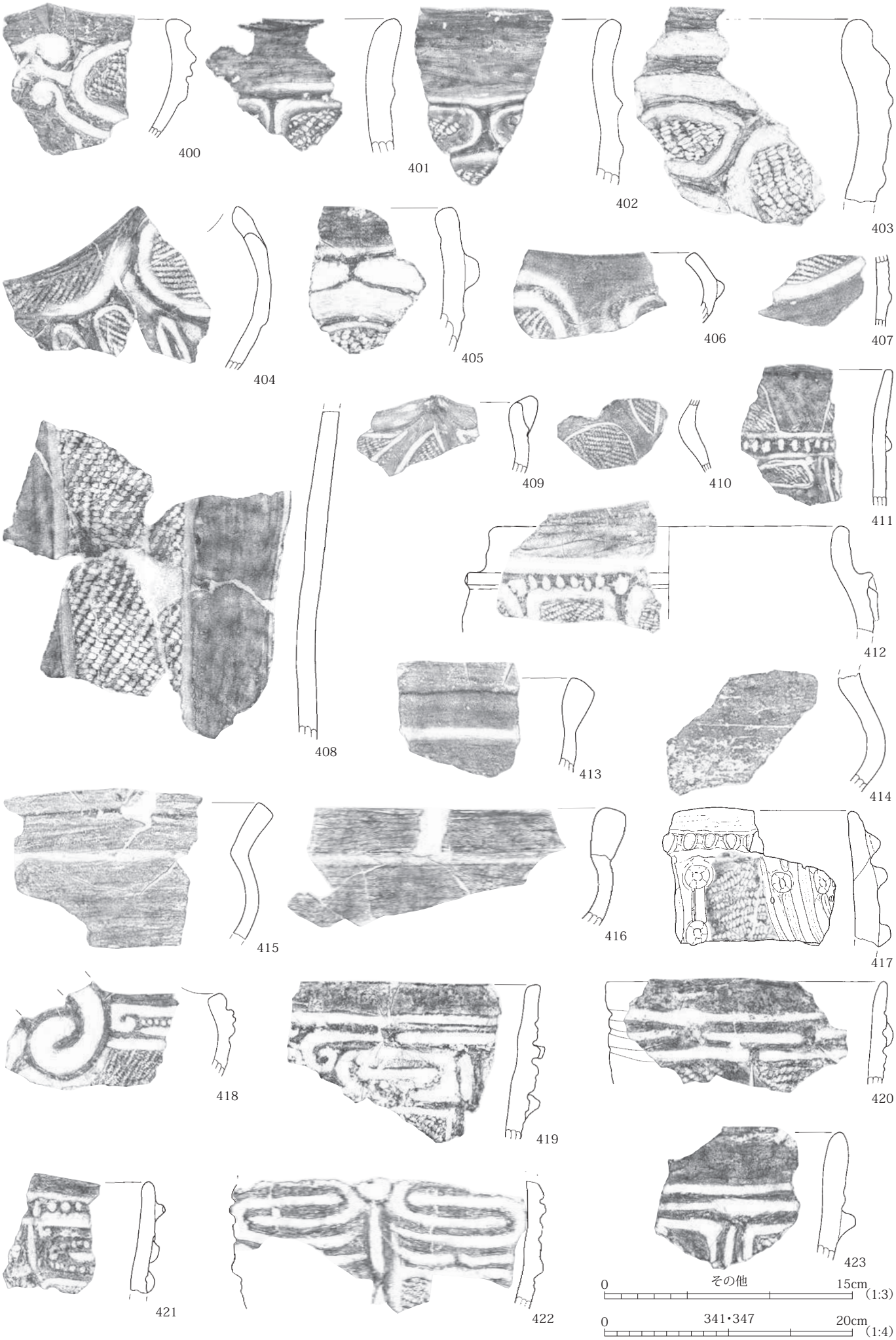
その他　0　15cm　(1:3)

369　0　20cm　(1:4)

373　0　30cm　(1:6)


376
377
378
379
380
381
0 378 15cm (1:3)
0 376・377・379・380 20cm (1:4)
0 381 30cm (1:6)

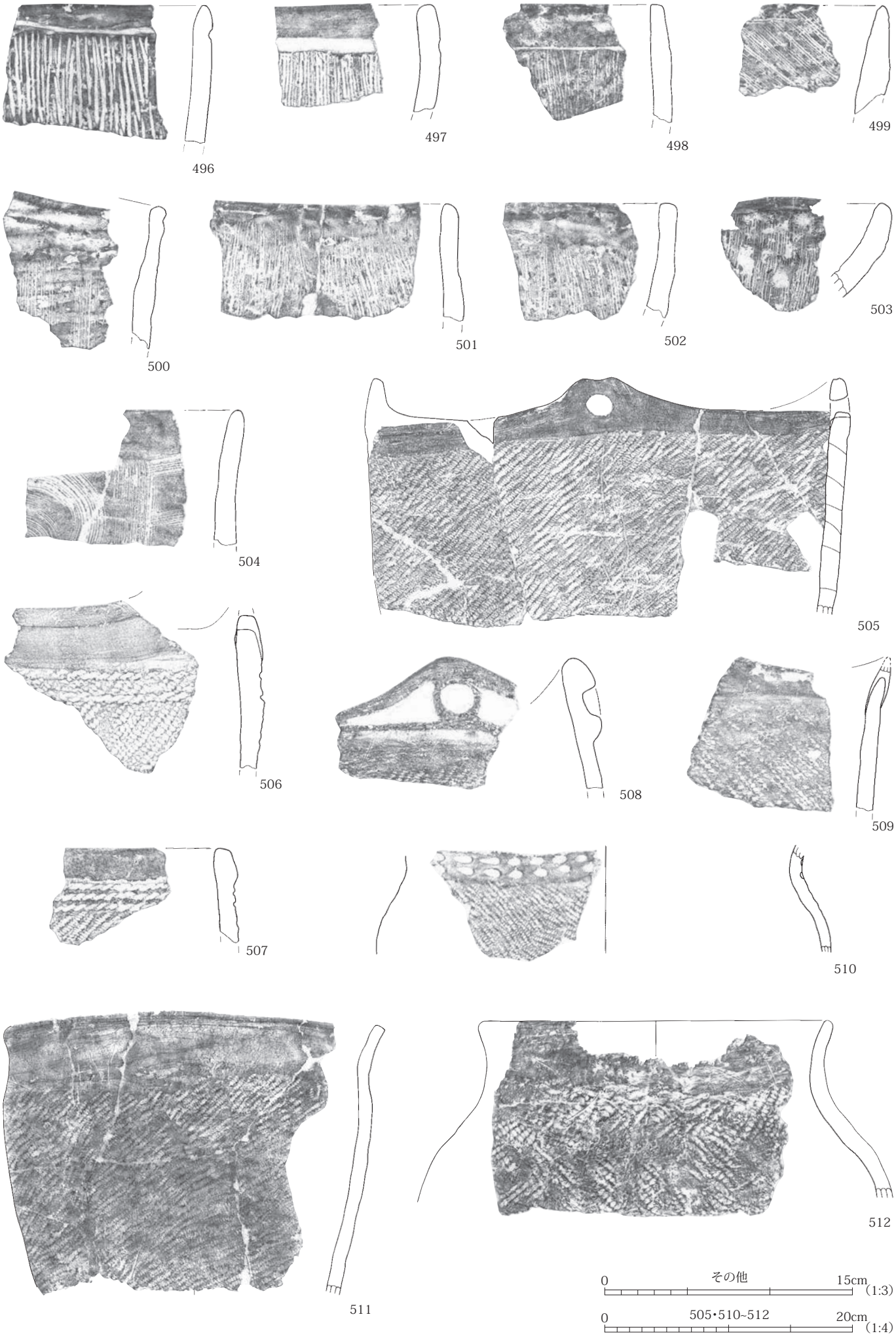

382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
その他
0
15cm
(1:3)
382・393・395
0
20cm
(1:4)

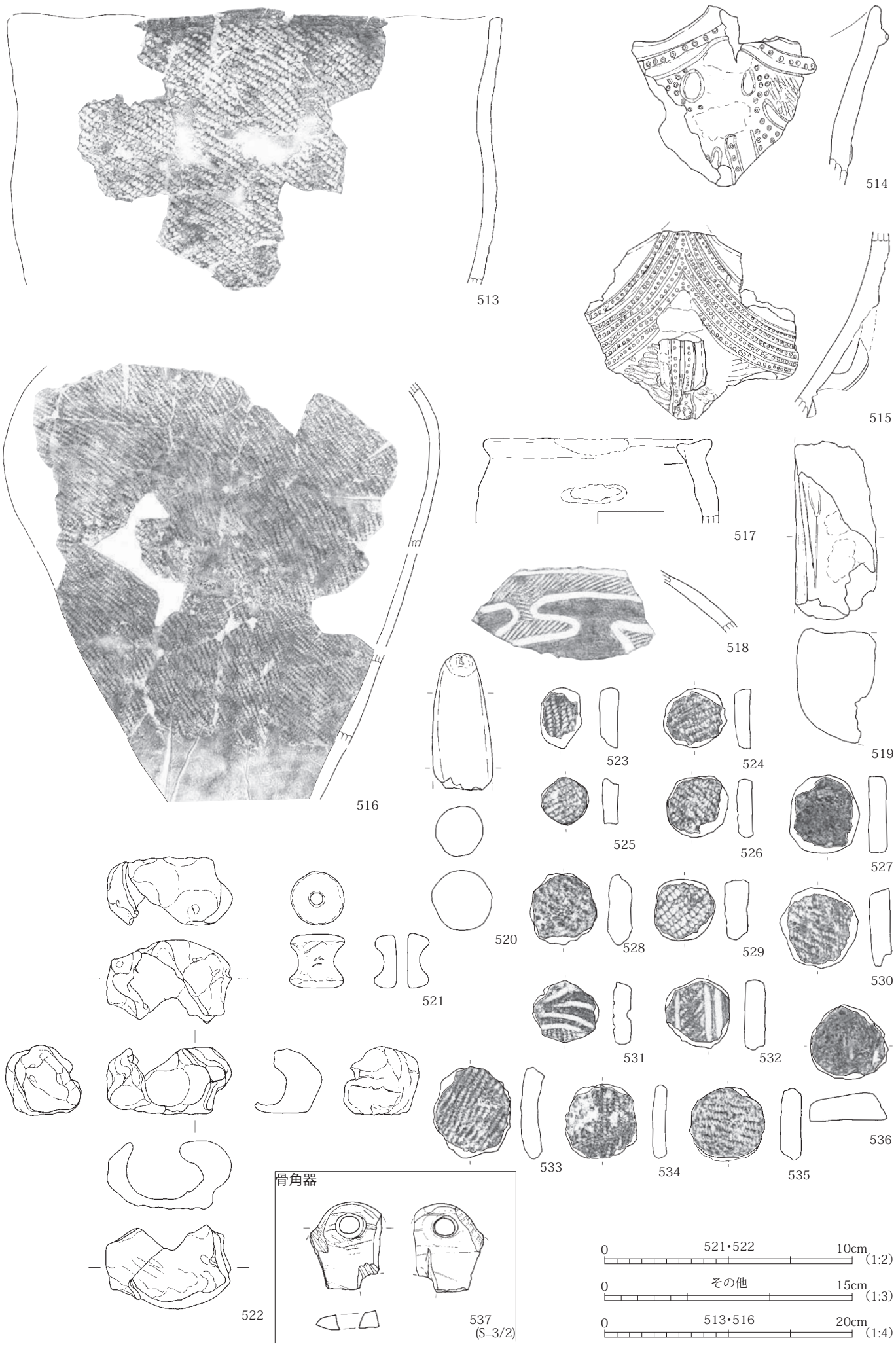

400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
その他
0
15cm
(1:3)
0
341・347
20cm
(1:4)

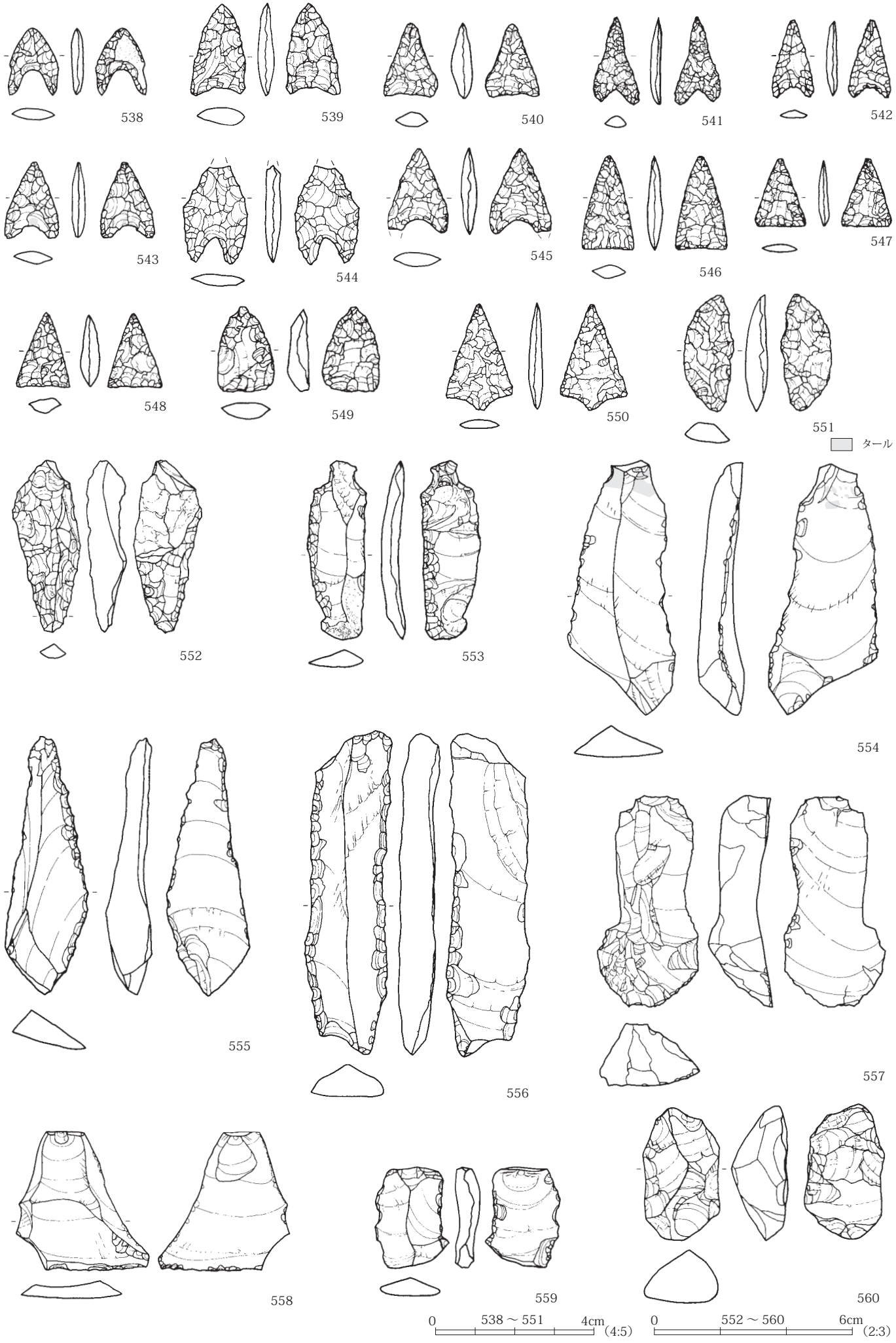
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
その他
0
15cm
(1:3)
435
0
20cm
(1:4)

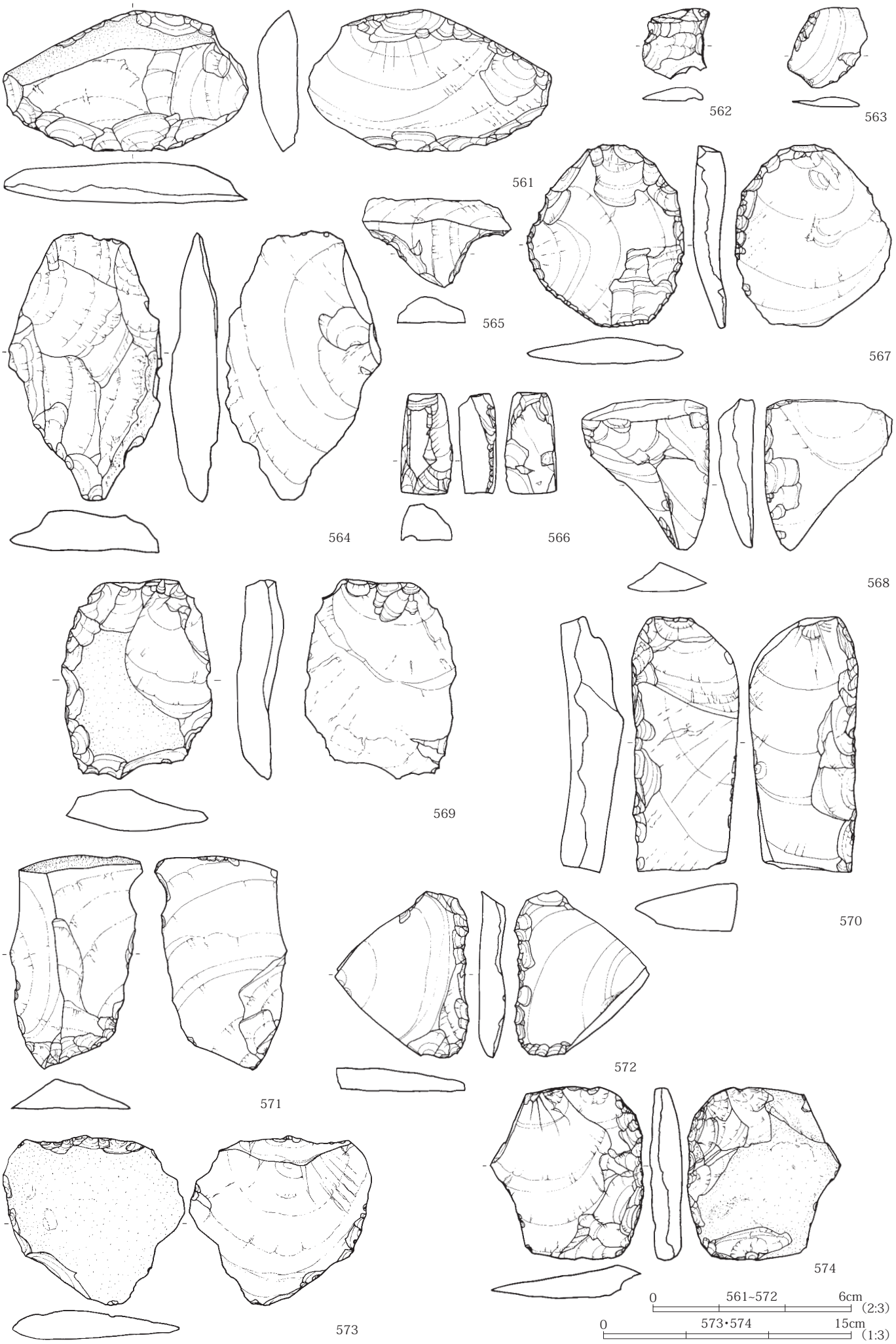
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
0
15cm
(1:3)

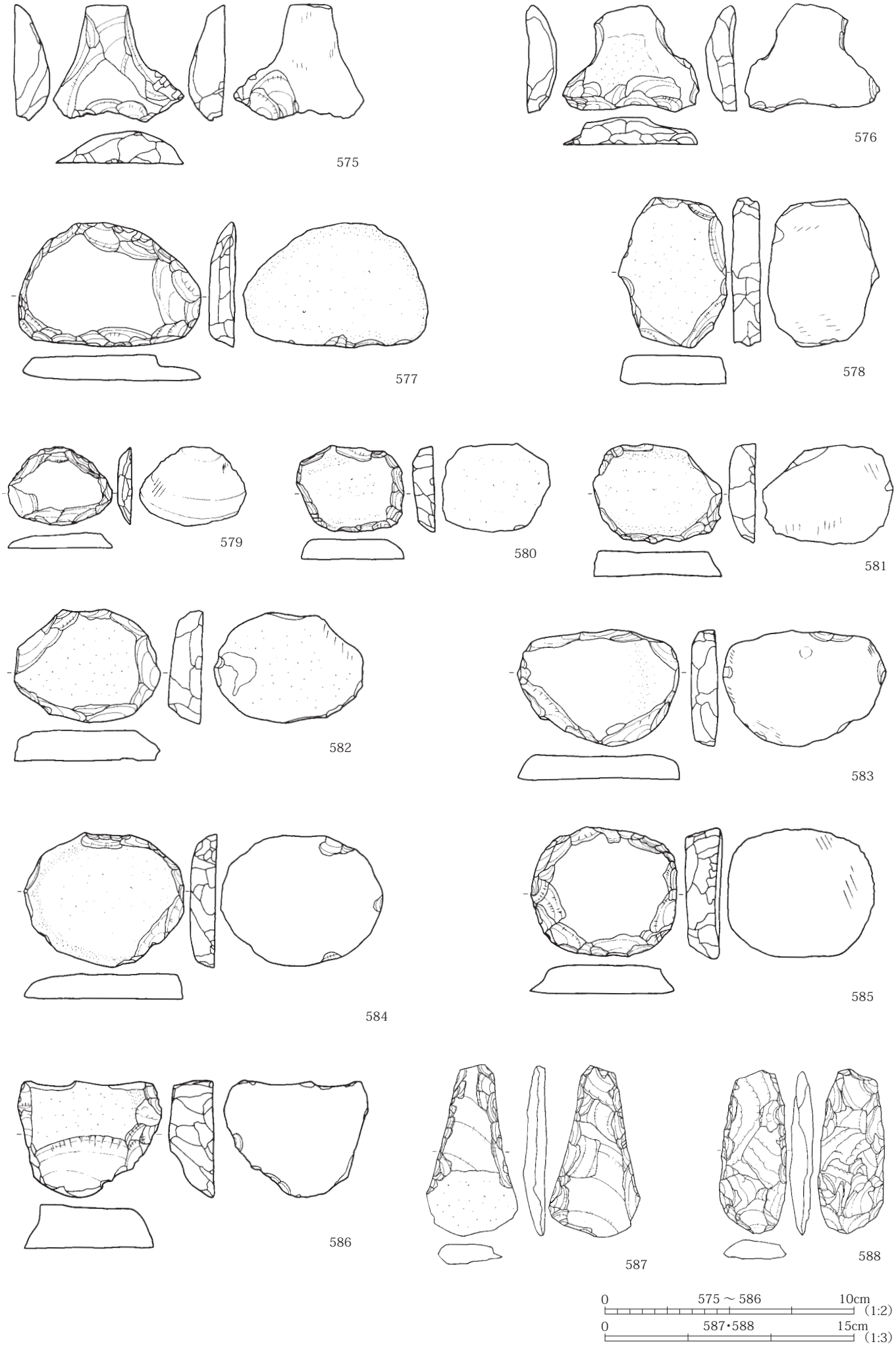
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
その他
0
15cm
(1:3)
477・485
0
20cm
(1:4)

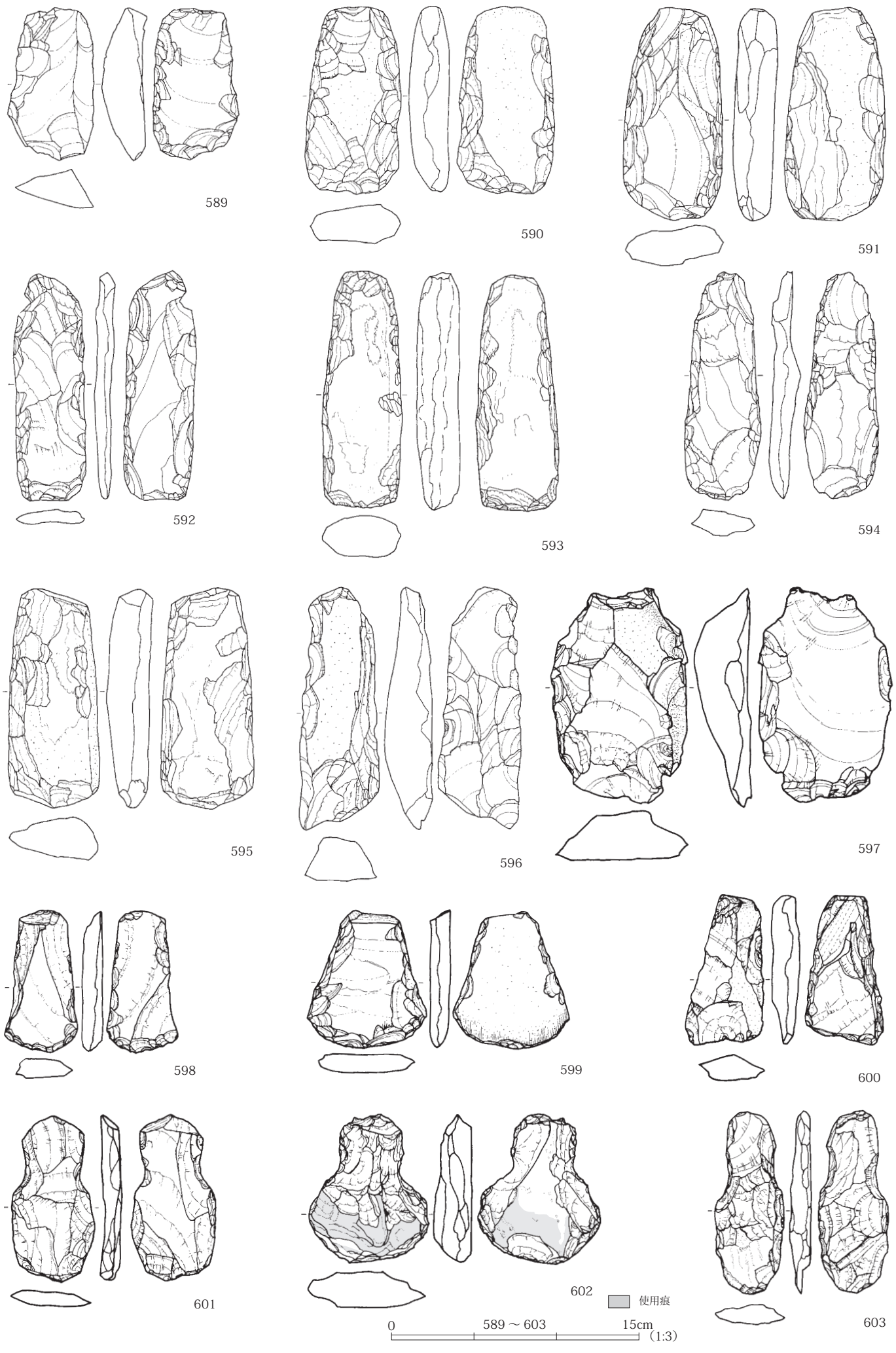

496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
その他
0
15cm
(1:3)
505・510~512
0
20cm
(1:4)

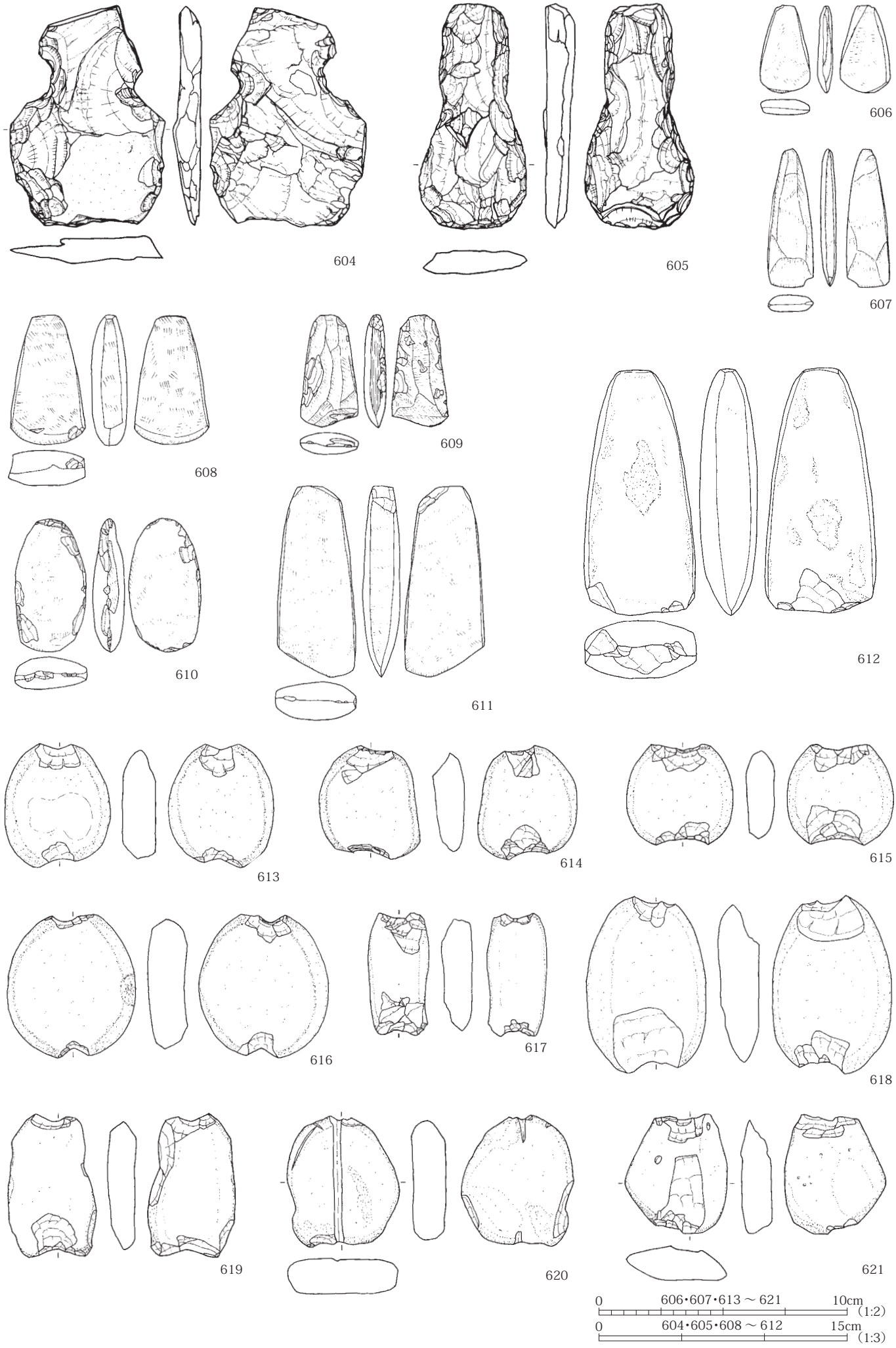

513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
骨角器
537
(S=3/2)
0
521・522
10cm
(1:2)
0
その他
15cm
(1:3)
0
513・516
20cm
(1:4)

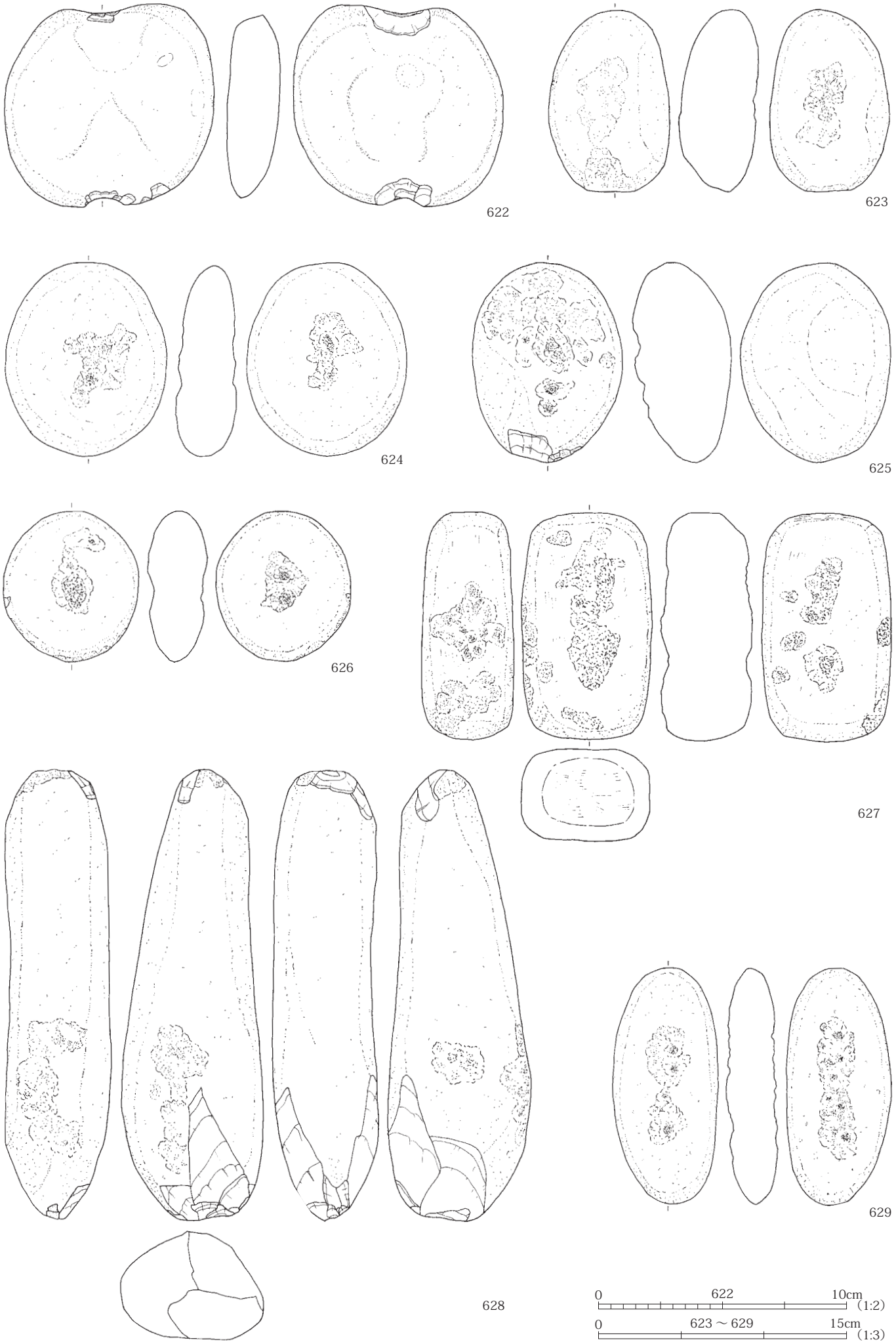

538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
タール
552
553
554
555
556
557
558
559
560
0 538～551 4cm (4:5)
0 552～560 6cm (2:3)

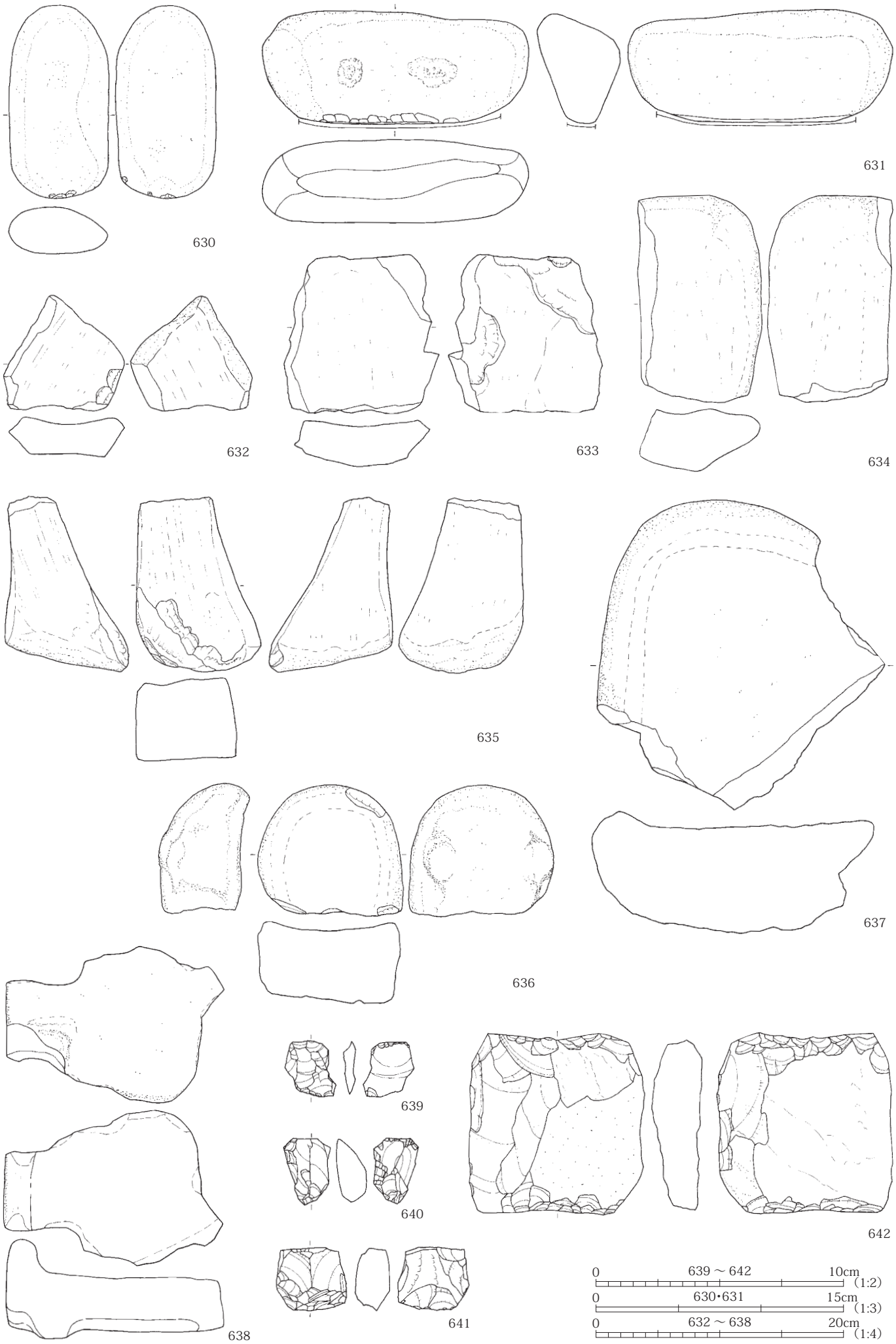

561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
0 561~572 6cm (2:3)
0 573・574 15cm (1:3)

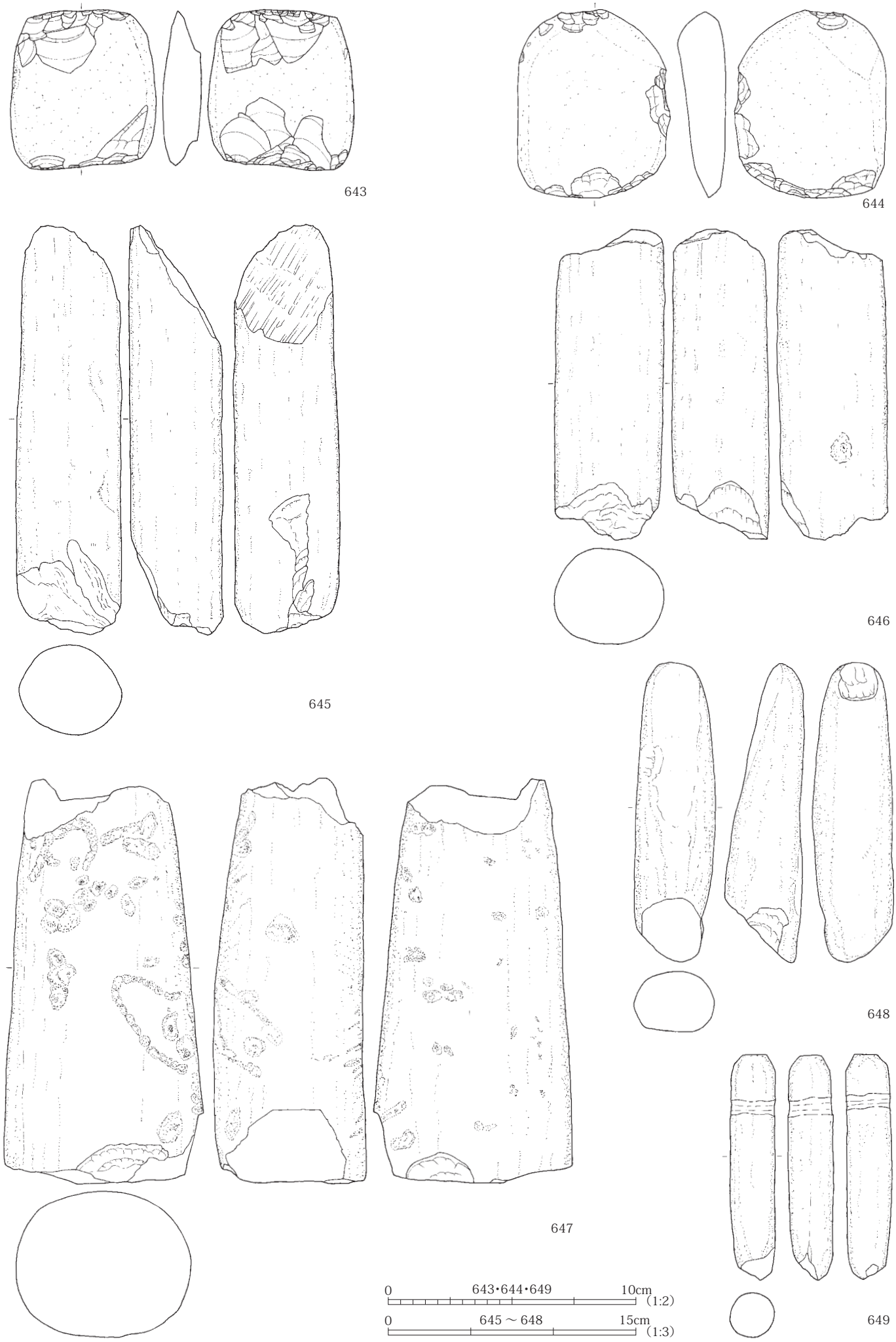

575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
0
575 ～ 586
10cm
(1:2)
0
587・588
15cm
(1:3)

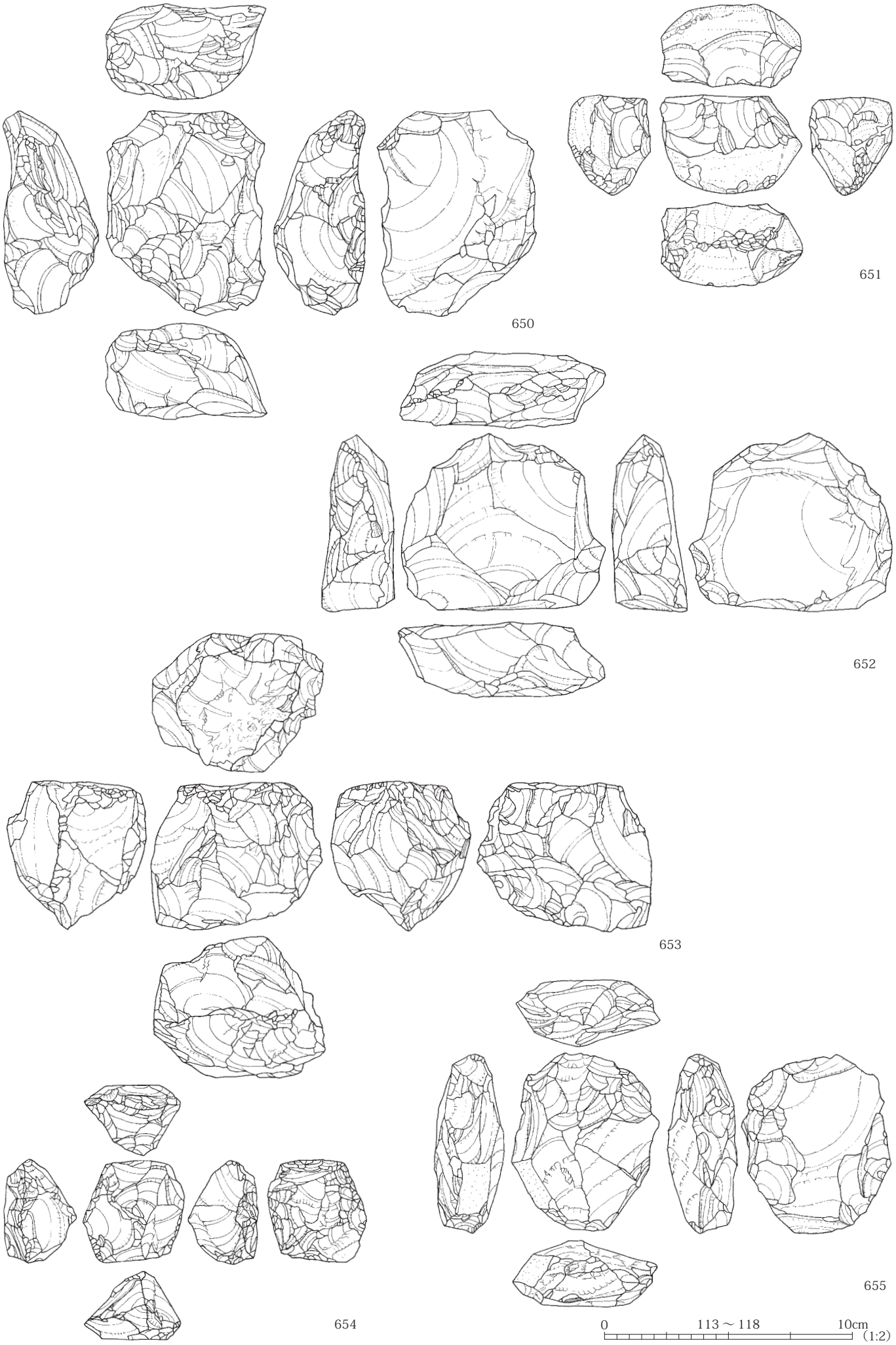

589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
使用痕
0
589 ～ 603
15cm
（1:3）

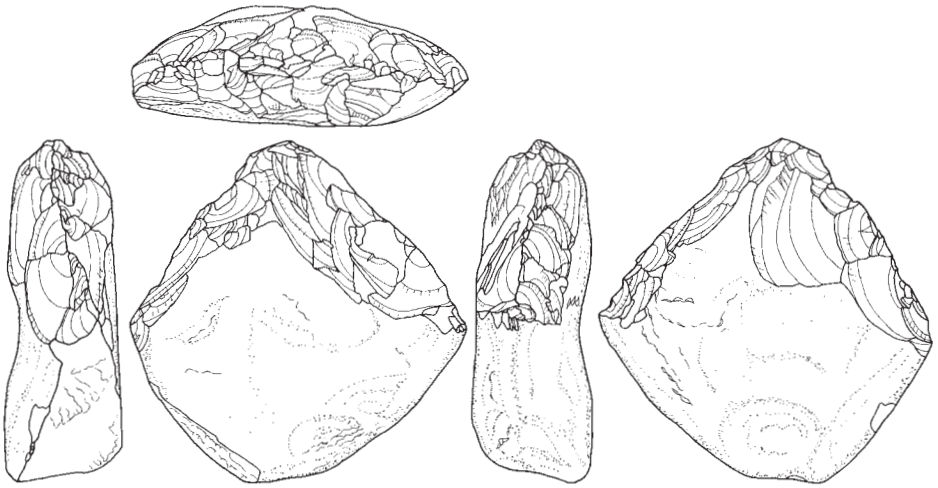

604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
0 606・607・613～621 10cm (1:2)
0 604・605・608～612 15cm (1:3)


622
623
624
625
626
627
628
629
0 622 10cm (1:2)
0 623 ～ 629 15cm (1:3)

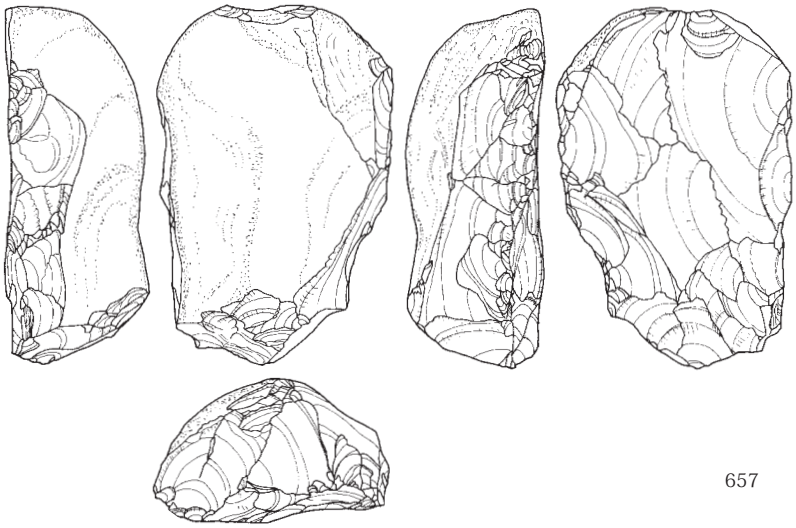

630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
0 639～642 10cm (1:2)
0 630・631 15cm (1:3)
0 632～638 20cm (1:4)


643
644
645
646
647
648
649
0　643・644・649　10cm（1:2）
0　645 ～ 648　15cm（1:3）

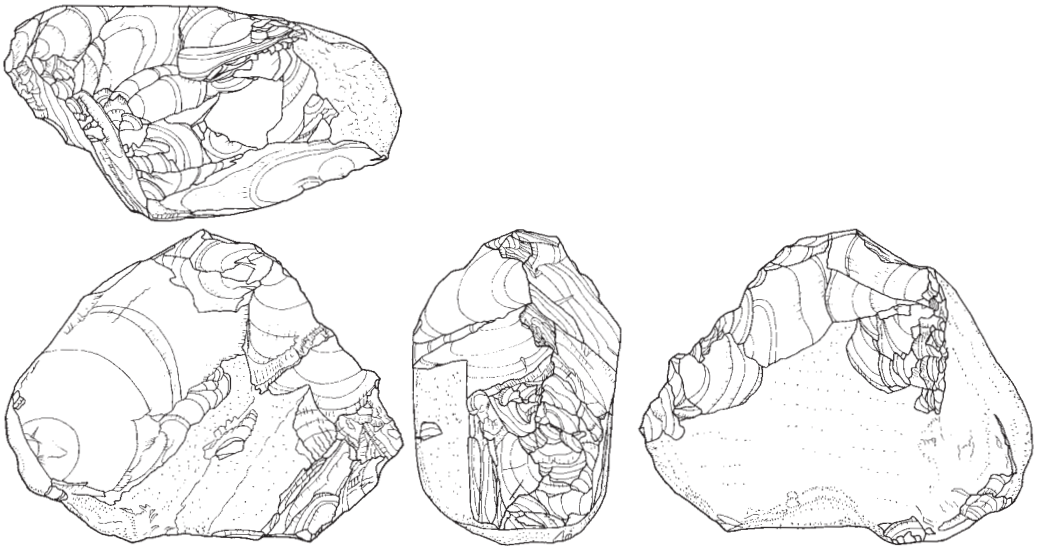

650
651
652
653
654
655
0
113～118
10cm
（1:2）



656



657



658

0　656　15cm（1:3）

0　657・658　20cm（1:4）

「国営魚野川東部開拓建設事業工事前全景（大和工区）」
八色原土地改良区発行
（1：20,000）

遺跡周辺の開拓前の状況

遺跡遠景（八色原扇状地と遺跡の位置）

遺跡遠景（北から）

調査区全景（東・鉛直から）

遺跡遠景（北西から）

遺跡遠景（北東から）

調査着手（北西から）

調査着手（南東から）

客土堆積状況（SK3 検出）

遺構検出状況

竪穴建物（SI46・SI27）完掘（西から）

掘立柱建物（SB2）完掘（北から）

埋甕出土状況（SK95）（西から）

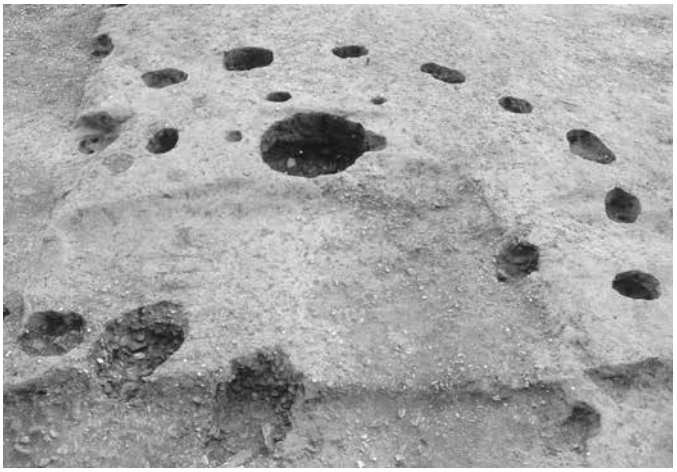
SK45 縄文土器出土状況（北から）

SI46 内　石組炉（SK67・P68）（北から）

SK97 焼土層検出（南東から）

出土遺物

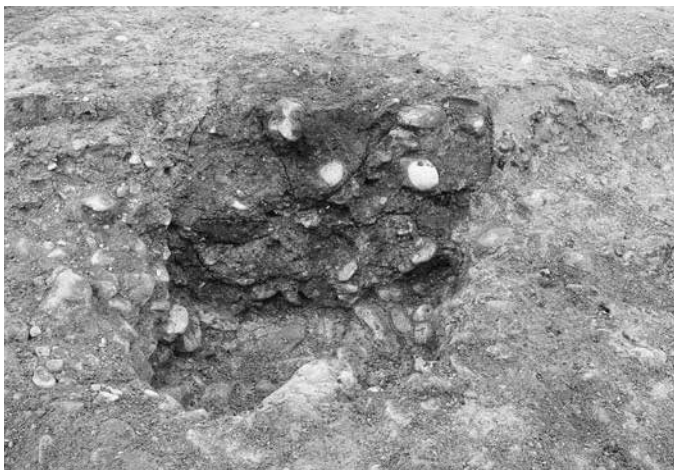
SI27・SI46 等完掘（東・鉛直から）



竪穴建物 SI27 完掘（西から）

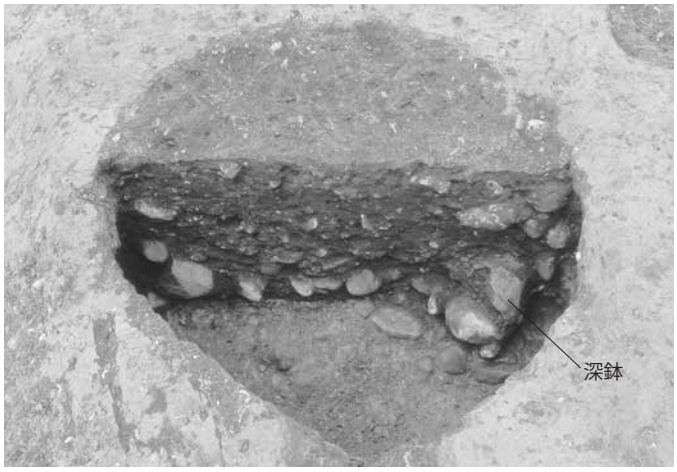
柱穴 P16 セクション（南から）

柱穴 P17 セクション（南から）



建物内土坑 SK3 セクション（西から）

建物内土坑 SK3 完掘（西から）



袋状土坑 SK20 セクション（南から）

袋状土坑 SK20 完掘（南から）

竪穴建物 SI46 完掘（東から）

石組炉 SK67・P68（東から）

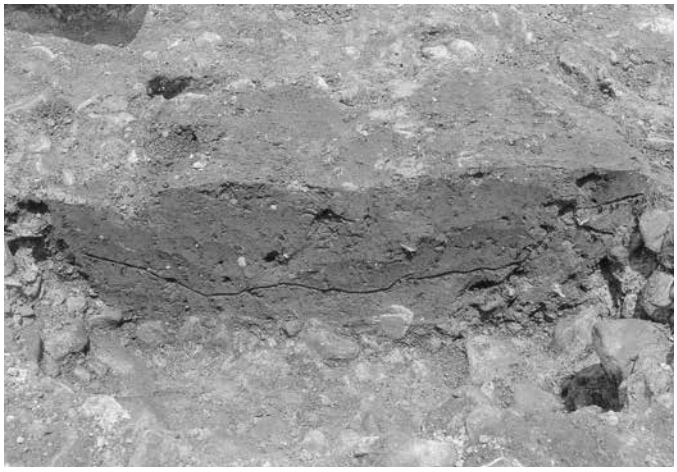
石組炉 SK67・P68 セクション（北東から）

石組炉 SK67・P68 完掘（北東から）

建物内ピット P112 セクション（西から）

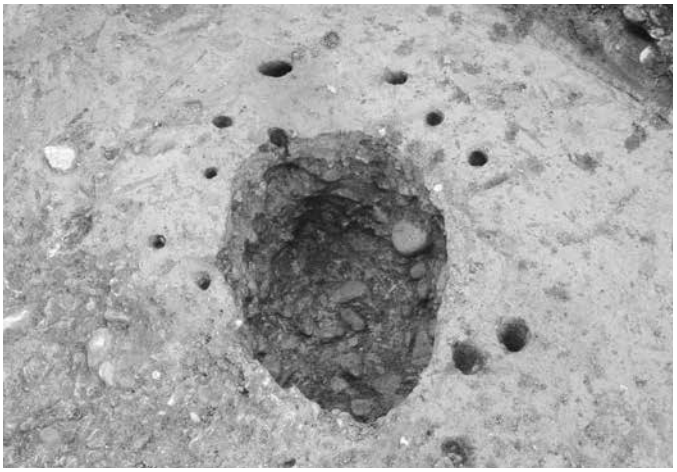
建物内ピット P112 礫検出状況（西から）

周溝セクション（東から）



柱穴 P31 セクション（南から）

柱穴 P7 セクション（北から）



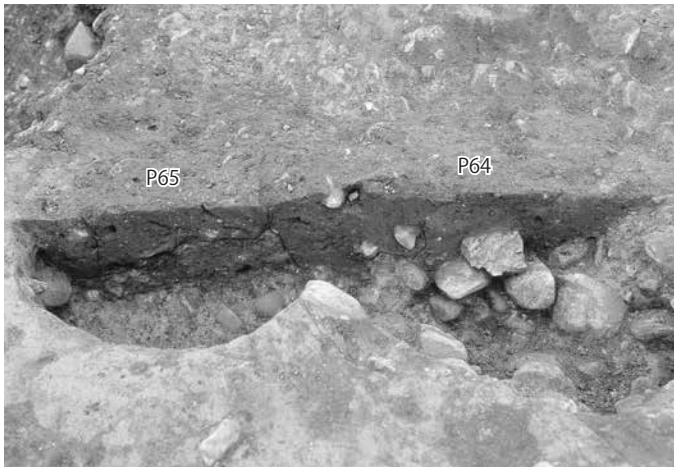
柱穴 P7 完掘（北東から）

柱穴 P61 セクション上半（南から）

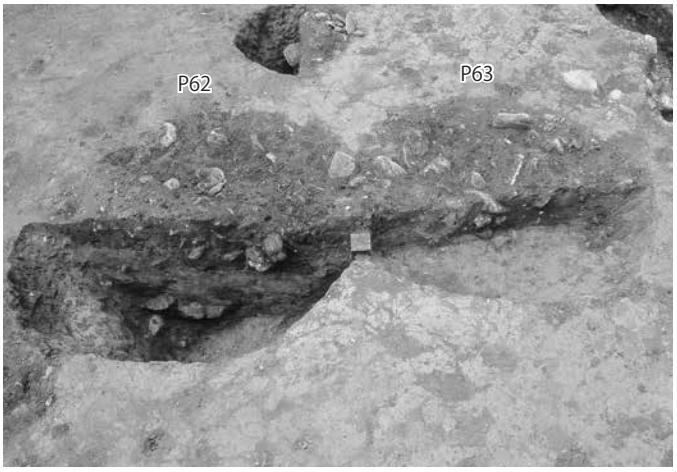
柱穴 P61 根固め石検出状況（南から）

柱穴 P61 セクション下半（南から）

柱穴 P70 セクション（南から）



建物内ピット P64・65 セクション（南から）



建物内ピット P62・63 セクション（東から）

埋設土器出土状況（南から）

埋設土器セクション（南から）

SI91・92 等完掘（東・鉛直から）

竪穴建物 SI91 セクション（西から）

竪穴建物 SI91 完掘（西から）

竪穴建物 SI91 調査区西壁セクション（東から）

建物内ピット P1 セクション（西から）

建物内ピット P8 セクション（東から）

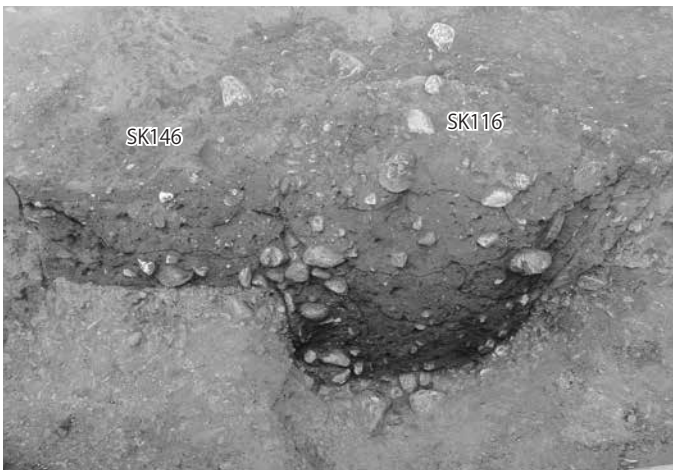
建物内ピット P3 セクション（南から）

建物床下土坑 SK233 セクション（西から）

竪穴建物 SI92 完掘（東から）

竪穴建物 SI92 調査区西壁セクション（東から）

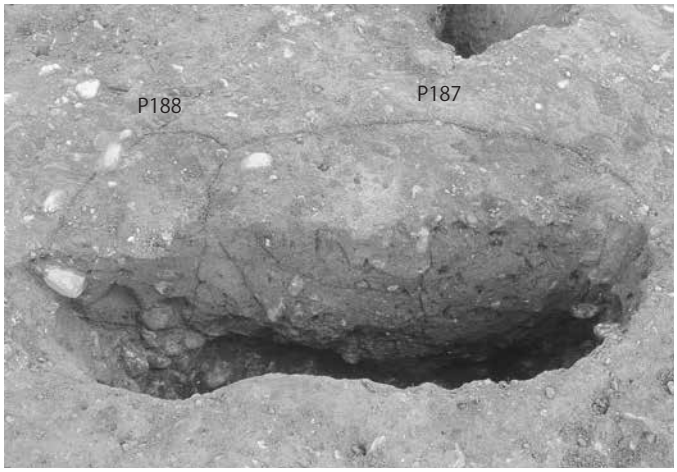
建物内ピット P1 セクション（南から）



建物内土坑 SK146 セクション（西から）

掘立柱建物群完掘（南・鉛直から）

掘立柱建物 SB1 完掘（北から）



柱穴 P187 セクション（西から）

柱穴 P197 セクション（南から）

掘立柱建物 SB2 完掘（北から）

柱穴 P153 セクション（南から）

掘立柱建物 SB3 完掘（北から）

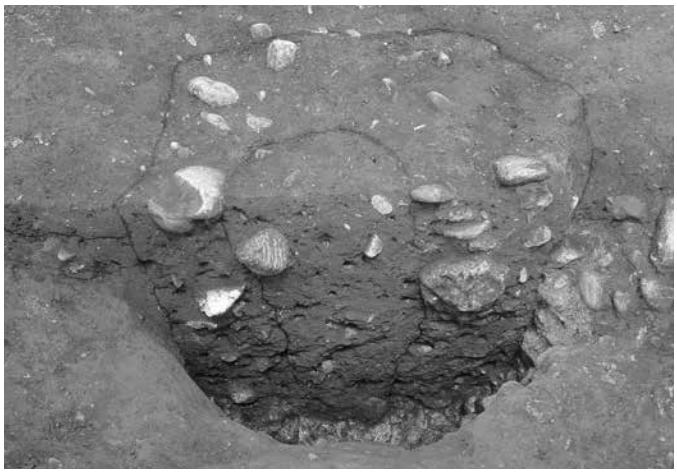
掘立柱建物 SB3 完掘（東から）

柱穴 P163 セクション（南から）

柱穴 P164 セクション（南から）

柱穴 P179 セクション（南から）

柱穴 P180 セクション（南から）


柱穴 P181 セクション（南から）

柱穴 P182 セクション（南から）

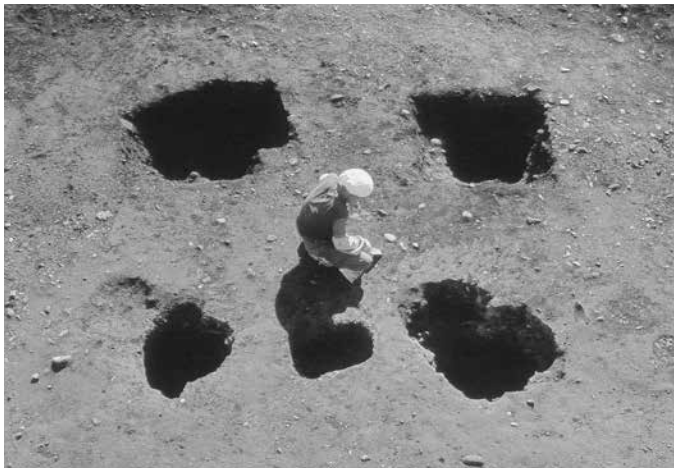
掘立柱建物 SB4 完掘（北東から）

柱穴 P191 セクション（東から）

柱穴 P175 セクション（南から）

柱穴 P176 セクション（南から）

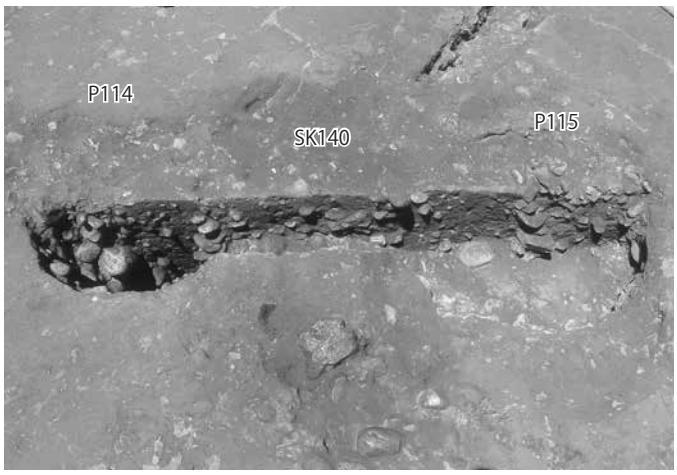
掘立柱建物 SB5 完掘（南から）



掘立柱建物 SB5 完掘（東から）

柱穴 P204 セクション（南から）

柱穴 P194 セクション（南から）



土坑 SK140・ピット P114・115 セクション（南東から）

土坑 SK140 完掘（西から）

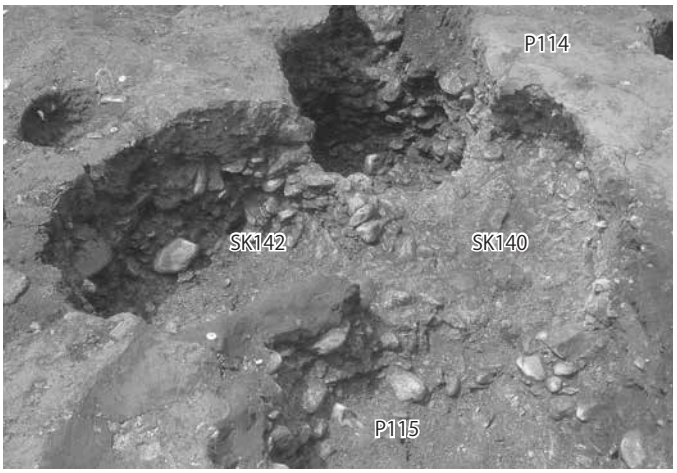
ピット P114 セクション（南東から）

ピット P114 完掘（東から）

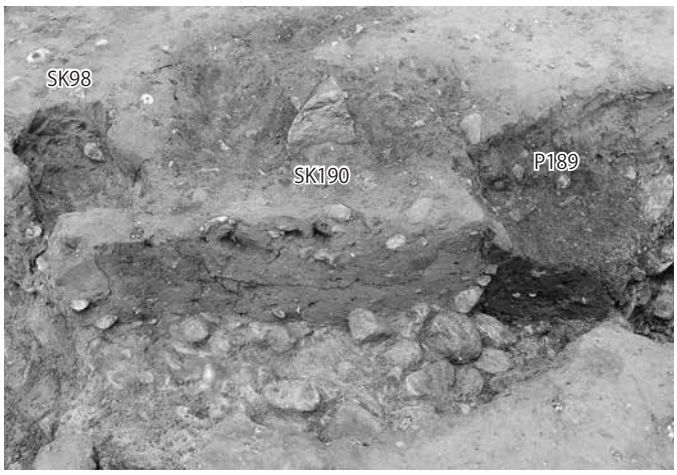
ピット P115 セクション（南東から）

ピット P115 完掘（東から）

土坑 SK142 セクション（東から）



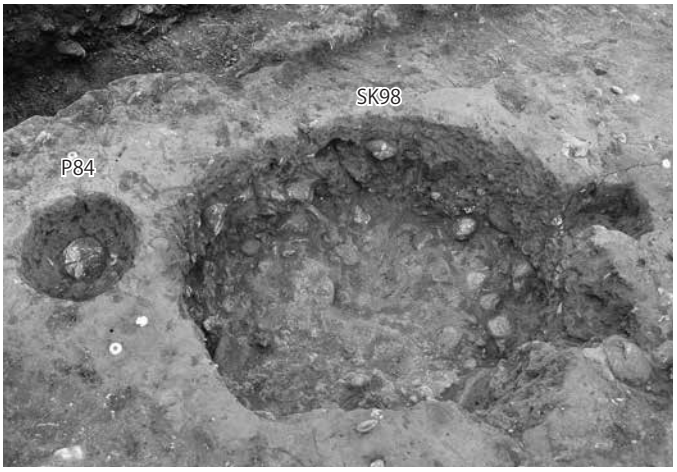
土坑 SK142 完掘（東から）



土坑 SK190・ピット P189 セクション（南東から）

土坑 SK73 セクション（東から）

土坑 SK98 セクション（東から）



土坑 SK98 完掘（東から）

土坑 SK97 セクション（南から）

土坑 SK97 完掘（北東から）

土坑 SK94 セクション（南から）

土坑 SK104 セクション（南西から）

土坑 SK106 セクション（南から）

土坑 SK106 完掘（東から）

土坑 SK219 セクション（南から）

土坑 SK219 完掘（北から）

土坑 SK216 セクション（東から）

土坑 SK216 完掘（西から）

土坑 SK78 セクション（南から）

土坑 SK78 完掘（北から）

土坑 SK139 セクション（西から）

土坑 SK1 と客土（西から）

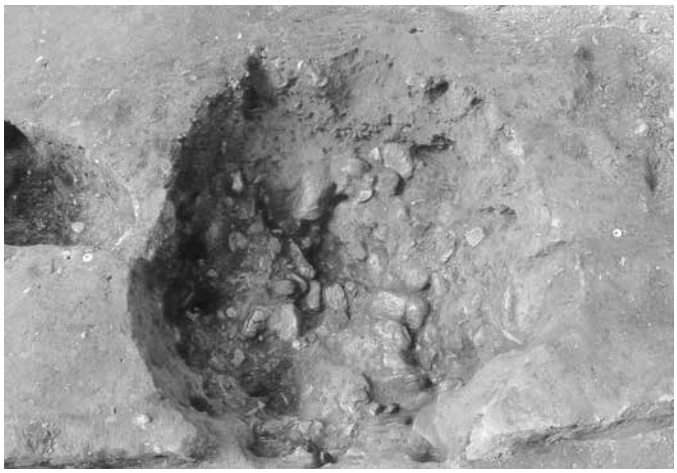
土坑 SK1 セクション（南から）

土坑 SK1 完掘（南から）

土坑 SK79 セクション（南から）

土坑 SK79 完掘（南から）

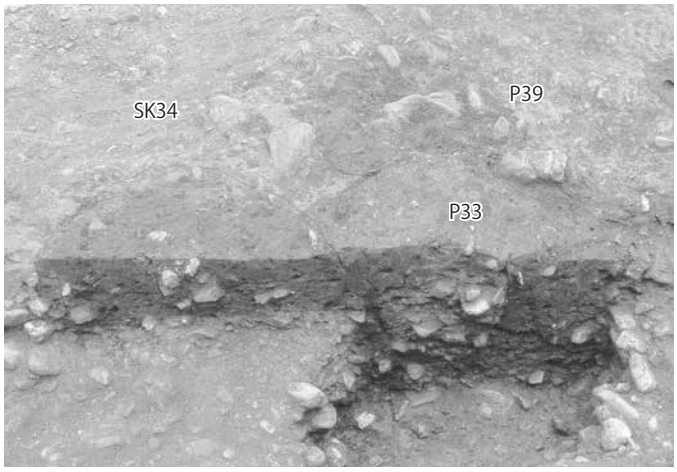
土坑 SK80 セクション（南から）



土坑 SK80 完掘（南から）

土坑 SK145 調査区西壁セクション（東から）

土坑 SK217 セクション（東から）



土坑 SK34・ピット P33 セクション（西から）

土坑 SK34 完掘（西から）

土坑 SK43 セクション（北から）

土坑 SK43 完掘（西から）

土坑 SK44 セクション（南から）

土坑 SK44 完掘（南から）

土坑 SK10　98-98′ セクション（南西から）

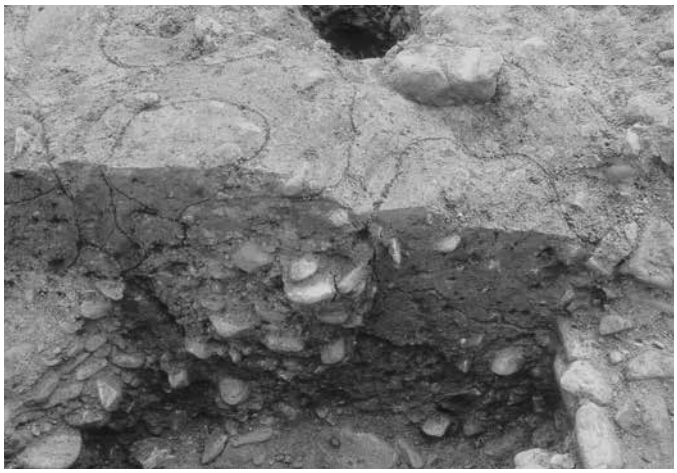
土坑 SK10　99-99′ セクション（北東から）

土坑 SK10 床赤化部断面（南東から）

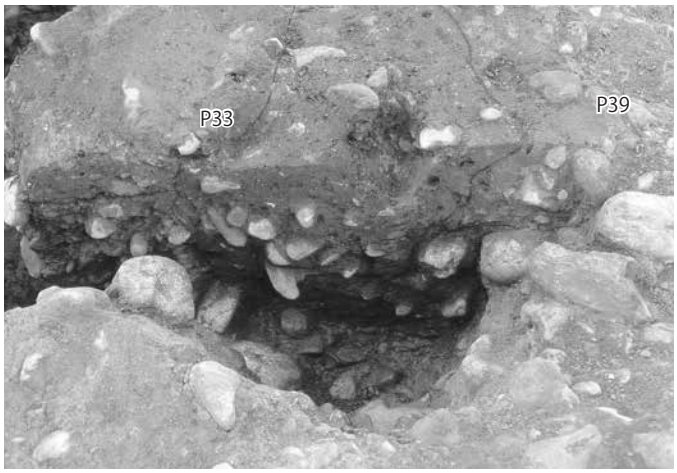
土坑 SK10 完掘（東から）

土坑 SK45 セクション（南から）

土坑 SK45 完掘（東から）



ピット P33 セクション（東から）



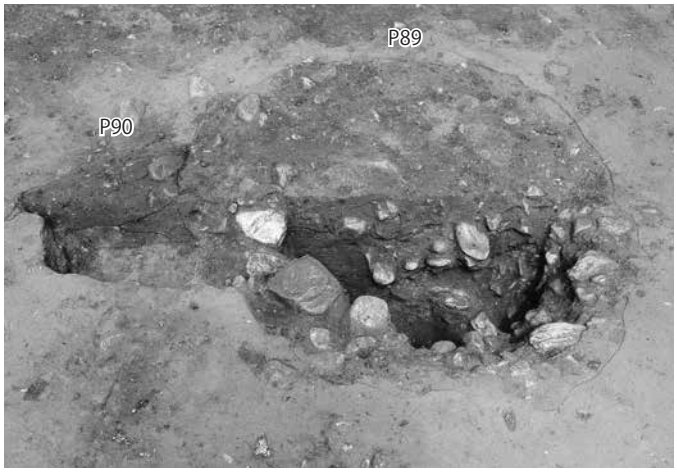
ピット P33・39 セクション（南東から）

ピット P81 セクション（南西から）

ピット P83 セクション（南から）

ピット P85 セクション（南から）

ピット P87 セクション（南から）



ピット P89・90 セクション（東から）

ピット P89 根固め石検出（東から）

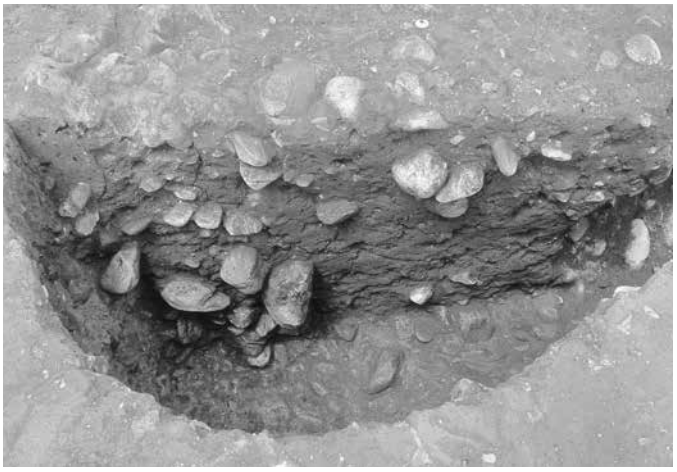
ピット P89 セクション（東から）

ピット P89 完掘（西から）

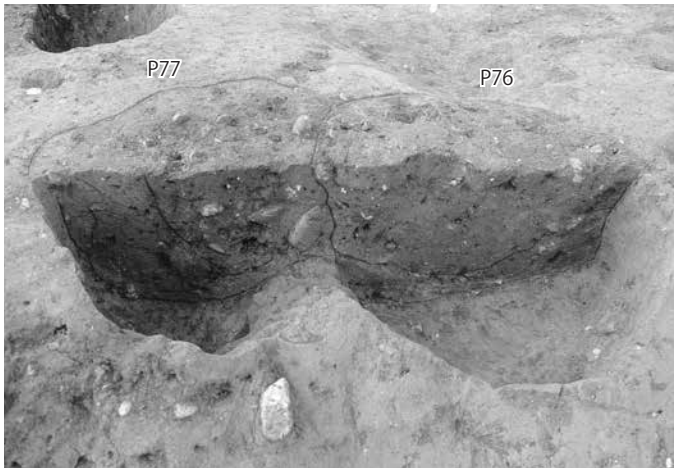
ピット P100 セクション（南西から）

ピット P108 焼骨出土状況（東から）

ピット P131 セクション（南から）


ピット P143 セクション（南から）

ピット P54 セクション（南から）



ピット P76・77 セクション（南から）

ピット P75 セクション（南から）

ピット P75 完掘（南から）

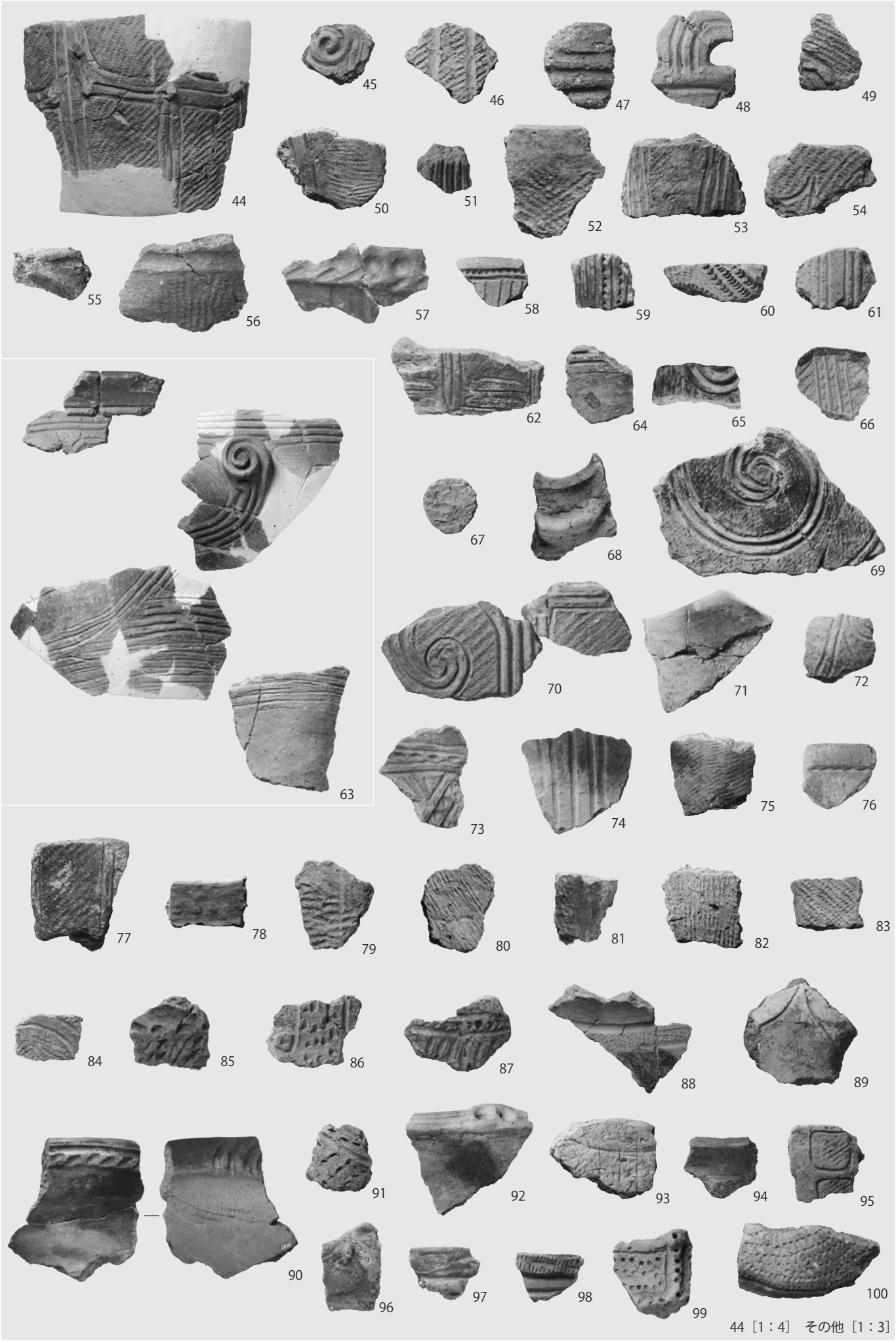
ピット P117 セクション（南から）

ピット P144 セクション（東から）

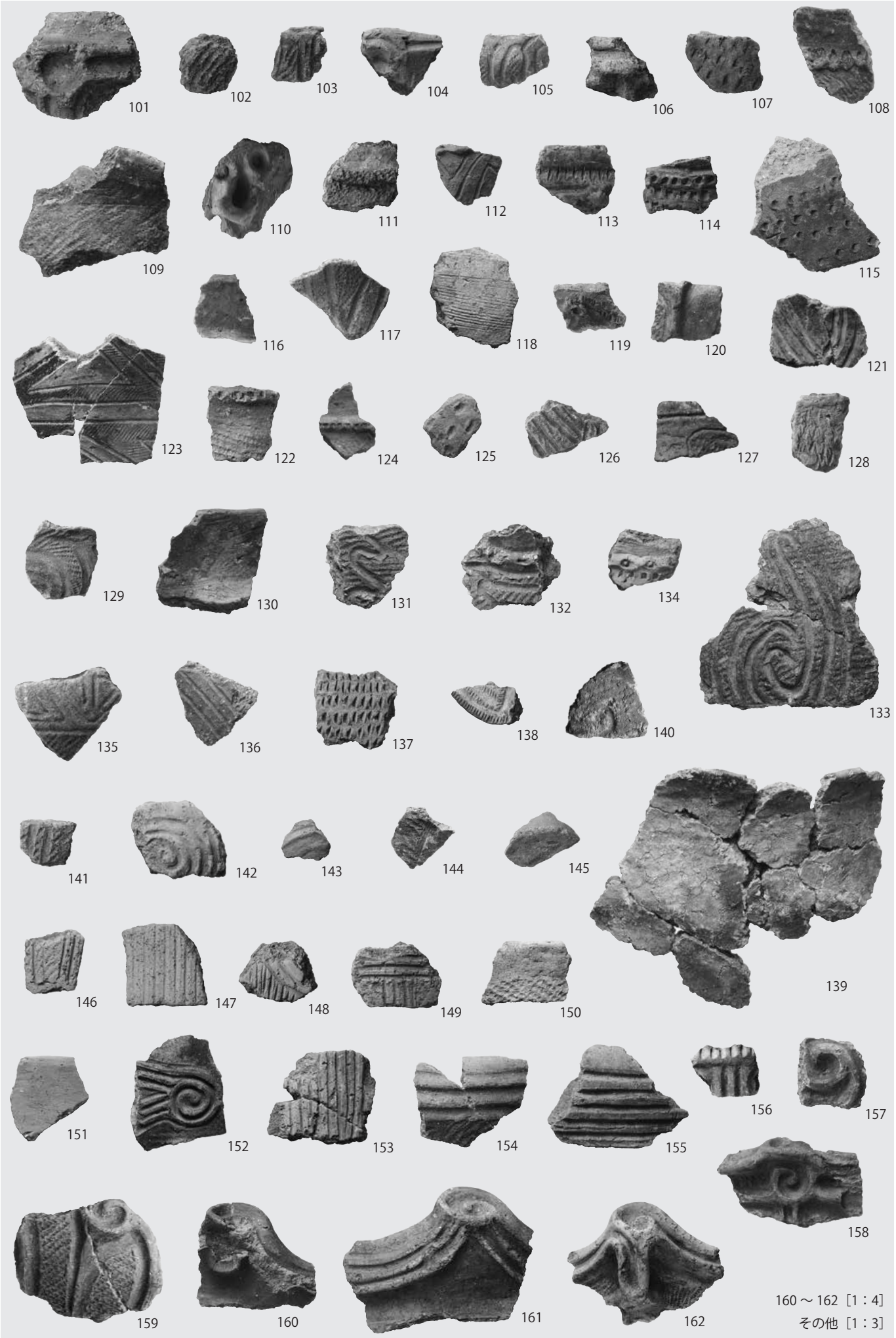
ピット P213 セクション（東から）

ピット P213 完掘（東から）

10・11・18・20［1：4］
その他［1：3］

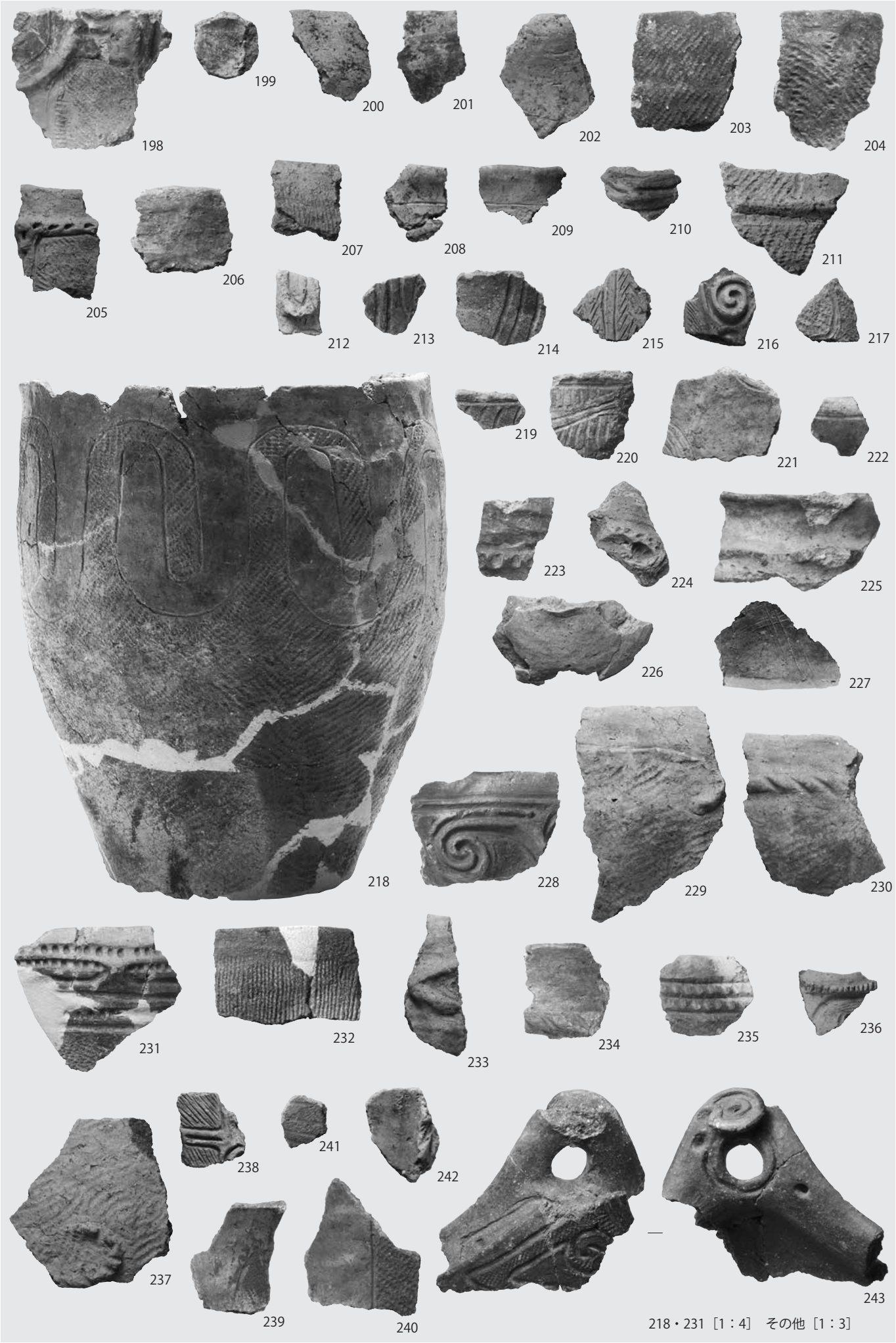

44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

44［1：4］　その他［1：3］

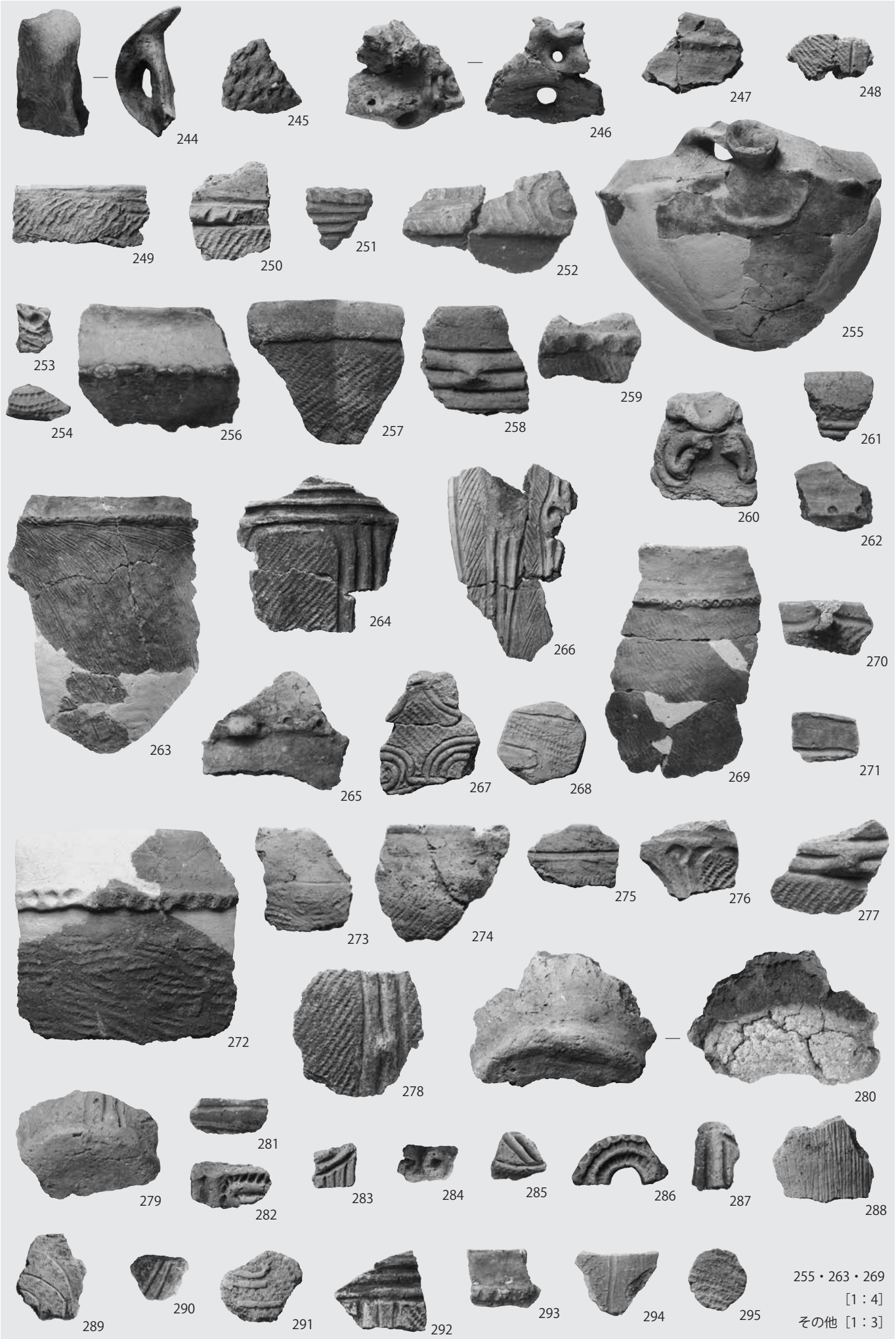


160～162［1：4］
その他［1：3］

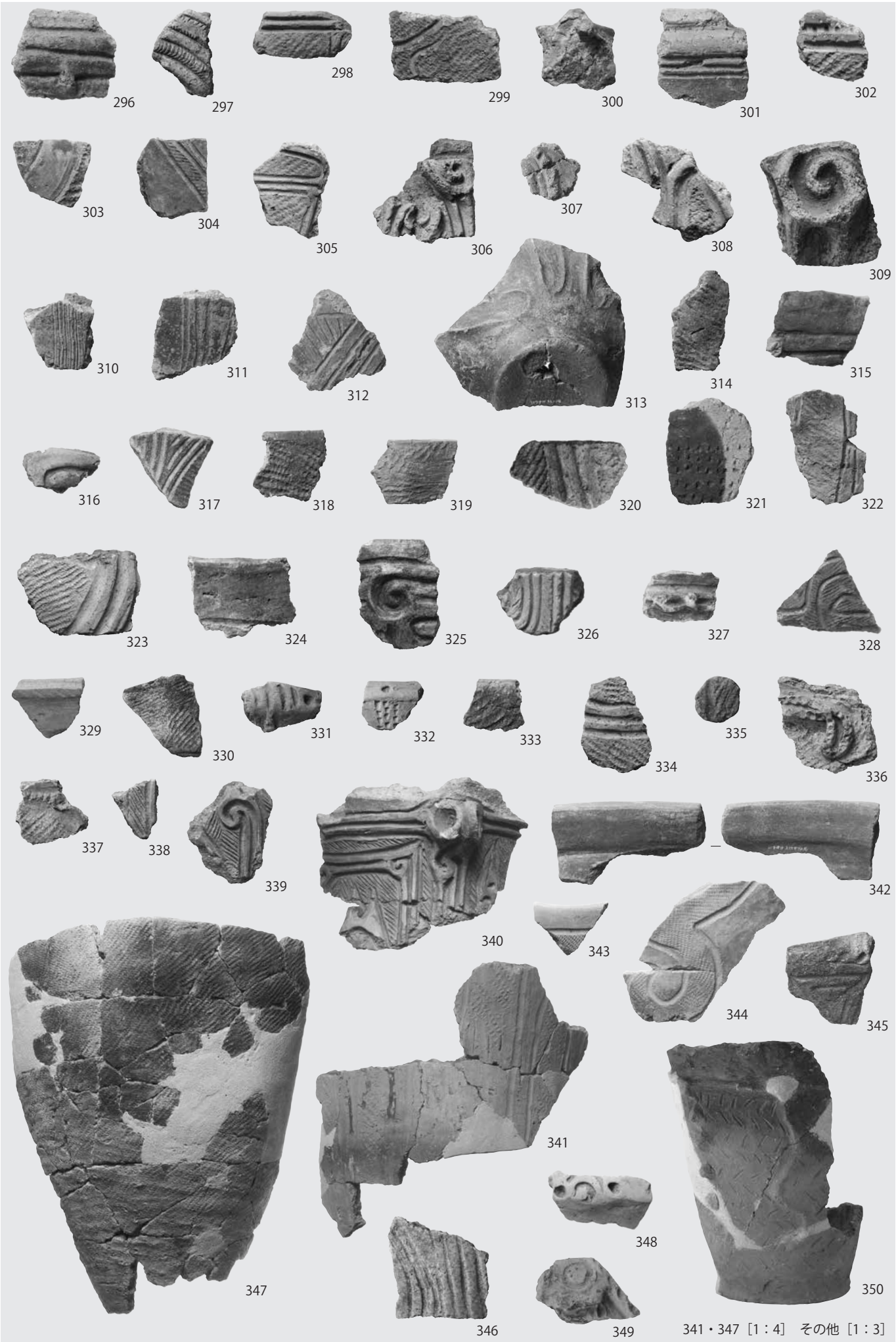
164［1：6］
166・182・191・192［1：4］
その他［1：3］



218・231［1：4］　その他［1：3］



255・263・269
［1：4］
その他［1：3］



341・347［1：4］　その他［1：3］

351

352

353

354

355

356

358

359

357

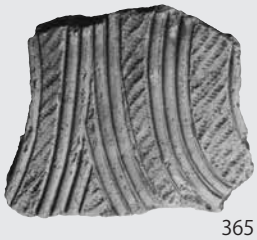
360

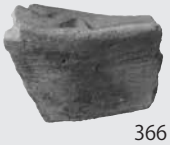
361

362

363

364


365


366

367

369

368

370

371

372

369［1：4］
その他［1：3］

373

374

375

376

377

380

378

379

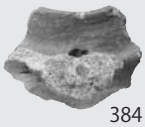
381

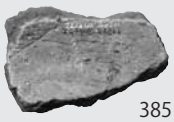
373・376・380・381
［1：4］
その他［1：3］

382

382

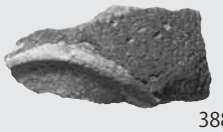
383

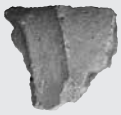

384

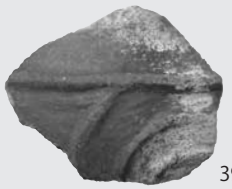

385

386

387


388


389


390

391

392

393

395

394

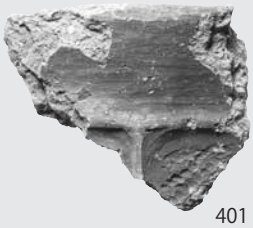
396

397

398

399

400


401

402

403

404

405

382・393・395［1：4］
その他［1：3］

406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438

408［1：4］　その他［1：3］

439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477

477［1：4］　その他［1：3］

485・495・505［1：4］
その他［1：3］

511

512

514

513

515

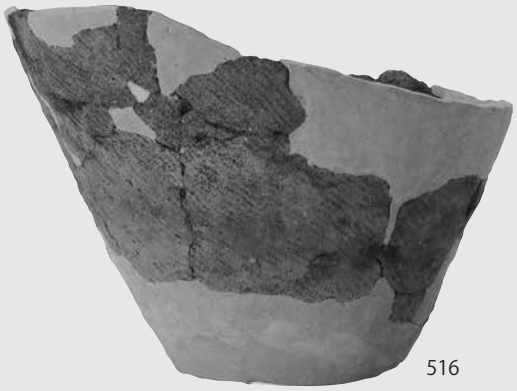
517

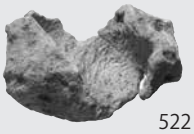
519

520

521

518

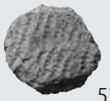

516


522

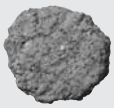
523

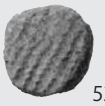
524

525


526

527

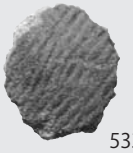

528


529

530

531

532


533

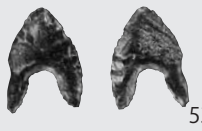
534

535

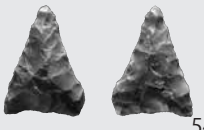
536

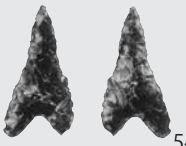
537

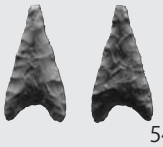
511・512・513・516［1：4］
521・522［1：2］
537［3：2］　その他［1：3］

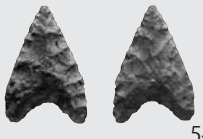

538

539

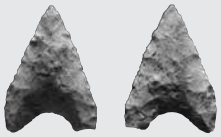

540

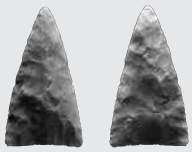

541

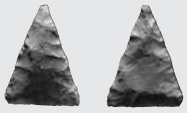

542

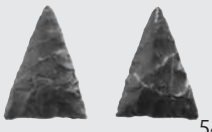

543

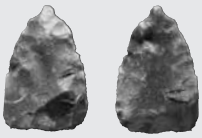
544

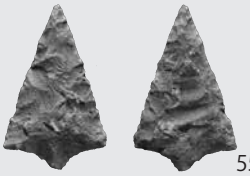

545


546


547


548


549


550

551

552

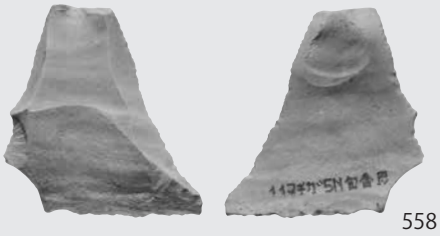
553

554

555

556

557


558

559

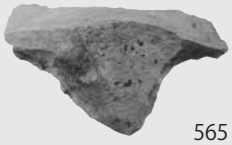
560

538～551［4：5］　その他［2：3］

561

562

563


565

566

564

567

568

569

570

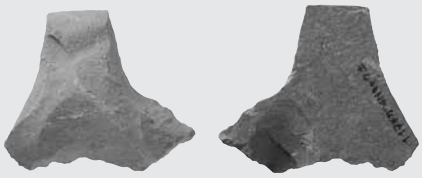
571

572

573

574

561～572［2：3］　573・574［1：3］


575

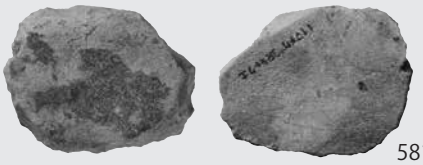
576

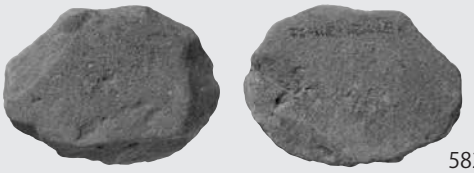
577

578

579

580


581


582

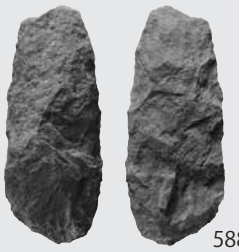
583

584

585

586

587


588

575 ～ 586［1：2］　587・588［1：3］

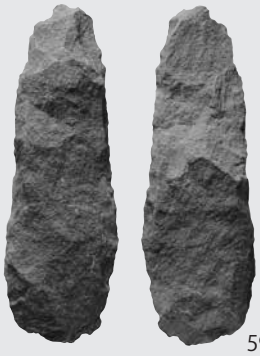
589

590

591

592

593


594

595

596

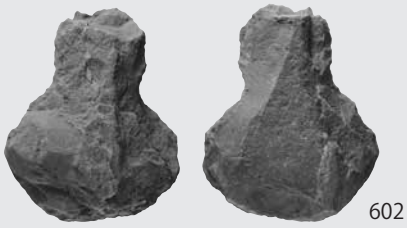
597

598

599

600

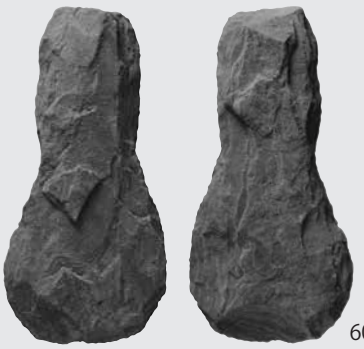
601

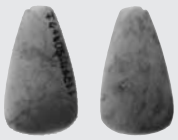

602

603

全て［1：3］

604


605


606

607

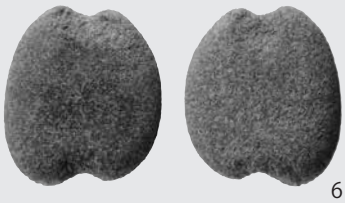
608

609

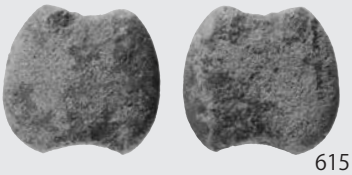
612

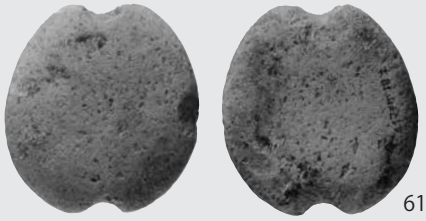
610

611


613

614


615

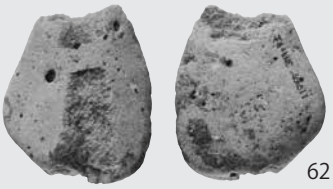

616

617

618

619

620


621

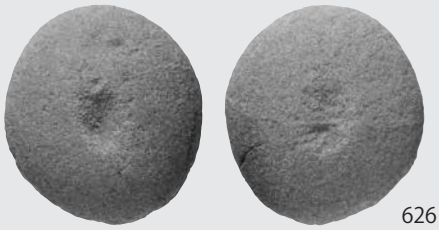
606・607・613～621［1：2］
604・605・608～612［1：3］

622

623

624

625


626

627

628

629

622［1：2］
623～629［1：3］

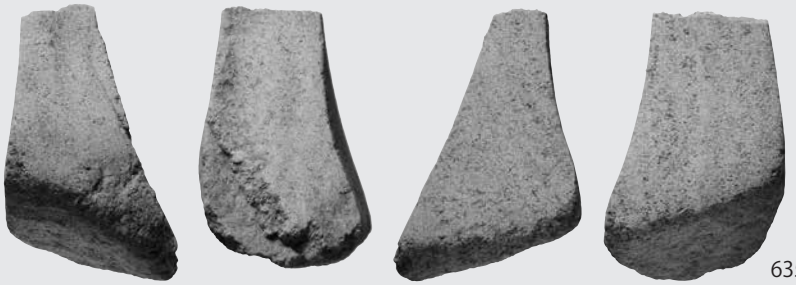
630

631

632

633

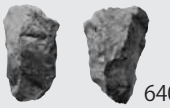
634


635

637

636

639


640

642

638

641

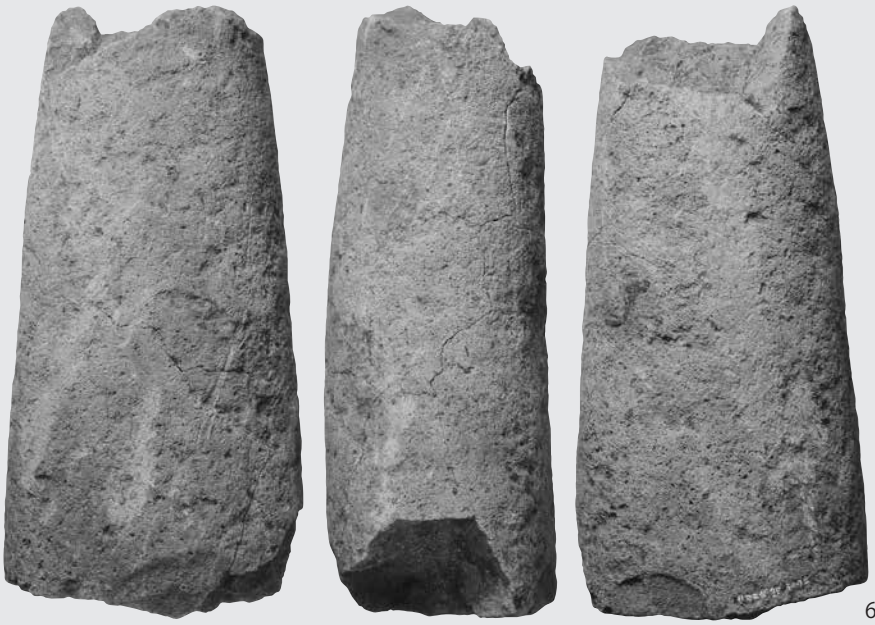
639～642［1：2］
630・631［1：3］
632～638［1：4］

643

644

645

646


647

648

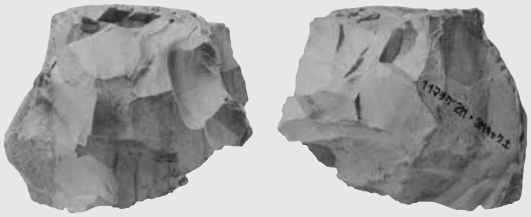
649

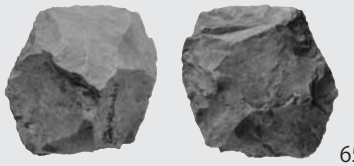
643・644・649［1：2］
645～648［1：3］

650

651

652

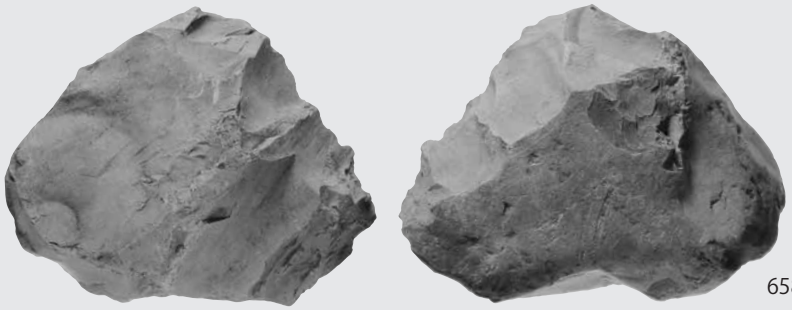

653


654

655

656

657


658

全て［1：2］

報告書抄録

ふりがな	まちがみいせき
書名	町上遺跡
副書名	一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書
巻次	Ⅱ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第240集
編著者名	相羽重徳・藤田　登・田海義正・建部真也・山﨑　健・三ツ井朋子
編集機関	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社古田組
所在地	〒956-0845　新潟県新潟市秋葉区金津93番地1　TEL　0250（25）3981 財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒949-3241　新潟県上越市柿崎区百木750番地　TEL　025（536）2721 株式会社 古田組
発行年月日	2013（平成25）年3月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まちがみいせき 町上遺跡	にいがたけんうおぬましおおあざ 新潟県魚沼市大字 おおうらあざやいろがはら 大浦字八色原	15225	102	37度 11分 6秒	138度 56分 52秒	2011.05.11 ～ 2011.08.05	2,578㎡	一般国道17号 浦佐バイパス 建設

所収遺跡	種別	時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
町上遺跡	集落	縄文時代（中期中葉～後期前葉）	竪穴建物4軒 掘立柱建物5棟 土坑33基 ピット多数	縄文土器（大木8a～10式、加曽利EⅢ・Ⅳ式、連弧文系、火炎系、栃倉式、沖ノ原式、加飾隆帯文系、称名寺式、三十稲場式、綱取式、沈線文系） 土製品（土皿、土棒、円盤） 石器（石鏃、石錐、石匙、不定形石器、三脚石器、板状石器、打製石器、磨製石器、石錘、磨石類、砥石、石皿、石棒、石核）	扇状地に立地する縄文時代中期中葉～後期前葉の集落を検出した。ただし、昭和40年代以降のほ場整備により多くが破壊されている。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第240集

一般国道17号浦佐バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ

町上遺跡

2013年3月22日印刷
2013年3月25日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社 第一印刷所 上越支店
〒943-0802　上越市大豆1丁目12番7号
電話　025（524）8650

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第240集『町上遺跡』　正誤表　　2019年10月追加

頁	位置	誤	正
図版53	キャプション	八色原土地改良区	大和郷土地改良区
図版53	キャプション	ー（追加）	写真を一部使用、加筆
例言・抄録		山﨑 健	山崎 健